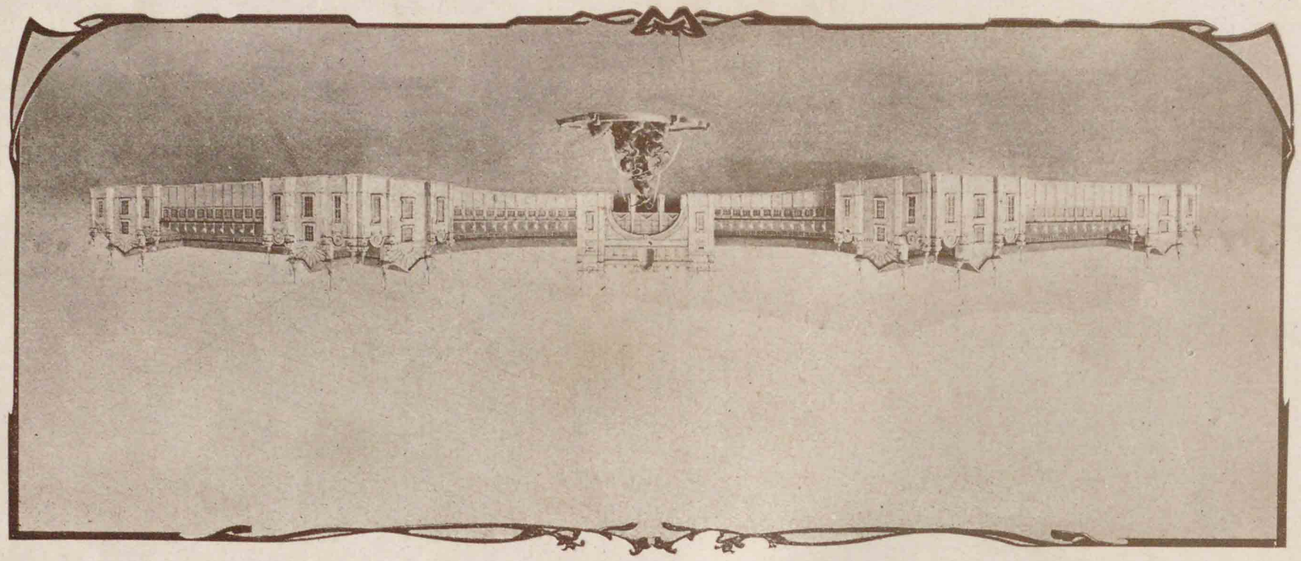
K24
G4
849

群馬縣案内

K291.1
G94

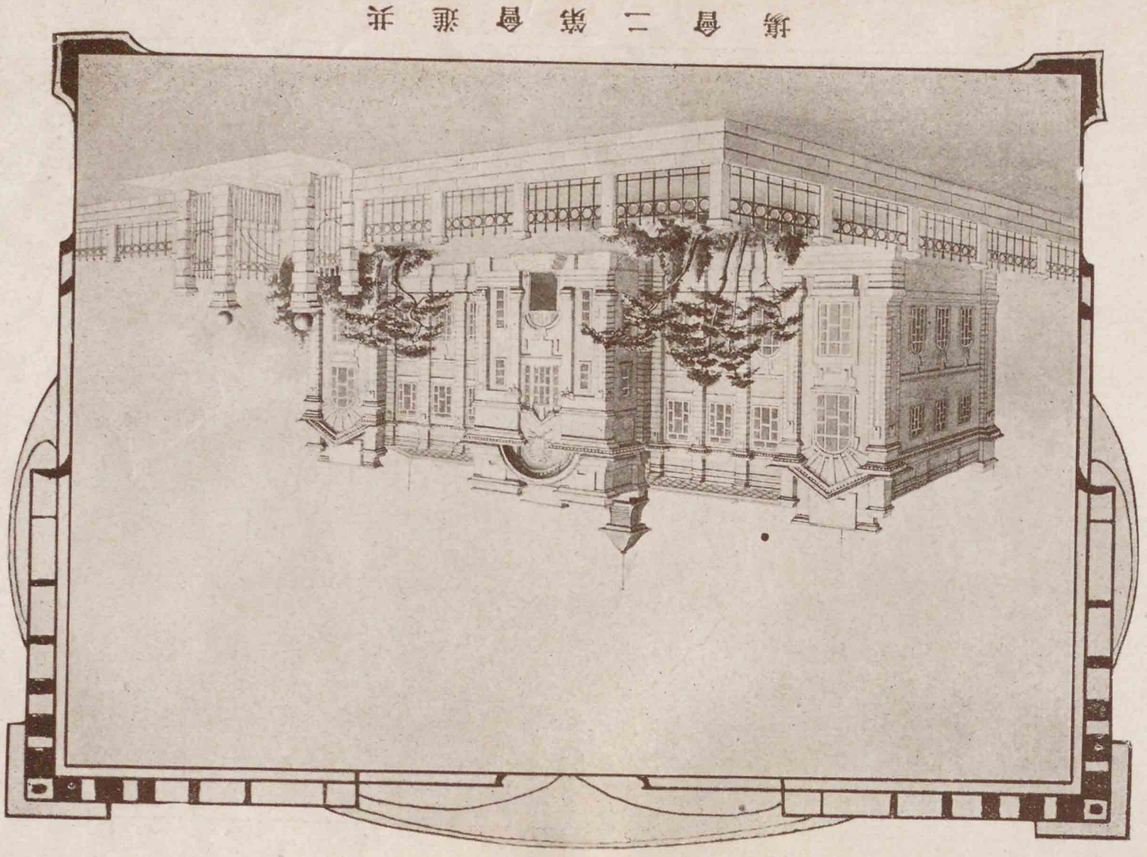
群馬縣案内

贈寄
藤田範雄殿

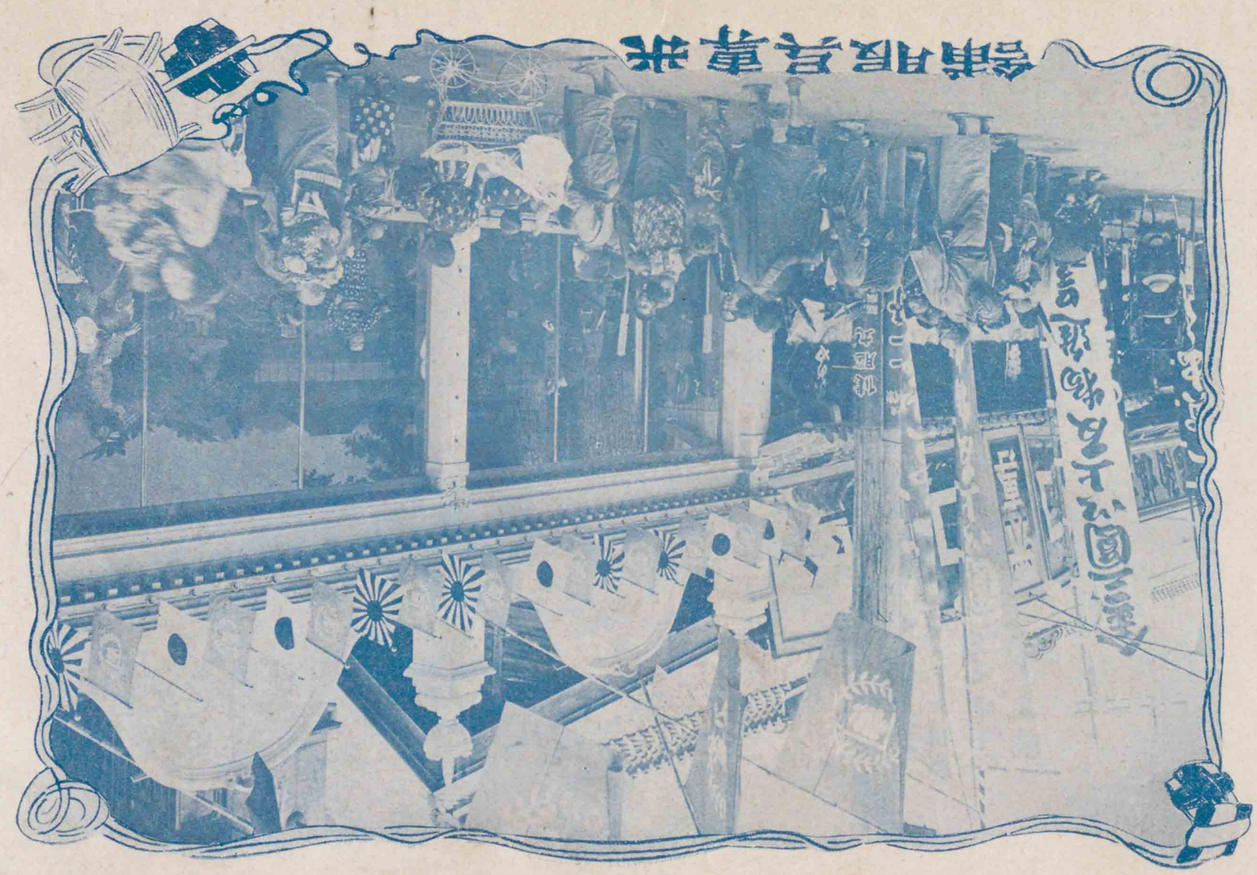


塡會一第會進共

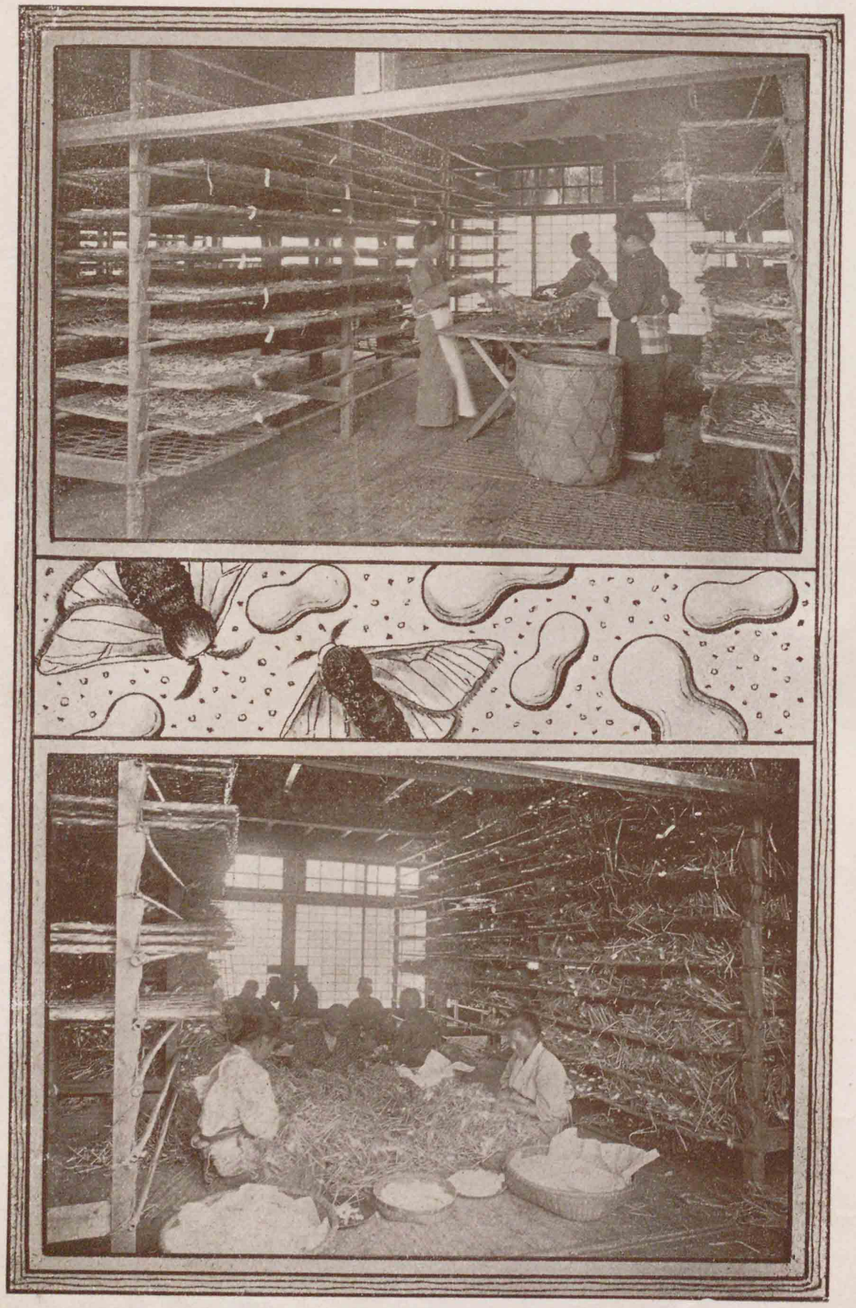
東京市図書館
昭和
50.11.11
84933



場會二第會進并



歸旅兵軍并



上州の養蠶

資本金壹百萬圓（拂込濟）
積立金六拾五萬九百圓（四十三年一月現在）
無限責任社員　茂木惣兵衛
　　茂木保平
支配人　松尾好國

高崎市九藏町貳拾番地

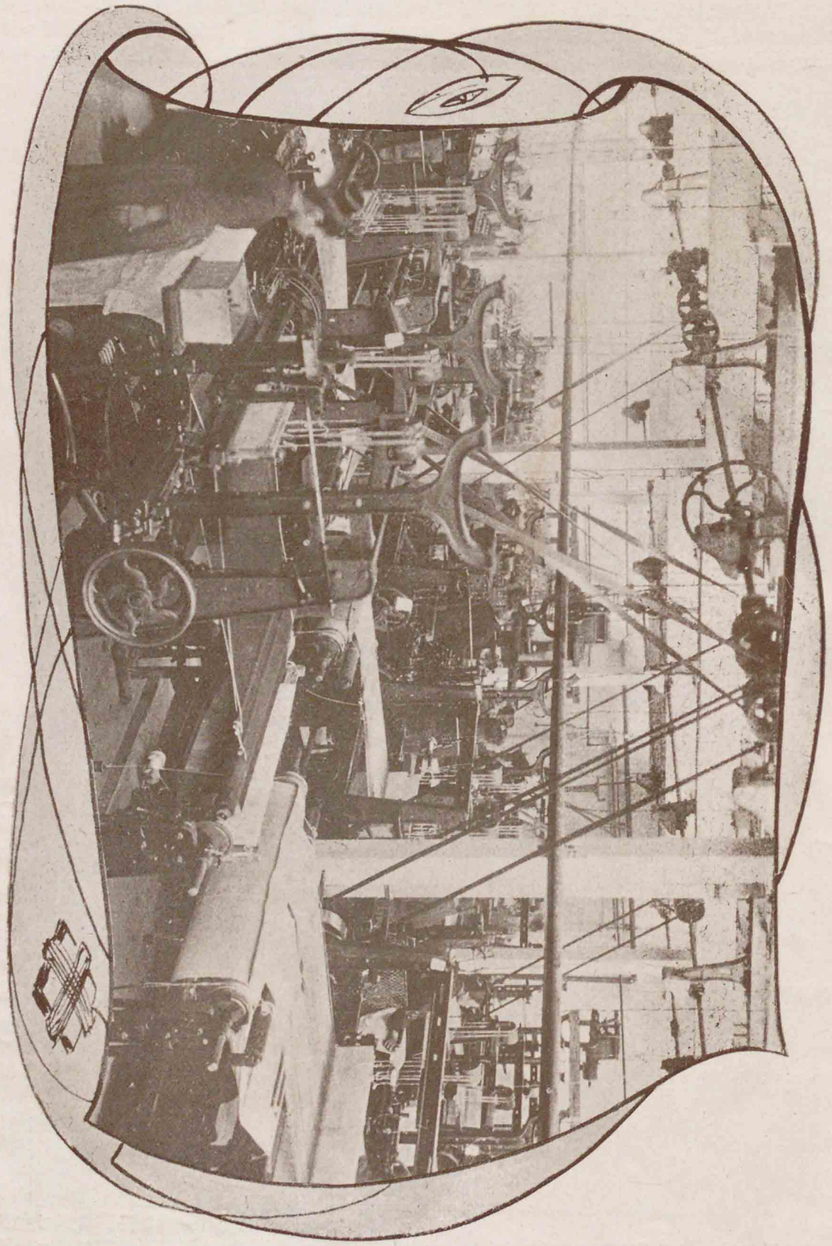
合名會社　茂木銀行高崎支店

電話番號（參番）電信略號（タモ）
振替貯金口座（東京壹參參〇番）

營業種目

定期預金　當座預金
特別當座預金　當座貸越
定期貸付
擔保付手形割引　商業手形割引
各地送金　荷爲換
貴重品保護預　代金取立
其他銀行一般業務

爲換取組先ハ全國樞要ノ地ニ有之各地送金ハ無手數料ニテ御取扱可申候
高崎倉庫株式會社預リ證券ニ對シ精々御辨用可申上候
當銀行ハ確實ヲ主トシ商業ノ發達ト御便宜トヲ計リ候間多少ニ拘ラス御取引被下度奉願候



製絲器械一式製作

蒸瀛瀛鑵諸
機械消防喞　前橋市國領町
筒改良井戸
ポンプ特許

若林鐵工場

桑刻器製作
廣價販賣

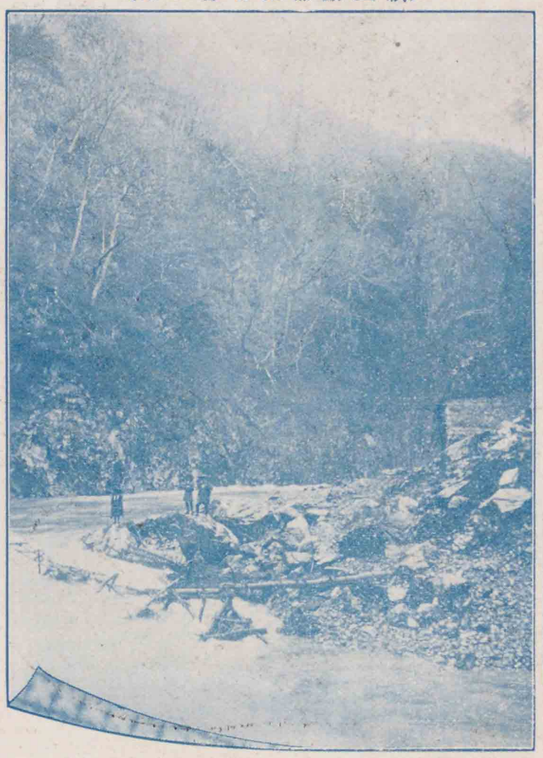
場主　若林小市
電話四四〇番
電略ワカ

御一報次第設計及見積書並に消防ポンプ
図面定價表を呈送す

赤城根橋は沼田町より三里八町明治三十六年七月開鑿されしものにて利根郡の咽喉戸鹿野新町より福島縣會津に通ずる縣道なり奇巖怪石起伏して風光絶佳眞に仙境の如し春は山櫻旭日に匂ひ秋は滿山紅葉して暮爲めに遲し

（赤城根橋の眞景）

（献上鮎捕獲名譽の榮）



片品川南郷の榮は赤城根橋の上流約三町里俗鴨の夢と云ふ處にあり鮎に山女に其名高く河底悉く岩石なるを以て流水の清麗なる他に比なし四十二年九月郡宰西川氏捕獲の鮎を雲上に献れぜらしに畏くも叡慮に適はせられ爾來御買上の榮を蒙れり土地の豪族鈴木喜左衛門氏等の經營に成る

榛名山遠景

遠山義妙 畫

前橋伊香保間

電氣鐵道開通

毎日數回發着す

市街全景

榛名湖と伊香保富士

電燈
電話
の設
備有

○**伊香保** 溫泉は有名なる榛名山の中腹に在りて氣候清爽眺るに泉の靈顯と山の秀麗とを以てす世上溫泉の多くが深山幽谷に潛在する間に此地獨り指呼の快濶を恣にす泉質は含鐵炭酸泉にして偉効あり風光は佳絶なり諸般の設備亦た缺く所なし

○**伊香保** 溫泉旅館大小三十餘戸は **共進會開期中觀覽客を優待** せんが爲め宿料割引其他出來得る限りの方法を講じつゝあり主催地の混雜を避けて此の靈地に遊ばれよ

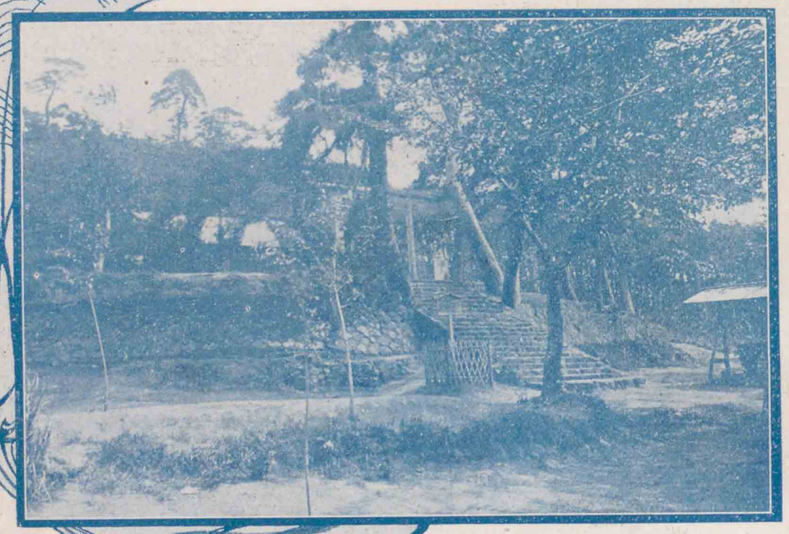
伊香保溫泉案内

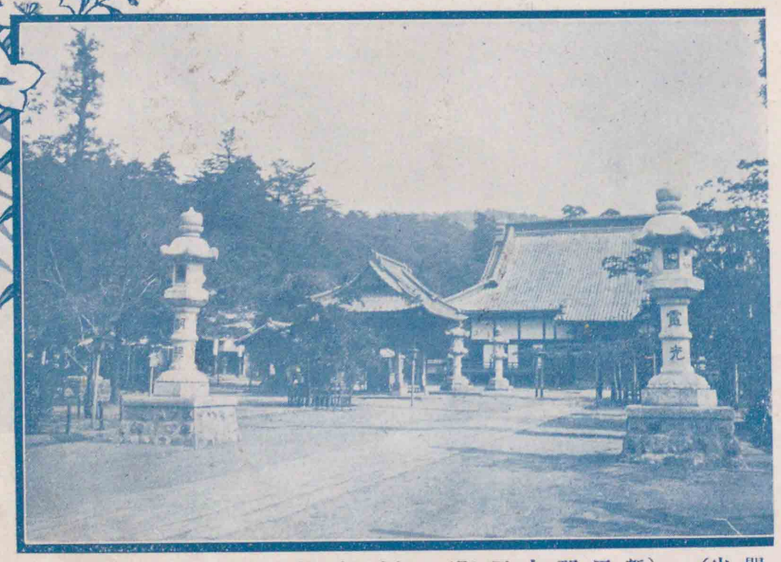
○**伊香保** 溫泉の附近には **榛名神社** 榛名湖、辨天瀧、七重瀧、二ツ岳蒸湯、水澤觀音、船尾瀧、見晴し、物聞山、湯元、等遊歩運動すべきの勝地頗ぶる多し

○**伊香保** 溫泉は鐵氣多く血液を增すの効あり故に貧血症衰弱婦人血の道等に奇効あり内務省衛生試驗所査定の醫治効能を擧ぐれば

貧血諸病●萎黃病●腺病（瘰癧）●慢性傴痲質私●痛風●脂肪過多症●慢性消化器病●慢性生殖器諸病、慢性子宮實質炎、慢性子宮内膜炎、慢性子宮頸加答兒、慢性子宮周圍炎、月經不調、子宮出血、貧血又ハ衰弱ニ原因スル陰萎、遺精、精漏、慢性痢病●神經諸病 歇私的里、神經衰弱、鬱憂病、神經痛●慢性呼吸器病●慢性皮膚病（殊ニ全身病ニ原因セルモノ）●重病後又ハ身體精神過勞後ノ衰弱

縣社高山神社の眞景（新田郡太田町）（本文參照）

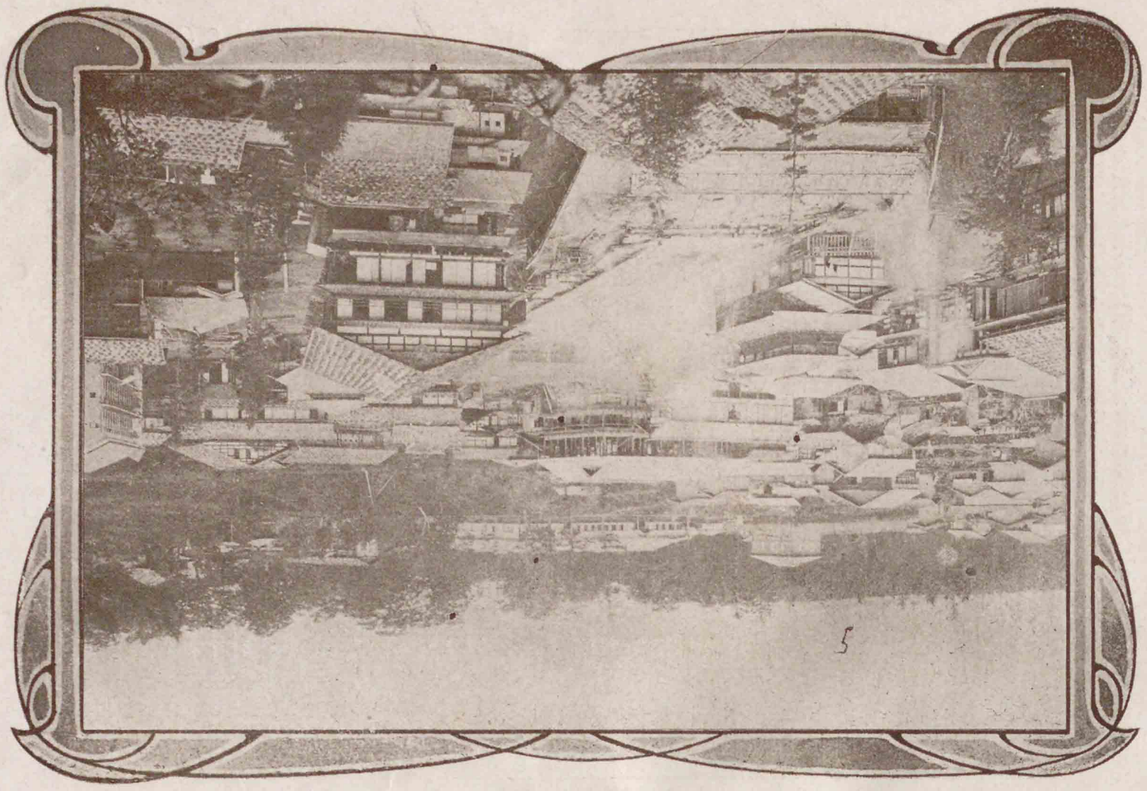




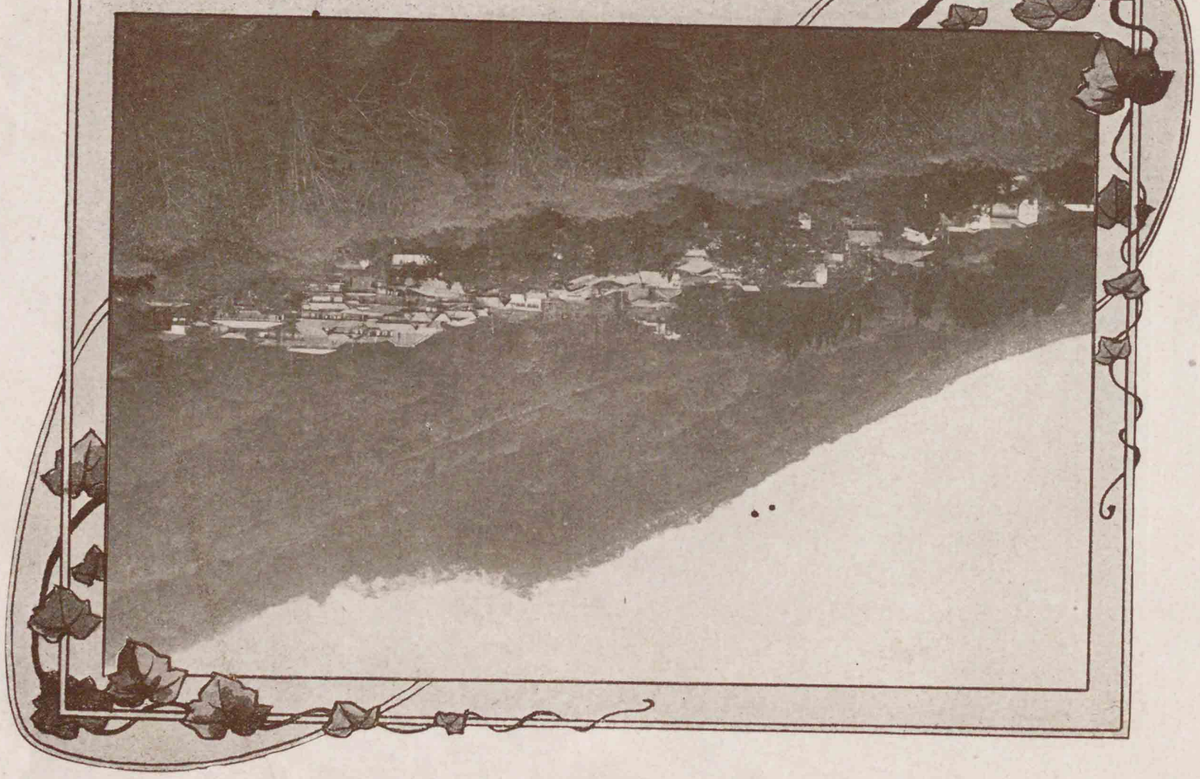
（開山）（新田郡太田町）（本文參照）

太田金山新田城趾の眞景　此頂に新田神社あり（新田郡太田町）

太田大光院境内の眞景（子育呑龍上人



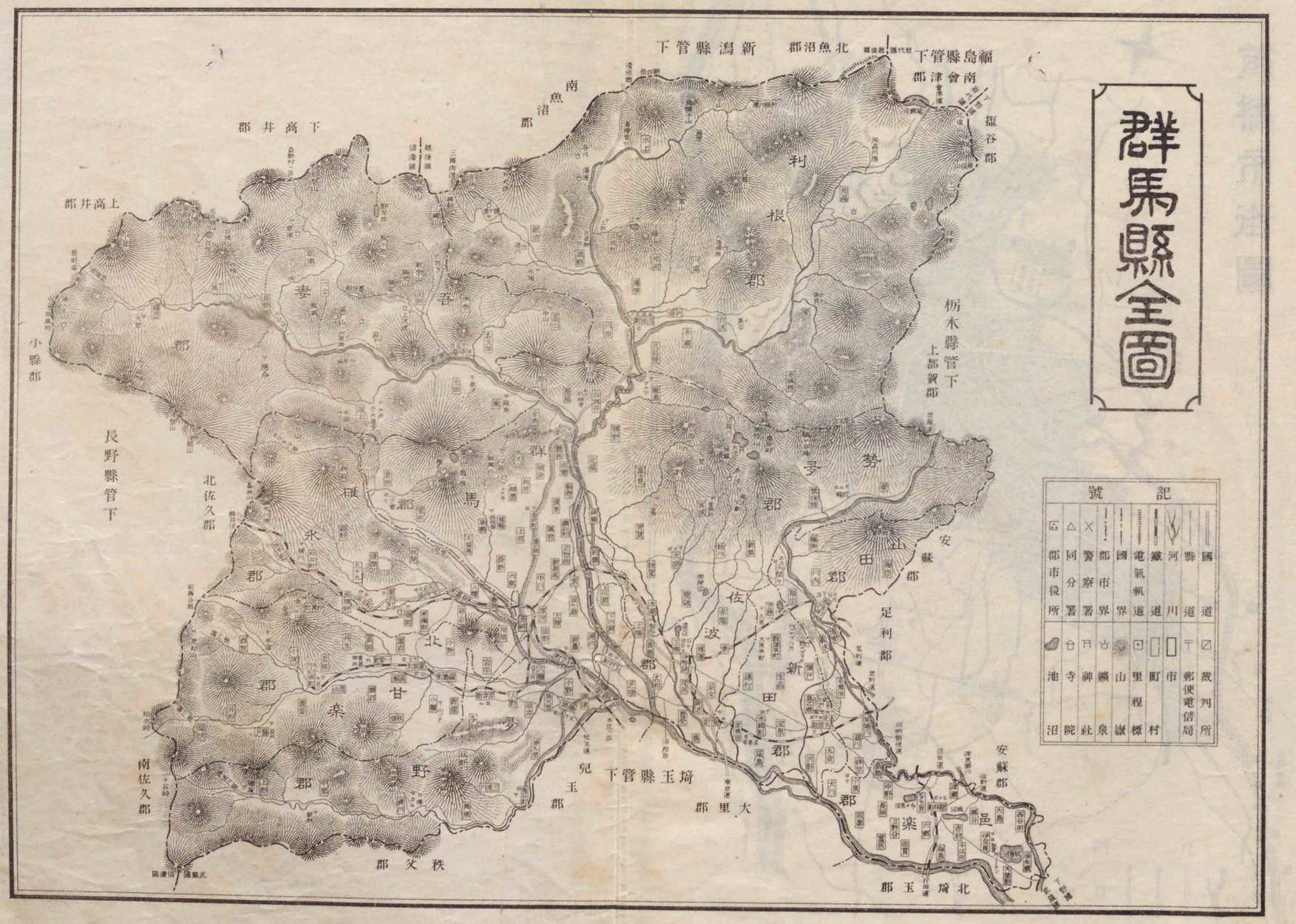
泉　溫　津　章



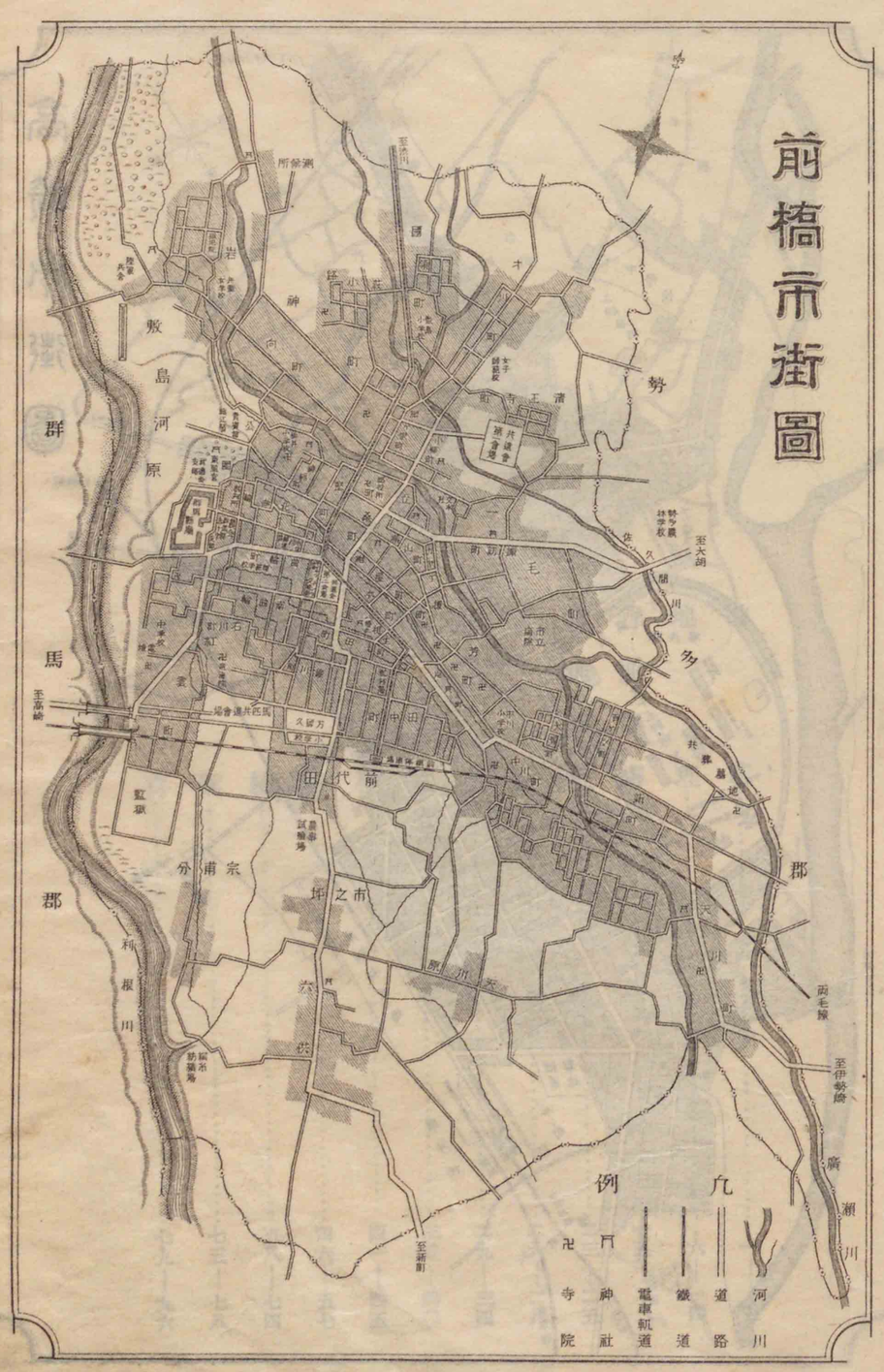
泉　溫　保　香　伊

草津温泉は海拔四千五百尺空氣清新氣候清涼淺間白根の噴煙南北に聳ゆる妙高連峰の眺望の開濶なる本邦他に比なし隨つて全國無二の避暑場の雄大なる風景は世界の絶景中他に比すべきものなしとて『ジュネーブ』を稱し其の効驗は世界の鑛泉中他に

草津温泉全景（照參文本）


群馬縣全圖
記號
國道
裁判所
縣道
郵便電信局
河川
市
鐵道
町村
電氣軌道
里程標
國界
山嶺
都市界
泉
郡界
警察署
神社
同分署
寺院
都市役所
池沼
福島縣管下
南會津郡
塩谷郡
新潟縣管下
北魚沼郡
南魚沼郡
下高井郡
上高井郡
小縣郡
長野縣管下
北佐久郡
南佐久郡
栃木縣管下
上都賀郡
足利郡
安蘇郡
埼玉縣管下
大里郡
兒玉郡
秩父郡
北埼玉郡
利根郡
吾妻郡
群馬郡
碓氷郡
佐波郡
新田郡
多野郡
甘楽郡
邑楽郡

前橋市街圖

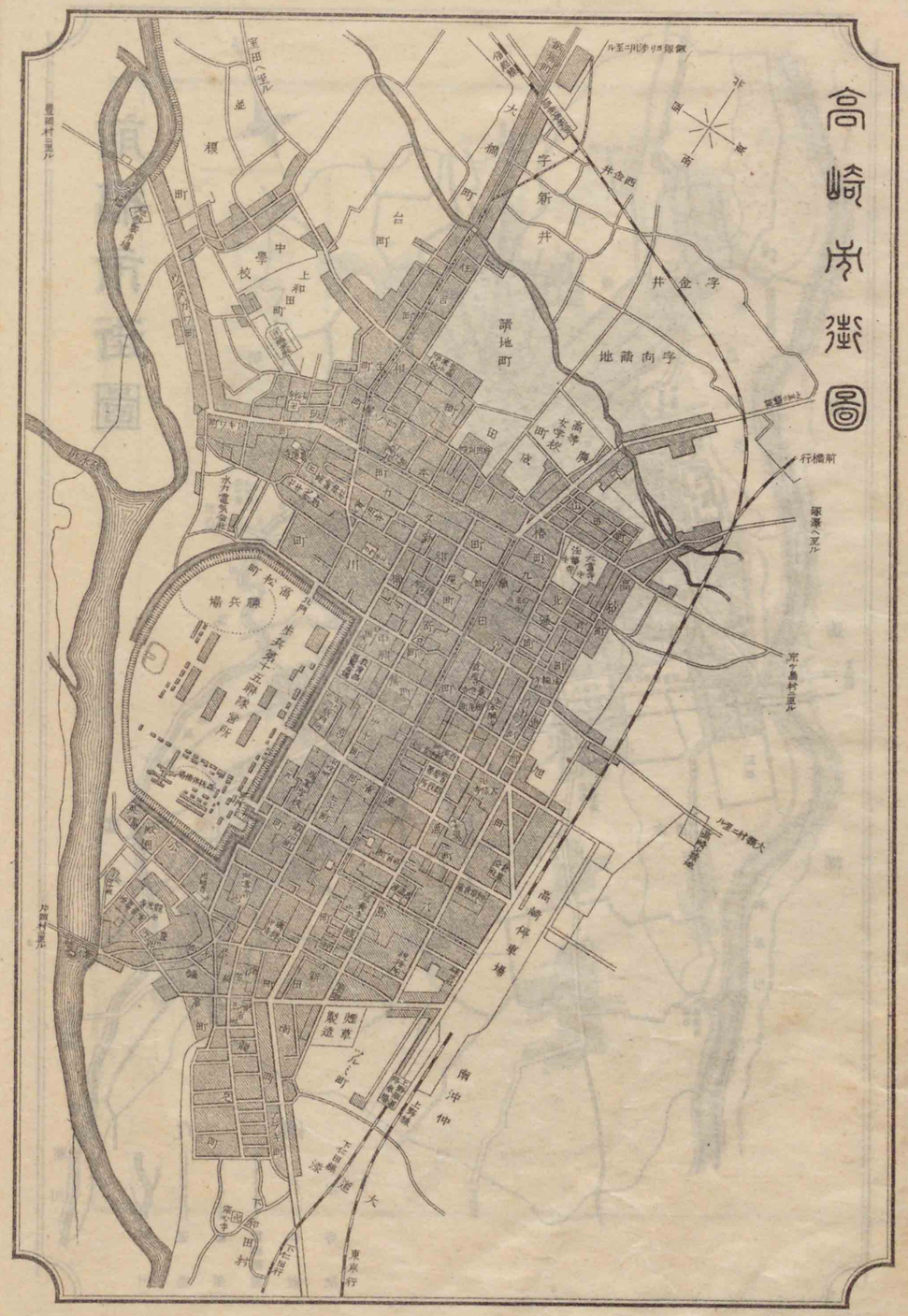

敷島河原
群馬郡
勢多郡
宗甫分
田代前
市之坪
監獄
至高崎
至大胡
至伊勢崎
至新町
例凡
河川
道路
鐵道
電車軌道
神社
寺院

鐵道線全圖

上篇

目次

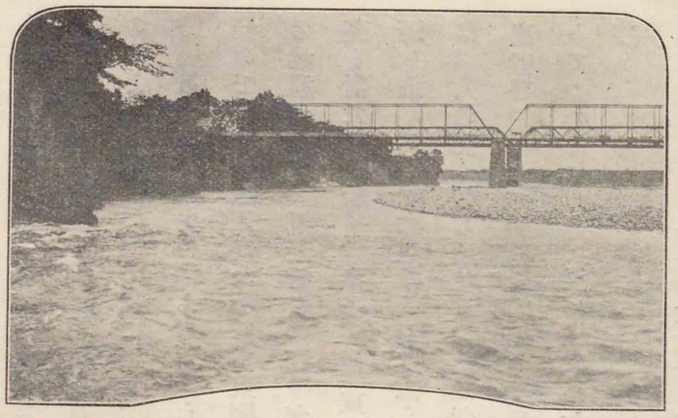
沿革……一—五
地理……六—一四
普通農事……一五—二二
耕地整理……二三—二五
畜産……二六—二八
林業……二九—三四
養蠶……三五—四〇
製種……四一—四五
蠶絲……四六—五七
機織……五八—七四
商業……七五—七八
教育……七九—九六



上州産業の誇

一　海なき山國の異彩（縣設模範林……一八四—一九九　吾妻牧場……二〇八）
二　我邦養蠶界の魁　高山社……三九
三　全國有數の模範工場　原富岡製絲所……五五
四　聲名海外に轟く南三社（碓氷社……五二　甘樂社……五三　下仁田社……五四）
五　創業最古の絹絲紡績　新町工場……七一
六　動力無限のモスリン織　上毛モスリン會社……六九
七　當代に覇を成す機織の地　桐生、伊勢崎……六〇—六三
八　品質第一位の製絲境……四六

群馬縣案内



利根川

群馬縣は世〻坂東太郎と稱する利根川の上游及中游に方りて、關東平野の西北隅を占むる所の上野國一圓を管す。

沿革

國名の由來—東國の盛區中樞—親王の任國—武家政治と新田氏の勤王—德川氏の發祥と家康の關東政策—維新前の上州—縣治の變遷

古來の殖産興業地

國名の由來　古、毛野（クヌ）國と稱へ、下野と相合して分つなかりしも、元明帝の和銅二年、改めて上野と稱せられたり、蓋上野の國たる、四面海を見ざる東方山道國の一なるを以て、其領内は山野より成り、純、農業に適するを意味するが如し、而して、またの名を群馬と云ひ、木國（キノクニ）の云ひ、車と云ふは、夙に畜産に、林産に、將、河川運用の工

業に於て、各〻適する所あるを意味するに似たり、此の如くにして能く、群馬縣は、上中古より早くも産業を主とすることをを表幟せられてありし。

東國の盛區中樞　抑、毛野國は上古に在りて、崇神、景行の朝より應神、仁德の代に至り、皇子、皇孫の屢〻臨みて統屬あしこと、史の傳ふる所にして、即、崇神帝の四十八年、始めて皇子豐城入彦命をして東國を治めしむ、之を上毛野君の始祖となす、又景行帝の四十年、皇子日本武尊を遣して東夷を討たしめ給ふ、皇子、乃、東夷を平げ、凱旋の途次、上毛野を過ぐるや、亡妃橘媛を追憶して、吾嬬者耶と嘆せられしは、人の能く知る所なり、此時代に在りては、世能く治まり嘉穀豐饒にして、御食物多く、民各〻其處を得、自、鋤犂を把りて耕作に力め、又他あるを知らず、王化の普及や想ふべし。

日本武尊の遺蹟

豐城入彦命の陵

親王の任國　中世、淳和帝の天長三年に至り、上野國は他の上總、常陸の兩國と與に親王の任國となり、始めて三品葛井親王の太守に任ぜられ給ふあり、之より相次ざて數十の太守を交代せしと雖、皇紀漸、弛廢し、外戚權を專にして任國の治道擧らず、外は間に乘じて土豪の跋扈するありて、良民の荼毒に苦むこと甚しく、また上代の太平を見る能はざるに至れり。

新田義貞木像

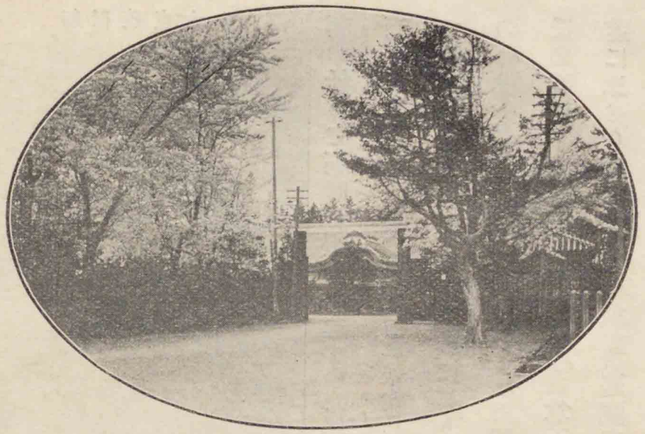
武家政治と新田氏の勤王　後鳥羽帝の建久三年、源頼朝の始めて覇府を鎌倉に起すや、安達盛長上野國に守護となり、後之を交代すること十數回に及ぶ、而も武門政治の弊、更に前世に比して一層の惡辣を極むるのみ、此くて世は北條氏に歸し、足利氏に移りしが、新田義貞の一族、護良親王の令旨を奉じ、始めて義旗を新田郡生品祠前に擧ぐるや、楠氏、北畠氏の誠忠と相呼應して、到處に尊王大義の精神を喚起し、北條高時遂に誅せられて、世は再、後醍醐帝の親政を見るに至れり、實に新田義貞の功勳は本朝中興の歷史上千古に滅すべからざる所、而して群馬縣は此歷史的人物を有することに於て、一段の光榮を覺えざるを得ず。

建武中興の忠臣

生品神社

德川氏の發祥と家康の關東政策　武門政治は北條氏、足利氏より降りて織田氏、豐臣氏の時代に入り、豐臣氏、德川氏を關東の地に封じたるを以て、隨ひて上野國は德川氏の領土となれり、德川氏は其系新田氏に屬し、特に其祖を上野國の一隅、德川鄕より出だせるが如き、最、離るべからざる緣故あり、以是、家康の上野國を視ること甚重く、且、諸城に上杉武田、北條三氏に屬せし殘黨あらむことを慮り、其覇府を江戸城に奠むるや、上野國の諸城に置くに家の支族若は重臣たる酒井、井伊、榊原、本多、奥平諸氏を以てせり。

富源開發の端緒



維新前の上州　物換はり、星移りて、無慮三百年の後は、前橋（群馬縣廳）高崎、沼田、安中、館林、小幡（北甘樂郡小幡村）伊勢崎、七日市（北甘樂郡富岡町）吉井（多野郡吉井町）の九藩に止まる、而して其他は或は旗下の士の采邑となり、或は社寺の祭田となり、或は代官の直轄となりしもの、凡、四百四十餘村あり、此間昇平の餘澤に依り、各藩各領の能く稼穡の道を講じて、田を開き、水を利くの事業を企てたるもの尠からず、殊に副業として早くより營まれ居たる養蠶、製絲、機織の業は此時代より漸、隆盛に赴くの端緒を啓きたるなり。

縣治の變遷　明治初年、九藩は悉、廢せられ、新に岩鼻縣を置かる、次ぎて群馬縣を置き、六年六月之を廢して武藏國の熊谷縣に併せ、九年八月再、群馬縣となり、廳を前橋城址に移して上野國一圓を管するに至れり。

地理

位置及面積——地勢——山岳——河川——湖沼——瀑布——氣候——道路——
鐵道及軌道——郵便電信と電話——行政區劃

位置及面積　本縣は東山道の中央に位し、東は下野國に、西及北は信濃國に、南は武藏國に、東北は岩代、越後の兩國に界し、廣袤、東西三十里二十八丁、南北二十七里三丁、面積五百二十三方里を有す。

地勢　本縣は其形宛、鶴の舞ふが如き輪廓を以て劃せらる、其胸首とも視るべき所は、概、平坦にして沃野連り、背尾及兩翼とも視るべき所は、概、山岳蟠踞し、河川幾條其間より出で、湊合して一巨流をなし、奔りて嘴とも視るべき東南の一隅に注ぐ、方俗に東上州、西上州、北上州の區分あり、是、上野國を地形より大體に分ちたるものにして、大略勢多以東を東上州とし、群馬の一部、多野、碓氷、北甘樂を西上州とし、吾妻、利根を以て北上州となす、北上州は山岳重疊の間にあり、是等の山地を除きては地味、概、肥沃なるを以て農耕に適せり。

東上州、西上州、北上州

淺間山

山岳　地形既に上に說く所の如し、隨ひて管內到處、高山峻岳少しとなさず、吾妻郡に岩寥山、淺間山、吾嬬山、萬座山、稻裏山、白根山、元白根山あり、皆、五千尺を下らず、其他北甘樂郡に稻含山、妙義山あり、利根郡に武尊山あり、勢多郡に赤城山あり、群馬郡に榛名山あり、就中、赤城、榛名、妙義は上毛の三山として夙に天下に其名を知られ、相對峙して鼎足のごとく、秀容仰ぎ見るに堪へたり、又、淺間山は本縣第一の高山にして、海拔實に八千二百五十尺、絕頂に噴火口あり、常に餘煙を吐き壯觀無比なり。

萬代にあかきの山の白椿君かさかゆる卯杖にそさる　盛長
梓弓はるなの山の岩むらにいはまくしらにたふとかりけり　濱臣
白雲山下白雲藏。幾戶人家倚翠微。行盡白雲雲裡路。滿身還帶白雲歸。　春臺
いつとてか我戀やまむ千早振あさまか岳のけふりたゆとも　拾遺

河川　縣內通過の河川にして、普く其名を知らるゝものを利根川及渡良瀨川となす、前者は我邦內地に於ける巨川の一にして、源を利根郡文珠嶽に發し、南流して赤谷、片品、吾妻、烏の四川を併せ、下

利根川の名産

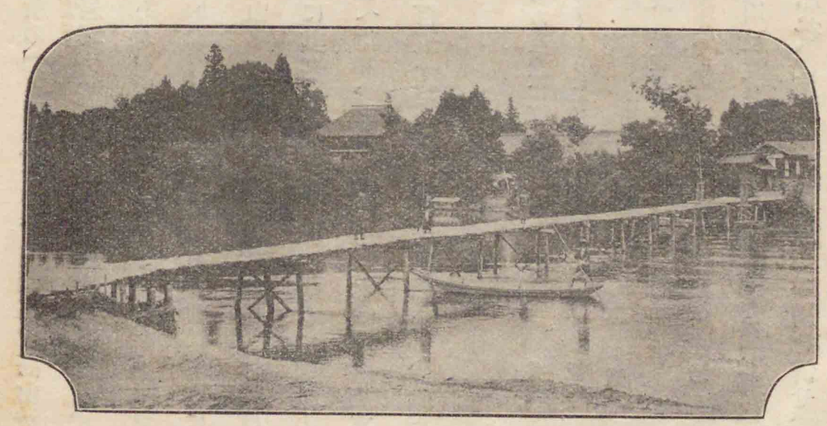
總國銚子港に抵りて東海に朝す、本縣内の流域實に三十五里十八丁鮎、鱒、鮭等を産し、殊に鮎は利根川の鮎と稱して夙に世人の賞用する所たり、後者は往年足尾鑛毒問題以來、其名嚣しく、源を下野國足尾町の山間渡良瀬に發し、本縣勢多、山田、邑樂の三郡を通過し、埼玉縣に入りて利根川に會す、最近明治三十九年及同四十年の兩度大洪水あり、爲に沿岸なる邑樂郡西谷田、郷谷、海老瀬、大島各村の田畑幾ど大半を荒さる、此他神流川、鏑川、碓氷川等あり、流程皆十里を下らず。

刀禰河のかはせもしにずたゝわたりなみにあふのすあゝる君かも　萬葉

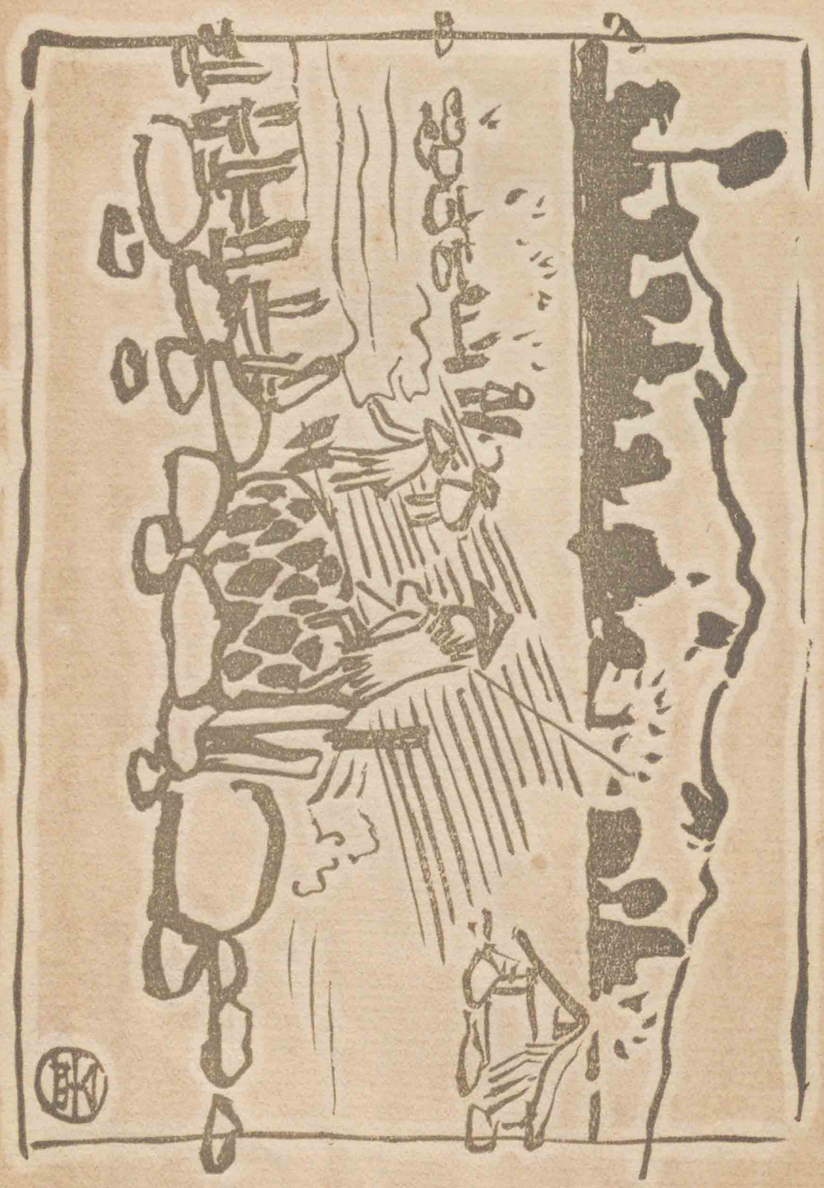
利根川の河原をゆけは小夜千鳥いしふむ道ををちかへりなく　公朝

湖沼　最大なるものを邑樂郡の城沼とす、周回三里二十丁にして、東南に勝地あり、躑躅ヶ岡と云ふ、躑躅を以て名あり、其他赤城山上の大沼(一名石垣沼)榛名山上の榛名湖、周回共に城沼の半に達せずと雖、其名最高く、良質の氷を産す。

さてもなほ石垣沼のあやめ草あやめも知らぬ袖のたまみづ　後鳥羽院

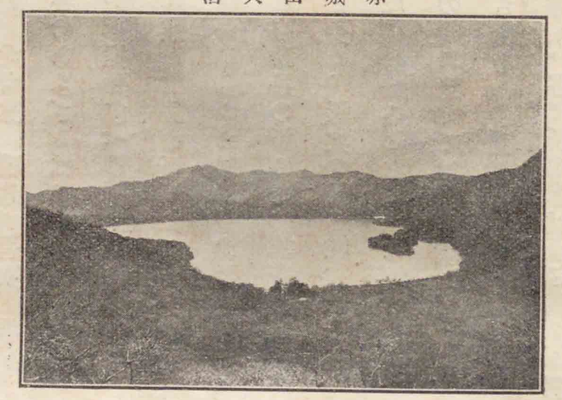


渡良瀬川沿岸



鮎の川　利根

赤城山大沼



まこもかる伊香保の沼のいかはかり波こえぬらむ五月雨の頃　順德院

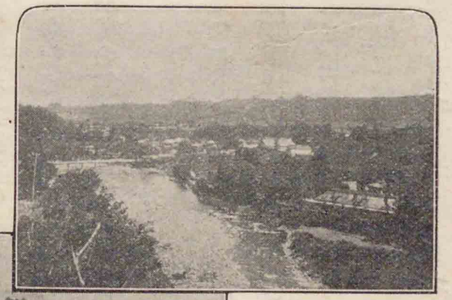
瀑布　山岳の嶮峻に無數の河川を配す、本縣に瀑布の多きは毫も怪むに足らす、其數大小二十餘、七ッ瀑（利根郡水上村）船尾瀑（群馬郡明治村）蟹掛瀑（吾妻郡嬬戀村）を其尤なるものとし、雌瀑、雄瀑（碓氷郡坂本町）の夫婦瀑を其風光の美なるものとなす、近時水力電氣の利用漸、盛ならむとし、是が設計中にあるもの亦二三にして止まらず、將來斯業の益ゝ發展して國家の資源を開くべきものあらむ。

鑛泉　本縣に鑛泉の多きは地勢の然らしむる所、一々枚擧するに遑あらず、伊香保及草津の如き、湯治場として將、避暑地として絶好の温泉なることは夙に世評の證明する所たり、鑛泉は實に養蠶、製絲、染織と共に本縣の誇とする所の一なり、故に是が詳しき紹介に就きては下篇に讓り、此には唯、其概要を誌すに止めむ、伊香保温泉は群馬郡伊香保町に在り、其地海面より高きこと二千六百尺、冬期は寒氣甚しと雖、夏期に在りては空氣清涼人體に適し、極暑の候尚八十度に昇ること稀なり、故に避暑養痾の客を以て滿たさる、磯部鑛泉は碓氷郡磯部村に在り、冷泉にして其質良好、

加之瀛車の便あり、四季を通じて浴客絶ゆることなし、鑛泉の最多きは吾妻郡にして、俗に吾妻の四湯と云ふは草津（草津町）四萬（澤田村大字四萬）澤渡（澤田村大字下澤渡）及川原湯（長野原町大字川原湯）の四温泉を指す、此中草津及四萬の名、最高く、夏時浴客の多きこと伊香保に比して敢て遜色あるなし、其他群馬、多野、北甘樂、碓氷、吾妻、利根、新田の各郡、到處鑛泉のあらざるはなし、以て本縣が如何に鑛泉に富めるかを推知すべし。

氣候　山岳と河川とに接する距離の遠近の由りて、各地一ならずと雖、概、平坦の所は暖和にして人體に適し、酷暑の節と雖、華氏の寒暖計九十三度を超ゆること少く、嚴寒の候と雖、二十五度を降らず、爲に降雪尺に盈つること甚稀なり、但、利根、吾妻二郡に於ける山岳の間に至りては積雪或は丈餘に及び、夏に渉りて猶消えざる所あり、風雨は概して少し、唯、連年十二月より三月に渉り、俗に所謂赤城颪と稱する寒冷なる風の吹き荒ぶあり、上州名物の

赤城颪



四萬溫泉新湯全景

磯部鑛泉全景

一として、空ッ風の數へらるゝは即是が爲なり。

安中並木

道路　日に月に開通の機運に進み、今や四通八達して利根、吾妻の山奥に至る迄も、坦々たる道ありて馬車を走らすを見る、管内を通ずる國道に三線あり、武蔵の國境より新町、倉賀野、高崎、板鼻、安中、松井田、坂本の各驛を經、碓氷嶺を越へて信濃國に至るを中山道（新町坂本間十四里十五丁餘）とし、高崎より岐れて金古、澁川、金井、北牧、横堀、中山、塚原、下新田、合宿、布施、須川、相俣、猿ヶ京、永井の十四驛を經て、越後國淺貝に至るを三國街道（高崎水上村間二十一里二十二丁餘）とし、前橋より東南に出で、伊勢崎、境を經て武藏國に赴くを江戸街道（前橋世良田間七里）とす、以上三線延長四十三里二丁餘なり。

其他縣道としては追分街道外、二十六線あり、此延長實に百八十四里二十三丁、今其主なるものを擧くれば左の如し。

追分街道　前橋市より北甘樂郡西牧村（初鳥谷國境）に至る此間十五里十四丁餘

古河街道　佐波郡伊勢崎町より邑樂郡海老瀨村（埼玉縣國境）に至る、此間十一里二十丁

長野街道　前橋市より吾妻郡嬬戀村（鳥居峠國境）に至る、此間二十一里三十一丁

後閑三國街道　利根郡古馬牧村より同郡新治村（三國峠國境）に至る、此間六里十七丁餘

前橋新町道　前橋市より多野郡新町に至る、此間三里二十九丁餘

板鼻富岡道　碓氷郡板鼻町より北甘樂郡富岡町に至る、此間二里三十二丁餘

中之條四萬道　吾妻郡中之條町より同郡澤田村四萬に至る、此間三里三十四丁餘

足利街道　前橋市より山田郡境野村（栃木縣國境）に至る、此間八里八丁餘

豐岡中野通　碓氷郡豐岡村より吾妻郡草津町（澁峠國境）に至る、此間十八里十二丁餘

伊勢崎本庄道　佐波郡伊勢崎町より同郡名和村（埼玉縣國境）に至る此間一里二十丁餘

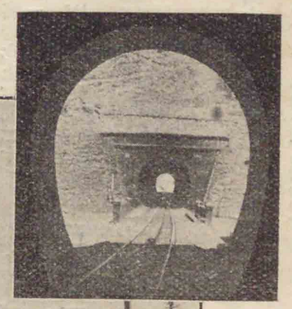
例幣使道　群馬郡倉賀野町より山田郡矢塚川村（栃木縣國境）に至る、此間九里八丁餘

澁川伊香保道　群馬郡澁川町より同郡伊香保町に至る、此間一里三十五丁餘

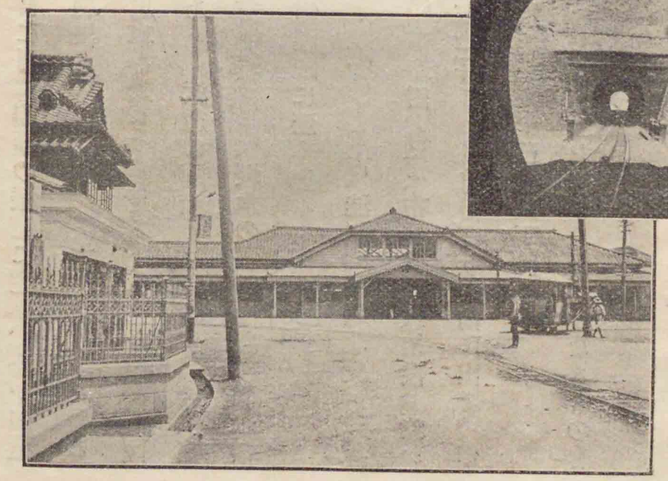
澁川原町道　群馬郡澁川町より吾妻郡原町に至る、此間五里十九丁餘

鐵道及軌道

汽車に依りて東京上野を發すれば遲くも四時間以内にして前橋市に達すべく、兩市間裕に用を辨じ、一日にして往復をなし得べし、管内を通ずる鐵道五線あり、即中山道線、信越線、兩毛線、東武線及上野輕便線是なり其延長八十五哩に達す、各線



碓氷嶺アプト式



高崎停車場

に於ける本縣停車場名左の如し。

中山道線　東京上野より埼玉縣本庄を通過し縣下新町、倉賀野を經て高崎に至る　（六十三哩）

信越線　高崎より飯塚、安中、磯部、松井田、横川を經、碓氷嶺を越へて新潟縣直江津に至る　（百十七哩八鎖）

兩毛線　前橋より駒形、伊勢崎、國定、大間々、桐生を經て栃木縣小山に至る　（五十哩九鎖）

東武線　東京淺草より埼玉縣羽生を通過し、縣内川俣、館林、中野を經、再、栃木縣福居、足利を通過して縣下太田、木崎、境、茂呂を經て伊勢崎に至る　（六十九哩五鎖）

上野輕便線　高崎より山名、吉井、福島、富岡、一ノ宮、南蛇井を經て下仁田に至る　（二十一哩）

軌道條例に據る電氣鐵道竝馬車鐵道は

前橋電氣軌道株式會社　前橋市及群馬郡澁川町間　（九哩一〇鎖）

伊香保電氣軌道株式會社　群馬郡澁川町及同郡伊香保町間（七哩三三鎖）

高崎水力電氣株式會社　高崎市及群馬郡澁川町間　（一二哩六〇鎖）

綠野馬車鐵道株式會社　多野郡新町及同郡鬼石町間　（九哩一鎖）

にして此他樞要地又は鑛泉地間に馬車の往復する所を記せば左の如し。

群馬郡澁川町及吾妻郡草津町間（十五里十三丁）　群馬郡澁川町及吾妻郡四萬村間（七里三十二丁）

群馬郡澁川町及利根郡沼田町間（五里九丁）　佐波郡伊勢崎町及新田郡太田町間（四里三丁）

郵便電信と電話

郵便電信は前橋、高崎の二等郵便局を始とし、三等郵便局八十七ヶ所あり、東京遞信管理局の管下に屬す、又東京前橋間、東京高崎間及東京桐生間には官設の電話あり、伊勢崎、沼田、中之條、澁川、富岡、藤岡、伊香保、安中、原市、下仁田、太田等主なる地には特設電話あり、而して縣下主要なる地には縣事業として警察電話ありて通信至便を極む。

行政區劃　管内二市十一郡に分たる、今玆に郡市役所と其所在地とを擧ぐ。

前橋市役所（前橋市）　高崎市役所（高崎市）距縣廳二里十九丁
群馬郡役所（高崎市）　勢多郡役所（前橋市）
碓氷郡役所（安中町）距縣廳五里五丁　多野郡役所（藤岡町）距縣廳五里二十四丁
山田郡役所（桐生町）距縣廳八里二十五丁　吾妻郡役所（中之條町）距縣廳八里二十五丁
佐波郡役所（伊勢崎町）距縣廳三里三十二丁　新田郡役所（太田町）距縣廳七里三十五丁
北甘樂郡役所（富岡町）距縣廳七里十一丁
利根郡役所（沼田町）距縣廳八里三十三丁
邑樂郡役所（館林町）距縣廳十二里五丁

管内の戸數十四萬八千四百八十二戸、現住人口九十六萬六千四百九人にして、中、男四十七萬七千九百二十人、女四十八萬八千四百八十九人なり。

本縣は沿革と地理の部に於て産業を主とするに適することを誇とし、而も其主要中の主要なるものとしては、普通農事、蠶絲業及織物業を擧げざるべからず、殊に蠶絲業は農家の副業として、如何なる僻陬の地と雖、殆、之に從事せざる者なく、其産額亦甚大なり、織物に至りては桐生、伊勢崎、中野、高崎等を著名の産地とし、近時斯業の改善發達の蹟見るべきもの尠からず、又林業、畜産の如きは奬勵を加へて、未、久からずと雖、漸次發達の機運に向ひ、前途頗、好望なりとす。

普通農事

一斑——米——麥——菽——蒟蒻——葉煙草——大麻——肥料——

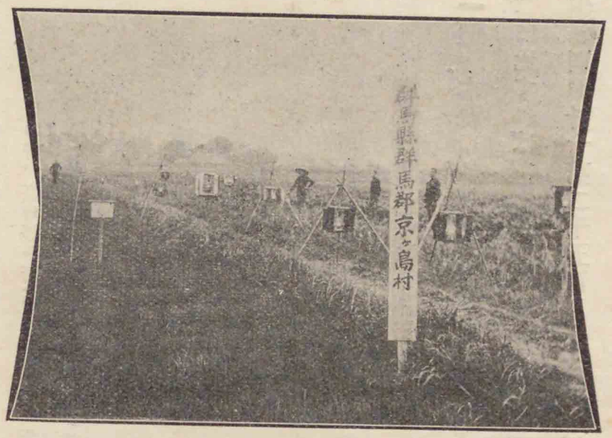
縣立農事試驗場——縣農會——前橋測候所

副業は反りて唯一の貿易品

一斑　本縣に於ける農家戸數は總計十萬七千六百六十四にして、之を縣下總戸數十四萬八千四百八十二に比すれば、七割餘を占め、純然たる農業國たるかの觀あれども、耕地の點より見るときは、田及畑反別總計十萬二千五百三十六町九反歩にして、僅に全面積の一割三分を占むるに過ぎず、加之本縣は素、養蠶、生絲、織物を以て其殖産の生命とし、隨ひて農業より見れば、其副業たるべき養蠶若は生絲が反りて本縣の主業たるの實狀を呈するを以て、普通農事の如きは、他縣に比して誇るに足ら

ず、然れども養蠶、生絲等の業は經濟界の事情に依りて變動を受くることを免かれずして、未、全く是のみに信頼すること能はず、以是、縣は力めて副業の奬勵をなし、以て此缺陷を補ふの方針を執れり、但、此に特筆すべきは明治三十四年以來鋭意耕地整理の完成に從ひ、其成績の著々として今日に顯はれたる一事に在りとす、是、耕地反別の僅少にして、而も一面人口の著しき增加を見る本縣の如きに在りては、蓋、事理の當に然るべき所なりとす、左に普通農事中、主なる生産に就き、其梗概を述べむ。

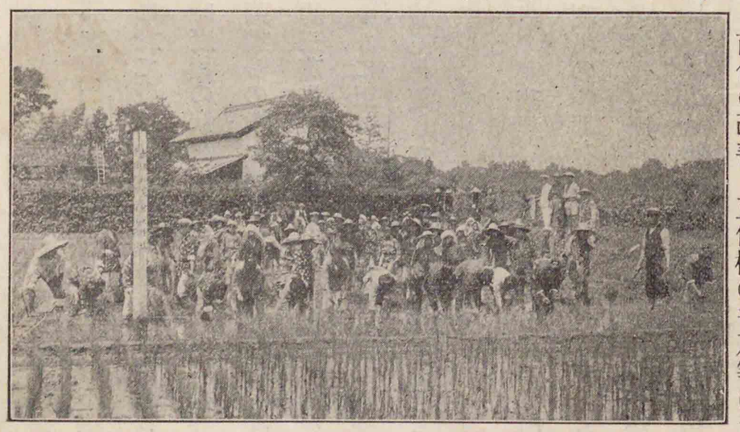
害蟲驅除



米 本縣農作物中の第一位を占む、即、水稻作付反別三萬一千六百五十三町七反歩、陸稻作付反別二千二百三十八町四反歩、計三萬三千八百九十二町一反歩にして全耕地の約三割三分に相當し、其産額水稻五十三萬六千五百五十二石、陸稻二萬六千六百五石、計五十六萬二千六百五十七石、其價格八百十五萬八千五百二十七圓に上る、然れども一面に於て本縣が此近年、毎年四十萬石を下らざる米穀を輸入するに鑑みなば、本縣の米作は縣人をして口を餬せしむるに足らざるを知るべし、於是乎、勢、土地の

改良、綠肥の栽培、害鳥蟲の驅除、種子の精撰、採種田の設置、苗代の改善、正條植の普及等に力を注がざるべからず、縣は多年此に著眼して奬勵する所あり、其結果、當業者も亦熱心に是が實行を期しつゝあるは、斯業の爲、欣ぶべし。

麥 米に亞ぐの重要農作物にして、作付反別は畑作三萬九千百八十一町六反歩、田作即、二毛作一萬七千七百九十三町三反歩にして、耕地全反別の約五割五分を占む、就中、水田二毛作逐年增加の趨勢を現はせり、主要なる種類は大麥に在りては白麥、備前、矢羽、小麥に在りては赤坊主、白坊主、國富、裸麥に在りては薄皮、豐年なり、明治四十二年の産額は八十二萬六千六百二十一石、價格五百七十七萬三千二百十八圓に達す。



佐波郡赤堀採種田

菽 大、小豆は麥に次げる産額を有し、縣下重要農作物の一なり、明治四十二年に於ける作付反別は大豆一萬二千二百五十八町三反歩、小豆三千二百三十町五反歩、計一萬五千四百八十八町八反歩にして、之を耕地全反別に比すれば約一割五分に相當す、而して明治四十二年の收穫高は

大豆八萬一千百七十四石、小豆一萬七千四石、計九萬八千二百十四石に上り、山間地方殊に沼田附近の産を良品とし、産額亦尠からず。

吉井葉烟草耕作地

蒟蒻 文政年間既に北甘樂郡南牧、西牧兩地方、即、今の小澤、月形、磐戸、青倉、下仁田等に於て栽培せられ、其産額少からざりしが、明治十四五年の頃、一時衰頽の狀を現はし、下仁田の櫻井某之を憂ひ、百方苦心の結果蒟蒻製粉の業を開始し、漸次頽勢を挽回するを得たり、一年の製粉額約三萬貫、一駄四十貫、價格九十圓を以て北越及關西地方の需用に應ずるに至れり、日清戰役後栽培法一段の進境に入り、自然生の外に植玉を施したる結果、收穫に著しき增加を見る。

葉烟草 種類は本館葉、館葉、蓮華葉、石火矢葉、横葉の五種にして、群馬、多野、北甘樂、利根の各郡を以て産地とせり、然るに專賣法の施行せらるゝに及び、耕作を廢止する者多く、現今に於ては僅に北甘樂郡に六ヶ村、多野郡に四ヶ村を見るのみ、明治四十一年の生産額は六萬五千九百七十二貫八百匁、賠償價格四萬五千八百四圓六十七錢なり。

大麻 産地は吾妻、北甘樂兩郡を主とし 碓氷、利根二郡之に亞ぐ、多野、群馬兩郡にも亦多少の産地あり、販路は江州を主とし、多く蚊帳の原料に供せらる、産地として最、名あるを吾妻郡岩島村となす、一村擧りて之に從事し、年々の收益甚大なり、目下産業組合法に則り、販賣組合の組織を計劃し、益〻生産の增殖に努めつゝあるは欣ぶべし。

今一ヶ年十萬圓以上の生産ある農作物を左に表示せむ。

種類	數量	價格
米	五六二、六五七石	八、一五八、五二七円
麥	八二六、六二一	五、七七三、二一八
大豆	八一、一七四	七九九、二七〇
小豆	一七、〇四〇	一六六、九九二
甘藷	六二三六、九三二貫	九三五、五四〇
馬鈴薯	一五六八、三九五	一八八、二〇七

種類	數量	價格
青芋	六四〇六、五七六貫	七〇四、七五〇円
蘿蔔	八七六一、五七六	一七五、一三二
楮	八二二、五七九	三一二、五八〇
牛蒡	一二八五、六〇五	一一五、七〇四
茄子	二二四九、六九九	二〇二、四七三

肥料 最近一ヶ年の消費高は二百五十萬圓以上に達し、縣下に於て製造販賣せらるゝものは主として、菜種油糟にして其他の大部分は他府縣の輸入に待つ、而して是が取締に關しては、集散旺盛の時期に於て現品の檢査を勵行して不正肥料の摘發に努め、需用者をして不測の損害を被らざらしむることを期すると共に、當業者をして組合を設置せしむるは、取締上至大の便益あるのみならず、其成分

賣買の實行を促し、營業上の改善を圖らしむる等、其効果の多大なるを認め、曩に肥料取締法の改正せられたるを機とし、是が設立を奬勵したる結果、今や各郡市に其設立を見るに至れり、又肥料取締の餘暇を以て肥料鑑定、講習會等を開設し、專、農家の肥料に關する知識の普及を圖り、而して一面に於て、近來人造肥料の使用漸、盛にして是が爲に、堆肥の生産減少せらるゝ傾向あるを以て、各郡市に亘りて其使用の狀況を調査し、比較對照を求め、群馬縣肥料一斑と題して之を公表し、一般農家の注意を喚起して其生産を促せり、且、販賣肥料中、市價と成分相當價との間に其懸隔著しきものあり、購入の巧拙は直に農家經濟上に至大の影響を及ぼすを以て、力めて經濟的肥料の共同購入を奬勵したり、其成績良好にして各級農會は勿論青年團體等の機關各地に設立せられ、共同購入を實行する者逐年增加し、今や、其金額十數萬圓に達せり、而も其利益の一部分を以て、共同貯蓄をなす

肥料の共同購入

群馬縣農事試驗場

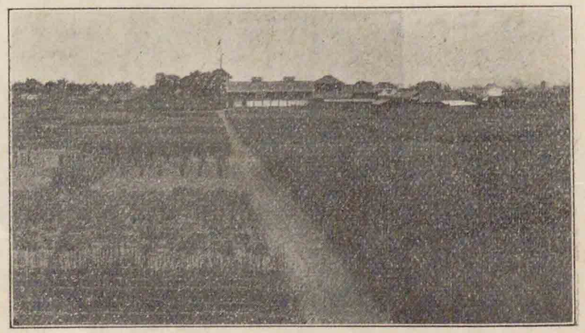
同第一桑園

が如き有望なる團體を見るに至れるは喜ぶべし。（下篇一五〇頁參照）

群馬縣立農事試驗場　明治二十八年の創立にして、同三十五年、今の前橋市前代田に移る、既設事業中、肥料經濟試驗として行へる蠶糞利用貯藏試驗、綠肥用大豆種類試驗竝第一桑園（下河原）の桑樹種類試驗は既往十數年間の繼續事業にして、又農商務省の指定に屬する栽桑試驗は明治四十一年度より第二桑園（天川）に於て春夏秋蠶供用經濟的各種の試驗を行ふ、其成績共に見るべきものあり。

群馬縣農會　明治二十八年の組織にして、同三十五年、前橋市北曲輪町に事務所を新築す、同三十八年農會令の改正あり、於是、愈〻其基礎を鞏固ならしめ、以て今日に至る、創立以來農事の改良奬勵に關し、貢獻したる所少からず。

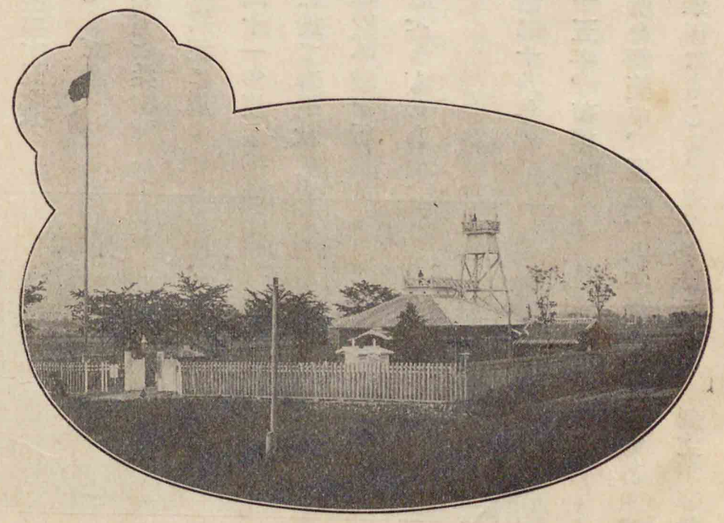
群馬縣農會



群馬農事試驗場農場

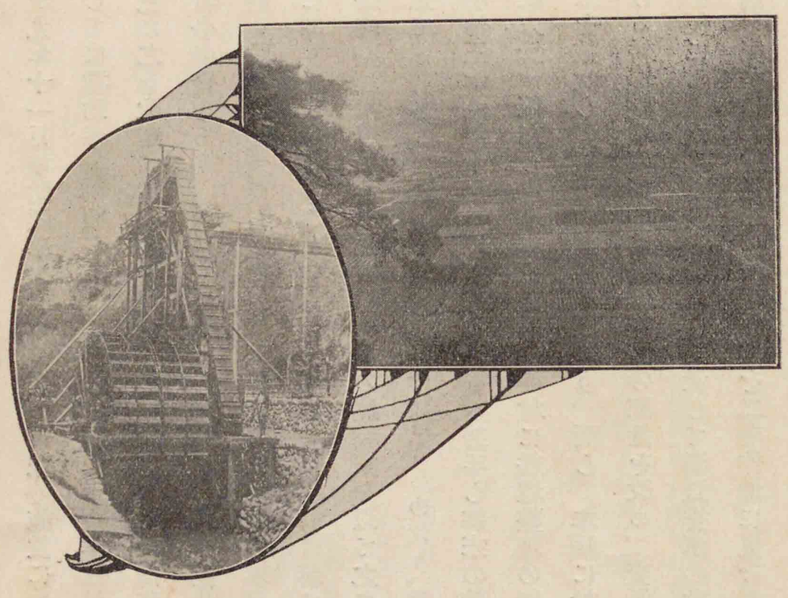
前橋測候所　明治二十九年の創立にして、縣經營に屬す、定時の氣象觀測は本所に於ては毎日六回、其他二十五ヶ所に設置せる管内觀測所に於ては毎日一回之を施行す、桑の凍害豫防試驗に關する觀測指導は縣立農事試驗場及縣農會と相待ちて、明治三十二年より開始せり、一般産業上に應用すべき氣象の研究は勿論、殊に養蠶期に於ける地方天氣豫報は他に率先して之を開始し、其範を示したるものと云ふべく、結霜豫報と共に當業者に便益を與へしこと實に多大なりとす、尙天氣變化の狀態を異にする山間地方の爲に、一層の正確を期せむとし、明治三十六年以來、養蠶期中縣内の要地に就き、毎日五回の觀測を施行して、調査材料を蒐集中にあり。

桑の凍害豫防



前橋測候所

多野郡入野村耕地整理



同水揚機械

耕地整理

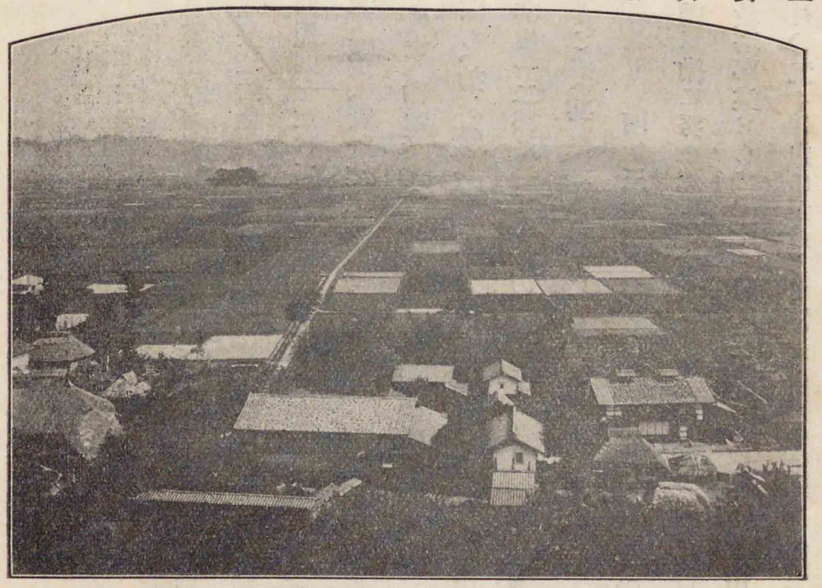
耕地整理

整理の由來—整理施行年度表

整理の由來　本縣の耕地整理は明治三十三年耕地整理法を實施せられたるに伴ひ、翌三十四年補助規則を設けて、設計費及工事費を補助し、縣農會亦、測量、設計竝工事の指導監督の爲、技術員を置き、專、勸誘奬勵に努めたるに始まる、時恰、草創に際し、効果の如何を疑ふ者多く、只僅に勢多、新田其他一二郡に於て少數の實行者ありしに過ぎざりしと雖、其成績頗、良好にして模範となすに足るものあり、明治三十七八年の事局に際しては一層勸誘奬勵に努め殊に三十八年の凶歉に就きては窮民救濟事業として、十一月縣費を以て技術員を採用し、汎く管内に派遣して測量設計に從事せしめた

り、於是乎一般に企業者の増加を見るに至れり、同三十九年十一月補助標準を改め、別に特殊の施設に對しては補助率を増額することとし、同四十一年三月更に之を改定す、未幾ならずして、同年四月農商務省令の發布あり、補助規則を廢して耕地整理奬勵規則を設け、縣農會の事業に移し、補助金は省令の項目に則りて交付することに更む、而して縣農會は新に耕地整理指導委員を設け、斯業の經驗家を以て之に充て、施行事務の指導竝勸誘の任に當らしめたり、又明治三十九年十一月以來基本調査に著手し將來の施設方針を確立して基本となし、農村に耕地整理の概念を鼓吹して事業の進捗を圖れり、而して本縣に於ける耕地整理の目的は專、作路の配置を改めて交通を便にし、用惡水路を適當に配置して灌漑排水の設備を完全にし、從來の一毛作地を二毛作地に更むる

整理の目的



多野郡吉井町耕地整理

を主とし、有効地積の増加、管理の便利、勞力の減少等を之に伴ふ効果なりとす。

（下篇一二一頁、一四七頁、一九二頁參照）

今左に縣下十一郡に於ける耕地整理施行地の年度を掲ぐべし、但外に工事施行中のもの十六ヶ所、面積千五百九十餘町歩、施行手續中のもの八ヶ所、面積約五百町歩あり。

耕地整理施行年度表

年次	地區	整理面積	縣費補助額	整理費
明治三十四年	一	一八、九八二町一	一九八、三八六円	九三七、八三九円
同 三十五年	三	五七、五五二〇	一、一三三、五〇二	五、〇九五、一二二
同 三十六年	八	一一〇、八五一九	四、〇二六、七八二	一八、八七四、五六七
同 三十七年	五	六〇、八八〇四	二、四八六、六六九	一一、五四七、二八〇
同 三十八年	八	二九一、九一〇〇	八、二〇七、〇七九	三六、八二五、〇四九
同 三十九年	九	三九九、六三一〇	一四、〇六八、三八〇	六一、七六八、三一五
同 四十年	一八	七二二、〇三〇七	二五、六〇八、五六〇	一〇九、〇六九、六一四
同 四十一年	四五	一、三九九、四七二一	五七、六七六、六五四	二四八、六七一、二〇一
同 四十二年	五	二五六、八六〇四	七、三〇五、六七九	三六、七〇四、一一五
計	一〇二	三、三一八、一九一六	一二〇、七一一、六九一	五二九、四九三、一〇二

赤城牧場

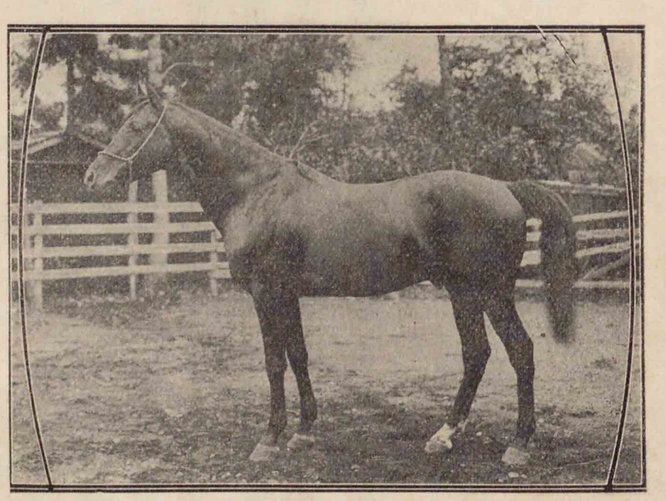
畜産

沿革——現況

沿革 上古牧監の制あり、太、隆盛を極め、宛も馬牛野を蔽ふの偉觀を呈せしこと舊史に見ゆ、降りて明治六年に至り、時の内務卿大久保利通畜産の發達を鼓吹し、縣亦切に奬勵する所あり、於是、舊前橋藩の有志率先して赤城牧場を創設し、專、產牛の經營をなす、此年勸農局より牧畜資金として、金三千圓を縣に交付せられたるを以て、始めて南部產の種牡馬及種牡牛を購入して貸付法を設く、勢多郡富士見村に赤城產馬會社起り、利根郡根利村及片品村の牧社

の起りたるも、吾妻郡吾妻畜產會社の上澤渡に有笠牧場を、楢松村に高摩牧場を開き、次ぎて原町地內に開牧をなしたるも亦此時に在り、利根牧場、榛名牧場相踵ぎて起り、明治十五年には 北白川宮家に於て吾妻郡長野原町大字應桑字六里ヶ原に一大牧場を設け、馬匹の改良蕃殖を企劃せらるゝあり、此くて本縣の畜產は頗、有望の域に向はむとしたり、爾後經濟界の不振に伴ひ、一時衰運に傾きたるも、明治二十七八年の戰役は馬匹改良の動機となり、國立種馬牧場及種馬所の新設を始め、法令の發布に伴ひ、明治三十三年吾妻產牛馬組合組織せられ、牧場の開始を見る、次ぎて利根產牛馬組合及前橋勢多產牛馬組合の組織あり、同三十七年縣は種牡牛馬を購入して貸下規則を制定せり。

現況 縣は特に專任技師を置きて畜產の指導誘掖に當らしめ、且、種畜購入費補助法を設け、或は品評會を開催する等、尤、奬勵に努む、今や佐波、邑樂二郡を除くの外、縣下各郡に產牛馬組合の組織を見るに至り、聯合會亦既に成立して、著々斯業に貢獻



縣有種牡馬

しつゝあり。

左に牛馬其他の最近現在數及牛馬の生産數を示さむ。

牛	現在數	牝	二、四七四頭	牡	六七三頭	計	三、一四七頭
馬	同	牝	一三、三七三	牡	二二、〇三五	同	三五、四〇八
豚	同	内國種	八一二	雜種	三、一二七	外國種七〇四	計 四、六四三
鷄	同	成鷄	一九一、四五八羽	雛	六八、八九〇羽	同	二六〇、三四八羽
牛 明治三十九年	牝	二七〇頭	牡	二五二頭	計	五二二頭
同 四十年	同	三〇四	同	二四二	同	五四六
同 四十一年	同	三四九	同	二八一	同	六三〇
同 四十二年	同	三四八	同	三二七	同	六七五
馬 明治三十九年	牝	二〇四	牡	二一六	計	四二〇
同 四十年	同	三七四	同	三七四	同	七四八
同 四十一年	同	四〇〇	同	三八七	同	七八七
同 四十二年	同	四五五	同	三九二	同	八四七

林業

概要—造林面積—林産—保安林の調査監督—公有林野の經營及施設—入會地の整理—土倉の造林事業—森林組合—重要樹種植栽奬勵—群馬山林會—縣設模範林

概要 本縣は關東平野の一部なりと雖、僅に東南、邑樂、新田、佐波三郡及勢多、群馬、多野、山田四郡の一部、古の所謂武藏野に接續するの外、西北は山嶽重疊し、進みて南西北の國境に至れば更に嶮山峻岳に環繞せらる、故を以て縣内の大部分は林野地に屬し、全地籍の八割五分を占むる本邦屈指の森林國なり、而も古來領主の更替頻繁なりしと、利根川の水利容易に輸送を便ならしめしとに依り、濫伐至らざるなく、爲に山野は荒廢して僅に國有及民有の深山幽谷の間に原生林の存するに過ぎざりし、然るに時世の進運に伴ひ、地方林業の奬勵に努めたる結果、赤城、榛名、妙義の山麓及利根吾妻、碓氷、多野、北甘樂、群馬各郡の山野に於て漸次、杉、扁柏、落葉松、赤松、黑松、櫟其他の重要樹種植栽を實行して、山野利用の途茲に開發せらるゝに至り、稍〻舊狀に復しつゝあるも其大部分は尚不生産地を以て蔽はるゝの觀あり、明治三十八年縣設模範林を創始し、同時に市町村造林補助

規程を發布したる以來、年々縣費の補助を受け、公有林野に造林するもの累加せり、而して是等造林に要する樹苗は縣内民間に於て養成するもの約三百萬本に達し、其他は茨城、千葉方面より供給するもの亦尠からず、如上記する所は僅に其一斑のみ、以て本縣造林事業勃興の機運を卜するに足らむ、縣下に於ける林野の面積は實に六十萬九千九百五十六町歩餘にして、中、民有に屬するもの十五萬五千九百八十九町歩餘を占む、實に國家の爲に、涵養を要すべき一大富源なりとす。

造林面積　縣は郡市町村若は公共團體、學校等に於て造林を行ふ場合は特に吏員を派して、之を檢定すると共に其適否を説示し、或は方法を教授する等、專、斯業の啓發奬勵に努めたる結果、最近一ヶ年に公有林野二百九十四町三反六畝歩（樹木八十八萬二千八百十七本）社寺有林野十七町五反二畝歩（樹木三萬千二十本）私有林野九百十二町七反六畝歩（樹木二百六十三萬三千九百二十八本）の造林面積を得たり。

林産　縣下に於ける御料、國有に屬する林野の生産は、今詳に知るを得ざるも、公私有竝社寺有に屬するものゝ生産は木竹材、鐵道枕木、薪炭其他通じて金九十六萬八千百四十八圓を計上せらる。

保安林の調査監督　國土保安上、治水の關係重大なる渡良瀬川及利根川沿岸竝國有森林下戻地にして編入解除の急要なるものは、明治三十八年度より六ヶ年繼續事業として實施し、既に調査を了して施業案を調製せり、其他新に編入を要するもの及從來の保安林に就きても調査を了し、其の編入の目的に

依り漸次處理中に在り、而して明治四十年度より調査の範圍を擴張して森林調査と改め、更に三ヶ年の繼續事業として、縣費金一萬二千五百餘圓を支出し、悉、豫定年限内に豫定の事業を完了せり、乃、渡良瀬川、白川外一川、片品川、粕川、神流川、赤谷川、鏑川、烏川、利根川（幹川）吾妻川の各流域を調査して編入豫定個所一萬二千七百七十七ヶ所、面積一萬四千七百五十九町九反二畝二十九歩を得たり。

公有林野の經營及施設　公有林野の整理は、主として地方の財源を增殖するを目的とし、年來屢〻訓令若は通牒を發して指導誘掖する所あり、更に明治三十八年公有林造林補助規程を設けて奬勵に努めたる結果、續々造林の實施を見、同四十三年度に至る迄補助費金一萬六千餘圓を支出したり、今後數年ならずして反別二千六百五十四町歩餘の人工造林地を得るを難しとせず、而して各町村に於ける造林計劃及經營方法等に至りては素より大同小異ありと雖、要するに日露戰役後、國力の發展に伴ひ諸般の負擔增加せるより、町村及學校基本財産を造成すると共に、戰役記念を兼ねて計劃を定め實行したるもの多しとす。

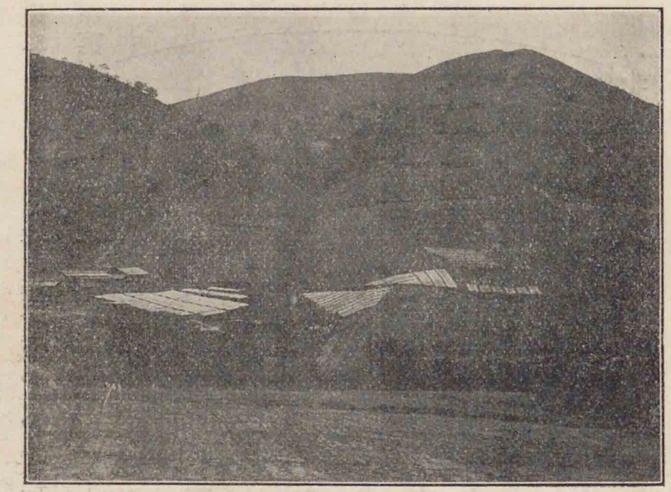
入會地の整理　公有林野整理の至難なるは、古來の慣行に屬する各種入會權の存するを以てなり、是が禍根を斷ち根本的整理を期せむには入會權の狀態及性質を究め、適當の處置を施すを要するを以て、現に部落林野中入會權の關係ある山林九十一ヶ所、其面積四千五百五十九町歩、同原野五十四ヶ所

土倉造林

其面積四千九百二十三町歩に對し、專、解除の勸誘中に在り。

土倉の造林事業　土倉庄三郎は奈良縣の人、本邦有數の林業家として各地に其經營の蹟尠からず、明治二十二年より五十年間、群馬郡榛名山第一御料地面積二百三十町歩を借用して造林を試む、蓋、庄三郎の意は初、榛名湖附近の御料地數千町歩を借用して經營せむとするに在りしも果さず、現在の造林地は苗圃其他附屬地として借用したるもの、今は原六郎の所有に歸せり、地は澁川より伊香保に至る道路の兩側緩傾斜の所に在り、相馬山の裾野に當り、運搬の便に乏しからずと雖、本、荒蕪の原野にして地味磽瘠、加之强風の荒す所となり、殖林地としては劣等たらざるを得ず、明治二十四年始めて杉、扁柏を混植したるも、後年杉の地に適せざるに鑑み、專、扁柏を植栽して今は殆、

第一縣有模範林附屬苗圃



之を終了せり、而も北面の山腹は再三枯損して到底是等樹木の成育せざるを察し、近く落葉松を植栽して稍〻其目的を達せりと云ふ、今や最初に植栽したるもの、徑約六七寸に達し、漸次林相を完成するの域に在り、地方人工造林事業の創始者として模範を縣民に示したるは深く多とせざるべからず。

森林組合（土工保護）　群馬郡室田町大字榛名山村有志者發起となり、榛名山南部一帶（御料國有を除く）面積二百十餘町歩を地區として榛名山保護土工森林組合を設立し、明治四十一年に於て防火線設置千七百七十間、火災消防二、橋梁改修補助一、の事業を遂行して將來益〻有望の域に進む。

重要樹種植樹奬勵　我邦重要樹種植栽補助費として明治四十年度以降明治四十二年度に至る國庫補助金三千十三圓餘を受げ、指定樹種中櫸、漆を選擇して樹苗の養成をなし、市町村及其他の公共團體、一般造林者に無償下付を實施し、專、造林の經營に努めしむる所あり、更に明治四十三年度より事業擴張の方針を以て、前記二種の外厚朴、栗、胡桃の種子を播種せり、今後國庫補助費の增加

程度に依り、一層樹苗圃施設擴張の見込あり、附屬樹苗圃は群馬郡白郷井村地内に於て面積四町五反一畝二十四歩の國有林を無料借地し、特種樹苗の養成を實行せり、既往兩年度に於ける下付苗數は橡十四萬三千二百三十本、栗一萬本、總計十五萬三千二百三十本に達す。

第一縣有模範林杉單純林

群馬山林會　林業の改良發達を計るを目的として明治四十年創設せられ、事務所を縣廳に、支部を各郡に置き、會報を發刊し、附屬苗圃を群馬郡桃井村に設置し、專、杉、扁柏の苗木を養成して、明治四十三年春季に於て始めて會員に交付したり、現在會員五百餘名を有し、毎年縣費補助金五百圓を受け、以て本縣の林業開發機關として、直接間接に貢獻する所あり、尚將來の事業として劃策するもの尠からず。

縣設模範林　明治三十八年度より二十六ヶ年の繼續事業として經費豫算十二萬圓餘を以て面積一千町歩造成の計劃をなし、先づ北甘樂郡妙義町（大字菅原）外三ヶ村に跨る國有林野面積三百六十七町歩餘の拂下を受け、同三十九年度に於て事業に著手し、既に面積百三町歩餘の植栽を了り、約二町三反歩の樹苗圃を設置せり、次に利根郡川場村地内に面積百八十一町歩餘の模範林を設置す。（下篇一八四頁一九九頁參照）

森　林　國

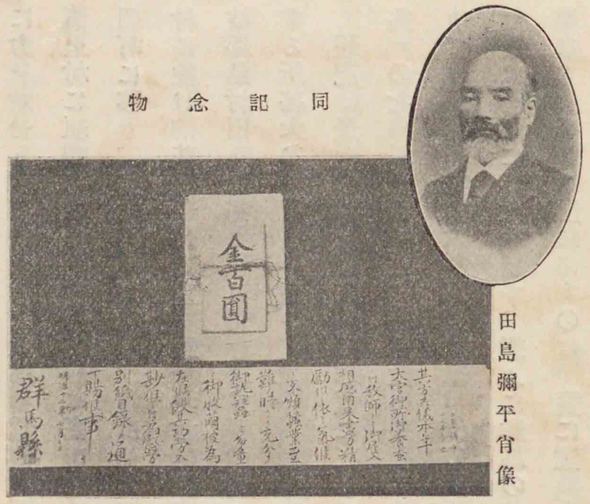
養蠶

沿革—現況—桑園—結霜豫防—高山社—順氣社—童兒社

沿革　本縣養蠶史に記すべきこと多しと雖、特に傳ふべきは田島彌平の光榮に在り、彌平は佐波郡島村の人、明治四年　宮廷に召され、御養蠶を督するの光榮を荷ふ、皇后陛下の親しく蠶事を御覽あらせられしは實に此時に在り、此事啻に彌平一身の光榮たるのみならず、我邦の養蠶史上を飾るべき一大異彩なり、先是横濱港の互市場となるや、我蠶絲は貿易品として、最重要のものとなり、斯業の發展は愈〻國家的たるを期せざるべからざるに至れり、明治三年今の高山社の前身たる高山組は高山長五郎の首唱に依りて多野郡高山村に起り、清温飼育の普及

養蠶界の光榮

同記念物



田島彌平肖像

に力を效せり、其後佐藤國太郎養蠶傳習所を北甘樂郡富岡町に設立し、松下政右衛門適蠶組を群馬郡清里村に組織するあり、高山組は高山社と改稱して多野郡藤岡町に移り、其業務を發展し、山口正太郎順氣社を同郡栗須村に設け、荻野千代吉童兒社を北甘樂郡富岡町に組織し、佐波郡島村田島定邦養蠶眞實を著す等、何れも斯業の爲に貢獻する所甚大なり。

現況　最近の調査に依れば春蠶に在りては農家戸數（兼業共）の七割以上に達し、總戸數の五割二分を占め、秋蠶に在りては農家戸數の六割五分、總戸數の四割七分を占む、此の如きは全國に其比を見ず、想ふに群馬の養蠶をして此の如く盛ならしめたる所以のものは、實に蠶業上に於ける天然要素の具備せるに原くと雖、職として先進の經驗能く後生を敎へたるものあるに由らずむばあらず、隨ひて蠶種の掃立枚數は春夏秋を通じて飼育戸數一戸に對し平均三枚二分四厘に當り、居然として全國に其大を誇るに足る、今之を春夏秋各期の掃立枚數に依りて類別するときは飼育

飼育戸數は全國一

養蠶發達の素因

女子蠶業講習會卒業生

家一戸に對する掃立平均枚數は春蠶三枚五分七厘、夏蠶一枚八分三厘、秋蠶二枚九分三厘にして收得する所の繭の產額は明治四十二年に於ては二十六萬九千五百八十一石餘、價格九百六萬九千餘圓に達し、之を春夏秋の各期に類別せば春蠶六割六分三厘、夏蠶七厘、秋蠶三割三分七厘に相當す。

養蠶の奬勵としては縣は講習講話を主とし、特に女子蠶業敎育の必要を認め、每年一回六十日の期間を以て女子蠶業講習を行ひ、郡に於ては郡農會に蠶業技術員を置き、農閑を利用して蠶業に關する講習講話をなさしむる者多く、農事試驗場及蠶病豫防事務所、縣農會等亦各〻主管に關する講習講話に努め、群馬、吾妻、利根三郡には特に蠶業講習所の設あり、近く繭質統一の聲世に高く、是が實行は素より容易の業にあらずと雖も、一部分に於て繭質の整理をなすは敢て至難の業にあらず、縣は此に鑑み、稚蠶共同飼育所の設置を奬勵したる爲、各地に其設立を企つるもの多きに至れり、由來飼育法に至りては古來全國の模範として每年養蠶敎師の各府縣に招聰せらるゝ者、數百遠く各府縣より來りて敎を諸家の門に乞ふ者、其數擧げて算ふべからず、又盛なりと謂ふべし。

縣の奬勵

養蠶技術の淵藪

桑園　由來本縣は大河巨川の流域に屬し、最、廣面なる冲積層を形成す、故に到處栽桑の好適地たらざるはなく、利根川の流域に在りては利根、勢多、群馬、佐波、新田、邑樂の各郡あり、其他の流域に在りては吾妻、多野、碓氷、北甘樂、山田の各郡あり、沿岸の桑園は即、所謂步桑なるものにして、蠶種製造の業盛なるを致したる亦宜ならずや、此沃野に連る桑園現在面積は三萬四千四百町步に

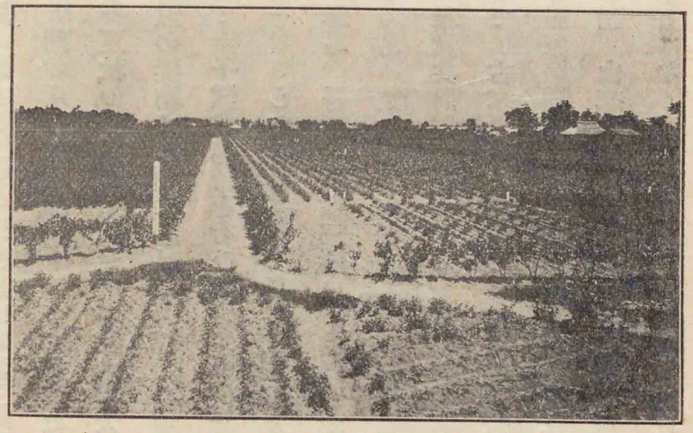
天與の適桑地

して畑の總面積に對し優に四割九歩を占め、養蠶戸數一戸に對する桑園反別四反六畝歩に相當せり、以て本縣の桑園が如何に豐富なるかを見るに足るべし、而も其面積は年を逐ふて增加し、最近五ヶ年間平均增率は實に四分八厘餘を示す。

桑園改良の奬勵

然れども現在の桑園狀態に於ては、肥培の收葉に伴はず、且、增殖の荒廢に及ばざるの憾少からず、以是縣は明治四十年より桑園改良費一萬圓を支出して郡市又は郡市農會にして秋蠶專用桑園の改植若は增植を行ふものに對し、是が奬勵として其經費を補助すると同時に綠肥奬勵の訓令を發し、金肥の補給策として綠肥を栽培することを奬勵する所あり、又蠶糞利用の訓令を發して經濟的肥料の普及に努めたる結果、兩者共に著々優良の成績を示しつゝあり。

農事試驗場第二桑園



結霜豫防　結霜は本縣の養蠶に對する一大障碍にして、是が豫防は最緊要の事に屬す、故を以て縣は數〻諭告を發して發烟法を奬勵せしも之を實行する者極めて少く、偶〻實行者あるも其効果を認むること、未、十分ならず、然るに明治四十

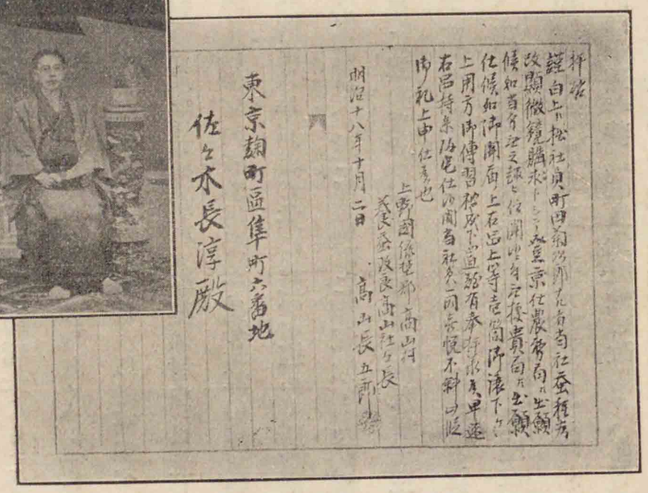
發煙法の効果

二年縣農會は結霜の最劇甚地五十餘町歩を選みて豫防の發煙法を實行して良好の成績を得、加之其方法に就きて更に一段の發明する所あり、依りて之を公にして共同實行を勸誘せり。

高山社の滴溫育

高山社　安政年間今の多野郡美九里村大字高山村の舊家高山長五郎、苦心慘憺一種の養蠶法を案出したる時に創まる、遠近此法を傳聞きて業を門下に乞ふ者多かりしが、長五郎謙讓にして之を容れず、明治二年に至り始めて高山組を自邸に設けて生徒を養成し、旁、近鄰の養蠶家を指敎するに至れり、明治十七年に迄びては組員次第に增加し、依然たる舊態に居るを許さず、漸、組員の希望を容れて郡の中邑藤岡町の北郊に事務所及傳習所の建築を企て、同十七年養蠶改良高山社と改む、長五郎社長に、町田菊次郎副社長に擧げらる、同十九年長五郎病を以て逝く、自是菊次郎遺業を繼承し、鋭意社業の擴張に任じ或は內地を歷遊し、或は淸韓の蠶業を視察する等經營

同筆蹟



高山長五郎肖像

怠なし、同三十三年高山社蠶業講習所を設け、次で翌年文部省の認可を得て私立甲種高山社蠶業學校を設立す、是本邦私立甲種蠶業學校の嚆矢なりとす、高山社、業を創めてより玆に三十餘年、今や一道三府四十三縣一として社員あらざるの地なく、現に清國浙江省蠶業學堂及韓國慶尙南道蔚山郡に其飼育法を試みらるゝに至れり、斯業の普及以て察すべきなり。

順氣社　多野郡美土里村大字栗須村山口正太郎夙に養蠶の研究に身を委ね、明治十四年感奮する所あり、偶〻時の宮內省御用掛佐々木長淳の順氣育法を傳習して得る所尠からず、爾來熱心に本法の研究に從ふ、同十八年同志と共に長淳を迎へて所謂順氣育桑樹栽培其他須要なる理論及實地の講話を聽き、益〻熱心を加へ、遂に藤岡町に順氣社を設け、自、社長となり、生徒の養成に努め、旁、蠶種の改良を圖りて社員に配布す、同二十九年正太郎歿す、嗣子、乃、社長の名を襲ぎ、社業の擴張を圖る、同四十一年資本金三萬圓を募集して組織を更め、順氣蠶業株式會社と改稱せり、現に主として營める事業は研究生の養成、蠶業資金の融通及蠶具の周旋、桑園改良に伴ふ肥料の貸付、桑苗の供給等なりとす。

童兒社　明治二十年北甘樂郡富岡町及鄰町村有志者養蠶改良の目的を以て養蠶改良童兒組合を組織す、同二十五年養蠶改良童兒社と改稱し、傳習所を設く、荻野千代吉社長たり、爾來社業益〻發展の機運に向ふ、然るに世運の進步は年一年に斯業の隆興を促して、前途の大成功を期せむには學藝教育の力と相俟たざるべらかざるを察し、同四十一年乙種程度の蠶業學校を開設するの議を決し、翌四十

二年文部省大臣の認可を得、同年四月校を開きて、業を授くるに至れり。

蠶　種

沿革——現況——蠶病豫防事務所——蠶業者組合聯合會——風穴

蠶種製造の一大革新

沿革　舊事は暫、措きて問はず、蠶種の一大貿易品として歡迎せらるゝや、本縣の當業者は巧に機先を制して名を海外に成し、特に佐波郡島村は製造に於て、將、輸出に於て全國の覇者たり、其面目既に獨、佐波郡の島村にあらず、實に上州の島村を名乘りて日本蠶種の代名詞たりしなり、惜むべし、粗製濫造の弊、漸、生じて海外に於ける信用を失墜し、蠶種燒棄事件を惹起したることを、於是乎當業者の覺醒を促し、明治十九年に至り群馬縣蠶絲業組合は蠶病試驗場を設けて、生徒を募集し、微粒子病の有無に付顯微鏡檢査を講習せしむ、同年農商務省令を以て蠶種檢査規則を發せられ、翌年縣は檢査施行手續を定め、十三ヶ所に檢査所を設けて檢査を行ふ、同二十六年施行手續を改正し、原種は組合蠶種檢査所に於て檢査を行ひ、縣は是が監督に任ず、原種に框製を使用すること此時に始まる、翌年六月蠶種取締規則竝蠶種檢査規則を發布し、蠶種は規定の檢査に合格したるものにあらざれば賣買授受し又は所持飼育することを得ざらしめ、原種は必、框製に限ることゝし、尙蠶種製造者は同巧繭、

蠶病顯鏡

薄皮繭、汚繭、形狀不正の繭を以て原料に供すべからざること等をも規定するに至れり、是、實に本縣蠶種製造上に於ける一大革新なりとす、同二十九年に至り、本縣當業者二千餘名連署して蠶種檢査法の發布を農商務大臣に建白す、翌年再、八百餘名の當業者同上の建白をなす、此年法律第十號を以て蠶種檢査法を發せられ、全國一定の檢査を施行することとなれり、是一に斯業の爲、欣ぶべき事なりとす、同三十八年七月縣は夏秋蠶種取締規則を發布して夏秋蠶種の販賣を取締ることゝなせり。

現況 系統の美を以て全國に推さるゝ本縣の蠶種は夙に元原種に充てられ、之に據りて蠶種改善の實を擧げたるもの縣の內外に少からず、今又蠶質統一の聲大に高まり、之を機として更に面目を一新せむとするものあり、本縣蠶種界の前途や、

蠶種製造額 頗、好望なりと謂ふべし、最近の調査に依るに蠶種製造額は製絲用種三十六萬三千百九十四枚、原種用種八百二十八萬七千六百九十二蛾にして、其化性別左の如し。

用種別	一化性	二化性一化	二化性二化	一化性風穴	二化性風部	計
原種用	四九六三、一一二蛾	二八、九二四蛾	三八、三六〇蛾	二三〇八、四三二蛾	九四八、八六四蛾	八、二八七、六九二蛾
製絲用	二九二、七九二枚	九、五九六枚	二一〇枚	四一、六四九枚	一八、九四七枚	三六三、一九四枚

製造の狀況に至りては春蠶用は甚しき增加を見ざるも、秋蠶用は其增加顯著にして特に風穴種に於て增加の夥きを見る、生種の製造亦將に面目を改めむとしつゝあり。

蠶種製造者 蠶種製造者は現在實數七百四十にして、各化性を通じたる數は千五十二なり、而して實數は漸次減少の傾向あるも各化性を通じたゝ數は多少增加の傾向を示せり、蓋、小製造者漸次淘汰せられ、一製造者にして各化性の製造を兼ぬるもの增加せしに由る。

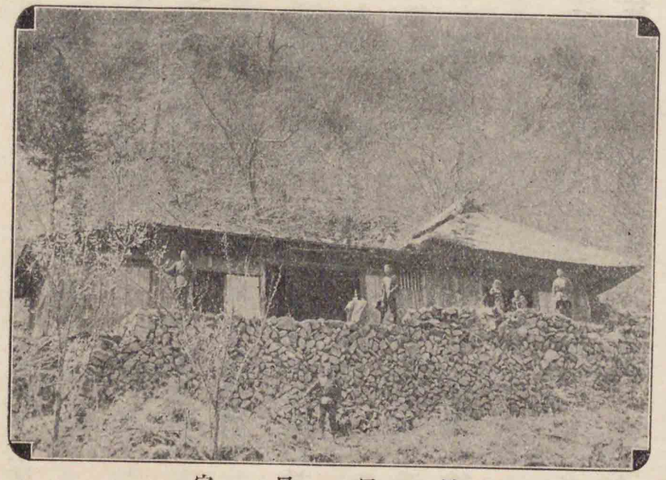
蠶種の名稱數 蠶種の名稱數は一化性に在りては漸次減少するの傾向ありて、明治三十八年百二十五なりしもの、同四十二年に至りては九十四となれり、然れども製造額の大部分を占むるものは又昔、亦昔、改良又昔と云ふが如く、又昔系質のものにして青熟、良白等之に亞ぎ、年々產額を增加し、白龍の產額亦尠からずと雖、敢て增加の傾向を見ず、白玉、飛白、眞撰、小石丸の如きは年々減少の一方に傾けり、今各名稱に就きて製造額を對比するときは又昔系質及青熟、白龍、良白等通じて製造額の七分以上を占

又昔の盛名

め、其販路は全國到處に擴張せられ、特に又昔に至りては全國製絲家の推奬措かざる所、實に群馬產業の精華と謂ふべし、又近來著しく名稱數の增加したるは風穴種にして、一化性風穴にありては數年間に二十種を、二化性風穴二十一種を增加せり、風穴種の大勢推知すべし。

蠶病豫防事務所　縣廳内に設置し、前橋、高崎、藤岡、伊勢崎の四ヶ所に支所を置き、毎年四月より十二月に至る間、高崎支所は澁川、安中に、藤岡支所は富岡に、伊勢崎支所は境、館林に出張所を開設して事務に從はしむ、明治四十一年度より母蛾檢査擔當吏員に女子を採用したるに、頗、良好なる成績を得たるを以て、今後尙採用の多からむことを力め、又蠶病消毒及蠻蛆驅除等に就きては夙に各團體と氣脈を通じて鋭意撲滅を圖りつゝあり、然るに近年夏秋蠶飼育の結果にや、動もすれば病率增加の傾向あるを以て、各製造者より原繭を提出せしめ、母蛾の發生を促進して病毒の步合を檢し、其成績を通知して當業者の參考に供せり。

蠶業者組合聯合會　明治三十八年既設蠶種業の團體たる



星尾風穴

良種の選擇

群馬縣刀川蠶種同業組合、群馬蠶業同盟會、多野蠶種製造組合、甘樂蠶種種合、碓氷蠶種製造者組合、吾妻蠶種組合、新田蠶種組合、邑樂蠶種同業組合、佐波蠶種業組合等は相互の氣脈を通じ、共同一致して營業上の弊害を矯正し、斯業の改善を企圖し、利益を增進するの目的を以て群馬縣蠶種業者組合聯合會を組織し、同四十二年定欵に『繭質の統一を期する爲、製絲業者の意見を容れ其目的を貫徹すること』の一項を加へ、乃、今の名に改む、事業中骨髓とも稱すべきは繭質統一の目的より出でたる原蠶飼育の依托にして一化性及二化性の原蠶を組合員中適當の者に依托飼育せしめ、其成繭より得たる蠶種は原繭、出殼と共に同會の審査會に提供して、一粒檢査の方法に依りて審査し、其合格したるものは決定價格を以て購入し、蠶種製造者の原種として配布するものとす、更に明治四十三年より原繭の提供を增さしめ、一粒檢査の外一定の方法を以て繰絲し、正確に良否を審判して愈〻良種の選擇に努めむことを期せり。

風穴　本縣に於ける風穴は、是に關する知識の進步したる時に當り、且、秋蠶の發達に促されて起りたるを以て、其築造及設備の新式にして完備せること亦他に多く其比を見ざる所とす、年々貯藏高の增加は貯藏成績の良好なるを證するに餘あり、現在天然冷風の吹出だす所を開掘して貯藏室となしたるもの五、天然氷塊を以て貯藏裝置をなせるもの一、氷藏室の一部に貯藏裝置をなせるもの一にして、全貯藏力は春秋兩種を通じて五百五十萬枚なりとす。

上州座繰製絲

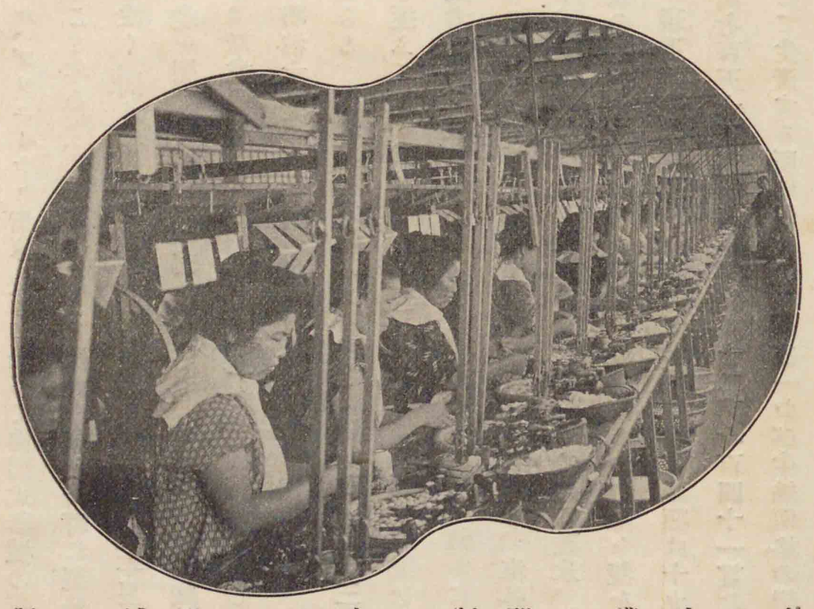
製絲

沿革—現況—合同器械製絲—玉絲製絲—蠶絲業同業組合聯合會—大日本蠶絲會群馬支會—碓氷社—甘樂社—下仁田社—原富岡製絲所—交水社

沿革 織物の業あるに先ちて製絲の業あるとは素より然るべき所なれば、和銅六年上野國より絁を朝貢するの前、既に製絲の業ありたるや論なし、元中年間に至り仁田山絹及日野絹の、名產として盛に製織せらるゝに當りては製絲の業亦隨ひて發達したるものゝ如く、慶長年間前後、伊勢崎、桐生、高崎、澁川、安中、前橋等早く市場を開きて生絲、織物の集散場となり、寛文年間太絲は登と稱して京都に送り、細絲は地遣として主に桐生地方に使用せられたりと云へば、當時既に生絲の管

上州座繰器の發明
本邦器械製絲の嚆矢
模範製絲場の創立

器械製絲



外に輸出ありたるを見る、寛政より享和に至る間に於て、上州座繰器の發明あり、爾後幾度か改良の功程を經て完成の域に進み、製絲勃興の機運已に業に此時に於て萌したるものと謂ふを得べし、此の如にして文化年間に至りては製絲法を信州小縣郡等へ傳授するに至りたりと雖、時宛、海外貿易禁制の時代に在りしを以て、之を今日より見れば微々として殆、云ふに足らず、横濱の開港せられて、生絲の海外輸出を許さるゝや、斯業の隆興は澎湃として潮の寄するが如く、面目頓に一新を來せり。

明治三年には速水堅曹、外人を傭聘して前橋に器械製絲を創め、前橋製絲場と稱す、是實に本邦器械製絲の嚆矢とす、此年政府亦、斯業の大勢に鑑みる所あり、地を北甘樂郡富岡町に相して富岡模範製絲工場を創立し、同五年工を竣り、此に佛人『ポ

ール、ブリユーナ』指揮の下に始めて佛國式器械の運轉をなし、汎く傳習して斯業發展の階梯たらしむること年あり、後、民業に移る、同六年伊勢崎町に製絲共研會起り、同七年星野長太郎水沼に水沼製絲場を設く、同八年關根に製絲研業社の設あり、同九年星野長太郎其弟新井領一郎を米國に遣はして直輸出の途を開始し、同十年前橋舊藩士、精絲會舍を組織して翌年事業を開始し、提絲造を捻造に改良する等、斯業の狀態大に振ふ、同十一年精絲會舍分離して交水社起り、碓氷郡には碓氷社の創立を見る。

聖上行幸

明治十一年九月　聖上群馬縣に行幸あらせ給ひ、精絲會舍の製絲原社に其の座繰製絲場を巡覽あらせらる、製絲界の光榮何ものか之に若かむ、同十三年甘樂社北甘樂郡に起る、此くて製絲の改良、漸を逐ふて緒に就けり、明治三十年法律第四十八號を以て生絲直輸出奬勵法の發布あり、是、本縣の當業者が多年寢食を忘れて斡旋盡力したる所、然るに實施僅に二ヶ年にして廢止せられたるは頗、遺憾のことなりとす、爾後各種の組合到處に起り、海外蠶絲業の事情を視察して調査報告せし者亦少からず、玆に斯業は益〻改良の實を擧ぐると共に碓氷、甘樂、下仁田三社の事業は漸次擴張せられ、群馬縣の製絲と云へば即、三社の製絲なるかの如き觀を呈するに至れり、又盛なりと謂ふべし。

現況　最近の調査に依れば本縣生絲の產額は十九萬一千四百九十四貫にして、此中、器械製絲は七萬七百五十三貫、座繰製絲は十二萬七百四十一貫なり、即其六割强は座繰製にして所謂農家の副業として生產する所に係る、されば一たび生絲價格の變動に遭遇することあるも、其受くる所の影響器械

製に比して甚しからず、又其價格は合同販賣の組織に依るを以て敢て器械製絲に劣ることなし、今明治四十二年度に於て三社及交水社の販賣取扱に係る座繰製絲の數量及價格に就きて之れを觀るに

碓氷社	八九、一四三・一六〇匁	四、五八六、〇八八・六九〇圓
甘樂社	七一、九〇五・三七匁	三、九九七、二六〇・四五〇圓
下仁田社	三六、五六、三三匁	二、〇九四、八九四・五八〇圓
交水社	二四、七五〇・〇〇〇匁	一、三三〇・〇〇〇・〇〇〇圓
計	二三三、三三五・八〇匁	一一、九九八、二四三・七一〇圓

本縣製絲の特色

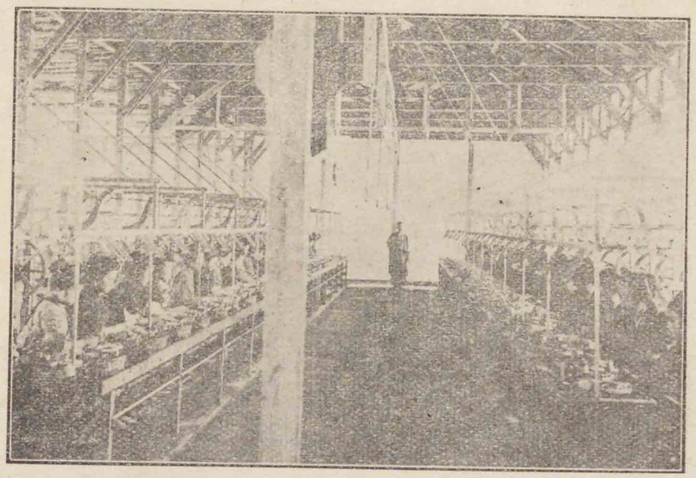
甘樂社商標の多きに及ぶ、而して三社の取扱中には多少縣外の生產を含まざるにあらずと雖、其の大部分は縣內のものなるを以て、之に交水社の

碓氷社商標

下仁田社商標

合同器機製絲の特色

馬山生産組合



取扱に係るものを合すれば縣下生産の製絲は殆、合同販賣せらるゝものと見るを得べし、是、本縣の製絲狀態が他と大に其撰を異にする所なり。

合同器械製絲　共同揚返組合員の合同に成る器械製絲は北甘樂郡馬山村の馬山生産組合に設置せし以來各地に是が設置を見、將來製絲法に一變革を來すの傾向あり、抑、合同器械製絲の法たる、各自生産の繭を一製絲工場に持寄り、同一監督の下に同一繰絲を行ふものなるを以て之を普通の座繰製絲に比すれば其優劣素より同日の論にあらず、而も一面に於ては原料繭を互に比較し、其良否に依りて、繰絲の功程と絲量とに甚しき相違あることを眼前に實見するを以て、繭質改良の動機たることを得べし、若夫、合同者にして稚蠶共同飼育を行ひ、豫、繭質を一定せむか、改良の効果は更に一段を進むるや必せり、繭質統一の實行と相俟ち、其前途の有望なるを推知するに

難からず。

玉絲製絲　明治初年來多少製造する者ありしが、伊勢崎、桐生、足利等の織物の發達するに伴ひ、著しく其産額を增加し、今日に於ては一ヶ年二萬五百六十八貫を産し、價格六十一萬七千四十圓を降らず、是が製造は悉、農家の副業に成り、縣下到處製造せざるものなしと雖、前橋市、勢多、碓氷、群馬の各郡、最、盛況を極む。

蠶絲業同業組合聯合會　明治三十七年既設組合、聯合して本會を組織す、目的は互に氣脉を通じ、營業上の弊害を矯正して共同の利益を增進せむとするにあり、本業の一として組合員の取扱營業品に對し、檢査法の一定を期する爲、檢査員を派遣して檢査を執行す、創立日尙淺く、未、顯著なる成績を見ずと雖、漸次發展の域に向ひつゝあり。

大日本蠶絲會群馬支會　明治四十年を以て成る、爾來斯業の爲、劃策する所尠からず、今や會員增加して益〻發達に向ふ。

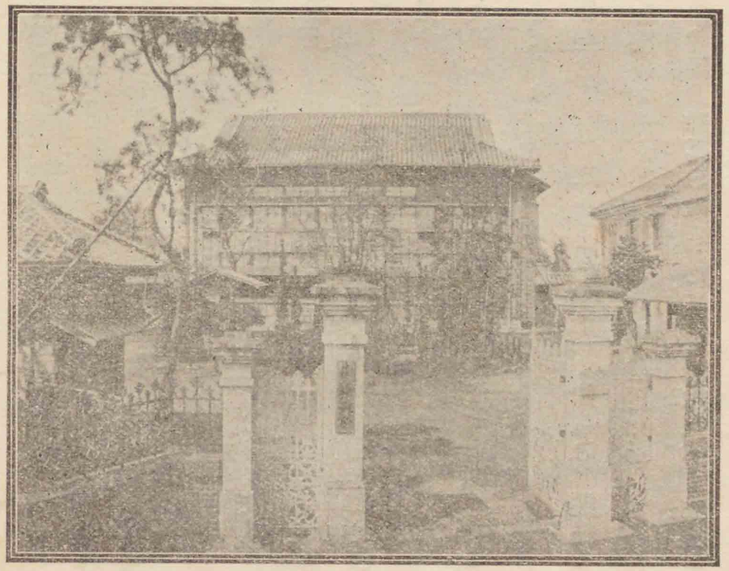
我邦製絲界の重鎭

如上說く所に依りて世人は直に知らむ、製絲の改良に於て殆、全縣を擧げて團結し、共同製絲の方法を設けて能く其改良を圖り、信用を鞏固ならしめ、延きて市場の商權を支配するの盛況に達したるもの、獨、群馬のある所にして他に絕へて其例を見ざることを、宜なり、上州産の生絲が産額に於て、將、品質に於て、實に我邦生絲中一頭地を拔けることは、蓋、怪むに足らざるなり、以下上州南三社とし

て其名を海の内外に轟す碓氷社、甘樂社、下仁田社竝交水社、模範製絲工場として全國有數なる原富岡製絲所に就きて、其沿革及組織の大要を記せむ。

碓氷社　明治十一年碓氷郡の萩原音吉、同專平、同鐐太郎等生絲改良の目的を以て碓氷精絲社（今の磯部村元組）を組織したるに創まる、翌年其規模を擴張して、本社を原市町に移し、鋭意社業の振興に努むる所あり、爾來年を逐ふて盛にして、同二十三年には其區域長野縣に及び、同三十五年には新に埼玉、千葉、茨城の三縣を加へ、五縣二十八郡市に亘りて組數實に百十一を算ふるの盛況に達せり、此くて明治三十九年八月　久邇宮殿下の御台臨あり、翌四十年十一月　北白川宮大妃殿下の御台臨を辱うし、同社をして無上の光榮に感泣せしむ、又實に本縣製絲界の面目なりとす、今や組織を變更して有限責任信用販賣組合聯合會碓氷社と改め、聯合組合數百八十一、生絲産額約九萬貫價、

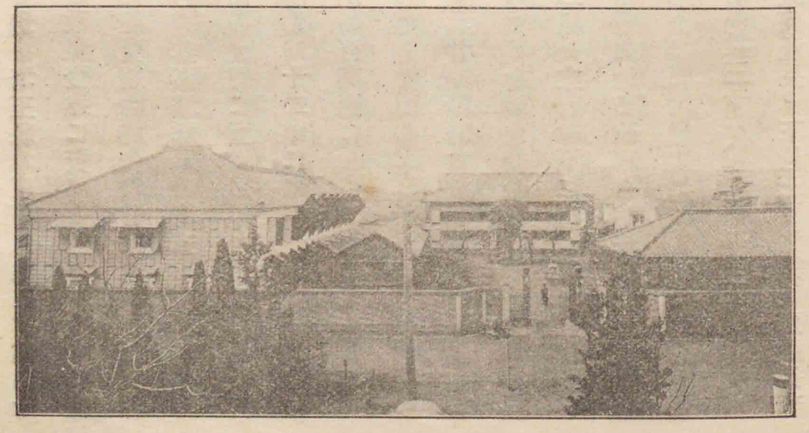
碓氷社



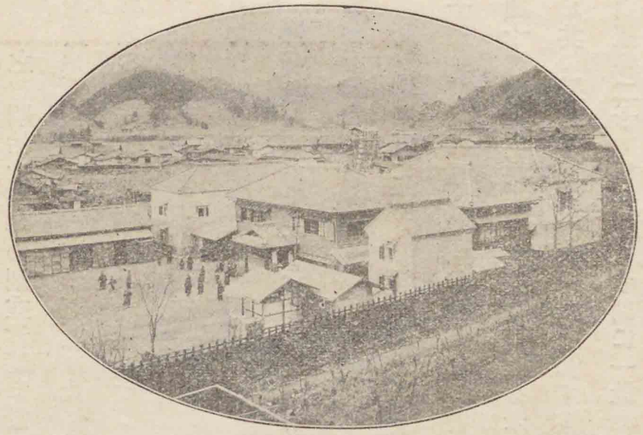
格四百六十萬圓の多きに達し、福島縣を加へて其區域六縣に亘る、之を明治十一年の創立當時に於ける組數一、産額二百三十七貫、價格一萬九百四十五圓に比す、何ぞ其進歩の速にして其發展の大なるや、而して内に在りては製絲改良の先覺者となり、外に在りては我邦生絲の聲價を發揚し、信用を鞏固ならしめたるの功、亦偉なりと謂ふべし。

甘樂社　明治十三年北甘樂郡の有志者、製絲改良の實を擧げむが爲、合同團結して一社を組織し、北甘樂精絲會社と稱し事務所を富岡町に置く、當時社員たる者六百二十人、其區域郡内十三ヶ町村に亘る、此年横濱同仲會社を介して生絲二千三百四十九貫、價格十一萬五百餘圓を米國に輸出せり、爾後社業年と共に擴張し、組數六十二を算するに至りしが明治二十六年馬山組外二十二組分離して別に一社を組織せり、同二十八年甘樂社と改稱し、山口太三郎を社長に森平喜十郎を副社長に擧ぐ、次ぎて米國直輸出を廢し、横濱市場に於て競爭販賣を開始する

甘樂社

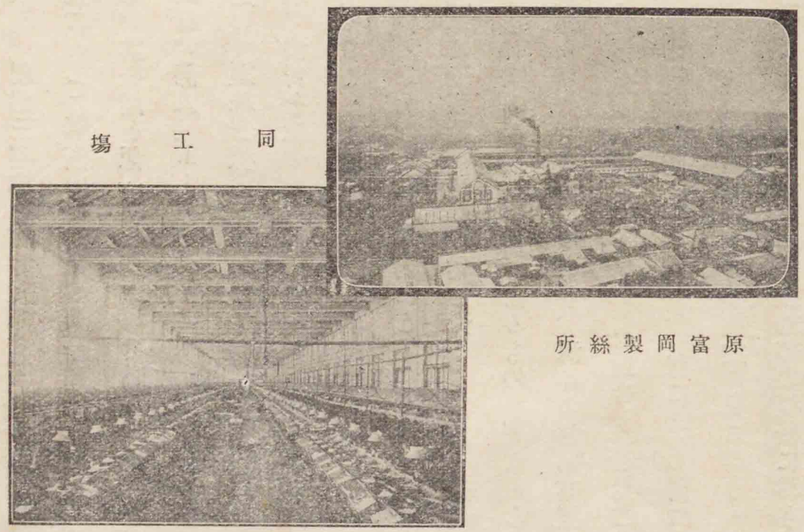


や、社業頓に振ふ、同三十八年生絲荷受所を多野郡藤岡町に、分工場を埼玉縣本庄町に設く、同四十二年創立三十週年を記念として生絲、繭の共進會を開設し、斯業の改良發達に資する所あり、今や組織を變更して有限責任信用販賣組合聯合會甘樂社と改め、聯合會組合數百三十五に達し、其區域群馬、埼玉、栃木、千葉、岩手、福島、秋田、長野、岡山の九縣に亘り、組合員二萬八千百二人を算するに至れり、明治四十二年に取扱へる生絲は實に七萬一千九百五貫、價格約四百萬圓にして、之を創立當時の生産に比するに約三十倍に近きを見る、亦盛なりと謂ふべし。



下仁田社

下仁田社　明治二十五年北甘樂精絲會社、社内の狹隘を告げたると交通機關の不備なるとを以て組合分立の議起り、翌二十六年馬山組合外二十二組分立して下仁田製絲合資會社を設立す、同二十八年下仁田製絲社と改稱し、佐藤量平を社長に齋藤正次郎を副社長に擧ぐ、爾來駸々として隆盛に向ひ、同三十二年に至りては工場の數三十三、社員二千五百九十人を以て算するに至る、同四十年社長佐藤量平米國に渡航し、碓氷社副社長眞下邑三及甘樂社副社長森



同工場

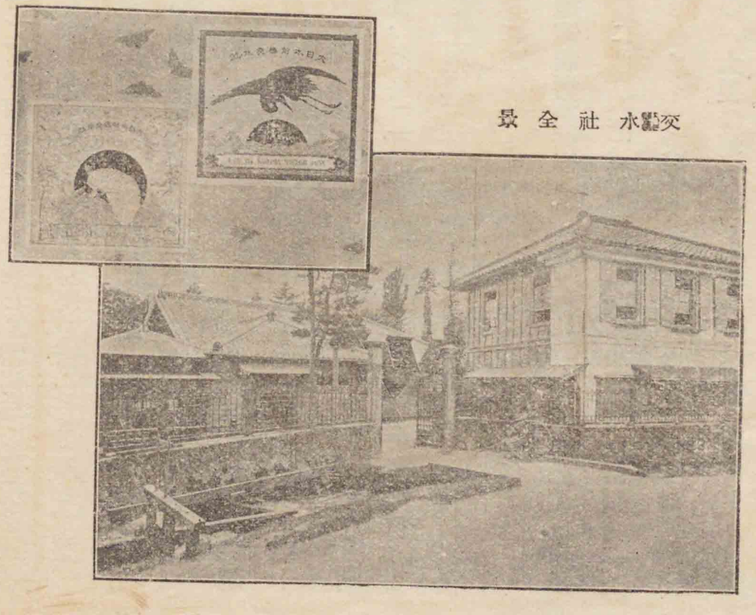
原富岡製絲所

平喜十郎と相提携して、親しく需用地の實況を視察する所あり、多大の參考材料を齎らして歸る、蓋、斯業界の壯擧たりしなり、最近、組織を有限責任信用販賣組合聯合會下仁田社と改め、聯合組合數百十、組合員四千百九十人の多きに達し、其區域亦、群馬長野、岩手、新潟の四縣に跨るに至れり、明治四十一年に於て取扱ひたる生絲の數量三萬六千五百二十六貫、價格二百九萬餘圓に上る、碓氷社、甘樂社と併せて上州南三社と稱せられ、我邦生絲の聲價を發揚するに至りたるの功や永く沒すべからざるなり。

原富岡製絲所　海外貿易開かれ、生絲の生産增加するに伴ひ、漸、粗製濫造の弊を生じて、信用將に失墜せむとす、政府斯業の將來に慮る所あり、乃、洋式の一大製絲場を興し、熟練なる技術者を聘して改良を圖り、模範を天下に示して、其弊害を絶たむと

欲し、明治三年地を北甘樂郡富岡町に相して一大工場の建築に著手し、同五年六月工を竣る、規模の宏大にして設備の完全なる、今日より之を觀るも尙其壯圖を偲ばしむるものあり、同年十月四日、佛人『ポール、プリユーナ』指揮の下に始めて製絲器械の運轉をなす、當時我邦、民俗未、舊習を脫せず、奇怪の說を傳へて業を此に受くることを欲せず、大藏省、乃、諭告を發して勸誘に力む、啻に一再にして止まらざるなり此くて世運漸、開け、業を受くる者愈〻多きを致し、歸りて指導の任に當るもの全國に普し、製絲改良の實於是乎擧がり、海外の信用亦隨ひて恢復せられ、以て今日あるを致せり、明治二十六年官營廢せられ、三井高保の有に歸す、爾後十年間、工場の增築設備の整頓共に見るべきもの尠からず、同三十五年原製絲部の經營に移り、

同社商標



交隼水社全景

上州繰座

てよりは益〻其の設備を改善し、其組織の適當を圖り、原料繭の購入に縝密の用意を傾注し、繭質の統一に至誠を披瀝する等、專、其製絲をして海外市場の好尙に投せしめ、又能く製絲經濟の變動を洞察して基礎を鞏固ならしむるに努む、其効果今日に至りて顯然たり、眞に模範工場の後繼者たるに愧ぢずと謂ふべし、最近一ヶ年の製絲額は八千五百五十五貫にして價格四十九萬五千二百三十五圓なりとす。

交水社　明治十年舊前橋藩の士族高須泉平等株式組織の一社を前橋に設立して精絲交水社と稱す、當時前橋生絲は總べて提造絲にして取扱の不便尠からず、殊に海外輸出に適せざりしを以て、改めて器械揚捻造となし、販路を米國に開くや、頓に其名を揚げ、當業者の奮發一倍して益〻擴張を見る、是即、座器絲器械揚捻造絲の嚆矢とす、同二十二年五十人取蒸汽器械製絲所を設けて、製絲法の傳習を開始し、傳習生を養成せり、爾來其社名を改稱すること數次、明治四十二年に至り、組織を變更して有限責任信用販賣組合交水社と改め、組合の地區を前橋市一圓及勢多郡一圓と限定せり、經營の方法は創立當時より組合社員の製絲受托合同販賣を以て目的とし、今や一ヶ年に取扱ふ生絲數量二萬四千七百五十貫、價格約百三十二萬圓に達し、南三社と共に我邦生絲の聲價を海外に高からしむ。

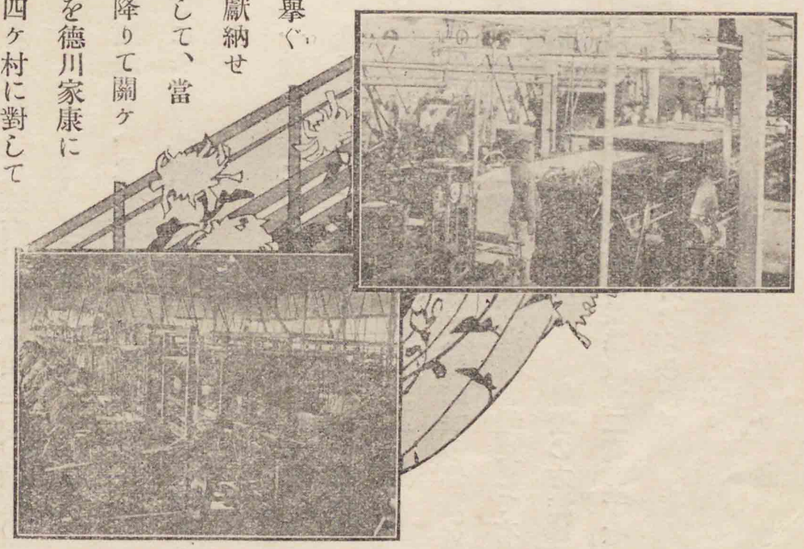
機織

概說——桐生織物——伊勢崎織物——邑樂織物——高崎織物——兩毛整織株式合資會社——模範工場桐生撚絲株式會社——上毛モスリン株式會社——附雜工業　附產業組合

桐生織物整理

概說　本縣織物の起源は太、古し、史上和銅年間上野國より絁を朝貢すとあるに徵して、其以前既に機織の草創ありしを知る、中世新田義貞の義兵を上州に擧ぐるや、下すに旗絹徵發の令を以てす、四方競ふて絹帛を獻納せりと云ふ、是、今に地方の絹帛を御旗絹と稱する所以にして、當時機織の業に從事したる者の多かりしを證するに足る、降りて關ヶ原の役には、桐生鄉の民前例に傚ひて旗絹二千四百十匹を德川家康に獻納す、家康深く之を德とし、役定まれる後、桐生鄉五十四ヶ村に對して

御旗絹



伊勢崎織物機械

機織發達の動機

種々の特典を與ふ、鄉民亦吉例として年々同數の絹を獻納して租稅に代へたり、惟ふに上州機織の發達は此時代に於て既に其因を發したるものと云ふべく、江戸は幕府の在る所にして絹布消費の中心地たり、其發達を促進し、其產額を劇增せしむるを推知するに難からざればなり。

桐生織物輸出の嚆矢

元文年間桐生の機織業者、工を西陣に聘して技を傳ふ、於是、面目漸、一新を加へ、京坂の販路頓に開く、天明以後文政の間、高等織物としては盛に琥珀、博多、龍紋を製織し、普通品としては絽、縮緬類を生產せり、安政五年橫濱開港せられ、通商互市の途開くるや、三井出張所より龍紋數百匹を輸出したるを桐生織物輸出の嚆矢として今日に及べり。

維新以後の發展

明治維新以後洋式機臺應用の結果、機織の技術に一大進步を來し、頓に面目を一新したるのみならず、產出區域益〻擴大せられ、今や到處機織の聲を聞かざるなく、宛然一大機織國の觀を呈するに至れり、就中主なる產地を桐生（山田郡一圓及新田郡の一部）伊勢崎（佐波郡一圓及新田勢多兩郡の一部）邑樂（邑樂郡一圓）高崎（高崎及群馬、北甘樂、多野、碓氷の各郡）等となす

主なる產地

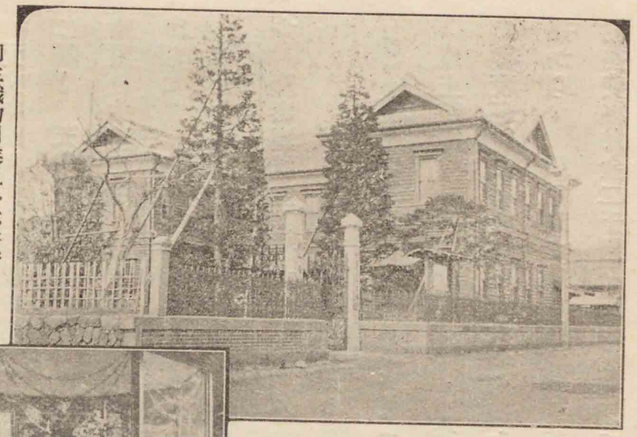
以上略說する所に依り、織物は養蠶、生絲と併せて本縣殖產の生命なることを知るべし、されば機織の盛衰が直に縣經濟に至大の影響を及ぼすは論を俟たず、延きては我邦海外輸出の勢力に關することは勘からず、故を以て縣は銳意同業組合に對して監督奬勵に努め、特に織物の檢査に重きを置き、年々檢査費補助金二千圓を支出し、以て檢査を勵行して、專、不正品の防遏に任ぜしむ、明治四十二年產出

重要物産中の首位

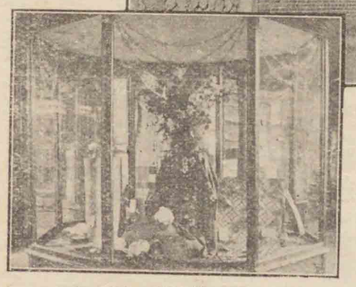
明治四十二年の産額

織物の總價格は內地向一千二百十萬三千百四十二圓、輸出向四百二十四萬八千七百三十八圓、計一千六百三十五萬一千八百八十圓に上り、本縣重要物産中の第一位を占む。

桐生織物 本縣機織の最盛なる地を桐生となす、草創以來幾多の變遷と盛衰とを閲して、明治維新に迄び、其十年京都より模造『ジャカード』機臺を輸して始めて洋式機織の應用を開始し、相踵ぎて『バッタン』『ドービー』等の機械を輸入す、當時獨逸製黑繻子帶地の輸入織物として最需用多かりしに鑑み、是が代用品を生産せむとし、詳に工夫を凝らす所あり、終に絹綿交織の組織を以て一種の綿繻子を創造し、名けて觀光繻子と稱す、其品質獨逸製に比して劣らず、而も價格低廉にして實用に適し、需用頗多かりき。



桐生織物同業組合事務所



桐生織物標本

觀光繻子

明治三十三年佛國製絹織物の標本に考へ、羽二重若干を製して佛國に輸出する所あり、之を羽二重輸出の嚆矢となす、同十五年桐生會社の組織を擴張して買次商をも加盟せしめ、一層共同制裁の法を勵行したる結果、信用益〻加はり、需用亦頓に增加の傾向を示すに至れり、同二十年同業者の計劃に依りて日本織物株式會社の創立せらるゝあり、當時本邦唯一の大會社と稱せらる、如此、桐生織物は當業者の熱心なる經營に依り、著々進歩の域に向ひたりしが、時恰、明治二十六年横濱『サイモン』商會より一種の輸出向絹織物の註文あり、同社は此機逸すべからずとなし、苦心慘憺の末、漸、製織の工を奏し、之を勾配甲斐絹と名けて輸出す、果せる哉、海外需用者の嗜好に投じ、到處好評を以て迎へられ、桐生織物の聲價頓に海外に揚がる、是實に本邦に於ける勾配甲斐絹の嚆矢なりとす。

同業組合組織の嚆矢

生會社と稱し、**地方織物生産上の弊害を矯正する爲**、四種の證紙を貼用し、信用を確實にするの方法

勾配甲斐絹の創匠と桐生織の名聲

桐生織の名は勾配甲斐絹の輸出に因りて端なくも世界的となれり、然るに惜むべし、此時既に早く當業者間に粗製濫造の弊を生じ、將に其聲價を失墜せむとせり、有志者深く之を憂ひ、更に組合準則に則り、同二十六年組合組織を改善して桐生商工組合を設立し、同時に內外用織物檢査法を設けて粗製濫造の弊を防ぎ、專、信用の恢復に力めたるを以て、未〻幾ならずして其實効を擧げたり、爾來組合は其組織を改むること數次なりしが、明治三十三年重要物産同業組合法の發布せらるゝや、即、此規定に基き、規約を變更して桐生物産同業組合と改め、同三十八年更に桐生織物同業組合と改稱して

組合の變遷

以て今日に至る、曩に農商務省は桐生織物の進歩發達を期せむには須く撚絲の改良を急務となすべきを認め、撚絲機械を貸與して本業の發達を促し、縣亦保護の爲、資金を下付し、或は視察費を給し、或は檢査費を補助する等鋭意斯業の發展を期しつゝあり。

組合員數と産額

今茲に明治四十二年末の同業組合員數と織物産額竝其價格とを紹介せむに、組合員は

織物製造業　七九六　内地織物仲買業　一六　輸出織物仲買業　七　織物整練業　二三

撚絲業　五二　計八九四

にして、織物は

輸出向	純絹生織物（平羽二重、紋絓、紡績織、小巾絽、紋羽二重、白朱子、廣緞子、平絽、）	三八、七一一疋	一、一八二、四二七、〇〇〇円
	純絹練織物（甲斐絹、博多九寸、絲織、平絽、）	一四三、九七五	二、二七九、六三九、〇〇〇
	絹綿織物（高配甲斐絹、タンタンビ！ス、廣）	五〇、九六七	四七三、三八二、〇〇〇
	木綿織物（緞子、高配手巾、朱子九寸、瓦斯縮、木綿縮）	四二、八五八	一二八、四四九、〇〇〇
内地向	生織物（縮緬、小巾絽、紗、絓類、絽縮緬、廣巾絽、綾地類、羽二重、）	四七、六七七	七五七、七七四、五四〇
	純絹練織物（御召縮緬、節絲織、糸織、袴地、縞絽、傘地、紅毒織、琥珀廣帶、繻子廣帶、繻珍廣帶、緞子胴裏地、風通織、琥珀九寸、外五種）	三二二、一四八	二、四七二、三六四、七九〇
	絹綿織物（觀光繻子、繻子、絹綿繻珍九寸、同尺三、絹綿繻子九寸、絹綿廣帶、絹綿琥珀九寸、同御召、觀光縮緬大巾、瓦斯模綾地、外六種）	一、六八九、〇四四	三、三〇七、四五三、六二〇
	木綿織物（綿々繻子、續。瓦斯紋織、綿々繻子九寸、雜織）	九六、八二七	七九八、〇〇、一九〇
	輸出合計	二七六、五一一	四、〇六三、八九七、〇〇〇

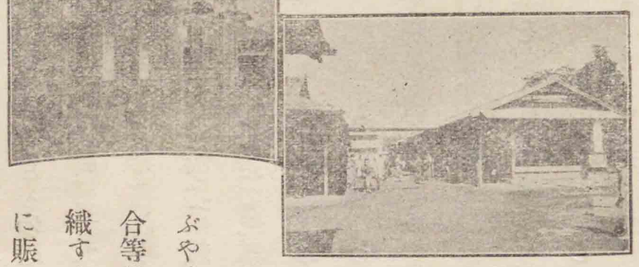
内地向計	二、一五九、六九六	六、六一七、三九三、一四〇
總計	二、四三二、二〇七	一〇、六八一、二九〇、一四〇

の多額を算す、又以て桐生に於ける機織業の盛大なるを察するに足らむ。

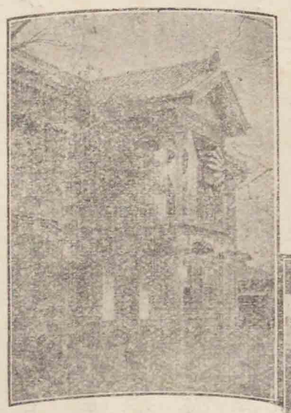
伊勢崎織物　伊勢崎は桐生に亞ぐの産地たり、夙に地質の堅牢にして價格低廉なる伊勢崎縞を産するを以て名あり、蓋、伊勢崎縞は元、文政年間伊勢崎近傍の村民が、農事の閑暇を利用して自製の粗絲を原料とし、其染色の如きも、草根木皮を用ひ、一種の織物を製織したるに創まる、爾來幾多の變遷を經て明治維新に及ぶや、世運の進歩に伴ふて伊勢崎織物亦、其縞柄、染色、配合等に於て幾段の進境に入り、殊に夏衣に適するものをも製織するに至りしかば、其産額俄に增加し、定例の市場爲に大に賑へり。

伊勢崎縞の起源

伊勢崎織物同業組合事務所



同織物市場



伊勢崎織物同業組合の前身は明治十四年始めて設立せられたる伊勢崎太織會社にして、五年の後存

伊勢崎組合の變遷

立期限滿ちたるを以て、組合準則に據りて更に伊勢崎織物同業組合を組織す、同二十六年組合二派に分かれ、新に改良伊勢崎織物組合なるもの起る、同二十七年復之を合併して伊勢崎織物商工組合と稱し、織物の名稱を伊勢崎縞と改む、同二十九年組合の事業として徒弟學校を設立し、同三十三年迄繼續せられ、主として斯業の進歩改良を圖れり、今の組合は即、明治三十二年重要物產同業組合法に基き、組織を改め、後二年を經て更に伊勢崎織物同業組合と改稱したるものとす。

伊勢崎縞の特色

抑、伊勢崎織は伊勢崎縞なる語を以て總稱せられ、同業組合定欵を以て其種類及製造方法を限定して漫に之を變更するを許さず、故に表面上單に一種の織物に過ぎざるの觀あり、然れども實際に於ては多少種類及製造方法の異なるものなきにあらず、殊に近時一般嗜好の變遷に伴ひ、斬新にして而かも實用に適する織物を生產するの要を認め、特殊織物審査規程を設けて、新規織物の案出を保護奬勵したる結果、新に數種の織物を案出せり、由來伊勢崎縞は其の原料の品類として生絲、玉絲、絹紡績絲を併用し、就中、玉絲を使用するもの最多數を占めたりき、然るに明治二十四年始めて絹紡績絲を玉絲に代用したるに、其價格比較的低廉にして、地合平滑、而も耐久力の敢て玉絲に讓らざるより需用者の嗜好に投じ、現今の產額中七八分は絹紡績絲を用うるに至り、特に京坂向に多しとす、按ふに伊勢崎縞が、今日の聲價を博するは至りたるは、其原因、染色の堅牢にして耐久力に富めるにあり、以是組合は斯信用を保持せむが爲、紺色には日本固有の藍玉を限り、其他の色素は『アリザリン』色

組合員數と產額

素若は組合に於て特に公示したる染料を使用するの規定を設けて、極力是が勵行を期せり。

今左に明治四十二年末に於ける織物同業組合の組合員數と織物の產額竝價格とを表示せむ。

組合員數　七八八人（內別）

織物製造業	五九六	買繼商	一二	染色業	一二一
染料商	六	原料絲商	五三		

伊勢崎織

伊勢崎縞	（冬絣、冬縞、冬〆切、夏縞、夏絣、夏〆切、白無地、色無地、夜具地、雜品）	四二二、五八六	三、四四三、七四五、六〇〇圓（一疋平均價格八圓十五錢）
絹綿交織	（冬絣、冬縞、冬〆切、夏縞、夏絣、夏〆切、白無地、色無地、夜具地、雜品）	二六一、二九五	一、四四四、八六五、〇六〇（一疋平均價格五圓五十五錢）
總計		六八三、八八一	四、八八八、六一〇、六六〇

中野絣の特色と其產額

邑樂織物　鶉織と稱する木綿織物、遠く鎌倉時代に產したるを起源とすること、古書に見ゆ、天保、弘化の頃、絲入格子內に點々、絣を入れたる木綿縮織を產出し、安政年間に木綿縮竪散絣の案出あり、之を邑樂絣織物の濫觴とす、明治に入りて木綿紺絣、絹綿交織の茶絣、双子、絹紡績織等幾多の種類を產出し、皆好評を博す、二十八年始めて中野絣織物同業組合を組織して、染色、品質を檢査し、不正品の防遏に力む、於是、需用の途愈〻開け、產額亦著しく增加す、偶〻館林に於て、双子織、京棧、瓦斯双子、縞木綿縮、白木綿縮等の織物、漸次發達するに至りたるを以て、同三十八年、其一旦中野織物同業組合と改稱したるを更に邑樂織物同業組合と改稱し、組合地區を擴大して邑樂郡一圓となせり、爾後染色は益〻强固を期し、地質は堅緻を旨とし、而も價格の低廉を主として本織物の特色を發

揚するに努めつゝあり、今現に機業二百三十八人、染業十四人の組合員を有し、最近一ヶ年の産額は絹綿交織絣、綿黒絣、同二尺縮、著尺綿縮、生絹、生白木綿、絹綿交織、綿毛交織、綿平織、綿白絣、同紺絣、同（尺三、尺四）縮の十二種を合せて六十三萬七百二十六反に上り、其價格九十七萬四千八百十七圓二十六錢に達す、一反の平均價格僅に一圓五十三錢なり、又以て其低廉なるを知るを得べし。

繁昌を極むる生絹太織の市場

高崎織物　高崎の生絹太織は、元祿三年、領主より市場を田町に開くことを許可せられたるを、市場賣買の始とし、天保年間に至り益〻隆盛に趣き、江戸の大丸、三井、白木屋、名古屋の伊藤等より特に代買人を遣はし、又は出店を設くるあり、降りて慶應年間に至りて、市場賣買は殆、全盛を極め高崎に市場定宿を定めて出市賣買をなしたるが如き、以て當時の狀況を察すべきなり、明治九年熊谷縣時代に於て斯業の改良發達を圖るの議あり、各町各一名の買次商人を招集し、粗製濫造の矯正、尺巾の改正、違約者處分等の規約を定めしめ、大に前途の發達を期せり、同十八年群馬縣生絹太織合同組合を設立し、同三十年重要輸出品同業組合法の發布ありてより合同の文字を商業の二字に改め、爾來孜々として斯業の改善を圖り、以て今日の盛況を見るに至れり、現に本市場は高崎市田町に在り、明治三十年以來第二部を多野郡藤岡町に、第三部を北甘樂郡富岡町に、第四部を碓氷郡安中町に置く、現在組合員は染絹太織卸賣業十一人、生絹太織販賣仲買業三十人、生絹太織仲買業百十七人、計百五

組合員と産額

同工場

兩毛整織株式合資會社

十八人にして、明治四十二年の産額は小節絹八萬九千二百五十二疋、玉立絹四萬五千疋、生太織一萬五千疋、絲好絹七萬疋、計二十一萬九千二百五十二疋に上り、價格八十九萬六千六百六圓を算す。

兩毛整織株式合資會社　明治四十年資本金十三萬圓を以て設立せらる、整織、染色の改良を計るを目的とす、設立當時農商務省より計十四點、其見積價格金三萬圓の機械の貸下を得て、事業を經營す、近時輸出織物の産額漸次增加したるを以て、整織、染色の委托品其數量を增加し、隨ひて之より受くる所の料金著しく增加するに至れり、明治四十二年下半期に於ける委托數量左の如し。

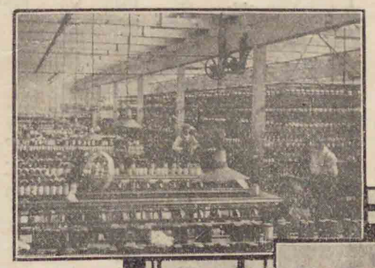
整理委托品

染織	タフタ類	一五、九二六疋
	子類	四、三五〇疋
裏地類		一二、四五五枚
著尺類		四、五四〇疋
帶地類		二〇、三四七本
雜		二九、二九三點

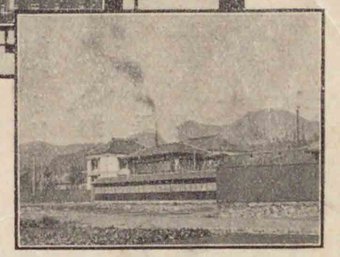
染色委托品	綿絲	五、五〇八玉
	絹絲	二、九〇三貫
	布	七、八八八疋
織上委托品		二、二二三疋

模範工場桐生撚絲株式會社 明治三十五年資本金三萬圓の合資組織として設立せらる、絹織物の原料たる撚絲の改良を圖るを目的とす、設立當時農商務省より撚絲機械十臺（三千九百六十錘）の貸下を受けしが、營業開始以來頓に盛況を示し、從來の設備にては需用に應ずること能はざるを以て、同三十八年第二工場を增築し、撚絲機械十臺（三千六百錘）を增加す、時偶〻洋式撚絲の需用益〻多きを加へ、輸出向『タフタ』、薄琥珀の如き、多大の發達を來せるを以て、再、錘數に不足を告げ、翌年三萬圓を增資して第二期擴張を行ひ、第三工場撚絲機械十臺、（三千六百錘）を備ふ、而も社業の隆盛は未、幾ならずして更に擴張の必要に逼られ、增資をなすこと二回、遂に十五萬圓の資本となし、電動機三十五馬力を增して合計七十馬力となす、此間、從來の組織を變更して模範工場桐生撚絲株式會社と改稱し、設備大に完全す、其桐生織物に資する所、蓋、鮮少ならざるを知るべし、明治

驚くべき撚絲會社の發展



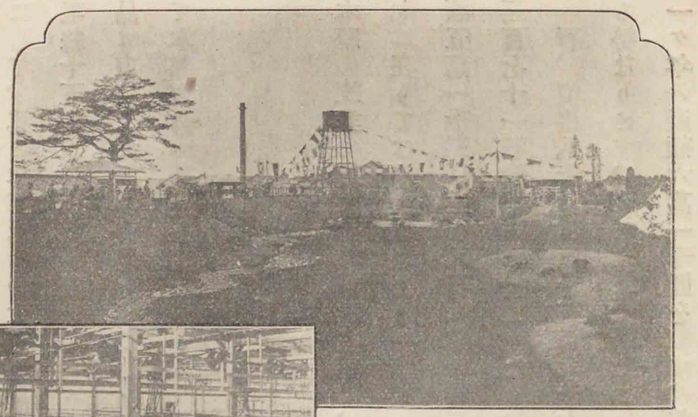
模範絲工場桐會社

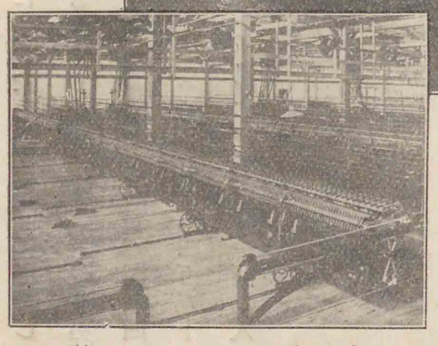


同工場

本邦モスリン製織の先鞭

上毛モスリン株式會社庭園





四十二年後半期に於ける本社の總製產高は四千七百十九貫五百七十八匁にして、之を內別すれば左の如し。

片一本諸撚	三九三四、五五〇貫	三子諸撚	五三四、九九四貫
片二本諸撚	七九、四五四	二本片撚	七二、九四五
木目撚	六一、四九六	壁撚	二〇、七四〇
小波撚	一五、三九九		

上毛モスリン株式會社 初、館林町の有志者相謀り、モスリン製織の目的を以て資本金一萬圓を投じ、明治二十九年六月毛布織合資會社を創立せり、是實に本邦モスリン製織の先驅たり、同三十三年金二萬圓に增資し、同三十五年組織を改めて上毛モスリン株式會社と稱す、爾後資を增すこと二回にして金五萬圓となりたれども、猶木製織機を使用したるに過ぎず、日露戰役後諸工業の發展するに際り、時世の趨勢に鑑み、毛絲紡績の業を始め、併せて汽機織を以て

同工場

我邦屈指の大工場

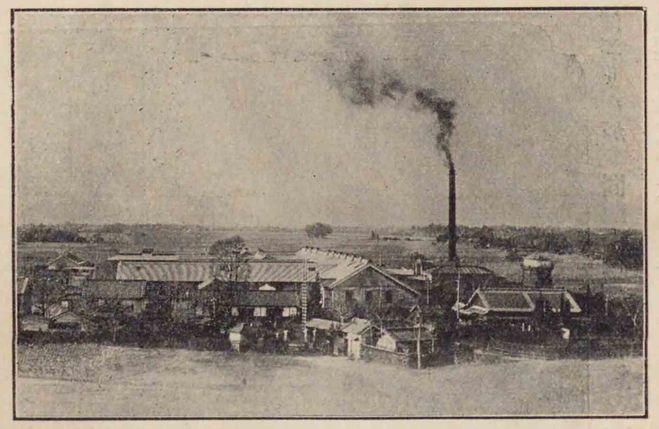
製織するの計劃を立て、劇に資本金を一百萬圓に增加して新に工場を建築す、規模宏壯、汽機、機械其他の設備一として整頓せざるはなく、被傭職工、現在男百四十五人、女千九十六人、計千二百四十一人にして、眞に本邦屈指の大工場たるに愧ぢず、明治四十二年八月より同十二月に至る五ヶ月間の產額毛絲十五萬八千百八十四斤、モスリン百三萬四百五十碼、價格四十三萬七千九百三十六圓餘にして製品は東京、大阪の市場を經て全國に供給し、一面輸入品を防遏すると同時に進むで海外に輸出し、以て本邦貿易の發展を期しつゝあり。

附雜工業

本縣の工業は製絲、機織を主とし、他は微々として振はざるの地位に在り、今其梗概を述べむに、酒類に在りては、酒造組合十一、組合員二百十五人あり、別に聯合會を組織す、最近一ヶ年の產額は清酒五萬一千三百三十八石餘（製造場二百）、濁酒三百三十一石餘（製造場十）、味淋四十四石餘（製造場五）燒酎三百七十一石餘（製造場六十一）なり、醬油の釀造亦甚多からず、最近一ヶ年の造石高四萬二千二百六十一石、價格八十六萬四千五百六十六圓に過ぎず、主として供給を千葉、茨城二縣に仰ぐは亦已むを得ざる勢なりとす、漆器は從來微々として見るべきものなかりしが、近時較ゝ發達の傾向を表し來り、最近一ヶ年の產額六萬一千圓を算す、前途尙發達の見込あり、鑄鐵に就きては業者僅に二、三を算ふるに

創業最古の絹絲紡績新町工場

絹絲紡績株式會社新町工場

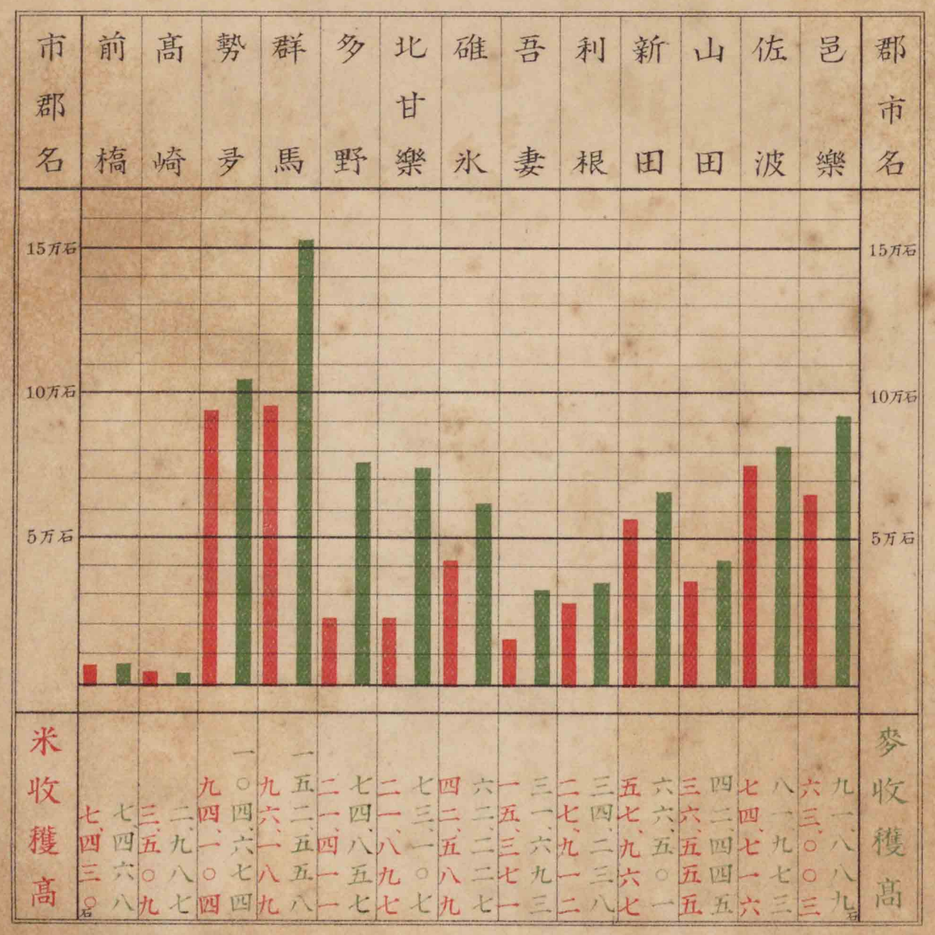


過ぎず、唯高崎市歌川町小島鐵工所が文政六年の創業に係り、關東屈指の鑄鐵工場として知らるゝあるのみ、同所最近一ヶ年の產額は十三萬五千貫、價格八萬一千圓にして、個人の經營に屬すと雖、前途益ゝ有望の地位に在るを疑はず。

茲に雜工業中、特色を有する二ヶの事業の紹介すべきものあり、其一は絹絲紡績にして、他は製粉業なりとす。

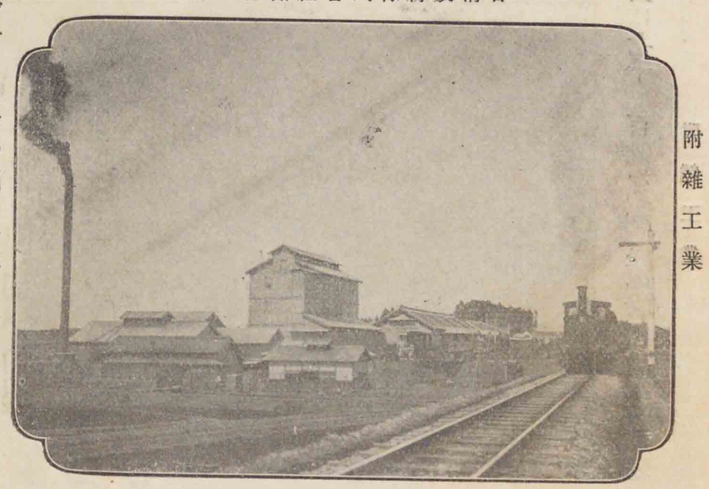
近時織物業の發達に伴ひ、絹絲紡績の需用著しく增加し、其結果各所に斯業の開始を見ると雖、其創業の最古きものを問はば、先つ指を絹絲紡績株式會社新町工場に屈せざるべからず、同工場は明治九年政府の建設する所、業を同十年に始む、同二十年三井家の有に移りしが、同三十六年再轉して同業會社合同の手に歸し、絹絲紡績株式會社と改稱し、工場を各所に置く、爾來擴張を重ねて資本金六百八十七萬五千圓の一大會社となる、政府操業の當時には僅に二千百錘に過ぎざりしを、今日にありては實に七千二百錘を算し、原料には蠶絲屑絲、出殼繭、熨斗絲、生皮苧、揚繭、生絲屑等を用ひ、精練

明治四拾二年　高穫收麥及米



附雜工業

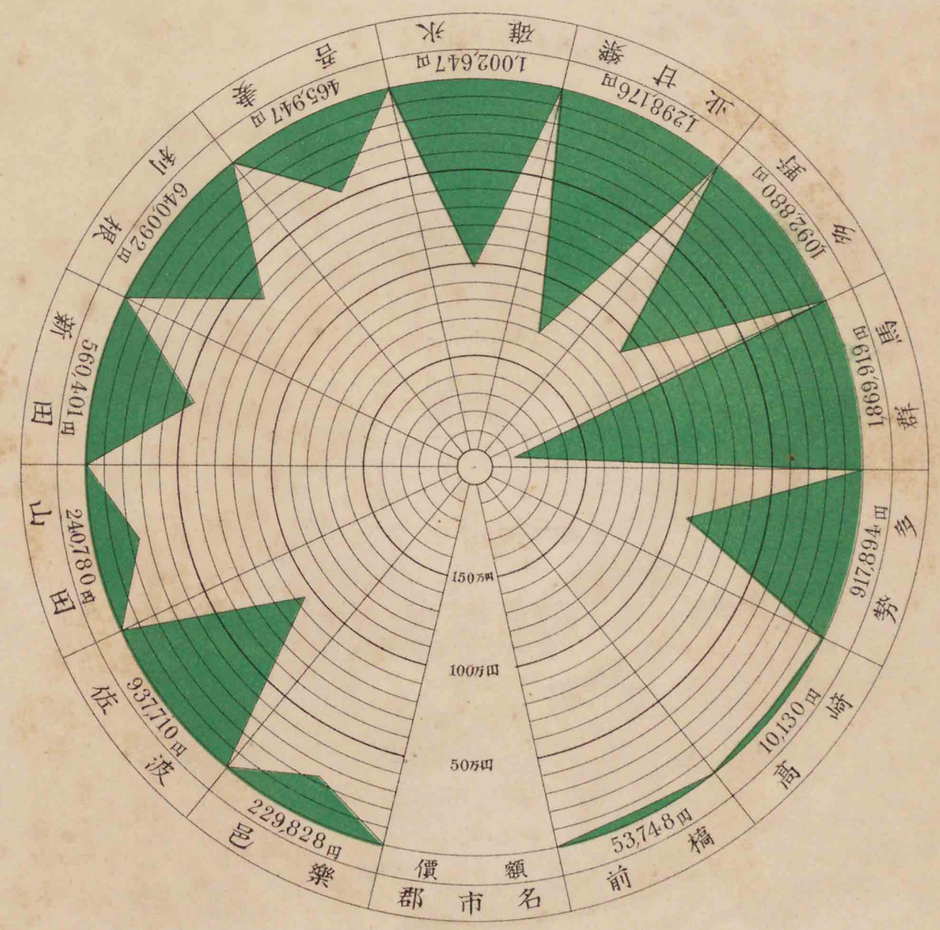
日清製粉株式會社館林工場



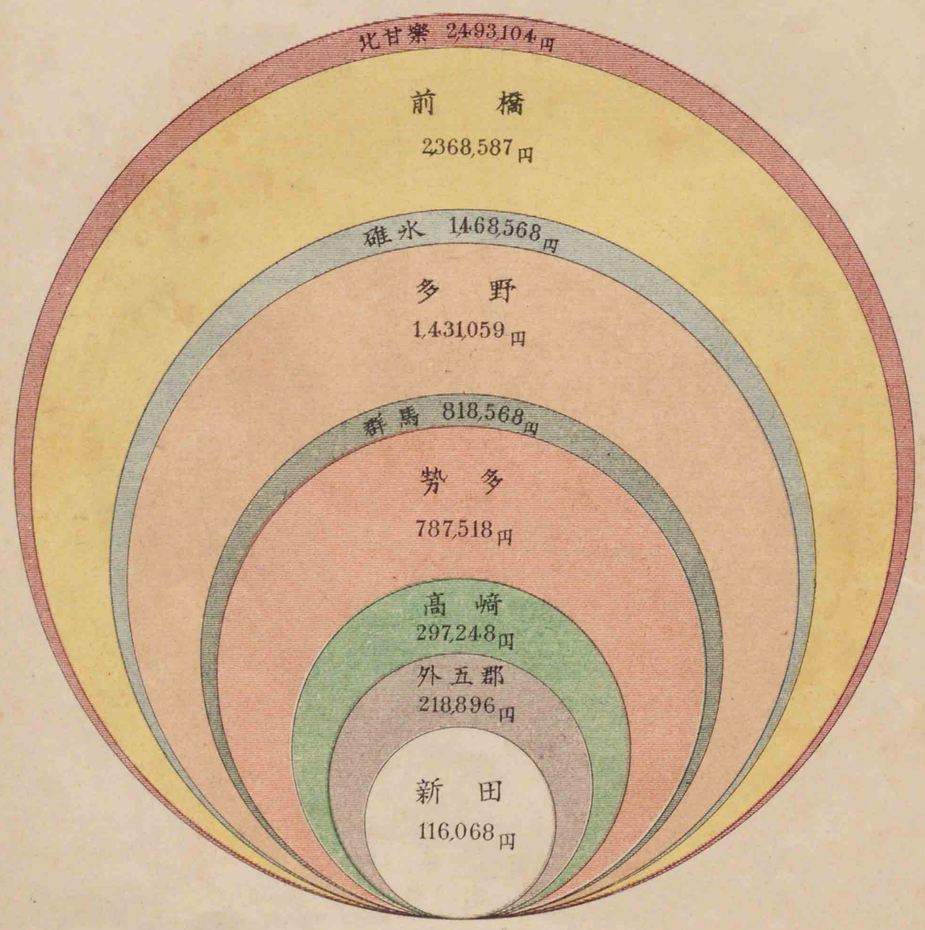
製綿、前紡、精紡、瓦斯燒、染色、精選の各部工程を經て製造し、生絲代用品として、生絲の消費量を減じ、外國輸出をして多からしめ、以て國富の充實を圖るの一助となし、貢獻する所尠からず、最近一ヶ年の生產額は絹紡績絲十萬三千貫、價格四百八萬圓、紬絲五萬三千貫、價格二十七萬五千圓にして、中、新町工場及六供分工場の生產額は絹紡績絲二萬一千貫、價格八十四萬圓、紬絲一萬七千貫、價格八萬五千圓なりとす。

本縣に於ける製粉業は日清製粉株式會社館林工場の主として營む所たり、明治三十三年十月資本金六萬圓を以て創立せられ、館林製粉株式會社と稱し、翌年五月より作業を開始せり、當時一晝夜の製造力僅に原料小麥百石に過ぎざりしが、同四十年十一月資を六十萬圓に增して一晝夜の製造力を五百石に擴張し、翌年十一月日清製粉株式會社と合併して社名を現稱に改め、館林町及横濱市神奈川に分工場を置き、益〻事業を發展するの機運に向へり、兩工場の製造力を合算するときは一晝夜優に一千石即、四千袋の小麥粉

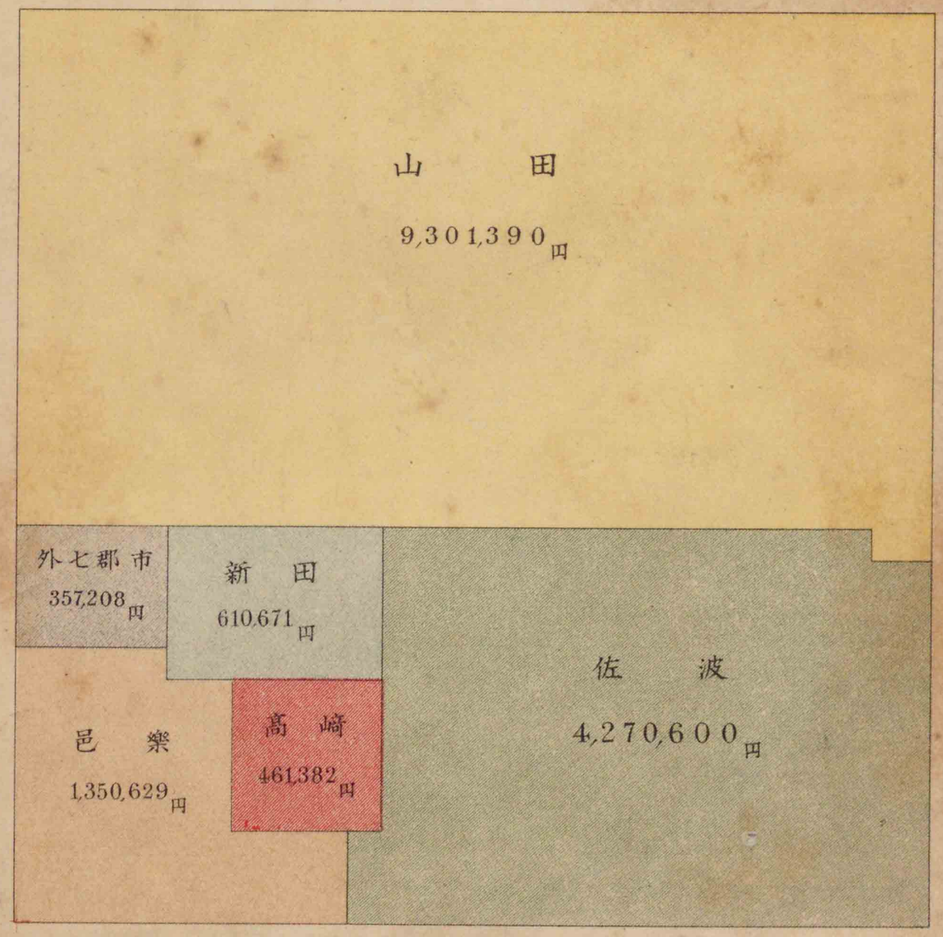
明治四拾二年 收繭價額



明治四拾二年 蚕絲類産出價額



明治四拾二年　織物産出價額



を製造することを得るに至れり、明治四十二年度館林工場に於ける製造高は左の如し。

麥粉（一袋小麥粉五貫入）	四三〇、九六袋	一、〇三六、二三〇円
麩（副産物一俵九貫入）	一一〇、一七三俵	一二六、六九九

附産業組合

本縣に於ける産業組合は其數四百四の多きに達し、尚益〻增加せむとするの傾向あり、上州南三社として知らるゝ碓氷社、甘樂社、下仁田社亦明治四十三年其組織を變更して、有限責任信用販賣組合となれり、産業組合法發布以來、數次農商務省主任者を聘し、又は縣吏を派遣して講話會を開く等、專、是が奬勵に努む、加之、一面既設組合をして其効果を全からしむるには監督指導を要するもの甚多きを認め、明治四十二度より縣費支辨の巡回敎師を設置し、直接提撕誘導の任に當らしむることゝせり今組合を各種別に示せば左の如し。

信用	四〇	購買	四二	販賣	四
購買生産販賣	四	信用購買	三二	生産	八
信用購買生産販賣	七	信用購買生産	三	信用販賣	二二七
生産販賣	一	販賣生産	一	計	四〇四

旌表されたる信用組合

販賣購買	一五
信用購買販賣	一二
信用生産販賣	八

産業組合中成績優良なる爲め、他の模範として明治四十二年大日本産業組合より表彰を受けたる

附産業組合

ものを野中信用組合となす、勢多郡木瀬村大字野中に在り、同村は由來五十餘戸に過ぎざる一小部落にして比較的耕地多く、單純なる農村なりしが、逐年財産に懸隔を生じ、土地の兼併次第に行はれ、加ふるに奢侈の風、漸、生じて、排農の弊に浸染せむとす、村内有志者清水忠次郎、清水及衛等深く之を憂ひ、救濟の策、唯一に協同一致して、勤勉力行の美風を奬むるにありとし、明治二十七年夜業奬勵の方法として當時の農會員二十七名と共同積繩組合なるものを設立し、五ヶ年間實行する所あり、同三十二年之を廢し、蓄積金の大部分を割戻し、其殘額より生ずる利益を以て農具を購入して順次組合員に分配し、今尚繼續せり、同年農産共同貯蓄信用組合を設立し、貯蓄の奬勵と農事の改良とを計る、産業組合法實施せらるゝや、同三十五年從來の蓄積金額を出資拂込に充て、以て本組合を設置したり、事業は資金の貸付と貯金の奬勵とにあるも、裏面に於ては農作物の改良より、進むで農村風紀の改善を企て、著々良好の成績を收め、已に逐行したるもの、若は現に實行しつゝあるものは共同貯蓄、肥料の共同購入、耕地整理、殖林事業等なり。

産業組合中央會群馬支會は明治三十八年の設立に係り、年々縣費の補助を得て各種の事業を經營し、所屬組合の指導奬勵に當り、漸を追ふて發展の域に向ひつゝあり。

商業

概説—銀行及會社—輸入と輸出—市場—商業會議所

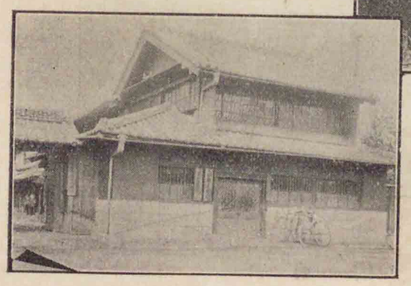
概説 本縣の商業戸數は二萬七千五百七十九戸にして、之を總戸數に比するときは優に一割八分餘を占む、商業地として主なるものは前橋市、高崎市、桐生町、伊勢崎町とす、前橋市は毎月四、九の日を市日と定め、繭絲の取引を主とし、高崎市は三、八の日を市日として地方物産の生絹、太織を始め一般の商取引をなすを例とす、桐生町は三、八の日、伊勢崎町は一、六の日を市日とし有名なる織物の取引を主なるものとし、販路地たる東京、名古屋、京都、大阪各地の商人來りて是が買入をなすを例とす、其他各郡に於ても樞要の地に古來定例の市場を開くの外、一般商品の取引行はるゝも、上記四ヶ所の商況に比すれば繁盛なりと謂ふを得ず。

前橋市街

高崎市街

會社及銀行　全管内に於ける會社及銀行の數は二百四十一にして、中商事會社は二百を以て算し、銀行は群馬縣農工銀行を除きて其數四十あり、總資本金六百六十九萬五千圓にして、明治四十二年末に於ける融通高は金一千二百四十萬五千四百五十圓の巨額に達せり、而も上記銀行は大小新舊各〻差あり、資本金百萬圓、同群馬商業銀行の百萬圓よりすれば古きは明治十一年に起り、新しきは明治四十三年に設立られたるものあり、小銀行の勃興せるはよりすれば大は株式會社四十銀行の百二十萬圓、

株式會社群馬商業銀行



株式會社四十銀行

群馬縣農工銀行

日清戰役後明治三十二、三年の頃に在り、當時各種の事業勃興の結果、經濟界の攪亂せられたることありしが、本縣の當業者は幸に大なる打擊を蒙るに至らざりし、明治三十四年よりは銀行資本金額に制限を附せられたる爲、泛々たる小銀行を創立すること能はざるに至りしを以て、濫設の弊を見ず、既設銀行は何れも努めて確實を旨とし業務に精勵するの傾向あるは喜ぶべし。

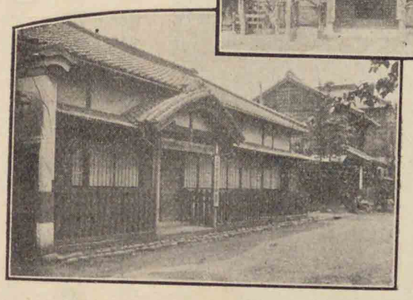
輸入と輸出　生絲と織物とは、本縣に於ける二大輸出品として總輸出額の三分の二强を占め、其他のものに在りては、產額の多きは繭、玉絲、熨斗絲、撚絲、材木、薪、木炭、桑苗、蒟蒻粉等とし別に農林產物も亦輸出品の一なり、販路は生絲に在りては織物原料に供するもの〻外は横濱商人の手を經て主に米國に輸出せられ、織物は東京及關西各地を主なるものとす、殊に桐生の產に係る各種羽二重、『タフタ』、紋絓、繻子、薄琥珀、紋緞子綾織の類は印度、米國其他の外國へ輸出せらるゝもの甚多し、輸入品の主なるものは米、石油、絲類酒類、砂糖、魚類、肥料等とし年を逐ふて次第に增進の一方に傾きつゝあるもの〻如し。

市場　本縣各郡市樞要地には概、市場の設あり、主なるもの左の如し。

商業

名稱	所在地	賣買品名	名稱	所在地	賣買品名
青物市場	前橋市堀川町	青物	藤岡市場	多野郡藤岡町	生絹太織
魚市場	前橋市横山町	魚類	桐生織物市場	山田郡桐生新町	內地向織物
青物市場	前橋市石川町	青物	桐生織物市場	山田郡安樂土村	內地向織物
生絹太織市場	高崎市田町	生絹太織	大間々繭絲市場	山田郡大間々町	繭絲
富岡市場	北甘樂郡富岡町	生絹太織	伊勢崎織物市場	佐波郡伊勢崎町	織物
			境市場	佐波郡境町	生絲
			伊勢崎青物市場	佐波郡伊勢崎町	青物
			沼田繭市場	利根郡沼田町	繭生絲
			安中市場	碓氷郡安中町	繭絲生絹太織
			牛馬驛市	吾妻郡原町	產駒
			小泉繭絲市場	邑樂郡小泉町	繭絲

前橋商業會議所



高崎商業會議所

商業會議所 前橋、高崎、兩市に在り、前橋商業會議所は明治三十六年の創立にして會員數四百十人、會頭、副會頭各一名、常議員七名、議員三十名、高崎商業會議所も亦同年の創立なり、會員數三百四十二人、會頭、副會頭各一名、常務委員五名、議員三十名を有す、共に各種の調査研究を怠らず、意見を當局に建議し、營業者を警告する等商業進捗に資する所尠からず。

教育

概說——小學教育——中等教育——實業教育——各種學校及幼稚園——社會教育——感化救濟事業

概說 明治五年學制の頒布ありて、小學校の各地に設けらるゝや、此に漸、普通教育の基を開く、爾來教育事業は駸々として其歩武を進め、今や縣下を通じて、各種教育の機關、殆、備はり、加之各郡市に教育會の設あり、其他青年團體、夜學會、子守教育、育英事業、感化救濟事業等の施設經營ありて、其成績の見るべきもの尠からず。

小學教育 學齡童兒總數は男八萬六千七百六十五人、女八萬八百五十人、合計十六萬七千六百十五人にして、中、就學兒童男八萬五千四百二十六人、女七萬七千六百七人、合計十六萬三千三十三人なり、即、學齡兒童百人に對する就學歩合は男九八、四、女九六、男女平均九七、二に相當するを見る。

市町村立小學校は尋常八十一、尋常高等二百十六、高等八、分教場七十二にして、之を義務教育年限延長實施前の明治四十年度に比すれば尋常九十、高等二十二を減じ、尋常高等三十四、分教場四十

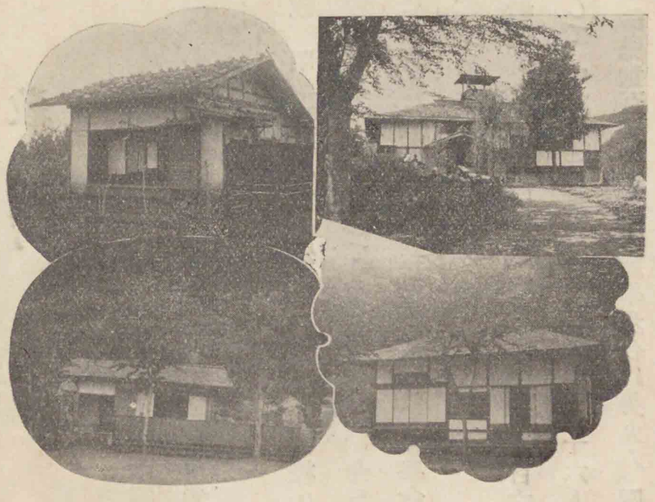
小學校整理

入を增したり、是二に小學校令改正の結果、其實施を圓滑ならしめむが爲、學校整理を行ひたるに歸因す、在籍兒童數は尋常十一萬七千六百九十一人、高等一萬千六百七十八人、計十二萬九千三百六十九人にして、在籍兒童數百人に對する出席步合は尋常九一、二、高等九四、五、尋常高等平均九二、八なり、又學級數は尋常二千二百十七、高等三百五十四にして、之を義務教育年限延長實施前に比すれば、尋常に於て六百四十五を增し、高等に於て三百三十一を減じたるも、結局百六十一を增加したるを見る。

設備の整頓

校地、校舍の設備は一般に良好にして、屋内體操場、御眞影奉藏庫、學校園、農業試作場、學用品共同購買品取扱室、兒童圖書館及記念文庫、作法室、整容室等漸次增加完成に近づき、機械、器具、標本、模型の如き年々相當に設備せらる、特に近時教員の

利根郡利南尋常高等小學校教員住宅



教員住宅

手に製せられし教授用器具、標本等の增加せるもの少からず。

教員優遇の途を講ずると同時に、社會教育發展上教員住宅の建設を奬勵する所ありしが、教員住宅補助規程の發布に伴ひ、縣は明治四十一年度より教員住宅建設費、教員住宅料及教員住宅を供給する賃借料に二分の一を補助する規程を定め、爾來支出したる補助金額三萬五千五百圓にして更に一層奬勵に努めつゝあり。

實業教科加設

小學教育をして益々實業的趣味を多からしめむが爲、實業教科目加設に努めたるも、其成績未、十分ならずと雖、農業科目を加設したるものにありては特殊の施設少からず、就中兒童をして職員指導の下に授業時間を妨げざる範圍に於て、町村農會と聯絡して苗代田及桑園の害蟲驅除、蜈卵採集又は麥奴拔取を行はしめ、農會より贈らるゝ賞與若は報酬を兒童貯金となしたるが如きは、一擧兩得の効果を收むるものと謂ふべし。

基本財産の蓄積

明治三十九年小學校基本財産蓄積竝管理規程準則を示して奬勵する所あり、爾來各町村に於て是が條例を設定し、或は農産物品評會を開催して其出品物を寄附せしむるものあり、或は卒業兒童をして報恩金を寄附せしむるものあり、或は仔畜を産したるとき其所有者をして若干金を寄附せしめ、或は成長の容易なる桐苗を分配して栽植せしめ、或は冠婚葬祭の費用を節して指定の寄附をなさしむるもの等枚擧に遑あらず、今や各學校の基本財産より生ずる一ヶ年の

樹栽及記念林

收利金八千三百七十三圓二十四錢四厘を以て算するに至れり、尙、基本財産蓄積の一方法として樹栽をなすもの年と共に增加し、殊に明治三十七八年戰役中、市町村林業補助規程を設けて奬勵したる結果、記念林として著しく增加を來たし、同三十八年以後縣費補助を受けて經營したるもの造林面積四十五萬八千六百九十六坪、樹栽數七十一萬七千二十一本に達せり、又近時著しく增加したるは學校園の施設にして、教材園、觀賞園、菓樹園、自由園等の名を附し、若は科名に依る分類を取りたるものあり、傍に農業試作地を附設したるもの多し、其播種、植付、手入の如きは一に職員、兒童の共同に成り、主として實業思想の養成竝教授上の便益に資するは勿論、訓育上實踐指導の場に充てらる、明治四十三年三月現在に於ける市町村立小學校三百五校中、學校園の設置あるは百六十二校にして一萬六千五百七十一坪の面積を有し、農業試作地を設置せるもの六十九校にして面積一萬五千四百九十九坪を有せり。

學校園

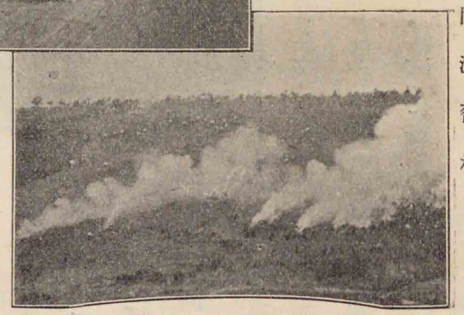
伊勢崎尋常高等小學校學校園

中等教育 師範學校二、中學校四、同分校四、高等女學校三、甲種實業學校六、乙種實業學校一あり、左に其梗概を述べむ、

師範學校

師範學校は男子師範學校、女子師範學校各〻一あり、共に前橋市にあり、前者は明治六年小學校教員傳習所を設置したるに始まり、後、暢發學校と稱し、更に群馬縣師範學校と改む、訓盲所を置きて盲生に教育を施し、實業補習學校の附設ありて、夜間農工商の實業科目を教授す、別に六學年單級研究の爲、吾妻郡澤田村大字四萬に代用附屬小學校を置く、明治十一年 聖上御北巡の際臨御の光榮を辱うしたるのみならず、御下賜金の恩典に浴す、後者は明治三十五年の創立にして、代用附屬幼稚園を設け、保姆を派遣して幼兒保育の方法を研究せしむ。

群馬縣師範學校武練習術



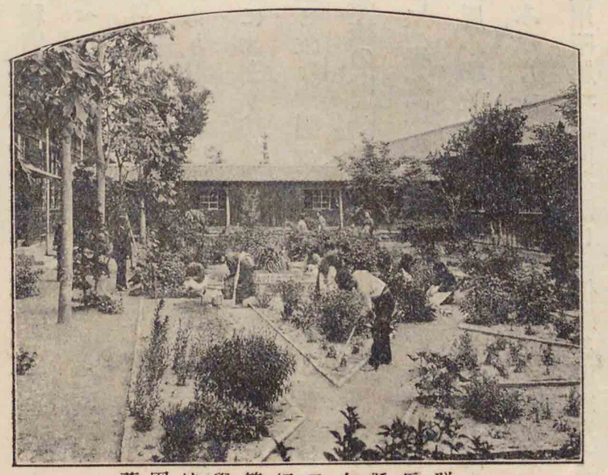
同演習林

	本科第一部	同第二部	講習科	附屬小學校	明治四十三年度豫算
師範學校	二四八人	三九人	八〇人	五二〇人	四六、五八五、八五〇円
女子師範學校	一二〇	四〇	一八	三三三	二三、八五三、〇六〇

中學校

群馬縣立前橋中學校

中學校は何れも縣立にして本校四、分校四あり、就中最古き歴史を有するものを前橋中學校とす、明治十年第十七番利根川中學校を前橋に置きしを創始とし、幾多の沿革を經て今日に及べり、利根分校之に屬し、明治三十年創立せらる、高崎中學校は同年前橋中學校の分校として設立せられ、群馬分校と稱し、同三十三年現稱に改む、同三十五年東宮殿下の本縣に行啓あらせらるゝや、鶴駕を枉げさせられ、特に恩賜金を拜戴せる光榮を有す、明治三十年丽橋中學校碓氷分校として設立せられたる今の安中分校之に屬す、富岡中學校、同藤岡分校、太田中學校は共に明治三十年前橋中學校の分校として設



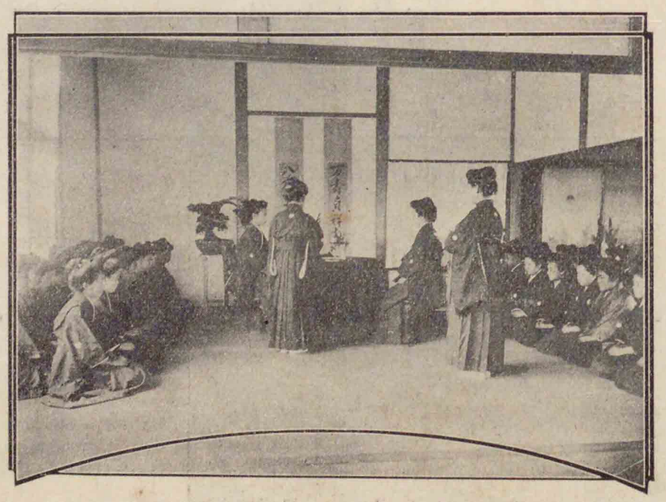
群馬縣女子師範學校園藝

せられたるものに係る、而して太田中學校邑樂分校は明治三十四年始めて設立せられたるものとす。

校名	學級數	生徒數	
前橋中學校	一五	五三四人	明治四十三年度豫算 二〇、八五三、七八〇円
同利根分校	三	九六	六、四一六、六四〇
高崎中學校	一一	四一六	一五、九六一、四九〇
同安中分校	三	一二七	六、二七四、九六〇
富岡中學校	一〇	三一四	一五、一四五、〇〇〇
同藤岡分校	三	一三三	六、二六九、一六〇
太田中學校	一〇	四一一	一五、二六三、〇五〇
同邑樂分校	三	一一六	五、九六五、四二〇

高等女學校

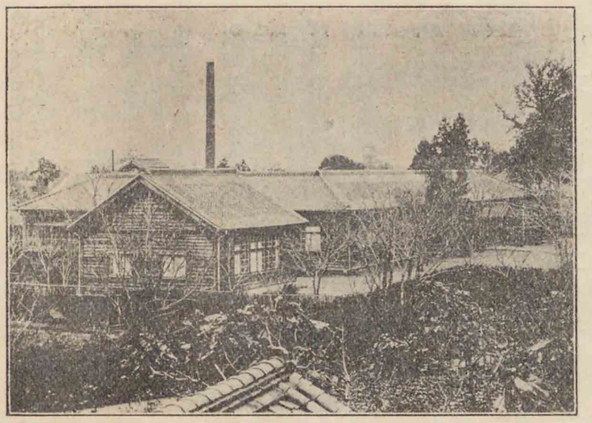
高等女學校には縣立、郡立、市立各〻一校あり、縣立高等女學校は明治三十三年の創立に係り、同三十四年聖上將に群馬縣に行幸あらせられむとし給ふや、豫、本校を行在所に定めさせらる、偶〻其前日を以て御見合となりしの故を以て、特に金五十圓を下賜せらる、縣は生徒奬勵資金として之を蓄積す、山田郡立高等女學校は明治四十一年に、前橋市立高等女學校は近く明治四十三年の創立に係る。



群馬縣立高等女學校作法實習

修業年限	學級數	生徒數	明治四十三年度豫算
群馬縣立高等女學校	四ヶ年	八 三四四人	一一、九一五、七二〇円
山田郡立高等女學校	四ヶ年		九五〇、三三〇
前橋市立高等女學校	四ヶ年	二	四、九七三、〇五〇

郡馬縣立工業學校



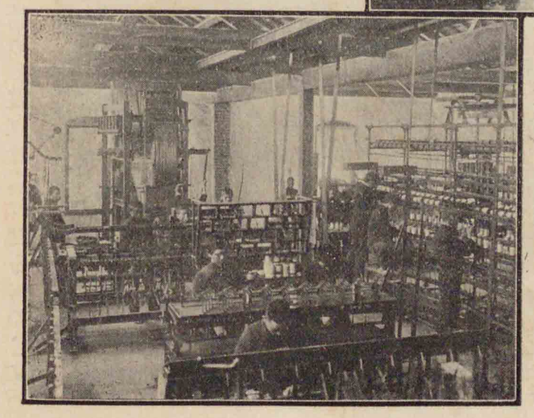
織物學校

實業教育

實業教育を施す學校に縣立三、郡立一、市立一、私立二あり、即、左の如し。

群馬縣立織物學校は明治二十九

群馬縣立織物學校染色實習



同上撚絲繰返實習

年山田郡桐生町立徒弟學校の設立せられしを草創とす、同三十三年縣立となり、群馬縣立桐生織物學校と改め、同三十八年縣立伊勢崎染織學校を合併して現稱に改む、修業年限を豫科一ヶ年、本科三ヶ年とし、別科及研究科を置く、現在學級は兩科を通じて四、生徒は本科百十六、別科三、創立以來の卒業生は本科二百二十八人、別科二十三人なり、明治三十五年　東宮殿下本校に行啓あらせられ、金貳拾五圓を賜はる、明治四十三年度より本校に圖案調製所を置く。

群馬縣立工業學校は元、縣立伊勢崎染織學校及縣立工業試驗場の後身として、近く明治四十三年の開校に係る、其先は明治二十九年伊勢崎織物同業組合立伊勢崎織物學校に創まる、修業年限四ヶ年にして、他に別科、研究生、講習生を置くの豫定なり、現在學級二、生徒五十五、曾て卒業生を出だしたると本科九十四人、別科二十三人、專攻科四人なりとす。

群馬縣立農業學校は明治三十二年吾妻郡立甲種程度を以

群馬縣立農業學校馬耕實習

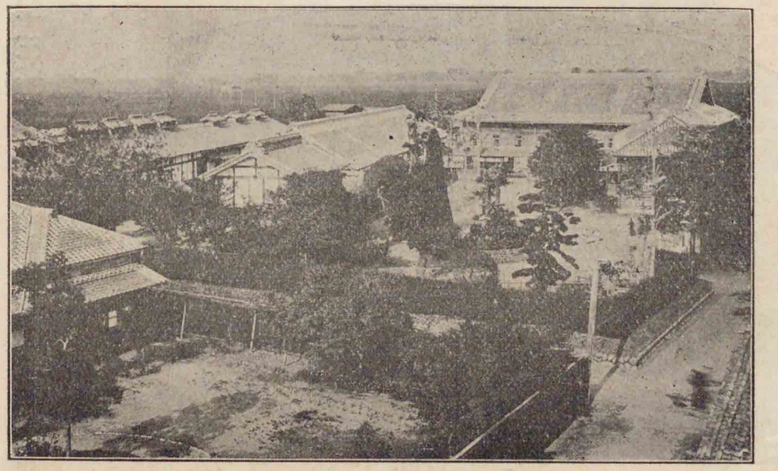
て創立せられ、同三十四年現稱に改む、修業年限三ヶ年にして現在學級二、生徒百八、卒業生二百十人を出だせり。

勢多郡立農林學校は明治四十一年の開校にして甲種程度なり、修業年限三ヶ年にして現在學級二、生徒七十を有す。

群馬縣高崎市立甲種商業學校は明治四十一年の開校にして、本科、豫科に分ち、修業年限は本科三ヶ年、豫科一ヶ年とす、現在學級は兩科を通じて三、生徒百十七人なり。

私立甲種高山社蠶業學校は明治三十四年養蠶改良高山社組合の設立する所にして、修業年限三ヶ年とし、外に別科を設く、現在學級本科三、生徒百二十五、別科三、生徒男千百十九、女百十三なり、創立以來本科二百三人、別科男千二百十九人、女百二十二人の卒業生を出だしたり。

私立童兒社蠶業學校は明治四十二年養蠶改良童兒社組合の設立する所にして、乙種程度なり、修業年限二ヶ年とし、外に別科を置く、現在學級一、生徒十五人なり。



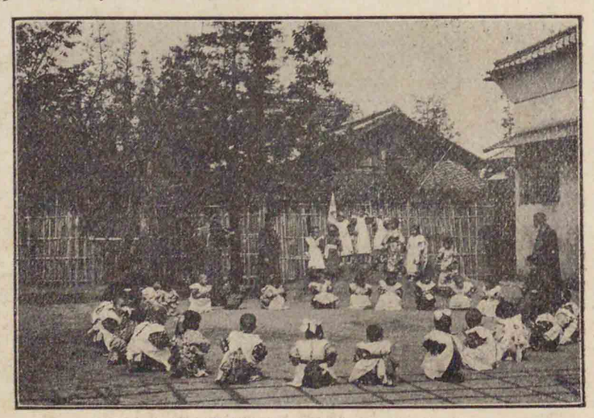
私立甲種高山社蠶業學校

學校名	明治四十三年度豫算	校長	教員	書記
群馬縣立織物學校	一七、六八八、二六〇円 内三、三〇〇、〇〇〇（國庫補助）	一	一〇	二
群馬縣立工業學校	一三、七〇九、〇六〇	一	一一	二
群馬縣立農業學校	一二、七三四、六四〇 内一、六〇〇、〇〇〇（國庫補助）	一	一〇	二
勢多郡立農林學校	八、一〇五、三一〇 内五〇〇、〇〇〇（國庫補助）	一	六	二
高崎市立甲種商業學校	一、二〇〇、〇〇〇 内八、三五一、七六〇（縣費補助）	一	七	一
私立甲種高山社蠶業學校	一一、〇〇〇、〇〇〇 内一、〇五八、一三〇（國庫補助）	一	一〇	二
私立兒童社蠶業學校	二、二〇〇、〇〇〇 内三、三二一、七〇〇（縣費補助）	一	六	一

實業補習學校

以上の外實業補習學校は縣立一、町村立百二、私立三、通計百六あり、之を類別すれば農業二十、農業裁縫五十四、裁縫二十六、農業商業二、商業二、染織裁縫一、農工商一なり、教授季節は冬季若は春季農閑の時季を選ぶもの多く、一ヶ年を通じて開設するものは僅に二校のみ、生徒總數四千四百十二、其經費總額金二萬千五百萬圓にして、縣は奬勵の爲、金千八百圓の補助費を支出す。

各種學校及幼稚園　各種學校は公立一、私立二十七、合計二十八にして、中學校に類するもの五、高等女學校に類するもの一、小學校に類するもの四、其他のもの十八なり、就中前橋市岩神町にあり



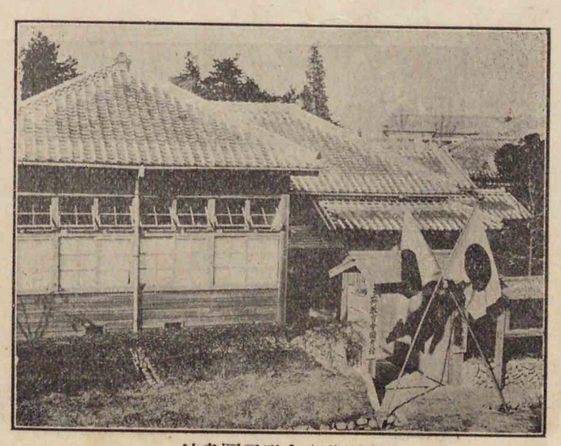
高崎幼稚園兒童遊戯狀況

幼稚園

て高等女學校に類する私立共愛女學校及同市田中町にありて女子技藝教育を主とする私立明治裁縫學校は設備稍〻整頓して、成績の見るべきもの尠からず、幼稚園は公立四、私立四、合計八にして、保姆十八、幼兒男二百八十八、女二百六十三、計五百五十一なり、私立前橋幼稚園は明治四十二年度より女子師範學校附屬小學校幼稚園に代用せらる。

圖書館

社會教育　圖書館は上野教育會附屬圖書館（前橋市曲輪町）碓氷教育會圖書館（碓氷郡安中町）高崎戰捷記念圖書館（高崎市宮元町）神川凱旋記念圖書館（多野郡神川村）の四あり、其他青年會、同窓會等にして圖書を蒐集したるもの少からず、共に社會教育の一機關として地方の風化に資する所多し、明治三十七八年戰役記念として軍人の勳功、後援者の事蹟等を永遠に傳へむが爲、記念文庫の施設をなしたるもの多し、就中群馬郡京ヶ島及同郡箕輪小學校の記念文庫の如きは最、完備せるものなりとす。



上野教育會附屬圖書館

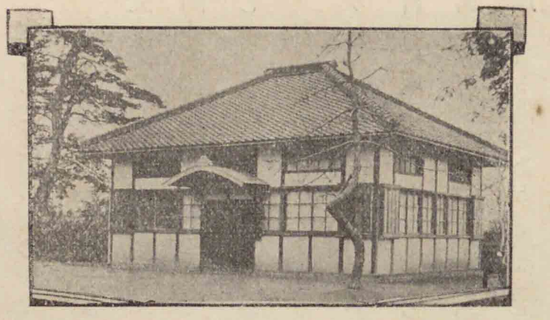
子守教育

縣下に於て子守教育を施すもの〻中、公然認可を經て設立したるものは高崎市にゐる私立樹德子守學校及利根郡沼田町立沼田子守教育所の二とす、前者は百二十餘名の卒業者を出だし、其成績大に見るべきものあり、明治四十二年內務大臣より選奬せられ、賞として金二百圓を受く、現に基金三百圓を有す、後者は本縣子守教育の嚆矢にして、明治二十九年の創立に係り、幾多の卒業生を出だし、貢獻する所少からず、明治四十三年文部大臣より選奬せられ、金五十圓を授與せらる。

青年會

縣は青年團體組織に關し、奬勵を加へたる結果、有益なる團體漸次組織せられ、明治四十二年末に於て其數三百十二、會員數一萬九千七十五人を算し、成績の見るべきもの少からず、事業は大同小異あれども、要するに學術の研究、講話、農產物品評會の開催、農事の請負、里道の修理等、勤勉貯蓄、風紀改善の趣旨に出でざるなく、社會改良上有効のものたり、其成績優良の廉を以て文部大臣より旌表せられたるもの

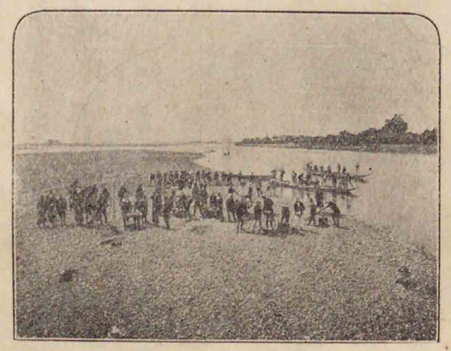
京ヶ島記念文庫



夜學會

を邑樂郡永樂村赤岩青年會及新田郡世良田村平塚青年會の二とす、其他知事より表彰を受けたるもの十あり。

近時夜學會の開設せらるゝもの漸次其數を增加し、最近の調査に依れば會場數三百十九、會員數一



平塚青年會の作業狀況

萬千六十一の多數を算す、是が教授に任ずる者は小學校教員を主とし、其他は町村吏員及有志者とす、經費總額金五千八十五圓多くは青年團體員の勞力によりて收得したるものなりとす。

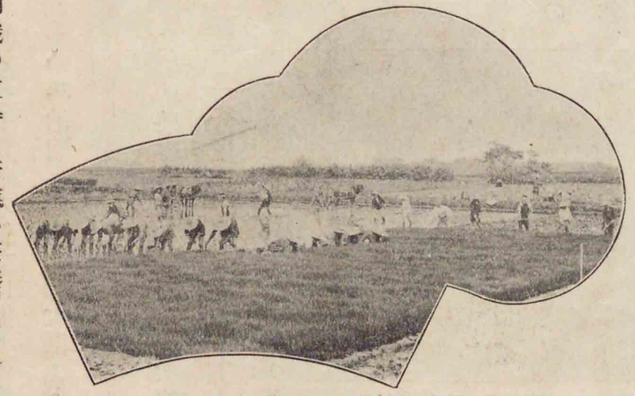
壯丁學力調査

縣は教育の効果如何を檢せむが爲、此數年來徴兵檢査に際し、壯丁の學力試驗を行ひ來れるに、其成績年を逐ふて良好に赴けるは主として普通教育の普及と前述夜學會開設の賚に歸すべし。

教育會

教育會は、二市、十一郡各〻一を有す、別に縣下を通じたる私立上野教育會あり、社團法人にして縣教育の普及上進を圖るを目的とす、現在會員千六百六十餘、力を教育の改善進歩に努め、貢獻したる所尠なからず。

其他の諸會としては戊申會あり、明治四十二年三月の創立に係り、簡易道德の實踐を旨とし、心得書十ヶ條より成る、現在知事を會長に戴き、各郡市に支部を設けて、專、縣民の教化に努め、會員一萬餘を有す、婦人會は青年會と相併びて各地に興り何れも地方に適切なる施設あり、或は處女會と名け、或は母の會と稱し、實用的知識の收得と婦德の修養とに努む、老人會は長幼の序を正し、高齢者を尊敬し、慰安するを本旨とす、父の會、少年會、報德會、同窓會等亦各



赤岩青年會の作業狀況

境野養老會

所に開かれ、逐次健全なる發達を遂ぐるを見る。

育英事業としては明治三十五年に於て、縣は清國企業者養成の目的を以て始めて縣費を支出し、清國留學生を上海に派遣す、爾後十八名の留學生を出だし、卒業したる者十二名は既に各〻日清間の商業に從事しつゝあり、將來有望と謂ふべし、其他多年一定の組織の下に活動を繼續しつゝあるは舊館林藩主秋元子爵家の出資に成れる學生貸費養成と舊前橋藩主松平伯爵家及有志者の出資に係る盈進會の學生貸費養成とは、其効果の最、顯著なるものとす、前者は明治二十年の創設にして既に三十二名の卒業者を出だし、後者は明治三十四年の組織に繫り、卒業生十五名を出だし、兩者共に十數名の學生を養成中に在り。

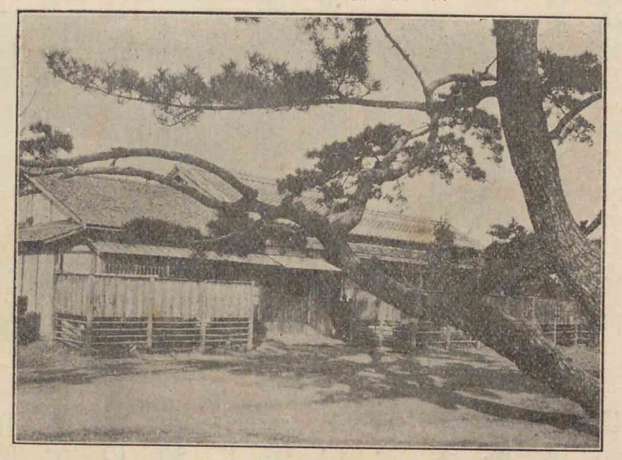
感化救濟事業　縣は犯罪の豫防救治、出獄人の保護誘導を以て國家社會の安寧秩序の維持上、最、緊要なるを認め、明治四十二年出獄人保護規程を發布し、警察署長、町村長及小學校長をして協同一致、出獄人を教導感化せしむることを定めたり、救濟事業は其數甚多からずして悉、個人の施設に係ると雖、著々其効果を奏しつゝあるは喜ぶべし、今主なるものを擧げむ。

小學校長の免囚保護

碓氷郡烏淵村西部尋常高等小學校長山崎熊次は、夙に力を免囚保護に盡し、犯罪の動機多くは賭博にあり、而して賭博の原因は大抵貧困より來れることを察し、先、其財政を整理せしめたる後、善に導かざるべからずとの見地より保護方法を立案し、之を實行したるに顯著なる成績を擧げ、將來益〻效果の實現を期しつゝあり。

橋本園

前橋積善會病室



前橋市天川町橋本園太は、往年自家を襲ひたる窃盗を捕へ、罪を糺して狀を知り、爰に始めて免囚保護の必要を認め、直に是が施設をなし、橋本園を名け、幾多の困難を排して實行に力め、明治二十七年

上毛孤兒院

代用感化院

以來百二人の免囚を收容して保護感化を與へたる結果、正業に就かしめたる者六十二人、感化の効なく逃亡又は再、罪を犯したる者三十三人を出だし、今現に七人を收容中にあり。

創立當時の前橋育兒院

代用感化院は縣費の補助を受け、前橋市天川町松竹院内に於て經營せらる、現在五名の不良少年を收容し、住職明峯榮泉、專、感化に努む、縣は金一萬二千六百餘圓の經費を以て理想に適合せる縣立感化院を設立せむとし、現に工事中に屬す。

桐生積善會は明治三十一年少數者の團體を組織したるに始まり、同四十三年一月更に規模を擴張す、而して各宗寺院は隨時出獄人を其居宅に訪問して訓戒を加ふるの外、毎月二回場所を定めて集會講話を開き、專、感化に努むるを例とす、其他佐波郡免囚保護會、多野郡各宗協會、碓氷郡佛教團、勢多郡東黑保根免囚保護會、邑樂佛教出獄人保護會等は何れも最近に設立せられたる保護團體にして、今將に活動を開始せむとし、勢多郡新里村、山田郡大間々町に於ても既に保護に著手せり。

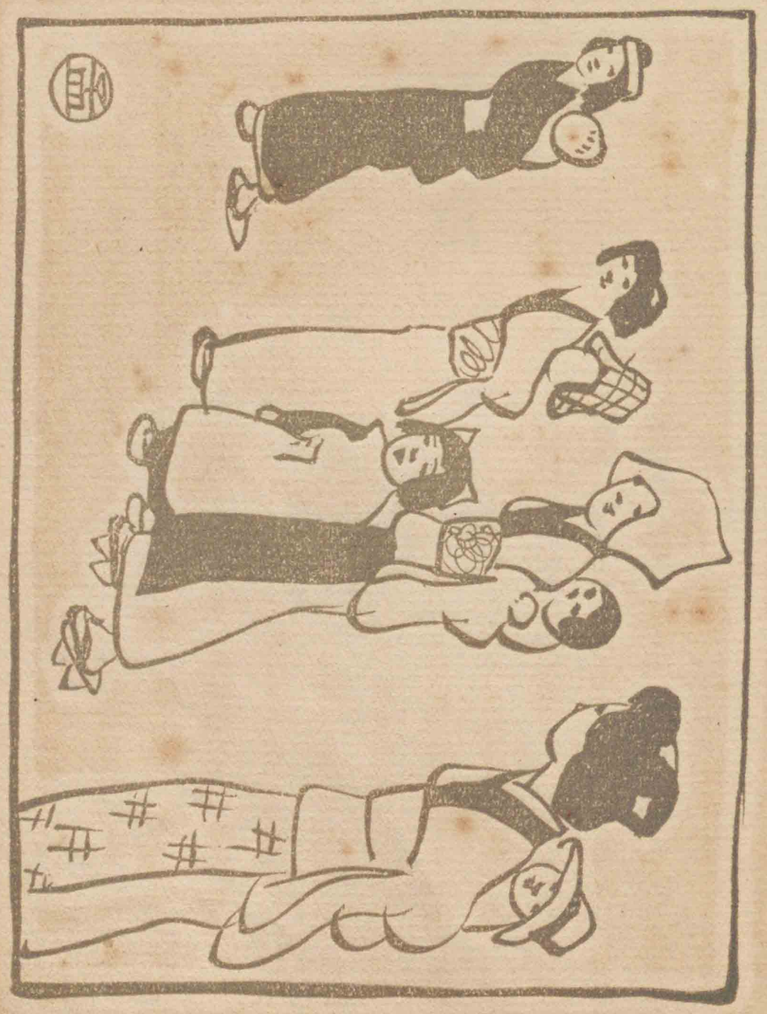
上毛孤兒院は前橋市岩神町に在り、明治二十五年故宮内文作の創立に係る、爾來收容せる兒童數百人にして、現に六十三人を育養す、基本金二千三十圓を有し、賛助員約千人あり、年々縣費より金二百圓の補助を受く、明治四十二年及同四十三年内務省より奬勵金各三百圓を下附せられたり。

前橋育兒院は前橋市神明町に在り、明治三十九年十一月院主藤井萬喜太の創立に係る、收容したる兒童の數九人、現に七人を育養す、經費は篤志者の寄附金及國費、縣費の棄兒養育費等を以て支辨し、不足は院主自、之を補ふ。

前橋積善會は前橋市前代田町に在り、明治十三年四月有志者の設立したる所、同三十五年市内各宗寺院協會の管理に移る、鰥寡孤獨貧窮者を救恤すこと二十餘年、會員約五百、同三十七年附屬病舍を新築施療す、別に婦人部あり、三百餘の會員を有す。

高崎育兒院

高崎育兒院は高崎市下横町興禪寺内に在り、明治三十九年定款を定め、現に十九名を育養す、基本金千六百八十二圓を有し、院友約六百餘あり、年々縣費より金百圓の補助を受く、明治四十三年内務省より奬勵金二百圓を下附せらる。



下篇

目次

東上州
前橋市及附近……九七—一二八
桐生、伊勢崎地方……一二九—一三八
太田、館林地方……一三九—一五四
西上州
高崎市及附近……一五五—一六四
磯部、妙義、碓氷地方……一六五—一七八
富岡、藤岡地方……一七九—一九六
北上州
利根、吾妻地方……一九七—二一七

上州自慢

一 史上に輝く勤王の士（新田義貞・高山彦九郎）……一四三—一四四
二 神代の遺蹟を傳ふる一名社 貫前神社……一四四—一四五
三 賽者織るが如き大光院 子育呑龍……一七九
四 異彩を放つ三名山（赤城山・榛名山・妙義山）……一三九
五 世に隱れたる一大奇石 三波石……一二五・一一五・一六八
六 我邦最古のいしぶみ 多胡碑……一八九
七 天下一品の靈泉（伊香保・草津）……一九一

東上州

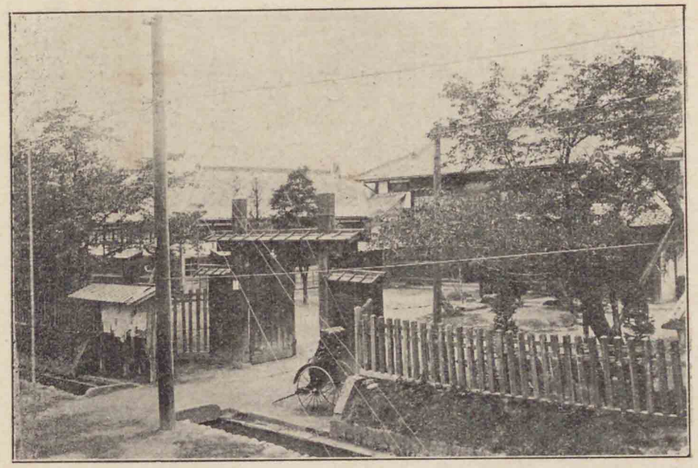
縣の東方に位せる前橋市、勢多、山田、新田、邑樂、佐波各郡及群馬郡の一部を稱す、地勢平坦、土壤肥沃にして、最、農事に適し、桐生、伊勢崎を中心とし、ては古來織物を以て名あり、殊に名山赤城、榛名の二山あり、靈泉伊香保あり、共に天下に冠絶す、蠶種、繭、織物、麥を主産とす。

前橋市及附近

前橋市——前橋城址——武德殿——前橋公園と東照宮——臨江閣と貴賓館——敷島河原——岩神の飛石——橋林寺——神明宮——妙安寺——八幡宮——龍海院——上野總社——群馬郡立農蠶講習所——花園の里——豐城入彦命の陵——光巖寺——澁川町——眞光寺——行幸記念碑——甲波宿禰神社——御蔭の松——伊香保温泉——伊香保神社——温泉神社——湯元——黃金の瀧——物聞山——七重の瀧——辨天の瀧——大瀧——伊香保水力電氣——地藏河原——水澤山——水澤觀音——舟尾山——ガラメキ鑛泉——二ッ嶽——榛原——相馬ヶ嶽——榛名山——天神嶺——榛名神社——林業組合——榛名風穴——勢多郡立農林學校——野中信用組合——大島梨——上細井の耕地整理——龍藏寺——本曾三社神社——水利組合——船津傳次平——赤城山——牧場——赤城與業組合

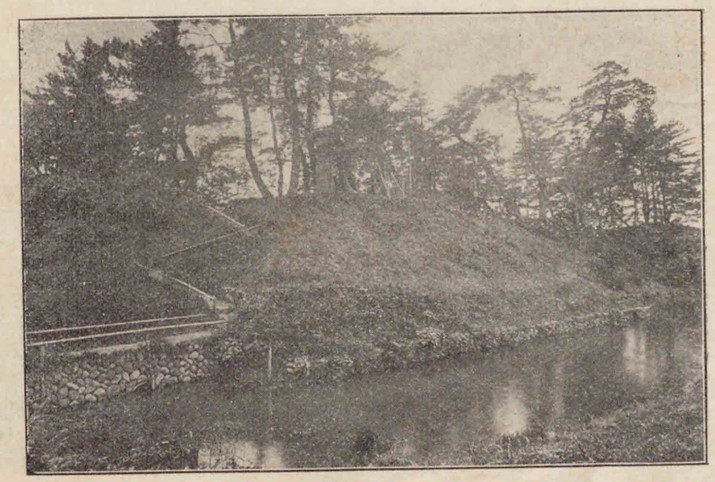
赤城山
榛名山
勢多郡
群馬郡
前橋市
至大胡
至大間々
至桐生
至伊勢崎
至高崎
至沼田
至渋川
至中之條
至高崎
至前橋
至大間々
至桐生
至伊勢崎
至高崎
至沼田
至渋川
至中之條
至大胡
至前橋

前橋市役所



株式會社、利根發電株式會社前橋支店、前橋座劇場株式會社、有限責任信用販賣組合交水社、群馬縣蠶業者組合聯合會、前橋駄斗絲同業組合、前橋撚絲同業組合、前橋繭絲同業組合、前橋製絲同業組合、上毛新聞社、上州新報社、群馬新聞社、上州商業新報社、上毛孤兒院、前橋積善會、前橋育兒院

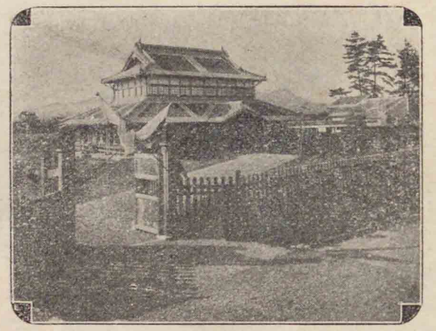
前橋城址　利根川を背にして東面す、文明年間太田道灌の築きたるものなりと云ひ、又長尾氏の經營なりとも傳ふ、織田氏の時瀧川一益此に據りて關東を制し、德川氏の初、平岩親吉城主たり、慶長六年酒井忠重之に



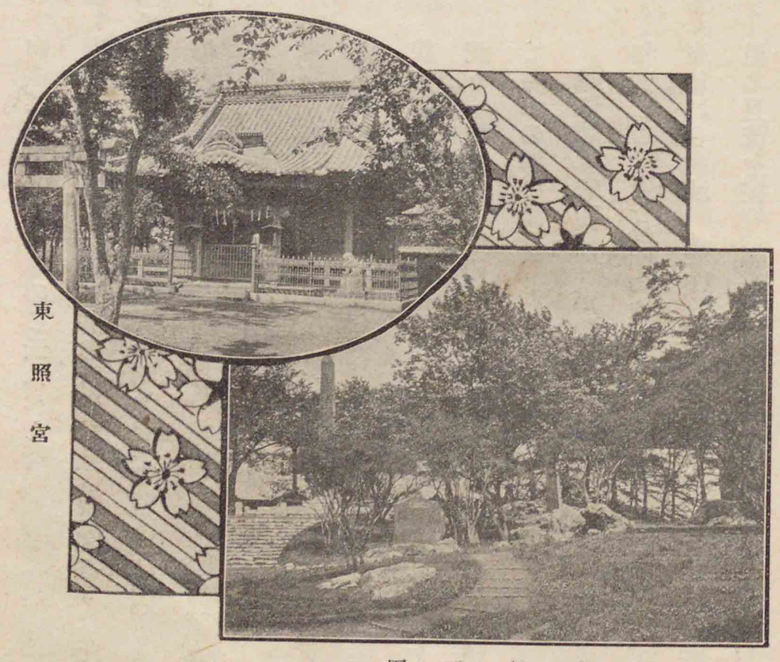
前橋城址

代り、數世を經て松平直賢の領となる、明和四年利根川大に氾濫し、城壁爲に破壞す、仍りて川越に移り一たび廢城となりしも、文久三年松平直克再興して此に移り以て維新に及ぶ、今の群馬縣廳は即、城廓の一部に在り、周圍の喬松轉〻當年の面影を偲ばしむ、明治四十一年東北隅の樹蔭に碑を建て、永く後人をして沿革を忘れざらしむ。

武德殿

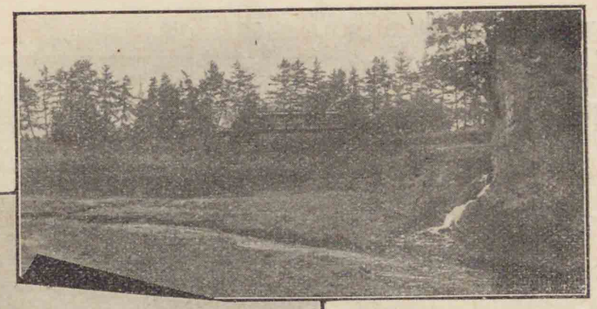


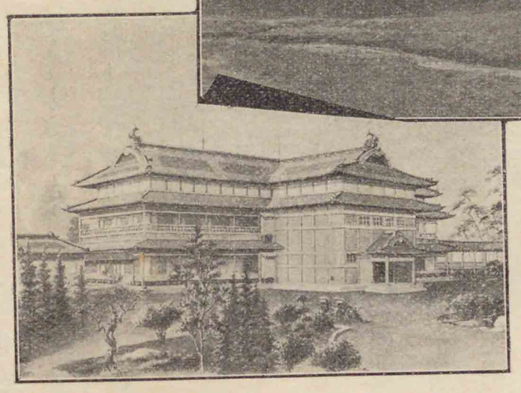
武德殿　明治四十年九月の建築に係る、輪奐の美なしと雖、南は直に前橋城址に接し、西は利根川を隔て〻遙に淺間、妙義の雄姿に



東照宮

前橋公園





臨江閣と貴賓館

對す、振武の場として洵に其處を得たるものと云ふべし。

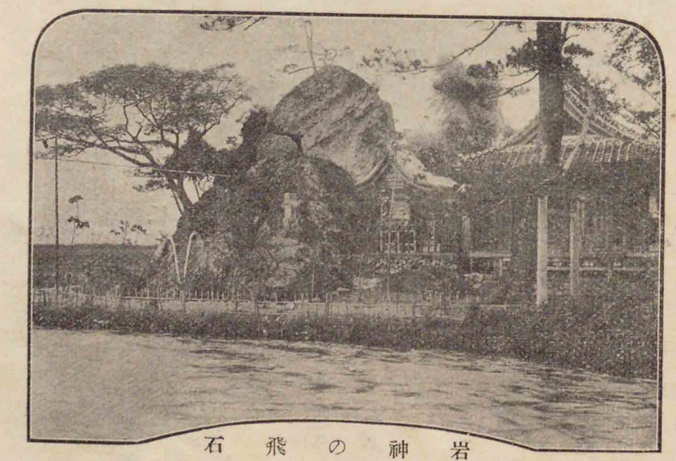
前橋公園と東照宮　前橋城址を距る北一丁許の所に村社東照宮あり、此附近一帶の地を公園とし、行樂の場に充てらる、明治四十二年市は同所及其附近を一區劃として擴張を企て、更に園池を修し、花樹を種う、面積九千六百餘坪、其利根川に面する所、堤上に櫻樹あり、斷崖數仞、下は則、水清く砂白く、風光尤賞すべし、園内に臨江閣、貴賓館あり、莊麗見るべく、東照宮、彰忠碑あり、儼貌仰ぐべし、東照宮は德川家康、菅原道眞外一神を祀り、慶應二年武州川越より遷座す、社殿の用材總て一木の欅に成り、其名世に高し。

臨江閣と貴賓館　市の西方柳町に在り、東照宮と相對して、直に公園に連る、建物は和風總二階にして座ながら赤城、榛名、妙義の三山を望み、脚下に利根の巨流を控ゆ、展望の壯快多く其比を見ず、初、迎賓館と名けしを臨江閣と改稱したるは其流に臨む

の故を以てなり、多くは集會讌宴の席に供せられ、今市有に屬す、明治二十六年　大元帥陛下の行在所に充てさせ給ひし以來　東宮殿下の御旅館となりしこと再度、其他貴顯の車を蹕められしこと幾回なるを知らず、今次聯合共進會の前橋市に開設せらるゝに際し、構内の好位置を卜して別に貴賓館を建設す、結構宏壯眞に市内建築物中の偉觀をなし、樓上よりの展望臨江閣に比して一段の宏濶を極む。

數島河原　前橋城址の北方、東照宮祠畔の崖下より岩神町に至る利根河畔一帶を云ふ、素、稚松疎生の地にして逍遙の好適所なりしが、今は河身の屢〻變更したる爲、荒寥たる砂積に化し復、舊觀を留めず。

岩神の飛石　向町の北三丁餘、廣瀬川の東岸に奇石あり、之を岩神の飛石とす、村名に因みて此くは稱するなり、高二丈餘、傍に稻荷の小祠あり、抑、此巨石の平坦々たる此地に屹立する、實に奇となすに値す、或は淺間山大噴火の際、噴出したるものなりと云ひ、或は元、利根川の水路此方面に在りて之を地層より洗出し、爾後水勢漸、西に變じて現狀を遺したるなりと云ふ、今は

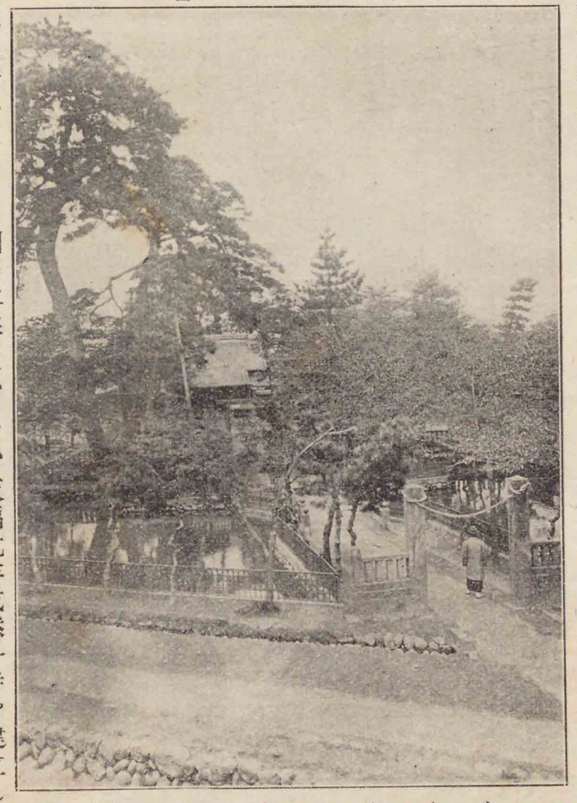


岩神の飛石

廣瀬川の水僅に其根を蘸し、巖上の古松尙往昔を語らむとするに似たり。

橋林寺　向町に在る曹洞宗の寺院なり、文明七年厩橋城主長尾景信始めて城内金井曲輪に建立し、慶安三年此地に移る、寺寶の大部分は幾たびか火災に罹りて今は僅に數種を遺すに過ぎず。

神明宮



神明宮　神明町に在り、大日靈女命を祭神とす、境内の小池繞らすに奇巖を以てし半皷形の石矼を架す、一樹の老松二幹となりて天に冲する者は千年の翠色を漲し、多數の櫻樹は春毎に香雲を吹く。

妙安寺　眞宗にして立川町に在り、往昔九條幸實配せられて下總國猿島郡一谷に在りし時、宗祖親鸞の門に入りて成然と號す、親鸞歸洛の際與ふるに自刻の木像を以てす、天福元年成然一寺を建立して一谷山最頂妙安寺と號す、數代を經て三河に移り天正十八年十五世成空の時前橋に轉じ現在の地に堂宇を建立せり、慶長八年德川家

康東本願寺興立の時、宗祖自刻の像を妙安寺に請む、成空之を快諾したる爲、許多の什寶を贈り、且累世登城を許し、大判卷物時服を賜はるを例とせり、今尙藏する所の御宸筆、古文書、什器等數百點、實に獲易からざるもの多し。

妙安寺寶物

（右）親鸞上人自畫像）

（左　豐臣秀吉筆）

八幡宮　連雀町に在り、市の總鎭守にして縣社なり、譽田別命を祀る、神體は貞觀年間山城國男山より勸請しりたと傳ふ、後陽成帝の御宸筆神號一軸其他の寶物を藏せり、境内廣からずと雖、數樹の老銀杏高く天に參して神寂びたり。

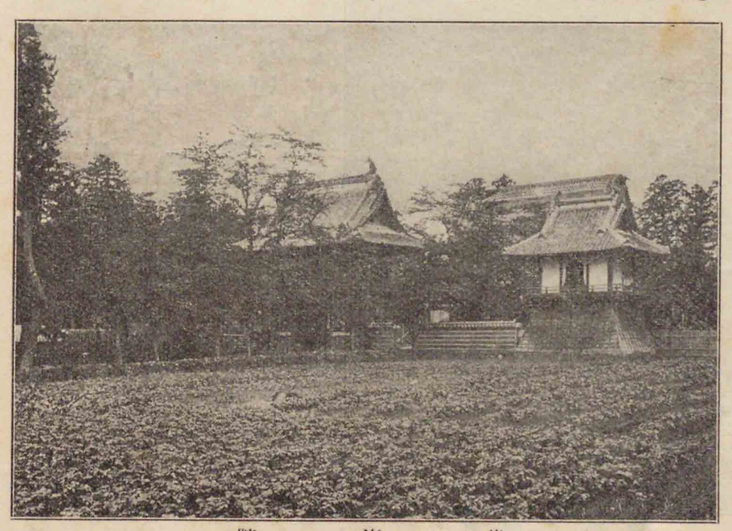
龍海院　紅雲町に在り、曹洞宗の禪刹なり、往昔三州岡崎城主德川淸康享祿三年元旦『是』の字を握るを夢みて、覺めて之を龍溪寺の僧

前橋八幡宮

模外に語る、模外占して曰く是字は則、日下人の集まりたるもの、之を握る必、覇兆たるべしと、清康大に喜び模外の爲に一寺を額田郡明大寺村に建立し、是字寺と呼ぶ、龍海院は即其別院にして慶長年間酒井氏之を建て俗に是字寺として知らる、境内三千餘坪、古松老杉鬱蒼として枝を交へ、晝尚暗く森閑として塵寰の表に出づ、堂宇は二百餘坪の大伽藍にして仁王門、鐘樓、經藏、靈屋あり、亦酒井家累代の墳墓あり。

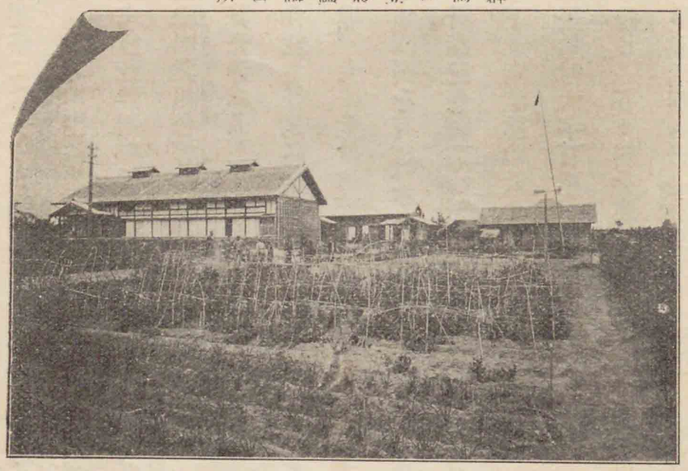
上野總社（群馬郡元惣社村距前橋市一里）　磐筒男命、磐筒女命、經津主命を始め、上野惣社五百四十九神を祀る、今は縣社なり、安閑帝元年の創建と傳ふ、慶長年間、秋元越中守氏朝、惣社在城の時、天狗岩堰開鑿成就以來、崇敬殊に篤く、騎馬を寄進せられ、今尚秋祭に其例を缺かず。

群馬郡立農蠶講習所（同上）　明治四十年の創立に係る、蠶室、寄宿舍、貯藏室、納屋、雜建物、合計百三十五坪餘の平家建物と三反二畝十一歩の敷地とを有し、又別に試驗用地として水田四反五歩、桑園一町歩、



龍海院

畑一反五畝歩あり、職員は定員技手六名、書記一名にして、蠶業、農事の講習に從事するの外、各種の試驗、蠶種製造配付、籾種子の配付等をなす。



群馬郡立農蠶講習所

花園の里（同郡國府村大字引間距前橋一里半）　妙見寺は七星山息災寺と稱し、北辰妙見大菩薩を祭りたる古刹にして、古之を花園の里と呼べり、今は落莫として聞ゆるなきも、寺門の兩側數丁の間櫻樹道を蔽ふ、花時の美觀漸、世に知られ、花の隧道の稱あり。

豐城入彦命の陵（同郡惣社町距前橋一里）　町の大字植野に双子山あり、高二丈餘、東西七十間、南北八十五間、文政年間發掘して遺骸、刀劍、金環、勾玉、陶器等を得たり、其一部は今尚、東京帝室博物館に藏置せらる、上古、上毛野君の始祖豐城入彦命を葬りたるは確に此所なりと傳へらる。

光巖寺（同上）　天台宗の寺院なり、慶長十二年領主秋元長朝、元惣社德藏寺を移して秋元山江月院光巖寺と改稱す、境内に秋元氏累代の靈廟あり、力田遺愛碑あり、寺寶少からず。

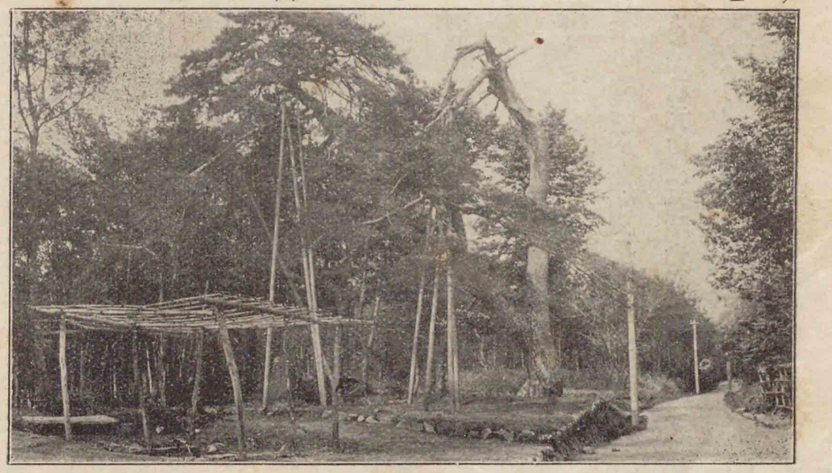
澁川町　群馬郡の北部に位し、距前橋四里、戸數千六百一、人口七千二百九、前橋、高崎兩市及伊香

保に至るには電車の便あり、信州、越後、會津の三方に通ずる要路に當り、利根、吾妻兩郡の咽喉を扼せる物資の集散地なり、澁川警察署、前橋區裁判所澁川出張所、澁川郵便局、株式會社澁川銀行、同澁川貯蓄銀行、同澁川倉庫會社、澁川繭絲同業組合等あり。

眞光寺（澁川町）　天台宗延暦寺末なり、僧叡海の開基にして白井城主長尾昌賢の創建と傳ふ、寺宇は本堂、庫裡、阿彌陀堂、鐘樓、太子堂、聖天堂、觀音堂、閻魔堂、經藏、土藏、居間を始め四門を有し、本宗關東五ヶ寺の一と稱せらるゝ淨域なり。

行幸記念碑（距澁川町一里內外）　明治二十六年十月二十一日　大元帥陛下近衛貔貅の武を閲して龍駒を群馬郡古巻村大字有馬及同郡豐秋村大字石原、同村大字湯之上に駐めさせらる、村民之を榮とし各〻碑を建て永く景仰の誠を傳ふ。

甲波宿彌神社（同郡金島村大字川島距澁川町一里半）　延喜式內上野十二社の一にして今は鄕社なり、寶龜三年の創建に係り、速秋津彦神、速



御蔭の松

秋津姫神、外二神を祀る、寶物に光格帝御宸筆の扁額あり。

御蔭の松　澁川町より伊香保町に上る里許、路傍亭々たる一幹の老松あり、明治十二年　英照皇太后陛下行啓の際御野立あらせられしより名けらる、碑を立て柵を繞らす、碑面には扈從萬里小路博房卿の歌、裏面には時の群馬縣知事楫取素彦の撰文を鐫す、御蔭の茶屋あり、店前に吹井あり。其水清冽なり。

御蔭の松　皇太后大夫博房

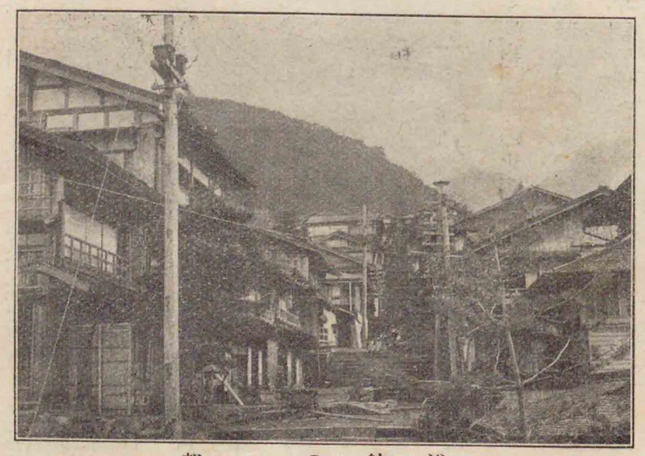
芝中のまつのやどりに千代かけて
　殘るはきみかみかけなりけり

芝中の御蔭の松や千代かけて
　君かみゆきに逢はむとすらん

道のべに生たる松も時を得て
　みかけとあふく世にはあひにき

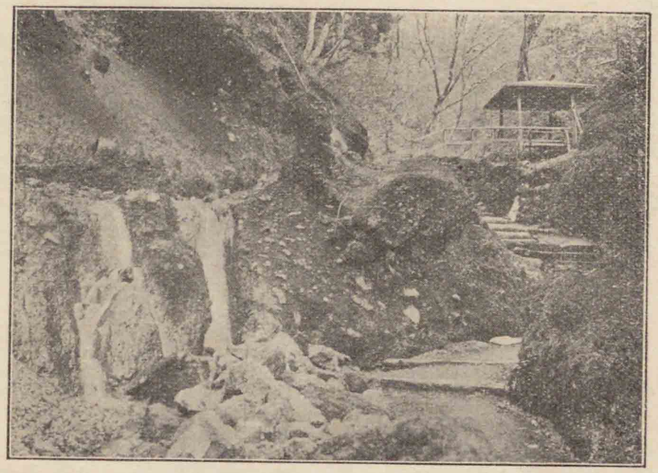
美　淵

伊香保温泉　榛名山の中腹に在り、其地床海拔二千六百尺、一帶の火山岩より成り、盛暑尙華氏寒暖計八十五度を越ゆることなく、温泉の偉効は地質の高燥と氣候の適應と相俟ちて我邦無比の避暑地と稱せらる、此に有名なる炭酸泉脈は湯元の巖壑の間より湧出し、途に八ヶ所の湧口を相合して大堰に集中し、次第に浴館に導かる、浴館は峩樓高閣を競ひ、翠崖丹



浴館の一部

壁に凭りて築かれ、鱗次櫛比、市街は層より層を生じ、石磴を以て相通ず、中に鑛泉取締所あり、浴醫局あり、總ての設備完全せざるはなし、宜なる哉、一年の來浴者三萬、是が宿泊數を算すれば略二十三萬に達す、是、畢竟炭酸泉の偉効あるの外、勝地佳景の近傍に散在するありて浴客の探討に任せ、絶へて倦怠の念を生ぜしめざるに因らずむばあらず、温泉宿は甲乙丙の三種に分たれ、甲十一軒、乙二軒、丙三十六軒の多數を有す、温泉湧出の起原に關しては垂仁帝の御宇と傳へらるれど、此は載籍の稽ふべきものなし、然れども伊香保嶺の名は夙くも萬葉集、古今集に詠ぜられ、其他文明十八年の著に係る堯惠法印の北國紀行にも、文龜年間釋宗長の著せし宗祇終焉記にも、與に温泉に浴したることを載せあれば其草創の古かりしを見るに足るべし舊記に據れば現在の地に移りて温泉の業を營むに至りしは距今三百餘年前、天正四年武田氏より此地を賜はりしに始まりたるものゝ如し、而も世人をして忘るゝ能はざらしむるものは明治十二年七月　英照皇太后陛下の



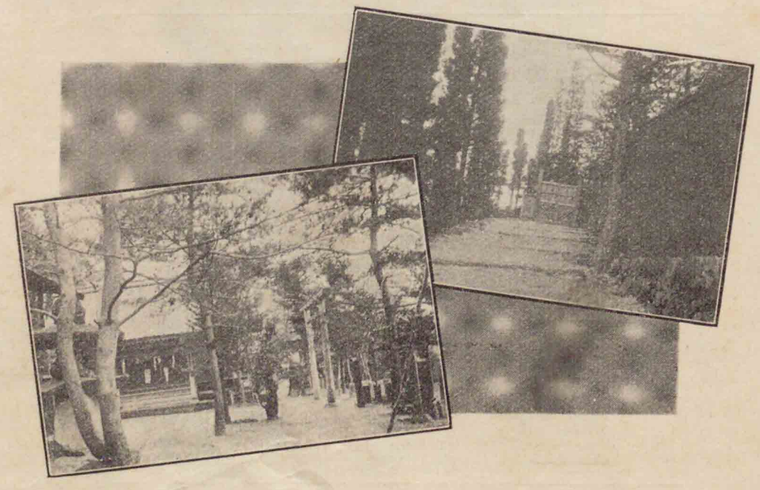
湯元

鳳駕を枉げさせられ、次ぎて三十二年七月　昌子内親王殿下の鸞輿を蹕めさせられしを始とし、爾後各宮殿下の成らせられたる事なりとす、汽車の便に籍るものは高崎、前橋兩驛に下車せば各〻澁川町に通ずる電氣鐵道の便あり、澁川町より更に伊香保町に通ずる同樣の設備あり、通じて、二時間餘を出でずして到著するを得べし、今附近の景勝を擧げて東道の便に資せむとす。

伊香保神社　上野十二社の一にして、町の南方高地に在り、大巳貴命を祀り、少彦名命を合祀す、天長元年創建の事舊記に見ゆ、社前に　昌子内親王殿下御手植の松二株あり、翠色染むるが如く、傍に記念碑を建て、名を千代の緑と命す。

いかはかり神やめつらむいかほ山皇女の御手植の松　高行

温泉神社　往時伊香保神社の西に藥師佛を配祀せら



御用邸と伊香保神社

れ、人皆單に藥師と稱したるが、明治十一年火災に罹りたる後は伊香保神社に合祀せらる、祭神は少彦名命なり。

かみつけの伊香保の嶺ろの出湯こそ
神のさつけし藥なりけり　　讀人不知

湯元　距町四五町の所、山深からずと雖、境自、幽邃にして、翠葉濃淡風色頗、賞すべし、附近一帶の巖穴より靈泉の滾々として湧出するもの、之を湯元となす、其對岸に老楓樹あり、連歌師宗祇の手栽と傳へらる、此邊河鹿多し、故に又河鹿澤の稱あり。

山見れはひとしくれにも色そ添ふ
いそくこゝろをしたそめにして　　宗祇

黃金の瀧　猿澤橋の南偏直下に在り、巖石湯華に染浸して全面金色を呈す、因りて此名あり。

伊香保八景

上の山の月、關屋の雲、猿澤の猿、物聞山の杜鵑、丸山の躑躅、高根の鹿、二つ嶽の雪、沼の杜若

伊香保名物

湯花、湯花染、化石細工、轆轤細工、木通細工、鑛泉飴、鑛泉煎餅、山千鳥、香山椒、蕨、氷豆腐、髮洗粉、伊香保筆

樓臺高架白雲邊、不是禪栖不是仙、
又見化工多妙用、一村奇福一條泉、　　湖山

物聞山　俗に琴平山と稱す、遠近の音響總て脚下に聞ゆるより此稱あり、距町僅に數丁、雜樹鬱然として天を掩ひ、白晝梟の啼くを聞く、頂上に二石祠あり、右を琴平神社とし、左を秋葉神社とす、展望に富み、景趣凡ならず、古來杜鵑の名所として聞ゆ、附近に物聞橋あり、麓に宮內省御用邸あり、柵を結びて庶人の出入するを許さず、洵に淸淨の地たり。

伊香保なる物聞山の時鳥　　伊勢
にこらぬことに聞ゆなるかな

七重の瀧　湯の澤を經て向山の背後に在り、瀧は溪流の迂回曲折して七階層をなし、稜々たる巖角より落下するを以て此く名けたるなり、探勝尤容易にして浴後の散策に適す。

辨天の瀧　距浴場三十丁、四圍の風光最佳なり、瀑は源を榛名湖に發し、落下三十二尺、大小二條に分る、明治二十二年七月　昌子內親王殿下行啓あり、御手洗瀑と命名せらる、爾後　有栖川宮、北白川宮兩殿下の數次成らせられたることあり、其名愈〻著はる。

辨天瀧

大瀧　辨天の瀧の下流、約十餘丁の所に在り、河床巖根を露はし、急潭怪石に激して餘沫を飛ばす、瀑口廣くして二折す、遠く之を望めば水晶簾の搖曳するに似たり、故に一名を珠簾の瀧と呼ぶ、附近十數丁の間、湯の澤、上の山、猿澤、關屋其他の諸勝あり、一として逍遙に適せざるなし。

伊香保水力電氣　辨天の瀧の上流約五十間の位置に引入口を設け、沼尾川の水力を利用して發電所となす、伊香保町役場水力電氣部の經營に係り、明治四十一年八月一日の竣工となす、街燈、浴館、商店其他の電燈皆是が供給を仰ぐ。

地藏河泉　伊香保高嶺の裾野にして傾斜せる一帶の高原なり、展望殊に妙を極め、草花の名所として秋候最佳なり、春は採蕨の好適地と稱して來遊の士女常に多し、茶亭あり、亭前に石の地藏を安置す、子育地藏と稱ふ、此所二路に岐る、左八町餘にして伊香保町に達すべく、右は即水澤路なり。

草臥れて宿かるころや藤のはな　芭蕉

來浴の外人曰く　日本に於て伊香保ほど、野草に富める地はあらじ六月より九月まで至珍なる百合科の花頗多く、虎白合其他の百合、杜若科の種々なる色花、將、各種の珍草異卉到る所に咲き眞に樂園の如き感を起せり、春遲く五月頃には、鶯、駒鳥の歌谷間より谷間に響き渡る

水澤山　山角尖り聳え、二ツ岳と共に東京九段坂及隅田堤上より遙望し得べし。

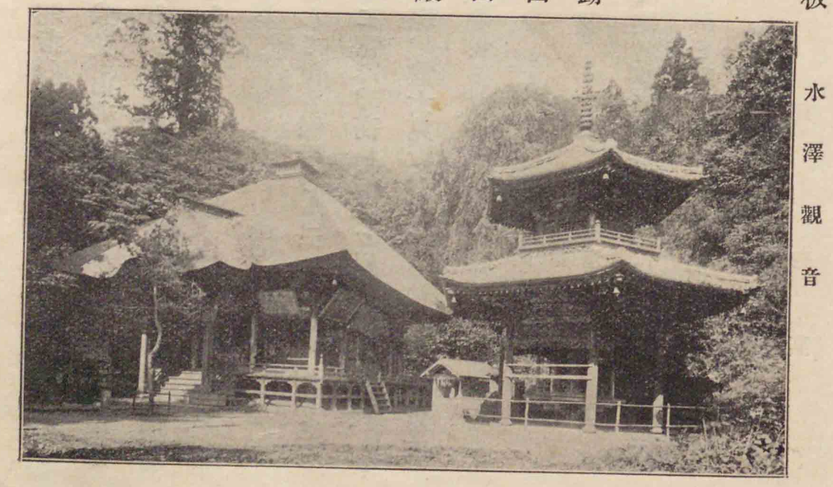
水澤觀音　水澤山の麓、水澤村の上に在り、坂東三十三番札所の第十六番にして境内幽邃眞に古刹の趣あり、千手觀音を安置す、推古帝の時創始せられりたと傳ふ、境内に輪轉の六角堂あり、高六

尺餘、紫銅の地藏立像六體を安置す、堂の左側に元享年間の板碑あり。

頼みくる心も清き水澤の
ふかきねかひをうるそうれしき　讀人不知

舟尾山　水澤山の南谷を隔てゝ低踞す、南腹に巨刹の遺跡あり、嵯峨帝の弘仁六年創建せられ、傳敎大師を開基とす、山中九十九谷と唱へ、僧房三千百を建て繁盛を極めたる所なり、山の絶壁より一道の飛瀑韡韡として落下す、高實に二十丈、水、巖角に激して二段に岐る、上を雄瀧と呼び十七丈一尺あり、下を雌瀧と云ふ、落下三丈二尺、飛沫四散して、夏尚寒きを覺えしむ。

ガラメキ鑛泉　伊香保町を距る約一里半、相馬ヶ嶽の東南麓に在り、村人は單にガラと呼ぶ、無色透明の微温湯にして、火傷、皮膚病其他諸病に効あり、浴館二あり、眺望佳絶にして遙に富士山を望むを得べし、曾て　有栖川宮、北白川宮兩殿下香山御滯在の砌、此地に御遊あらせられ、其名頓に揚がる。



水澤觀音

二ツ嶽　湯元の西南十町餘の所に在り、双峯尖立して其形駝背の如し、較〻高きを雄嶽と呼び、一を雌嶽と云ふ、頂上に一大坑口あり、往古噴火の跡なりと傳ふ、全山の地層燒石より成り、登攀困難なりと雖、巖石の奇、探尋するに堪へたり、雌嶽の東麓に蒸湯あり、質は硫化水素瓦斯にして皮膚病其他に奇効あり、伊香保に浴する者は散策を兼ねて此湯に來るを常とす。

依巖小屋似危樓　誇説奇方引客留　試入窰中溶蒸氣　淋漓熱汗滿身流　中洲

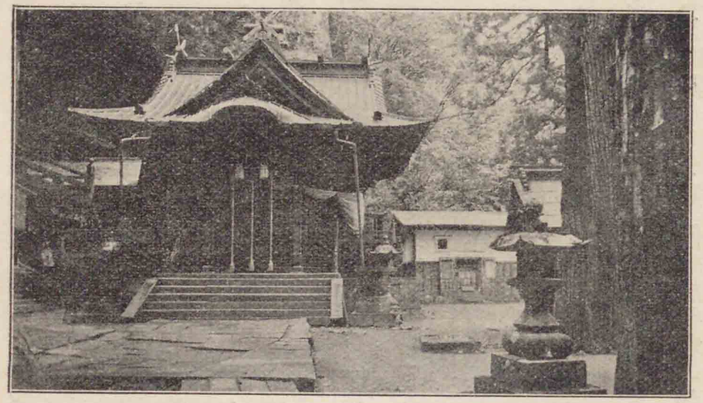
榛原　伊香保の西南に當り、榛名神社に至る途上の高原にして伊香保平とも云ふ、岨の榛原として萬葉集に詠まれたるは此所なり、此地廣濶にして平坦、眺望に富み、高根、二ツ嶽、相馬ヶ嶽、伊香保富士の諸峯巒を四周に望見すべく、獅子巖、摺碓巖、八ツ塚、富士見坂、座主の池等の勝地里餘の間に散在し、探賞の中心點たり、春秋の兩季一面の草花原頭を飾る。

伊香保呂の岨の榛原わかきぬにつきようしもよたへとおもへば　萬葉集
伊香保呂の岨の老松恨りとや君がさきさぬ心もとなくに　同
伊香保風ふくや花さく百合のうへ　逸名

相馬ヶ嶽　一名黑髮山と云ひ、伊香保町の南一里半に聳ゆ、榛名連峯中最高の一にして山勢最峻嶮を極む、絶頂を躑躅ヶ峯と云ひ、平將門の石像を祀り、相馬明神と稱す、滿山草樹蔚生して山氣を人襲ふ。

誰が袖の秋の分れの櫛の齒の黑髮山の間なくしくるゝ　堯惠

榛名神社拜殿



榛名山　上毛三山の一にして、夙に温秀を以て名あり、榛名湖及榛名神社は此山中に在り、湖は周回一里、萬葉集に所謂伊香保沼は即是にして、下流は伊香保川となりて、吾妻川に入る。

からころもかくる伊香保の沼水にけふは玉ぬくあやめをそひく　定家
五月雨に伊香保の沼のあやめ草けふはいつかとたれかひくらむ　家隆

湖上榛名富士あり、東岸に峙つ、水光一碧影山倒に落つる所、宛、東海の濱に芙蓉の倒を觀るが如く、一幅の光景畫も亦若かず、湖上に舟あり、螢火點々たる夏の夕、棹を漣波に任せて、其之く所に從はんか、萬斛の涼味掬するに餘あり、山は榛名連峰中の最高頂を占め、海拔實に四千八百尺にして湖面を拔くこと優に八百尺に及ぶ、其下に牧場あり、又附近一帶の曠原は草花到處に野生して春の逍遙に尤適す、山麓に一畚山(ヒトモッコ)あり、正面に烏帽子嶽あり、鬢櫛(ビングシ)嶽其左に位し、硯嶽の巨巖近く左の山上に屹立す、尙左方に掃部(カモン)嶽あり、山水の勝、實に此一劃に萃まり、一たび脚を此に投せむか、恍然としてまた去る能はざらしむ、若夫、秋の紅葉の眺に至りては、世多く之を知らざれども、滿山の紅葉は寂として探勝者の來らむことを待つや切なり、湖南

に旗亭あり、湖畔亭と云ふ、湖産の鮮魚を調理して、客の需に應ず、往年農商務省、試に北海の鮭、猪苗代湖の鱒を放ちて水産の増殖を計りたることあり、今は民有に屬し、榛名湖水株式會社の經營として鱒、鯉其他魚族を養殖せり。

天神嶺　湖の西南に方り、頂上に榛名神社の大華表の聳ゆるあり、兩側に茶亭二あり、湖畔の富士と駿州の富士とを併せ望むべし、葛籠(ツヅラ)巖（一名九折巖）は此所を距る十數丁の下方、溪流の對岸に在り、疊積せる葛籠の將に崩れむとして崩れざるの容を作す、榛名山奇巖中其尤なるものなり。

榛名神社（同郡室田町大字榛名山距伊香保町二里）　天神嶺を越ゆれば即、達す、伊香保方面より賽せむとするものは、徒歩して抵るを尤宜とす、否らざるものは山輿に藉るも可、馬背を藉る亦便なり、高崎市を過ぎるものは、室田、三の倉を經、六里にして此の地に到るべし、行路難なりと雖、修學旅行者の如きは此程により、歸途伊香保に出づるを最趣味ありとす、神社は縣社にして元湯彥命を祀る、恐らくは少彥名命の別名ならむか、創建詳ならず、社殿は榛名山南の中腹

榛名湖

に鎮して東南に面し、石磴曲折、双龍門中壇に在り、彫刻の妙見るべし、其背後に巨巖の屹然として拔くあり、瓊鉾巖と云ふ、形の肖たるを以て名く、御姿巖は祠背に在り、中括れて上部人頭形をなし、頂に神幣を擎ぐ、神體は即、此巖窟に納む、拜殿、神樂堂、額堂等丹碧燦爛、彫刻亦精緻を極む、額堂の前に古色蒼然たる一基の鐵燈籠あり、元享二年二月十八日左近衛中將新田義貞公奉納と榜す、石磴を下りたる所に神水あり、數十步にして朱塗の一橋谿流に架せらる、神橋是なり、更に數十步巨巖の道に横はるあり、細逕纔に身を通ずるに足る、袖摺岩と云ふ、行き〳〵て三重塔を右に見るべし、全塔皆朱色なり、此邊老杉森立して晝尙暗く、千本杉と稱す。

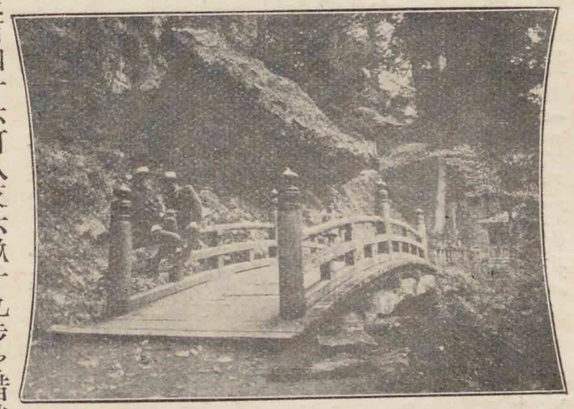
玉筍搖空森作峰　松杉夾路翠排空　行吟老杜好詩句　古木回巖樓閣風　磐溪

御禊橋（朱塗）より隨身門に出で、龍神橋を過ぐれば左側に石燈籠を配し、中央青銅の大華表を建つ、

双龍門と瓊鉾巖

鞍掛巖は御禊橋の稍〻下方對岸にあり、形相似たるを以て此名あり、其他雷電岩、大黑岩、鎧岩、龜岩瓶子岩、獅子岩、硯岩等の奇巖一として其形に依りて名けられざるはなし、往古山内に三千百坊を有し、繁盛極なかりしと傳ふれども、今は僅に七十餘の坊社を見るに過ぎず。

神橋



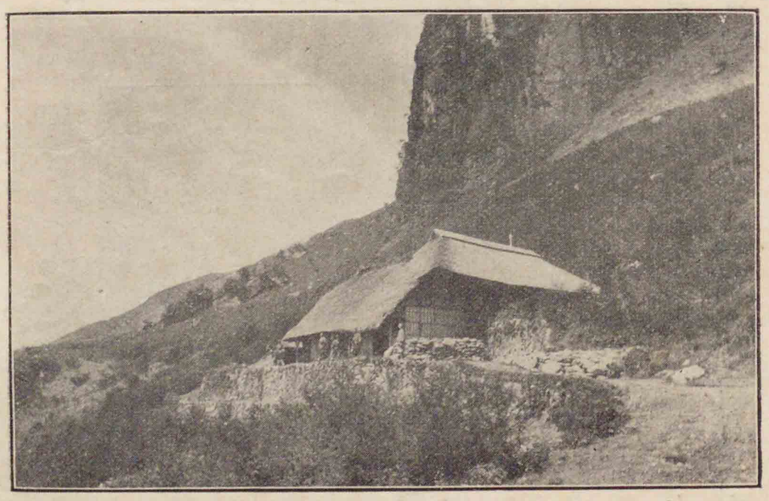
林業組合　群馬郡に在りて林業組合を組織したるもの三あり、一は中野興產組合にして久留馬村外十八ヶ村大字八十一を以て組織す、古來芝草採取の入會地たる榛名山御料地（距前橋市六里）面積三千百三十三丁一反七畝二十歩を年期借地し、耕地に適すべき土地は開墾して利用に努め、其他は主として殖林事業を經營することゝし、明治二十九年度より事業に著手せしが、著々効果の見るべきものあり、一は大野殖林組合なり、群馬郡澁川町外八ヶ町村より組織せられ、前者と同じく榛名山御料地面積三百四十六町八反六畝十九歩を借地し、明治三十年度より殖林事業に著手して既に完了を告げたり、一を澁川町外二ヶ村殖林組合とす、澁川町外二ヶ村の組織に係り、榛名山御料地面積九十一町五反三畝二十四歩を借地して、明治二十七年度より十二ヶ年の繼續事業として經營し、既に林相の見るべきもの

大野殖林

あるは成功したる林業の一となすに足る。

榛名風穴（同郡箕輪村榛名山字黑岩距前橋市六里）　明治三十六年の創設に係り、次を逐ふて改良を加へ、成績の見るべきものあり、今や、其貯藏力春秋種を通じて十萬枚を容るゝに足る、同村大字西明屋戸塚五郎作の經營する所たり。

勢多郡立農林學校　勢多郡桂萱村大字三俣（距前橋市五丁）

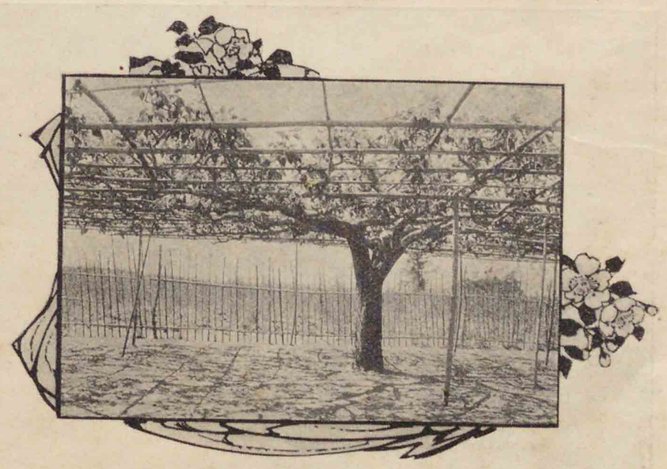


榛名風穴

に在り（上篇教育八八頁參照）

野中信用組合　前橋市を距る一里、勢多郡木瀬村大字野中に在り（上篇產業組合七三頁參照）

大島梨（同郡同村大字大島距前橋市一里半）　古より梨の產地として名あり、距今百餘年、文政十三年鄕人關口長左衛門なるもの今の佐波郡芝根村大字五料より移植したるを栽培の嚆矢とす、土壤の利は同人の熱心なる勸誘と相俟ちて栽培漸、盛況を呈し、安政年間領主松平氏に獻じ、更に將軍家に獻上するに及びて始めて世に大島梨の名顯はる、今や一年の產額一萬餘圓を以て算せられ、大部分は縣內の消費に止まりしが近年信州地方の販路開けてより、栽培者は是が奬勵會なるものを組織し、每年一回品評會を開催して各〻其技を競ひ、專、奬勵中にあれば、一段の好況を見るも、蓋、近きにあらむ、現在の栽培區域は大字下大島、上大島、天川大島の耕地に亘り、面積二十町歩餘を有す、種類の主なるものは、早種に在りては赤穗、六月早種、早赤、太平、淡雪等とし、晩種は赤龍とす、其甘味に富み、渣滓を留めざるは實に大島梨の特色なりとす。



大島梨

上細井の耕地整理（同郡南橋村大字上細井距前橋市二十丁）　村の有志者夙に農事の改良を鼓吹し、金子角次郎等首唱して、明治二十三年始めて共同試作場を設け、逐次成績の見るべきものありと雖、地勢起伏多く、耕地の區劃錯綜を極め、加ふるに用惡水の區劃殆、混沌として、灌漑意の如くならず、爲に完全に其目的を達する能はざるを遺憾としたり。明治三十年土地區劃改良法の發布せらるゝに會し、試に四反歩餘の小區域を改良して好果を得、農事の改良は先、耕地を改良するに在ることを認め、更に規模を大にして實行せむことを期す、明治三十三年耕地整理法の實施せらるゝや、乃、同年秋期耕地整理を發起して、翌年十一月總面積十八町歩餘の工事を完了し、明治三十五年、別に四町歩餘の整理を了したり、其効果の著しき、卑濕の稻田化し

上細井の耕地整理碑

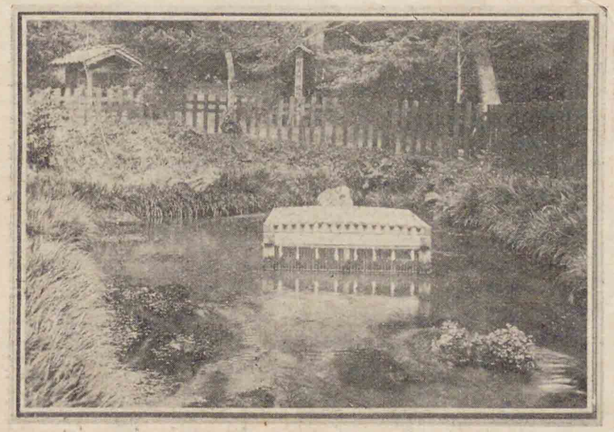
て二毛作地となり、尚且有効地積の増加、管理の便宜、勞力の減少等一般に利益の多大なるを知悉するに至れり、於是乎、縣下到處整理を企圖する者漸次多きを加へ、範を此地に取る、明治三十五年初夏　東宮殿下御台臨あり、擧村爲に感泣して一層の精勵を致す、同三十六年事蹟を誌して碑を建て、以て此榮譽を無窮に傳ふ。

龍藏寺（同郡同村大字青柳距前橋市三十丁）　天台宗にして、日光山開祖勝道上人の開基なりと傳ふ、本尊は釋迦、阿彌陀、藥師の三體にして、大師堂に厄除大師を安置し、毎年一月三日大師會を修行するを例とす、此日賽者雲の若くに集まり、道途喧塡肩摩轂擊の般賑を極む。

木曾三社神社（同郡同村大字下箱田距前橋市二里半）　素盞之男命外三神を祀る、元曆年間木曾義仲の遺臣之を創建したりと傳ふ、境内幽邃にして清淑の氣磅礴し、人をして宛然仙鄉に在るの想あらしむ、祠畔に湧玉泉あり、其水清洌掬すべし、往年宮内省御用生洲に選定せられ、米田侍從差遣の事あり、又、境内に　多喜子内親王殿下御寄附の檜あり、蓁々として翠色滴るが如し。

沸々清泉生地樞。明砂白石麗於珠。神靈加護復何怪。欲養香魚上御厨。

鐵琴



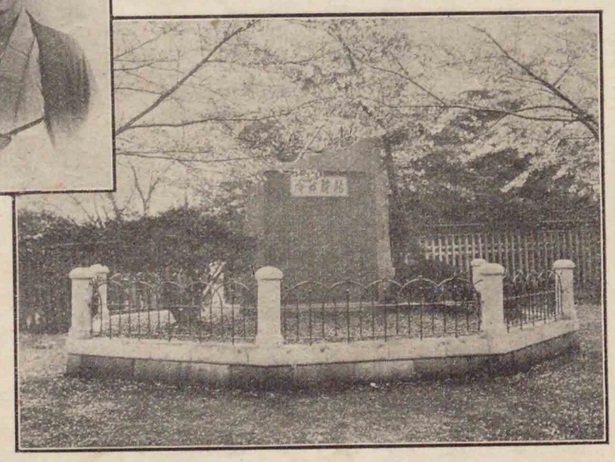
御用生洲

水利組合　廣瀨、桃木兩堰普通水利組合は事務所を勢多郡役所内に置き、勢多郡長之を管理す、明治二十五年十一月の設立に係る、勢多郡北橘村大字下箱田村地先に堰堤を設け、利根川の流水を廣瀨、桃木兩川に引注して灌漑に供す、組合區域一市二郡に跨り、灌漑總反別三千六百八十五町歩餘なり。

船津傳次平　本邦農業界の恩人にして天保十二年勢多郡富士見村大字原之鄉に生まる、幼名は市造、長じて傳次平と改む、其先は武田氏の臣、甲斐國都留郡船津村に出づ、天正年間移りて上野に住み、代々農を業とし、相傳へて傳次平に至る、幼時父に從ひて書を讀む、父常に誡めて曰く、

一、金貸と商法とは爲すべからざること、
一、終りの疑はしきことは著手すべからざること、
一、田畑は多く所有すべからず又多く作るべからざること、
一、農業は雇人二名馬一匹にて營み得る位を度とすべきこと、
一、稽古事は冬春の兩期に於てすべきこと、
一、書物は小滿より白露の候までは封じ置くべきこと、
一、暑中は實業一途に勉勵すべきこと、

船津傳次平肖像



同飛鳥山記念碑

右我家の遺法と心得べし。

傳次平の生涯や實に此遺訓の實現なり、生得數理に精しく、點竄、圓理の術に至るまで、其蘊奥を究め、關流の皆傳を受く、又夙に俳味あり、作句する所尠からず、

すひころの煙草をひねる蠶婆かな

此句に觀るも早く既に蠶兒飼育の業に心を潜めつゝありしを察すべし、又曾て駒場農場に在る時

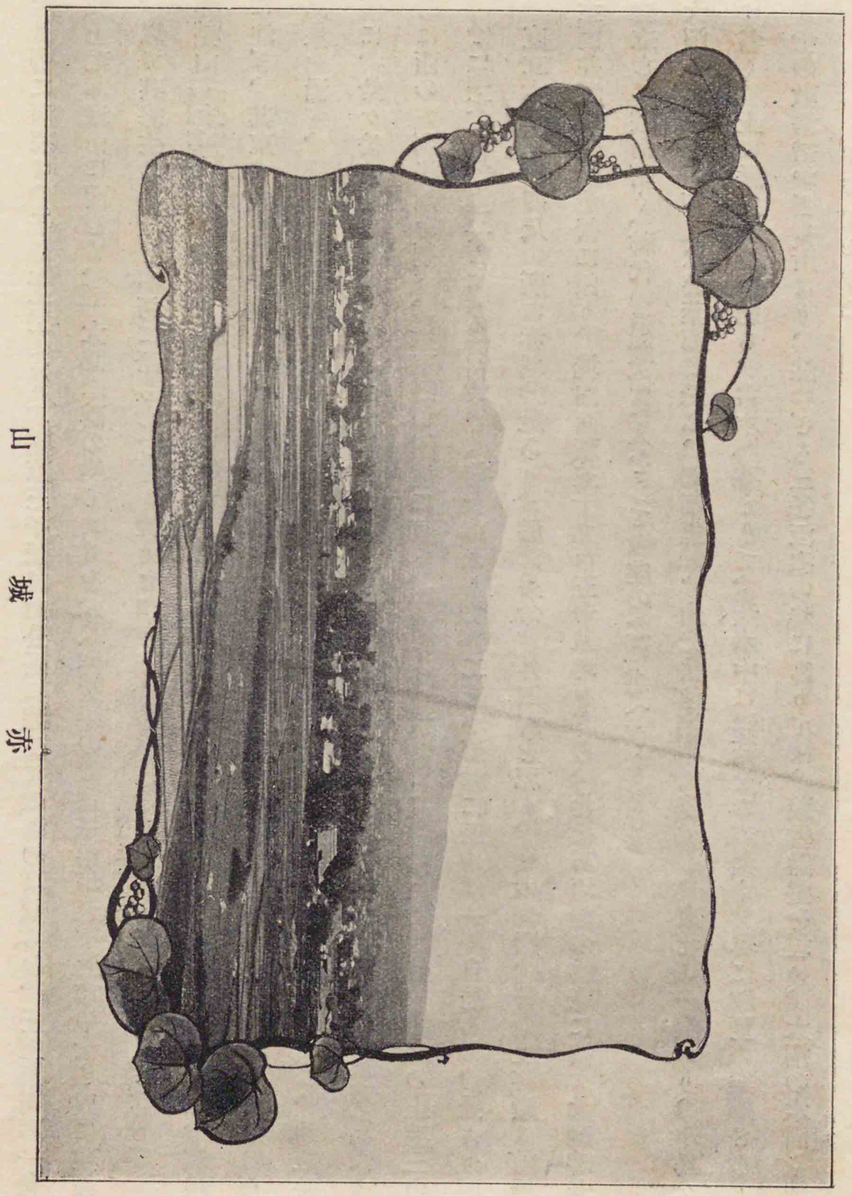
駒場野やひらきのこりに轡蟲

なる句あり、傳次平の農法に於ける、徒に舊法に拘泥せず、必ずや工夫を凝し、實驗を重ね、確信を得るにあらざれば措かず、爲に施す所、一々肯綮に中り、之を學理に照合して些の誤る所なし、傳次平夙に大陰暦の不便を唱へたりしが、偶〻明治五年太陽暦の頒布せらるゝや、太陽暦耕作一覽なる書を著し、自、資を捐て之を上梓し、遍く各地に頒布せり、其他農界に於ける幾多公益の爲、苦心經營したること枚擧に遑あらず、明治十年、時の内務卿大久保利通、勸業頭松方正義を隨へて、群馬縣を視察するや、傳次平を引見して親しく農業上の所見を叩き、其用うるに足るを喜び、本邦農事改良の爲、出仕すべきを勸諭せらる、傳次平其知遇に感じ、始めて仕を内務省勸農局に奉ずるに至れり、是より東奔西走農事の改良を鼓吹し、席殆、暖なるの暇なく、足迹の及ぶ所全國に遍くして、唯僅に沖繩其他二三島を餘せるのみ、官に在ること實に二十年、農事試驗場技師に任じ正七位に叙せらる、明治三十一

年六月鄕に病歿す、于時年六十なり、東京王子飛鳥山公園に遊びたるものは知らむ、丘上東南の一角に我上毛赤城山に面して、一大記念碑の建てあるを、是、傳次平の故舊子弟が天下同志の士と與に建設し、以て其終生の功績を不朽に語らしむとしたるに出づ。

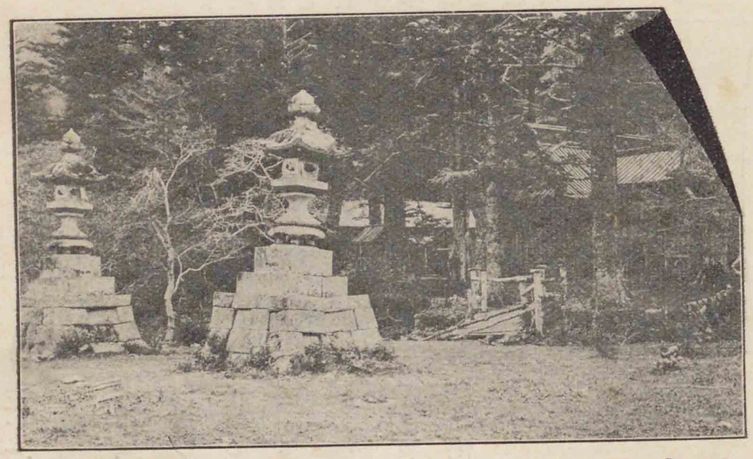
赤城山（同郡富士見村距前橋六里半）郡の北嶺の總稱にして、利根郡の陽を蔽ふ、峽谷の水、其西するものは、利根川に注ぎ、其東するものは渡良瀨川に奔る、山頂數峰に分れ、其中央に大壑あり、深碧の水汪然として萬象を涵す、稱して大沼と云ふ、壑中より望見すれば、小黑檜峰は北に、大黑檜峰は東に、地藏岳は南に、鈴ヶ岳は西に聳ゆ、又、荒山、鍋割山あり、地藏岳の南西に突出して直に裾野の上方を壓す、裾野は西の方利根川を劃り、東、下野の國境に亘る、平遠十數里、眞に壯觀を極む、是、赤城の上毛三山中、夙に雄大を以て天下に鳴る所以なり、前橋市より北方二里小暮村に至れば一の鳥居あり、此より四里、直立六千三百四尺の所に赤城神社あり、磐筒男命、外四神を祀る、今の神殿、幣殿及拜殿は前橋城主酒井雅樂頭の造營に係り、境内面積五千九百五十八坪を有し、北は石垣沼の神苑に接す、祠畔老檜森立して晝尙暗く、神代の遺蹤徐に人をして敬虔の念に堪へざらしむ。

大沼一名を石垣沼又は葛葉瀉と云ふ、周回里餘、山光岳色湖中に晻映し、東北に一嶼あり、小鳥ヶ島と名く、上に嚴島神社を祀る、古木欝蒼として、宛、水中に浮泛せるが如く、眞に銷夏の樂鄕として都人士の歎稱措かざる所なり、然れども三冬沍寒の時に當りては、積雪谿壑を埋め、大沼の水固く結



赤城山

赤城神社



びて、良質の氷を成す、赤城湖氷として世に知らる、山中一種の躑躅あり、初夏に至れば、巖角石層の間、猩紅淡紅相點綴して、美觀云ふべからず、杖を曳きて之を賞するもの尠からず、大沼の畔に二旗亭あり、來遊者の到るを待つ。

古毛之野綠氤氳　起伏隱然山脉分　春濤
若問靈泉奚自發、赤城霞色白根雲
鼎食何憂五鼎烹、壯圖好向八州成
探來他日雄飛處、立馬東寧睨赤城　雲井龍雄

おく山の石垣沼のうきぬ名は
深き戀路に何みたるらむ　俊成

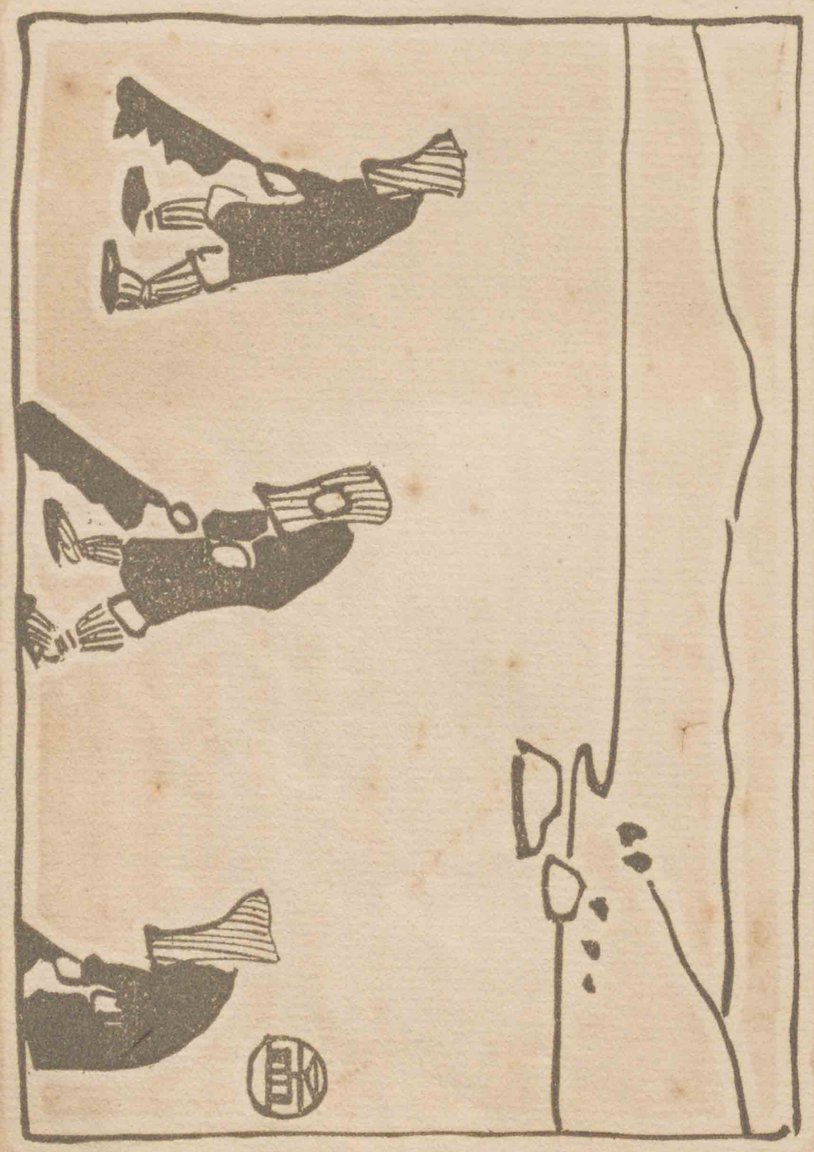
ひきすつる石垣沼のあやめ草思ひしらぬもけふにあふかな　小辨
くちねたゝ石垣沼のあやめ草うきみこもりにひく人もなし　經成

牧場　赤城山を中心として、勢多郡内に數多の牧場あり、其最、大なるものを赤城牧場となす、明治六年舊前橋藩士の共同開牧に創まり、經營者を更ふること數回、今は關口安太郎外三名の共有に歸す、距前橋市約五里、富士見村字箕輪地内赤城山の中腹に在り、面積一千百七十八町九反歩にして、山麓小暮に分場あり、前橋市北曲輪町に搾乳所を設け現在牛百

赤城興業組合赤松殖栽地

三十七頭馬、六頭を畜養せり、之に次ぎて大なるを黒保根村の黒保根牧場とす、面積三百三十一町歩にして約三百頭の牛馬を放牧す、其他眞藤原牧場、沼の窪牧場、荒山牧場及小蛇井牧場等あり。

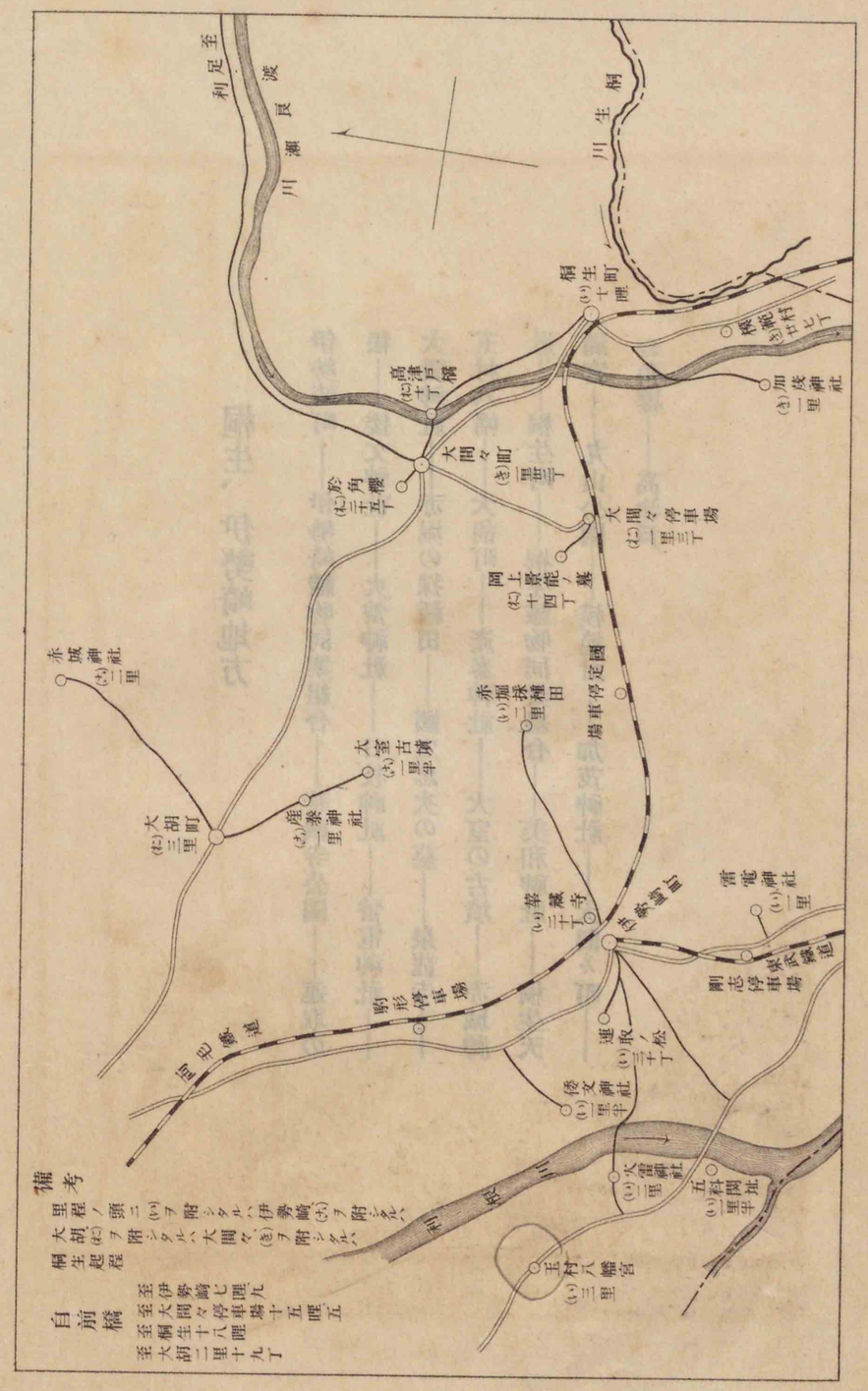
赤城興業組合　前橋市外十七ヶ町村大字百六十八より組織し、赤城山麓の御料地面積六千六百二十町歩餘を年期借地し、其約三分の二は各大字の舊入會權に比例して配當をなし、殘餘は悉、組合員をして使用せしめ、明治二十七年度より殖林事業を經營し、既に約三千五百町歩の人工造林を了し、古來廣漠たりし赤城山麓の赭山は、今や化して一大林相を見る。



赤城遊歩

桐生、伊勢崎地方

伊勢崎町——伊勢崎織物同業組合——華藏寺公園——連取の松——倭文神社——火雷神社——日枝神社——雷電神社——大國神社——赤堀の採種田——國定忠次の墓——泉龍寺——玉村八幡——大胡町——產泰神社——大室の古墳——赤城神社——桐生町——桐生織物同業組合——美和神社——桐生天滿宮——丸山公園——模範村——加茂神社——大間々町——お角櫻——高津戸



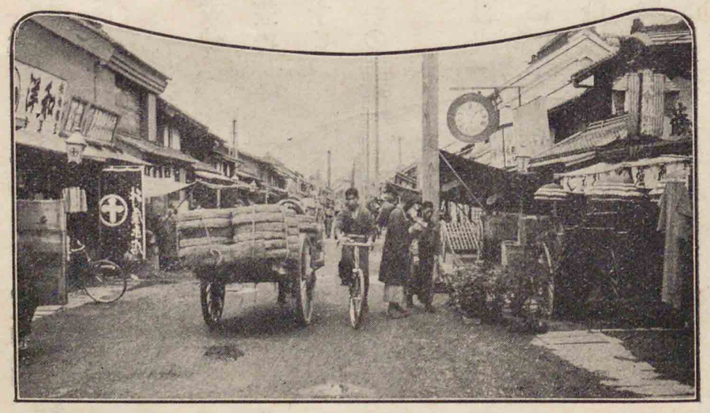
桐生、伊勢崎地方

伊勢崎町　佐波郡の中央部に位し、距前橋市三里三十二丁兩毛線に乘ずれば三十分にして到るを得べし、酒井下野守（二萬石）の舊城下にして、戸數千九百三十八、人口九千六百三十七、伊勢崎太織の產出地として夙に名あり、工業の發達に伴ひ、年を逐ふて繁盛に赴く、官公署其他主なるもの左の如し。

佐波郡役所、伊勢崎警察署、前橋區裁判所伊勢崎出張所、伊勢崎郵便局、群馬縣立工業學校、株式會社伊勢崎銀行、同群馬商業銀行、伊勢崎倉庫株式會社

伊勢崎織物同業組合　伊勢崎町に在り、近時織物檢査室を新設する等、擴張の蹟見るべきもの尠からず（上篇織物六三頁參照）

華藏寺公園（同上）　町有にして街の北方二十丁の所に在り、



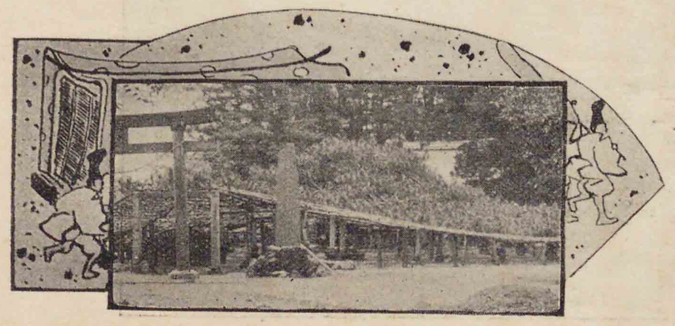
伊勢崎町

面積二萬千三百餘坪を有する天然の園林なり、小丘あり、老松鬱蒼として亂生し、幽池あり、鯉魚潑溂として波間に躍る、清淑の氣磅礴して自、塵外の趣あり、地を接して華藏寺あり、貞觀年間、天台座主智證大師垂錫の舊蹟にして、境内の風致尤、愛すべし。

連取の松（佐波郡宮郷村大字連取距伊勢崎町三十丁）　菅原神社の社頭に在り、世人之を天神の松と云ふ、其狀宛、青繖を張れるが如きを以て、またの名を笠松とも稱す、東西二十間、南北十五間、矮幹偃蹇、高、丈に過ぎずと雖、周圍も亦、丈餘に達し、翠蓋殆、地を掩はむとす、我邦名松の一に算へらる。

倭文神社（同上）　連取の松の南二十丁、大字上の宮に在り、延喜式内上野十二社の一にして、天羽槌雄の命を祀る、貞觀元年官社に列せられしこと國史に見ゆ、近く利根川を距てゝ下之宮の火雷神社に對す、古來機織の神として其名高し。

火雷神社（同郡芝根村）　倭文神社と對岸半里、大字下の宮に在り、延喜式内上野十二社の一にして、崇神帝の元年始めて火雷命を祀り、景行帝の五十七年東國の太守御諸別王幣帛を捧げらる、桓武帝の延



連取の松

曆十四年官社に列せられ、次ぎて村上帝の天曆二年詔あり、官符を下して五畿七道諸國の諸名神に奉幣あり、雨を祈らせらるゝや、本社亦官祭に與かり、後世國司赴任の後は必、國祭を行はる。

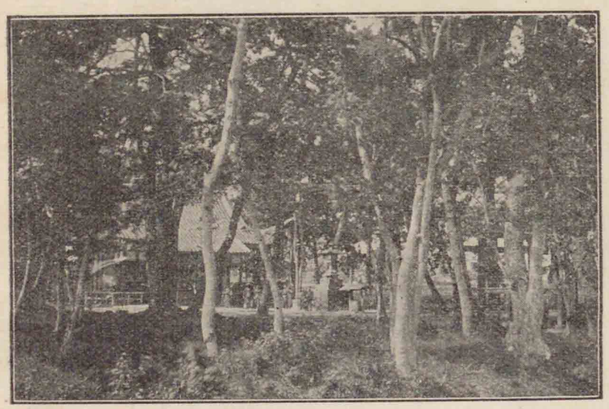
日枝神社（同郡上陽村大字山王距伊勢崎町二里）　貞觀二年始めて近江國日吉山王を遷祀し、比叡山二世慈覺大師山王七座の神を奉齋して合祀せり、嘉應元年高倉帝宣旨を賜はり、又、正親町帝元龜元年勅願院宣を賜はりし靈地なり。

雷電神社（同郡采女村大字伊與久距伊勢崎町一里）　火雷命を祀り、高龍命を配す、新田義貞鎌倉征討の兵を擧ぐる時、再建したりとの傳說に稽ふるも其舊社たるを知るに難からず、避雷保護の神として有名なり。

大國神社（同上）　大字下淵名に在り、延喜式内上野十二社の一にして、大國主命を祀る、垂仁帝九年の創建と傳へ、俗に五護宮又第五姫の宮と稱す、距今九百三十餘年、風雨不順、疫癘流行、人民艱苦夥く、朝廷爲に諸國神祇に奉幣の事あり、災害頓に止む、本社は其一なりと云ふ。

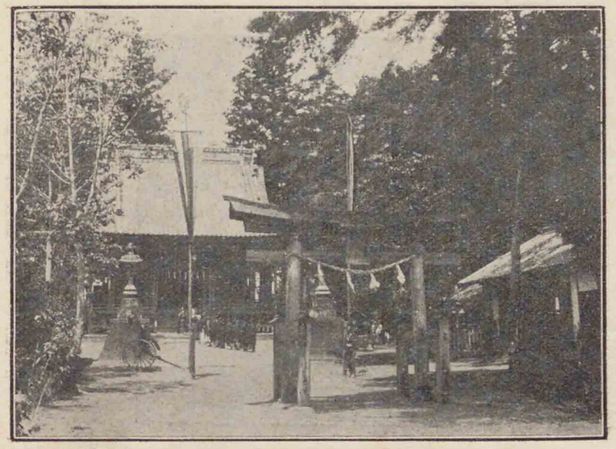
赤堀の採種田（同郡赤堀村大字西久保距伊勢崎町二里）　赤堀村農會は地方に適應

倭文神社



せる稻の種類を選定して當業者に配付し、農事の改良進歩を圖るの一助たらしむると同時に小學校高等科生徒に農業の趣味を興へ、實地と學理との調和を圖り、以て當業者に新知識を鼓吹せしむるの目的を以て、明治四十一年、時の會長茂木元始めて大字西久保同會事務所附近の地を相し、水田約五畝歩、畑地約五畝歩を區劃して之を施設し、自、監督の任に當り水田に於ては縣農事試驗場より配付されたる種子竝同村に於て選拔したる種子の試作をなし、之より穫たる種子を當業者に配布し、又、畑地に於ては大小麥作に關する各種の試驗を實施し、共に著々良好の成績を得つゝあり。

大國神社



國定忠次の墓（同郡東村大字國定距伊勢崎町一里半）　上州長脇差の本色を發揮して、其俠名を天下に謠はれたる國定忠次は姓を長岡と云ひ、國定村の農權太夫の一子なり、其性豪邁活潑、夙に任俠の風ありしも、爲す所常軌を逸し、終に刑辟に觸れ嘉永三年大戸關に磔殺されしは惜むべし、後年族親の者、一基の墓を同村養壽寺境内に建つ、香華を供へて來弔ふ者少からず。

泉龍寺（同郡名和村大字柴町距伊勢崎町一里十丁）　大同元年の創建と傳ふ、往古は玉泉寺と稱して新義眞言宗なり、應永元年大江廣元五世の孫那波宗廣、獨立無本寺と改め、禪臨濟宗となし、白崖寶生禪師を請じて開山とす、宗廣歿後、泉龍寺殿秀峰宗公大居士と號せしに因り、泉龍寺と改稱せり。

玉村八幡（同郡玉村町大字下新田距伊勢崎町三里）　譽田別命を主神とし、氣長足姫命、比咩命を配祀す、建久六年源頼朝、其臣安達盛長をして鶴ヶ岡八幡宮を勸請せしめたるものと傳ふ、爾後數回の修理を經たりと雖、現存の社殿は永正四年白井城主長尾憲景の臣吉見對馬入道の造營に係るものなり、明治四十一年八月特別保護建造物に編入せられ、同年十一月十五日　東宮殿下近衛師團の演武を閲し給ふに際り、御休憩所に充てさせらる。

玉村八幡

大胡町　勢多郡南部の小邑にして、前橋市を距ること二里十九丁、戸數六百八十四、人口四千九百十一、大胡警察署の所在地なり。

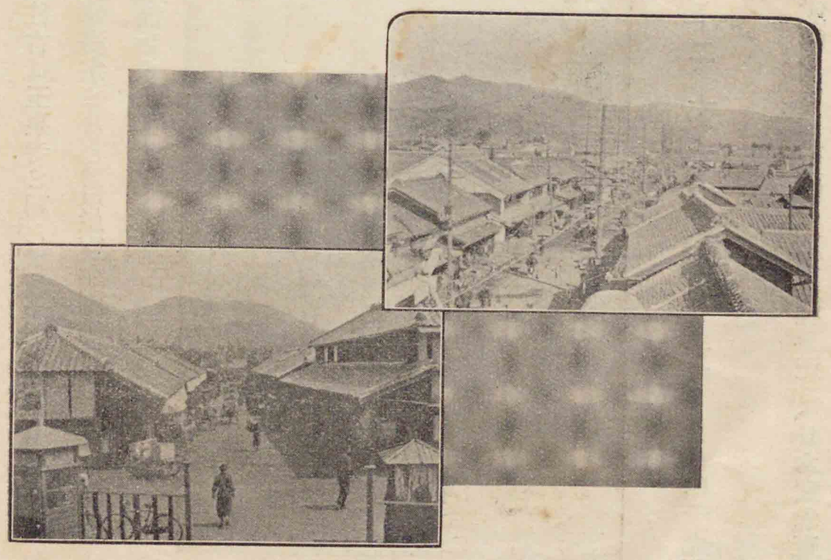
産泰神社（同郡荒砥村距大胡町一里）　木花佐久夜毘賣命　高皇産靈神、人皇産靈神、其他數柱を祀る、日本武尊東征

の日の勸請とも、又一說に履仲帝元年の創建とも傳ふ、祠宇の彫刻精巧を盡し、境内の景勝尤、佳なり、古來安產の神として信仰する者多し。

大室の古墳（同上）　產泰神社の南半里に在り、墳は東西に長く、駝背の二峰双兒井座の狀をなし、圍むに濠水を以てす、其東南の傍に一小塚あり、此邊總じて、上古御諸別王の遺址なりと傳へらる。

赤城神社（同郡宮城村大字三夜澤距大胡町二里）　縣社にして延喜式内上野十二社の一なり、古は赤城山中湖邊に在るを本宮とし、本社を里宮と稱したり。

桐生町　山田郡の中央部に位し、距前橋市七里十八丁、兩毛線伊勢崎より四十分にして達すべし、戸數四千三百三十六、人口三萬二千十、其繁華前橋高崎兩市に亞ぐ、古來桐生織物を以て名あり、工業の發達年を逐ふて著しく、商業亦繁盛を極む、



桐生織物市場

主なる官公署其の他左の如し。

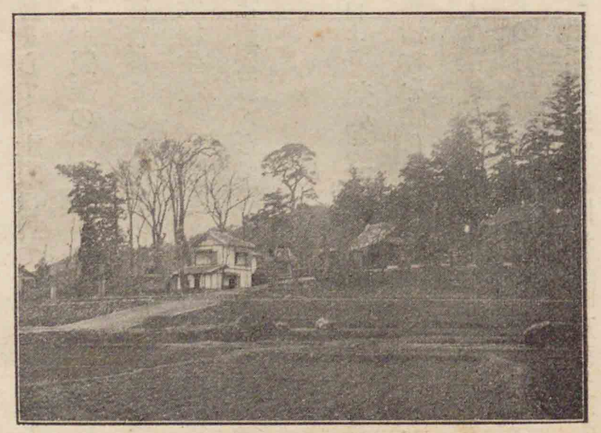
山田郡役所、桐生警察署、桐生稅務署、太田區裁判所桐生出張所、桐生郵便局、群馬縣立織物學校、山田郡立高等女學校、株式會社四十銀行、同足利銀行桐生支店、模範工場桐生撚絲株式會社、兩毛整織株式合資會社、桐生織物市場株式會社、渡良瀨水力電氣株式會社、桐生電燈合資會社

桐生織物同業組合　桐生町に在り、明治四十一年、事務所を新築して陳列室、輸出織物檢査室を設く、其設備の完全せる、同業組合中罕に覩る所なり。（上篇機織六〇頁參照）

美和神社（同上）　町の西北部桐生ヶ岡に在り、往古切蒲ヶ岡と稱す、延喜式内上野十二社の一にして、大物主命を祀る、磯城瑞垣宮の御代の創建なりと傳へらる。

あさまたきぎりふの岡にたつきしは千代の日嗣の初なりけり　元輔

桐生天滿宮（同上）　町の稍〻北端字宮原に在り、東に桐生川の清流を控え、西に吾妻、岩城戸、物見諸山の積翠に對す、境内古木鬱蒼として自、塵を絕ち、神苑の風致殊に佳なり、上古御諸別王の上毛國造として治を致すの時、土師部氏人をして遠祖天穗日命を郡の磯部の岡に勸請せしめたるを起原とす、中世桐生國綱今の所に遷し、北野天滿宮の分靈を合祀し、桐生天滿宮と改稱す、爾來桐生領五十四ヶ村の總鎭守たり、菅公



美和神社

桐生天滿宮

自作の座像を神體とす、德川家康深く崇敬して祈願所とし、慶長五年關ヶ原の役起るに及び、平岩親吉をして代りて戰捷を同社に祈らしめ、且、氏子五十四ヶ村をして、社頭に於て軍旗に供する絹帛を獻ぜしむ、凱旋の後之を德とし、永久繇役を免す、鄕人亦吉例として絹帛の市場を境内に開くに至れり、是、桐生織物の名聲を今日に博せる基因なりとす、宮殿宏壯にして彫刻の精巧なる日光に亞ぐと稱す。

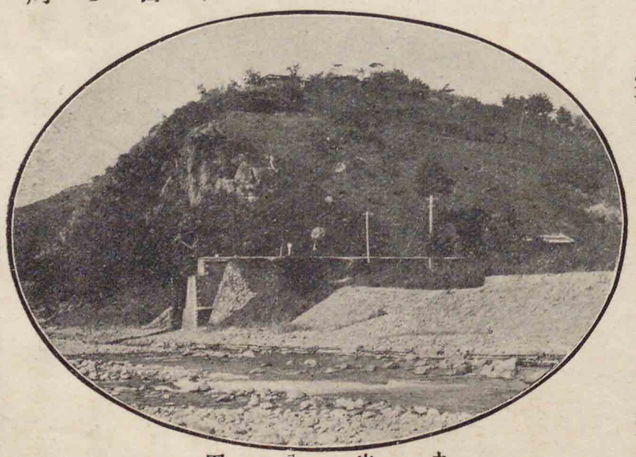
丸山公園（同上） 郊外約五丁の丘陵上に在り、直立三十丈、雜樹林を成し、渡良瀨川其西を流る、展望開豁にして登臨の好地なり、明治三十五年六月東宮殿下の行啓を辱うしたる所なり。

模範村 山田郡境野村は距桐生町東南二十七丁、戸數五百九十、人口三千八百十一、村内協同一致極めて平和にして自治の績能く擧がり、縣下の模

村と稱せらる、明治四十二年十一月三日知事より自治旗を授與して以て旌表せらる、父兄總代會、青年夜學會、報德學會、養老會等あり、皆自治體の向上發展に資する所尠からず、明治四十三年内務省より奬勵金五百圓を下附せられたり。

加茂神社（同郡廣澤村距桐生町一里） 延喜式内上野十二社の一にして、別雷命を祀る、寛治年間源義家の藤原家衡、武衡兄弟征討の途に上るに際し戰捷を社前に祈り、凱旋の後、參殿して神樂を奏せしと傳へらるゝ古址今尚存す。

大間々町 山田郡の北端に位し、距桐生町西一里三十二丁、兩毛線に乘じ、十五分にして大間々停車場に到る、更に停車場より一里、馬車、人力車の便あり、戸數九百八十八、人口五千八百十五、足尾街道の要衝にして、又繭絲の集散地たり、足尾銅山は自是北方十里の所、下野國上都賀郡足尾町に在り、渡良瀨川上流の西岸に位す、居民皆鑛坑に因りて生を營む、山中方四里、峰巒周匝、通路は大間々より花輪を經て往くものを南道とし、細尾を經て日光に出づるを北道とす、此間六里、鑛業は明治初年より古河家の經營に係る、南道を貫通する足尾鐵道は實測既に了り、鐵道の敷設將に近



丸山公園

きにあらむとす、完成の曉には兩地間の交通一層便利を加へ、其發展更に矚目すべきものあらむ。

お角櫻（勢多郡新里村距大間々町五丁）　字藤生澤の一農家に垂枝の老櫻樹あり、高五丈、周圍三丈餘、艶陽三月滿開の候、遠く望めば紅帷を張るが如く、近きて視れば花神の春野に舞ふに似たり、其美觀筆舌に絶す、距今六百年前少婦お角なるもの〻手植に係る、因りて此名あり。

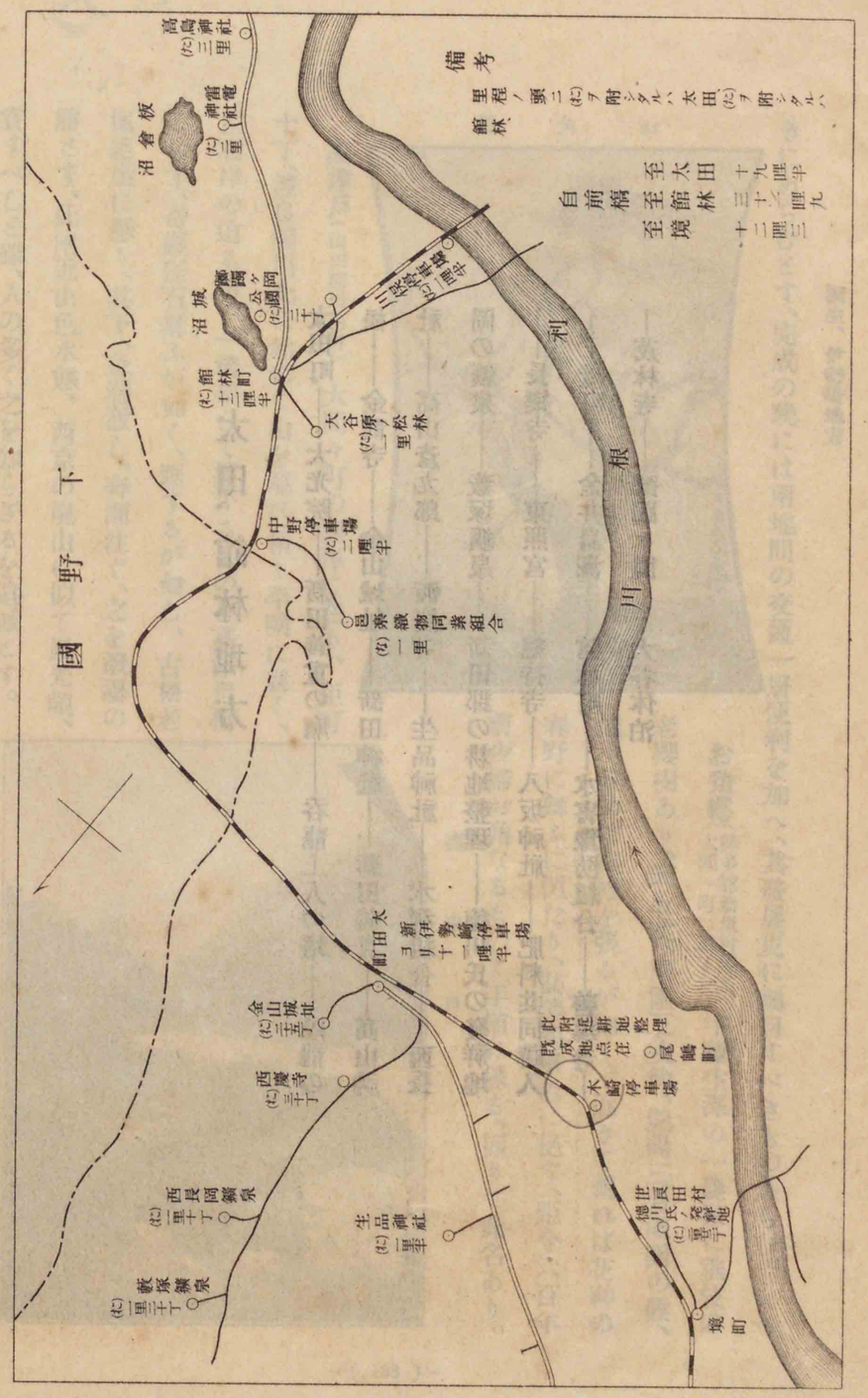
お角櫻

高津戸（山田郡川内村）　大間々町の對岸に在り、距町十丁、渡良瀨川此に始めて山を離れ、稍〻平曠に就く、左右岸の迫る所、一橋架して通ずるものを高津戸橋となす、奇巖怪石舞ふが如く、踞するが如し、古松老楓絶崖に懸り、其下、急湍激し、奔瀨注ぐ、之を潑瀑の勝とす、此附近山色水態、西京の嵐山に似て風光頗、賞すべしと雖、人の多く之を知らざるを遺憾とす。

高津戸

太田、館林地方

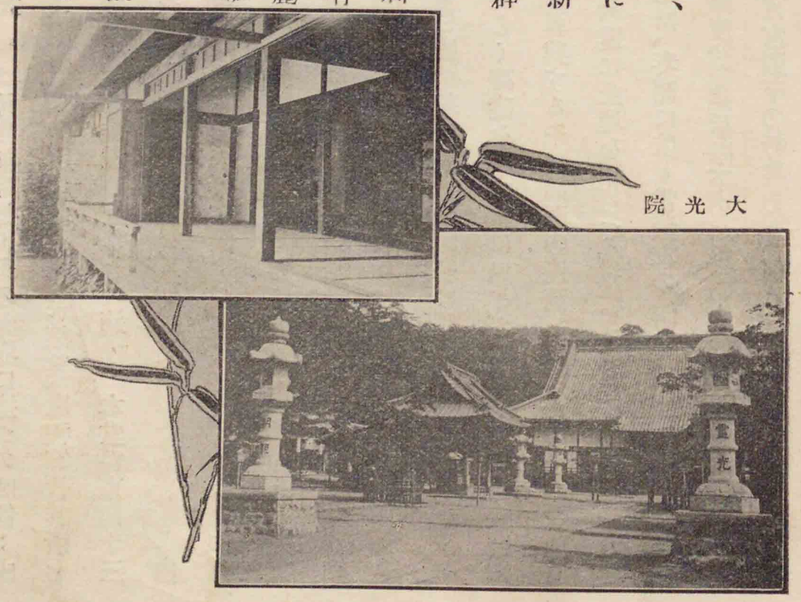
太田町——大光院——新田義重の廟——呑龍上人の塔——臥龍の松——金龍寺——金山城址——新田神社——新田義貞——高山神社——高山彦九郎——西慶寺——生品神社——水利組合——西長岡の鑛泉——藪塚鑛泉——新田郡の耕地整理——德川氏の發祥地——長樂寺——東照宮——總持寺——八坂神社——肥料共同購入——境町——金井烏洲——館林町——水害豫防組合——善導寺——茂林寺——躑躅ヶ岡——大谷休泊



太田、館林地方

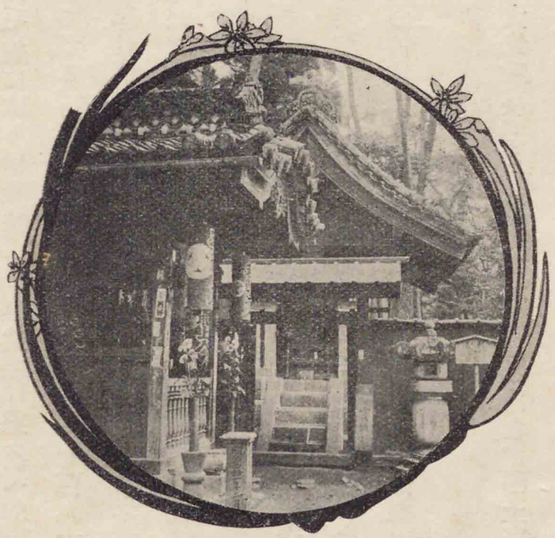
太田町　新田郡の東端に位し、距前橋市八里三十丁、兩毛線に依り伊勢崎にて東武線に乘換へ約三十分にして到る、戸數八百九十五、人口四千七百九十七、新田郡役所、太田警察署、太田區裁判所、太田郵便局、群馬縣立太田中學校、株式會社新田銀行の所在地なり、其他、靈蹤遺蹟の探尋すべきもの多きと、交通の便利なるとを以て來遊の士女常に蝟集す、明治四十二年有志者相謀り、讌宴集會の座席に充てむが爲、金山の麓に公會堂を建て、城見館と名く、又本町偉觀の一をなす。

大光院（太田町）　義重山新田寺と稱し、淨土宗鎮西派の巨刹にして、金山の西南麓に位す、町の北方に入ること數町、途の兩側に古松老杉の亭立するあり、鶴見、


同御座所　大光院

下馬の二橋を過ぎり、漸にして吉祥門より境内に至る、門は元和年間徳川氏の大坂に捷つの時偶〻成る、但、門扉の工を缺く、今尚依然工を加へず、境内本堂、開山堂、廟所、鐘楼、水屋、額堂、庫裡等皆其所を得、小堂、小社亦排置の宜しきに適す、本堂は東西十三間、南北十一間半、棟梁、材を擇み、築造、工を盡せり、内陣正面に阿彌陀如來の立像、右に東照宮の位牌、左に徳川家歴代の位牌を安置す、別に大方丈に神殿あり、東照(家康)台徳(秀忠)大光(義重)三公の木像を祀り、開山堂には開山呑龍上人手作の木像を安置す、草創未、詳ならずと雖、新田義重の開基に係り、後二百七十餘年間、空しく殘礎を存するに過ぎざりしが、徳川家康の源家を再興するや、始祖の遺蹟を探尋して冥福を祈らむとし、遂に此地を相して伽藍を建つ、于時慶長十八年勅願所の綸旨を辱うす、降りて明治十八年同十九年の兩度、皇后陛下の行啓あり、同二十一年同二十二年の二回　英照皇太后陛下の行啓あり、同二十五年　東宮殿下の行啓あり、何れも小方丈を御休憩所に

新田義重の廟



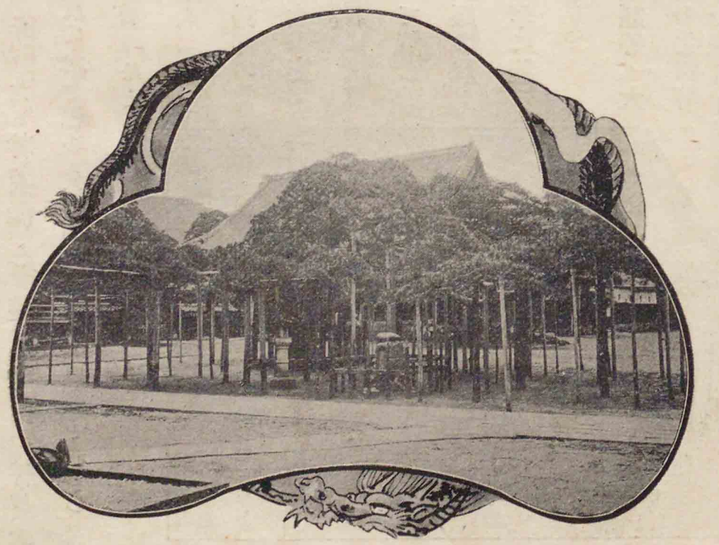
なり、於是呑龍上人を延きて開山とす、二代將軍秀忠の時、奏聞に依り常紫衣の綸命を賜はり、明治二年充てさせらる、本院の光榮之に過ぎず、境内靈區多し、今其主なるものを擧げむ。

新田義重の廟　本堂の西に位置せる御廟山に在り、老樹鬱蒼の間、石壇縱横の所に堂宇を存す、内に五輪塔を納む、高五尺三寸、蒼然たる古色自、六百年前のものたるを語るが如く、廟前に二基の石燈籠あり、一は延寶二年阿部正能、他は元祿十一年酒井忠寛の寄進に係る。

呑龍上人の塔　廟南に無縫塔あり、呑龍上人示寂の際、遺言して此所に葬らしめたるものなりと傳ふ。

臥龍松　本堂と鐘樓との中間に在り、翠色長へに濃に操守愈〻堅し、其蟠屈の狀宛、蛟龍の臥するに似たり。

其他甘露水、舞雩池、不鳴池、御所柿等今に奇を傳ふ、寺寶頗多く、新田義重の願文及手作の騎馬八幡の像、安阿彌、運慶、惠心作の佛像、呑龍上人手刻像、大藏一覽等を始め、古文書畫枚擧に遑あらず、就中珍中の珍なる



臥龍松

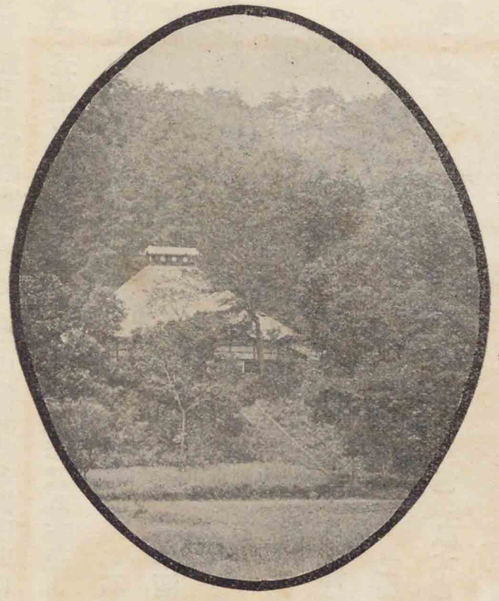
太田、館林地方

ものは葵葉形の松にして、往昔義重廟畔に在りし松樹の折れたる幹を截斷して獲たるもの、幹身、半、朽ちて空虛となり、其自然に葵葉の形を成し、而も樹皮の之を包めるが如きは洵に奇と謂ふべし。

千代かけて契りこめたる松からやあひに葵の御代の榮えを

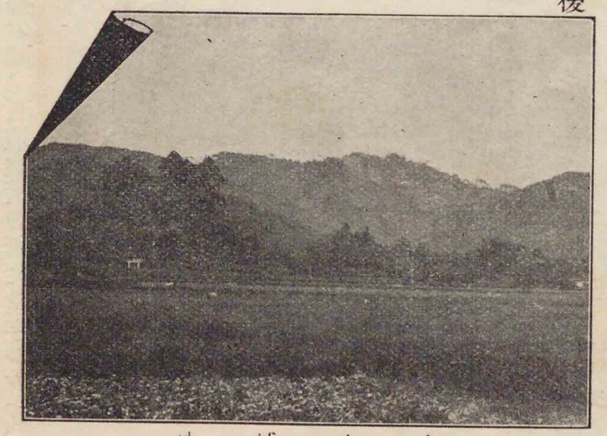
白河樂翁

毎年四月八日、八月八日開山忌の法要を營むを例とす、其前後四方渇仰の善男善女來賽する者日に數萬を以て算し、其般賑の狀、地方罕に觀る所なり。

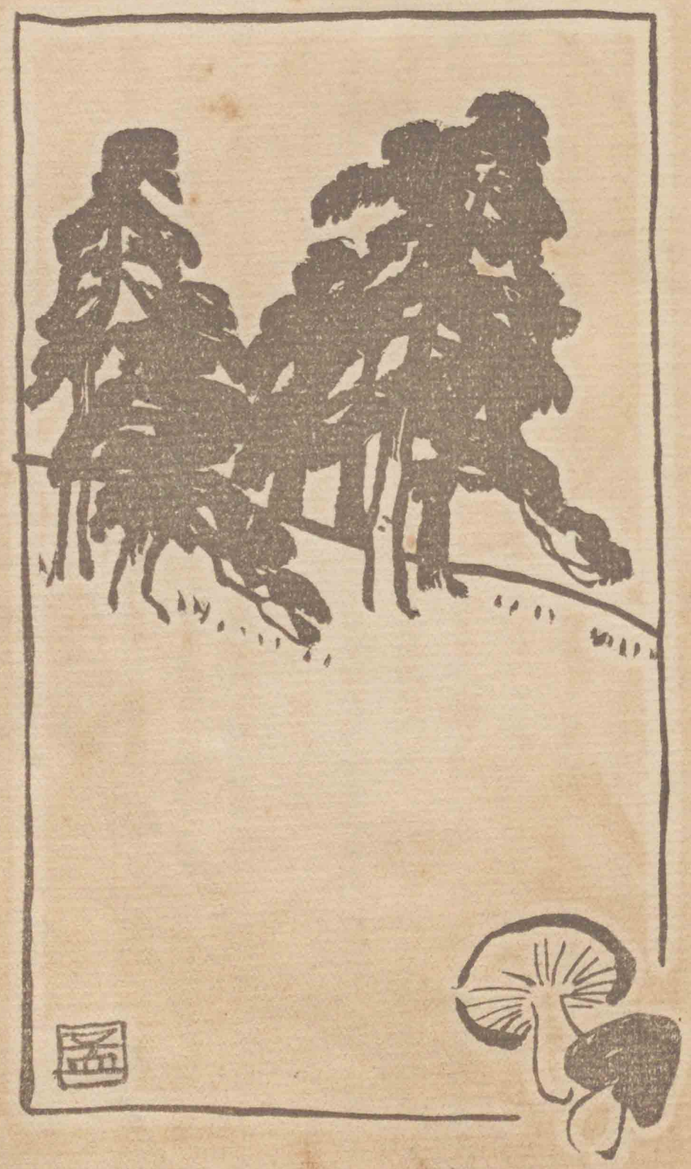


金龍寺

金龍寺 大光院の北四町、字天水に在り、應永二十四年横瀨貞氏の開基せる曹洞宗の古刹なり、寺内に新田義貞の木像を藏し、堂後に五輪



金山城址



太田金山の松葺

の寶塔あり、高八尺、表に延元三戊寅年閏七月二日、金龍寺殿正四位下左近衛中將眞山了悟大禪定門の三十二字を刻す、是即、南朝の忠臣左中將新田義貞の墓碑なりとす。

金山城址　太田町の北に在り、古、新田山と稱し、滿山松樹亂生す、其頂上、實城と稱する所を金山城址とす、藤原秀實の後裔蘭田成實始めて城を此に築く、蘭田氏亡び、新田義兼の居城となり、後七世義貞に至る、新田氏の衰ふるや、其族岩松氏之に居り、東上州の屋形と稱せらる、岩松氏敗れ、横瀨氏代り居ること數世、天正十八年に至りて城廢す、明治四十二年十一月六日學習院生徒修學旅行に際し、皇孫迪宮、淳宮兩殿下、特に御登臨の光榮を垂れさせ給ふ、此山古來松茸を產するを以て其名高く、幕府時代より獻上の例あり、維新後御料地となるに及び、九重亦其產を召させらるゝやに承る。

爾比多夜麻ねにはつかなゝわにそよりはしなるこらしあやにかなしも
つけやらは妹やとかめむにひた山岩根の枕たれにかはすと

萬葉集　家隆

新田神社　金山山頂は直立實に一千二百五十尺、眼を放てば數國の山川、歷々として一眸の中に集まり、展望最宏濶を極む、縣社新田神社此にあり、左中將新田義貞を祀る、明治六年八月新に祠宇を建つるの許を得、越へて同八年三月工を竣り、新田神社の社號を授けらる、祠貌千秋に儼乎たり。

維昔鎌倉古障堡。新田猛將自此道。相陽猶餘十萬兵。守隘無地虛可擣。
稻崎廻岸海水高。旌旗閃閃通洲島。三軍義烈泣鬼神。大將沈璧爲禱。
須臾廣折退潮乾。海變滄田破天造。前隊已聞拔郊壘。殺傷積崇如獲雉。
攙搶暴出相山搖。海瀣顚倒大鯨死。君不見古來戰場流血鹵。今日主客皆黃土。
黃土空埋蒼精龍。波洗尺鐵無全鋒。洲砂漠漠行人望。只有當年老孤松。

太田、館林　方　　南郭

義貞乃上書曰。嚮者。當天下大亂。乘輿播遷。楠正成等豪傑竝起。相共勤王。而足利尊氏首鼠兩端。觀望勝敗。自非賊軍失利。蓋不肯降也。功微賞多。遂冀非望。害臣之忠義。欲詭言陷之。臣以五月八日。起兵上野。彼以其七日佐攻六波羅。而曰臣擅京師復乃肯起兵。以欺罔天聽。其罪一也（中略）此八罪者天地所不容。措而不論。百敗將隨而至。後噬臍無及。願陛下照鑒之。速下明詔。以誅伐尊氏兄弟。（日本外史）

高山神社　金山の麓天神山に在り、高山正之を祀る、明治十一年三月の創建に係る、社域森嚴にして偉人を咫尺に髣髴し、肅然として襟を正さしむ。

新田神社

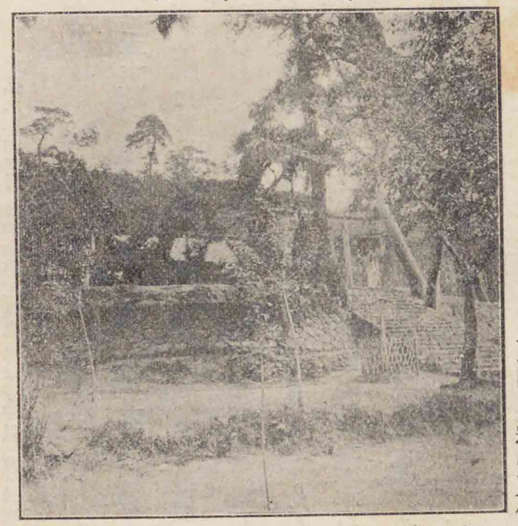
高山彦九郎　名は正之、字は仲繩、今の新田郡澤野村大字細谷の産、幼にして孤、祖母に鞠はる、祖母の歿するや、正之廬を墓側に結び心喪

新田義貞

源義家ノ後裔ニシテ、上野新田郡ニ生ル、初、北條氏ニ從ヒ、楠氏ヲ千劔破ニ攻ム、義貞私ニ謂ヘラク、源家ノ統、代々平氏ヲ制シテ王家ヲ守護ス、千秋、斯道ニ渝アルヘカラス、吾不肖ナリト雖、身ヲ源氏ノ胄裔ニ列ス、焉ソ北條輩ノ驅使ニ甘シテ父祖ノ名ヲ汚サンヤト、乃、護良親王ノ令旨ヲ奉シテ國ニ歸リ、義旗ヲ生品神社ノ祠前ニ擧ケ、直ニ兵ヲ進メテ鎌倉ニ高時ヲ滅ス、史家、義貞ヲ以テ建武中興ノ忠臣ナリト爲ス、夫、洵ニ謂アリト謂フヘシ、後、足利尊氏叛スルニ及ヒ、義貞大命ヲ奉シテ之ヲ討伐ス、各地ニ戰フテ利アラス、遂ニ越前國藤島ニ討死ス、時ニ年三十八、實ニ延元三年ノコトナリトス、明治八年居城ノ址、金山ニ祠ヲ建テ、之ヲ祀ル、新田神社卽是ナリ、明治十五年正一位ヲ追贈セラル

に服すること三年、常に皇室の式微を慨し、將に大に爲す所あらむとす、始めて京師に遊び三條大橋を過ぐるや橋上に跪座し、遙に皇居を拜して草莽の臣高山彦九郎と云ふ、行人見て以て狂となす、正之顧みず、爾後各地を歷遊し、到處士氣を鼓舞し、勤王の大義を唱ふ、事幕府の忌諱に觸る、遂に爲すべからざるを知り、筑後國久留米に屠腹す、時に寛政五年なり、享年四十九、明治十一年正四位を追贈せらる。

高山神社



高山彦九郎肖像

同筆蹟

世の中はとにもかくにも天地のかわらぬ道を仰くはかりそ　正之
精忠純孝冠群倫。豪毅風姿雖盡眞。小流膽驚何足怪。回天創業是斯人。　南洲
慷慨滿腔無等倫。三條橋上拜楓宸。當時誰辨知名義。正是勤王第一人。　春嶽

正慶寺（新田郡馬之郷村）　距太田町三十丁、眞言宗にして、大同二年勝道上人の創建する所たり、新田義重の遺物及新田義貞自賛の畫像を藏す、賛に曰く、

元弘二年四月三日、命畫工寫眞投故寺、以聊補後來　新田義貞
數ならぬ名のみかは又うつしをくかおなき影の後もはつかし

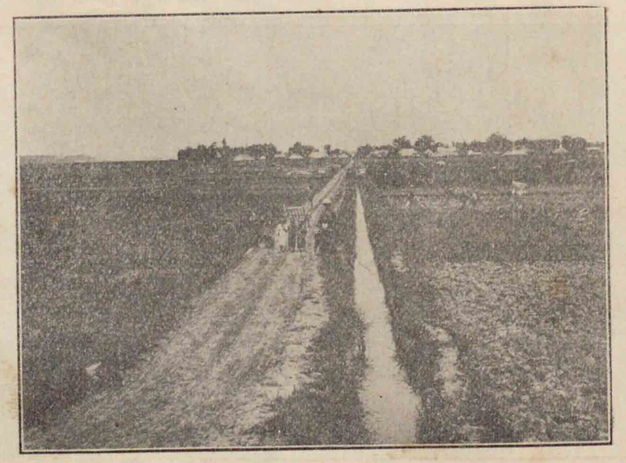
生品神社（同郡生品村距太田町一里半）　大已貴命を祀る、創建未、詳ならずと雖、元弘三年五月八日、新田義貞其一族郎黨百五十騎を率ゐ、大塔宮護良親王の令旨を奉じて鎌倉討伐の義旗を生品社頭に擧げたること正史に載する所たり、荒寥たる小祠、轉〻當年を追想せしむ、明治四十一年十一月十九日　東宮殿下境内に御休憩あらせらる、義貞の進むで陣したる笠懸野は里餘の地に在り。（上篇沿革三頁參照）

水利組合　新田郡に水利組合二あり、一を待、矢場兩堰普通水利組合とし、新田郡長之を管理す、明治二十六年二月の設立に係り、渡良瀬川の流水を引入れ、灌漑に供す、組合區域新田、山田、邑樂三郡に跨り、灌漑總反別四千百十一町歩、縣下に於ける水利組合中最大なるものとす、他の一は岡登堰普通水利組合なり、寛文四年幕府の代官岡上次郎兵衞景能、陣屋を舊、鹿の川に置き、土を開き、民を植うること年あり、遂に新田郡笠懸の原野を開墾し、今の山田郡相生村大字蕪町より新渠を鑿して渡良瀬川を引き、縱横分流灌漑に便したるもの即是なり、貞享四年、景能罪寃を嘲みて自裁す、寶暦二年村民藪塚本町に一小祠を建てゝ之を祀り、岡登靈神と稱す、後、岡上神社と改む、關係十八ヶ町村の民、今に至るまで祀を絶たず、明治十七年九月、官之を追賞す。

西長岡の鑛泉（新田郡强戸村距太田町一里十丁）　文德帝の皇子惟喬親王の舊蹟にして俗に御所山と稱し、鑛泉は其麓より湧出す、土地幽邃にして靜養に適せり、浴舍は僅に一戸なれども、設備稍〻整頓し、近時來浴する者漸次多きを加ふ、附近に御腰掛の岩、御所櫻、御影の井等の舊蹟あり。

藪塚鑛泉（同郡藪塚本町）　東武鐵道よりせば太田停車場に下車して一里二十丁、人力車の便に依るべし、鑛泉の湧出するところは土地閑雅幽邃にして其上に温泉神社あり、南方に湯前山と稱する曹洞宗の古刹あり、浴客年と共に增加す。

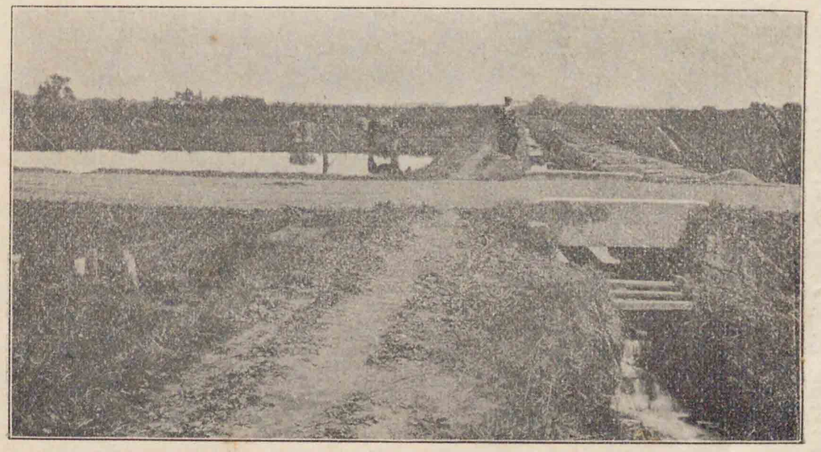
新田郡の耕地整理　本縣に於て耕地整理の最進捗したるは新田郡を第一となす、其面積幾、管内の半に達す、由來同郡に於ける農業は著しく發達し、有志先進者の如き、屢〻四方の視察を遂げ、範となすに足るものは、直に採りて實行に力め、成績の見るべきもの尠からざりしも、明治三十三年耕地整理法發布の當時、耕地整理は農業



花香塚の耕地整理

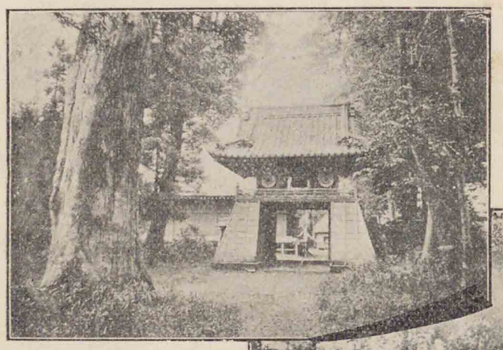
の一大變革にして、經驗なき新事業の結果如何を顧慮し、容易に企業を敢てするものなし、於是乎、綿打村大字上江田、毛呂佳太郎等之を慨し、奮ひて百難を排し、最初、僅に十二町歩餘の地を選み、翌三十四年耕地整理を發起し、同三十六年秋工事を完了す、而して同三十五年秋、同村大字花香塚、正田盛作は二町六反歩、九合村大字飯塚、中庭仙十郎は一町五反歩の各自所有地を獨力整理を行ひたり、其結果の良好なる大に模範となすべきものあり、爰に機運は勃興して、企業者の續出を見るに至れり、明治四十二年末までに工事を完了したるもの、面積實に一千五百六十餘歩町、二十六ヶ所にして、現に施行中のもの、面積千百七十餘町歩、九ヶ所、施行手續中のもの面積約六百六十町歩、五ヶ所にして全部耕地の半に出づ。

德川氏の發祥地（同郡世良田村距太田町二里二十二丁）　世良田村は西、佐波郡境町に接し、南の方、利根川に至る、實に德川氏の發祥地にして、有名なる長樂寺、總持寺、祇園祠、東照宮等今尚存在す。

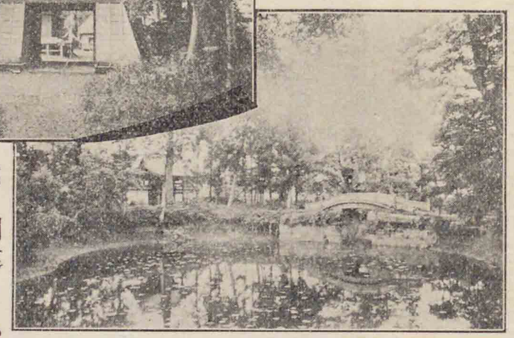


大根の耕地整理

長樂寺　承久三年後鳥羽上皇の勅願に係り、德川氏の始祖次郎義季伽藍を創建して世良田山長樂寺と號す、僧榮朝開祖の禪苑なり、永正十七年後柏原帝より宣旨勅印を賜はる、寛永年間德川幕府天海僧正をして中興せしむ、自是天台宗となる、寺宇の中、開山堂、勅使門、鐘樓門は德川初代に本堂、庫裡、表門、大師堂、寶藏は同十代の頃に造營したるものと傳へらる、後鳥羽帝より渡月橋の勅額を賜はりし大皷形の石矼は勅使門の小池に架す、寺寶として御宸筆、古文書畫、名器數百點を有し、皆獲易からざるの珍なり。



長樂寺大皷門



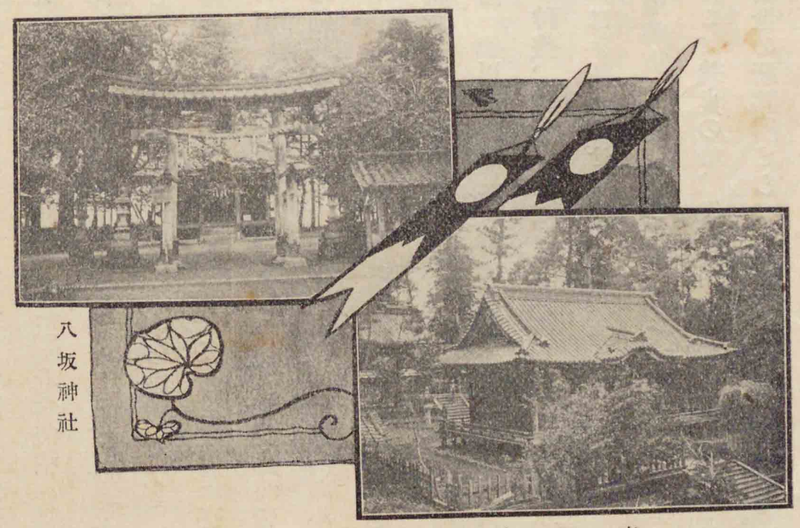
同渡月橋

東照宮　德川幕府の長樂寺中興後、寛永二十一年、寺內に創建して、日光山より神體、神寶、社殿を遷したる所とす、後水尾帝爲に勅額を賜ひ、大刀一口を納めさせらる。

總持寺　文永年間、新田義重一宇の梵舍を建立して館の坊と稱し、寺を眞光寺と號したるに創まる、義貞の時、僧慶範開山たり、二世に至り、總持寺と改稱す、新田氏累世の祈願所として、義貞の木像を藏す。

八坂神社　往時は祇園祠と云ひ、素盞嗚尊を祀る、境内廣濶なり、口碑の傳ふる所によれば世良田氏の一族、後醍醐帝の皇孫良王君の舊緣に依り、請ふて尾張國津島より分靈したるものなりと、世良田の天王と稱して今尚崇敬せらる。

肥料共同購入（佐波郡豐受村）　本村は距世良田半里、由來農家の肥料に對する知識幼稚にして、極めて不經濟なる肥料を購入したる結果、逐年資金の不足を告ぐると共に、往々肥料の配合を誤り、收穫の減少を來し、其損害の多大なるものありしを以て、農會は是が救濟の策として、明治四十年始めて肥料共同購買を實行し、其利益の幾分を割きて共同蓄積をなし、以て肥料資金の增殖を圖り、爾來繼續三ヶ年に及び、金額一千餘圓に達したり、而して共同購入の方法は一般の共同購入と其趣を異にし、購入すべき肥料は仔細に市價と成分相當價とを比較し、最



八坂神社

東照宮

廉價なるものを選擇するは勿論、更に縣農事試驗場の指導に基き、作物風土の關係に鑑みて配合施用するを以て、農家は啻に廉價なる肥料を購入し得るのみならず、延きて、收穫を增加し、不知不識の間に肥料資金の蓄積を見る等、實行日尚淺しと雖、其成績顯著なるものあり、漸次他地方に於ても之に倣ふものあるを見るに至れり。

金井烏洲筆維摩居士像（前橋龍海院所藏）

境町　距世良田二十町、佐波郡の東南隅に位し、東京街道の沿ふ、戸數六百四十、人口三千二百十四、境警察分署、境郵便局、佐波新田繭絲同業組合あり、古來繭絲の集散地として名あり、東武鐵道の開通以來益〻發展の機運に向ふ。

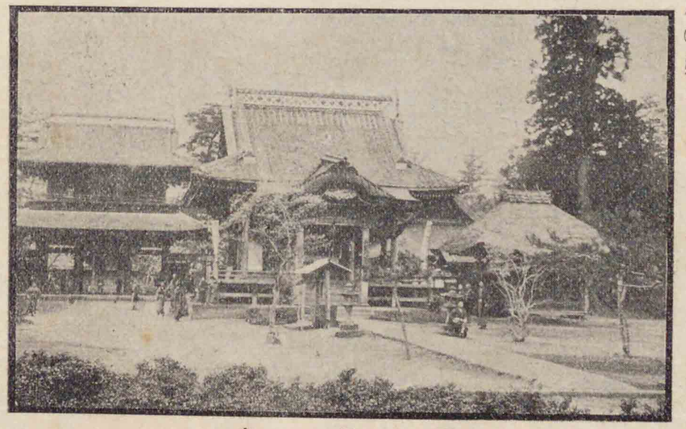
金井烏洲　今の佐波郡島村の人、畫を能くす、最山水に巧なり、當時奥州に菅井梅關あり、畫名又高し、梅關會〻上毛に遊び烏洲と相往來し、交甚深し、某者烏洲に問ふて曰く、吾子と梅關と技孰れか優る、答へて曰く我なりと、某者又梅關に問ふて曰く、吾子と烏洲と技熟れか優る、答へて曰く我なりと、二子に對し告ぐるに此言を以てす、三人、相與に哄然大笑せりと云ふ、烏洲弘化元年を以て歿す、年六十一。

館林町　邑樂郡の中央部に位し、太田町より東武線に乗ずれば三十五分にして到る、秋元但馬守（六萬石）の舊城下なり、戸數千九百六十六、人口一萬千三百九十七、東武鐵道全通以來交通愈〻便利を加へ、商工業爲に著しき發達を見るに至れり、主なる官公署其他左の如し。

邑樂郡役所、館林警察署、館林稅務署、太田區裁判所館林出張所、太田中學校
邑樂分校、株式會社館林貯蓄銀行、同四十銀行館林支店、同足利銀行館林支店、
上毛モスリン株式會社、日清製粉株式會社館林工場

水害豫防組合　邑樂郡は南に利根川を控へ、北に渡良瀬川を繞らす、加之土地卑濕にして板倉沼、城沼、近藤沼、多々良沼等各所に散在するを以て、年々多少の水害を被り、甚しきは、收穫の皆無に歸することあり、渡良瀬川沿岸十ヶ町村の住民之を憂ひ豫防の目的を以て、明治四十一年十月渡良瀬川水害豫防組合を設立し、事務所を邑樂郡役所内に置き、邑樂郡長之を管理す、明治四十三年度金一萬千六百九十三圓餘の豫算を計上せらる。

善導寺（館林町）　淨土宗にして字谷越町に在り、傳へ云ふ、和銅年間行基結庵の所なりと、後宇多帝の建治年間淨土三世良忠



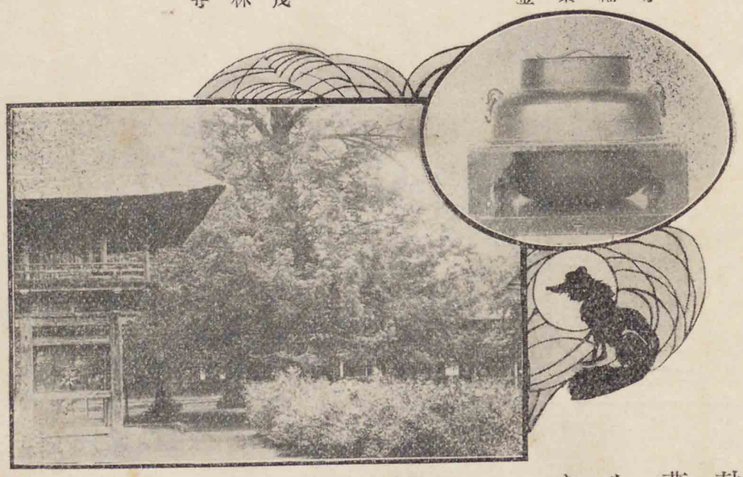
善導寺

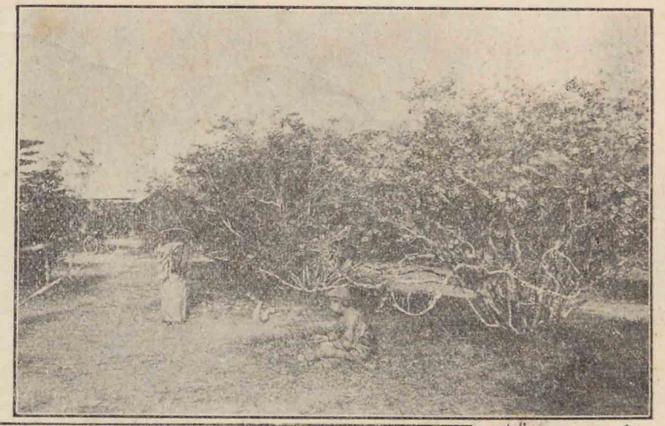
勅を奉じて武藏に來るや、其弟良曉道場を此地に再建して伽藍とし、善導寺を移して香花寺とせり、後、德川家康十八檀林を選ぶに及び、其一に加ふ、寺寶中有名なるは『鏡御影』と稱する家康衣冠の畫像なり、英氣橫溢其人を仰ぐの概あり。

茂林寺（邑樂郡六郷村距館林町一里）　青龍山と號し、分福茶釜を以て有名なる禪苑なり、應永三十三年大林正通の開基にして、寺寶中上杉謙信寄進の明人舜擧の牡丹竝唐寅の山水二幅は共に其尤なるものたり。

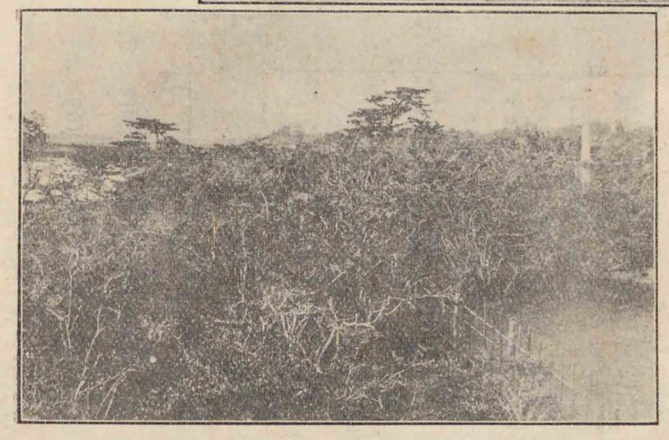
躑躅ヶ岡公園（同郡赤羽村距館林二十丁）　躑躅ヶ崎又は花山と稱し、古より躑躅を以て名あり、俗に館林宰相綱吉遺愛の種と傳ふ、明治十九年五月十日　英照皇太后、皇后兩陛下行啓あらせられ、爾來其名益〻著る、園は元、藩有より民有に移り、一時荒廢に歸せむとせるを、今は郡有として專、名勝の保存に力め、改めて躑躅ヶ岡公園と稱す、面積五千百五十餘坪、東西に長く、北岸一帶城沼に枕み、東南は劃するに桃林を以てす、滿園殆、躑躅ならざるはなく、其數約千株、

分福茶釜　茂林寺





躑躅ヶ岡公園（其一）



同（其二）

大は丈餘、小亦尋を下らず、一株叢生數十幹に及び、蘚苔に封ぜられ古色蒼然たり、花時に至れば滿園の猩紅將に燃るんとし、漾々たる城沼の波紋と相晻映す、其美云ふべからず、假山あり、亭榭あり、展望最佳なり、東武鐵道開通以來花時京濱より來遊する者日に數萬の多きを以て算するに至る。

しばらくは花の色なる月夜かな　芭蕉
扇透く空やつゝしの三四月　眞路

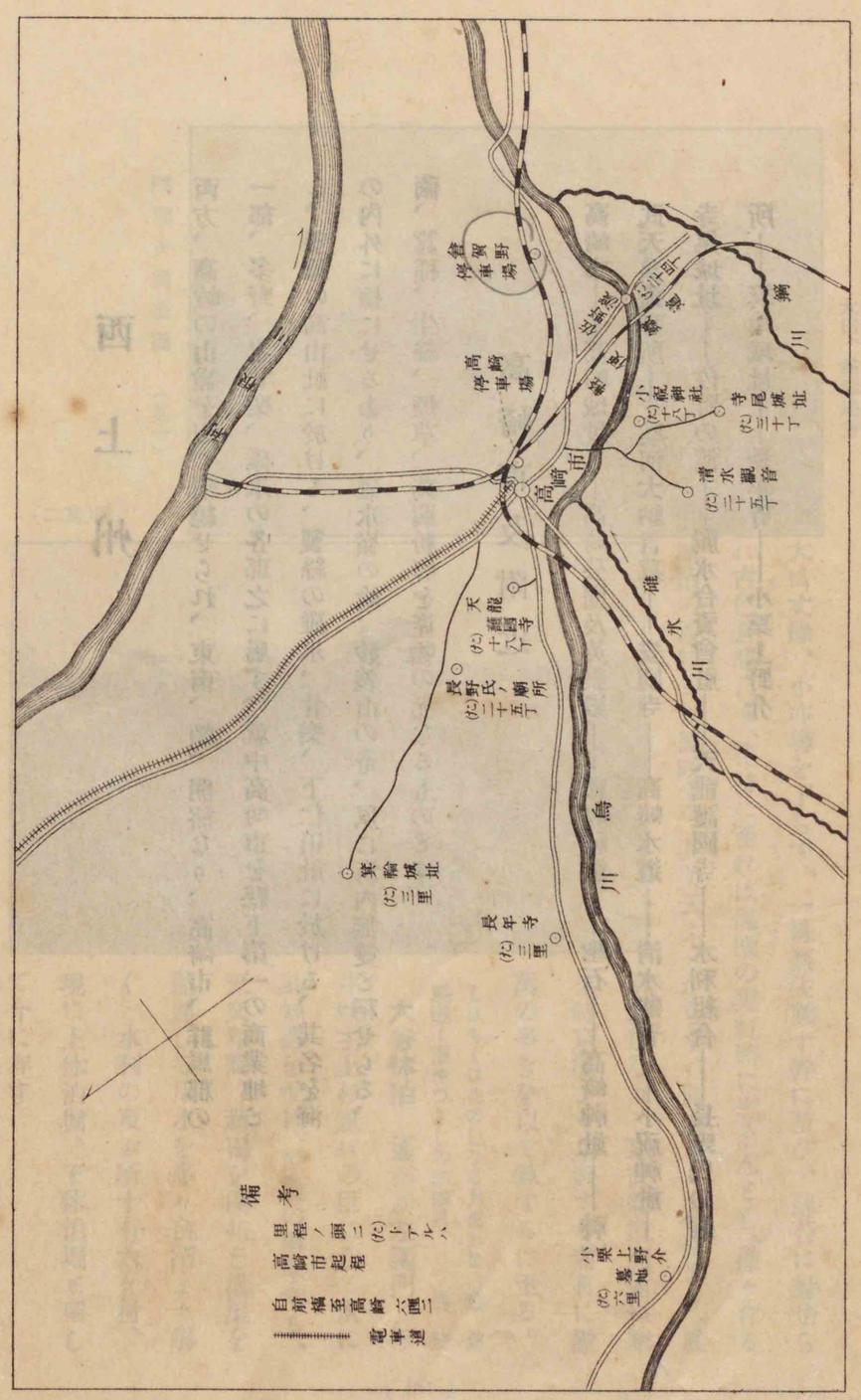
大谷休泊　通稱新左衛門、平井城主上杉憲政の臣にして夙に其知遇を受け、勸農の事を掌る、天文年間、新田を開拓し溝渠を鑿通して用水を多々良沼より導く、水利の及ぶ所十有六ヶ村、現に上休泊堀、下休泊堀と稱して今に存す。

西上州

西方、高峻の山嶺を以て環繞せられ、東南、頗、開豁なり、高崎市、群馬郡の一部、多野、北甘樂、碓氷の各郡之に屬す、就中高崎市を縣下第一の商業地とし、養蠶の高山社に於ける、製絲の碓氷、甘樂、下仁田社に於ける、其名を海の內外に擅にせるあり、碓氷嶺の嶮、妙義山の奇、夙に海內無雙と稱せらる、蒟蒻、蠶種、生絲、煙草、蒟蒻粉等を產物の尤なるものとす。

高崎市及附近

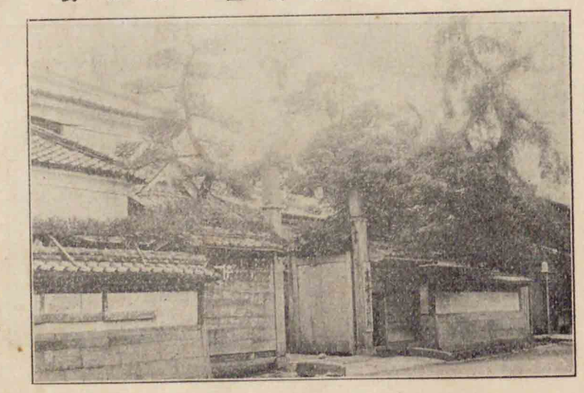
高崎市——高崎城址——高崎公園及英靈殿——賴政神社——聖石——高崎神社——神武天皇遙拜所——駿河大納言墓——安國寺——高崎水道——清水觀音——小祝神社——寺尾城址——佐野の渡——麗水合資會社——天龍護國寺——水利組合——長野氏の廟所——箕輪城址——長年寺——小栗上野介



高崎市及附近

高崎市　距前橋市二里十九丁、大河内右京亮（八萬二千石）の舊城下にして、古來中山道の中樞に位せるを、舊、信越線、兩毛線の分岐點にして又上野輕便鐵道の起點たるにより、交通頗、頻繁にして市街繁華を極む、東西一里、南北一里二十丁、戸數六千七百十三、人口三萬八千九百四十、明治三十三年市制を施行す、官公署其他の主なるものを擧げむ。

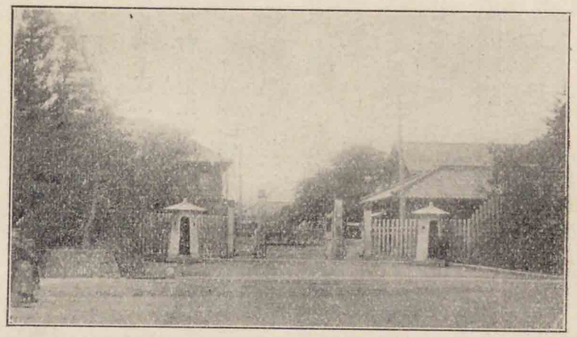
歩兵第十五聯隊、高崎聯隊區司令部、高崎區裁判所、群馬郡役所、高崎警察署、高崎稅務署、前橋監獄高崎分監、高崎煙草製造所、高崎憲兵屯所、高崎小林區署、蠶病豫防事務所高崎支所、高崎郵便局、高崎市役所、群馬縣立高崎中學校、群馬縣立高等女學校、高崎市立甲種商業學校、株式會社高崎銀行、同高崎積善銀行、同高崎貯蓄銀行、同第二銀行高崎支店、同茂木銀行高崎支店、同群馬商業銀行高崎支店、上野鐵道株式會社、高崎水力電氣株式會社、內國通運株式會社高崎支店、高崎倉庫株式會社、群馬縣生絹太織商同業組合、帝國德用肥料株式會社、高崎新聞雜誌株式會社、碓氷社分工場、茂木製絲場、山田組、上野日々新聞社


高崎市役所

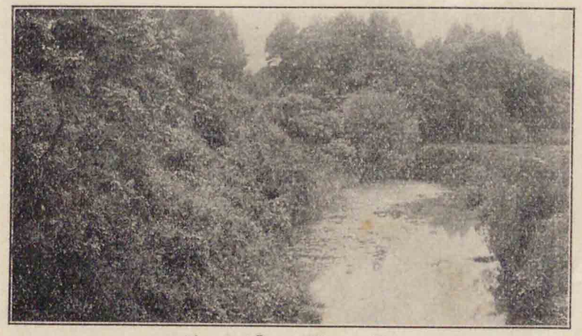
高崎城址　高崎停車場を距る六丁、宮元町に在り、元、和田と云ひ、和田氏の居邑なり、赤坂庄も云ふ、天文中和田兵衛大夫城主となり、武田、北條兩氏に依屬し、天正十八年改易、井伊直政德川

氏の宿將を以て箕輪城に入り、此地を兼領し、次ぎて慶長三年和田に移り、修造を加へ高崎城と改稱す、爾後領主を代ふること數次、維新に至る、明治五年陸軍省御用地となり、東京鎮臺高崎分營を置き、同十七年更めて歩兵第十五聯隊を置かれたり、城廓の一部は即今の兵營なり。

歩兵第十五聯隊

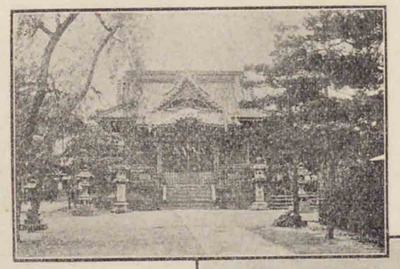


高崎公園及英靈殿　歩兵第十五聯隊兵營外濠の南に隣り、賴政神社に接す、明治九年始めて之を開く、爾來屢〻規模を擴張して、今や面積七千四百餘坪に至る、樹竹の配置、花卉の點綴兩ながら佳、加ふるに展望の開豁を以てす、洵に好個の公園たり、英靈殿は此に在り、元、高崎聯隊區司令部管下群馬、埼玉、長野三縣に於ける戊辰以後の殉國者の忠魂を祀る所、祠殿大ならずと雖、頗、莊嚴を極め賽者をして自、襟を正し、神在の念を起さしむ。

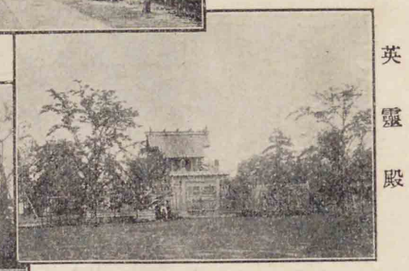


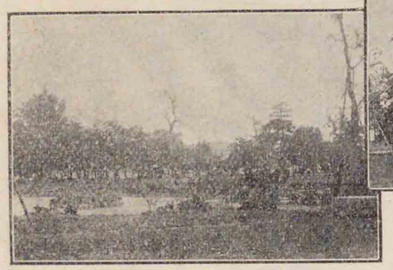
高崎城址

高崎神社



英靈殿





高崎公園

賴政神社　英靈殿に隣り、舊城主大河内氏の始祖源三位賴政を祀る、南、烏川の清流を隔て〻遙に觀音山と相對し、風光明媚にして四時の行樂に適す、高崎公園の新に開かれしより賽者常に絶ゆるとなし。

聖石　賴政神社の南一丁、烏川の岸に在り、古より享保年間迄、利根川に通ずる高瀨舟の繫留地たりしが、爾後河岸漸、下流倉賀野に變ずるに及び、今は空しく當年の俤を一塊の巨石に偲ばしむるのみ。

高崎神社　高崎城址を距る三丁、赤坂町に在り、伊弉冊尊、速玉男命、事解男命の三神を祀る、元熊野神社と稱し高崎市の總鎮守たりしが、明治四十年八月他の神社を合祀して高崎神社と改稱す。

神武天皇遙拜所　高崎神社を距る北五丁に在り、土地高潤にして展望に富む、境内に櫻樹多し、花時に至れば士女絡繹として群集す、

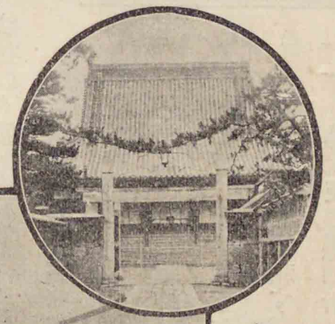
神武天皇遙拜所

眞に是、三春行樂の場所たり。

駿河大納言墓　高崎城址を距る東五丁、通町大信寺に在り、寛永九年駿河大納言忠長驕暴を以て五十五萬石を除し、高崎城主安藤氏に預けられ、翌年自刄す、故を以て今尙幾多の遺物を藏す、其他の寺寶として後陽成帝の御宸筆を始め、數種あり。

安國寺　淨土宗にして大信寺と相接近す、足利直義六十六ケ國に寺一宇づゝを建立して安國寺と稱し、塔婆一基を造り所領を寄進す、當寺亦其一に居る。

高崎水道　距高崎市三里餘、烏川の上流碓氷郡里見村大字神山春日堰引入口より分水し、同郡八幡

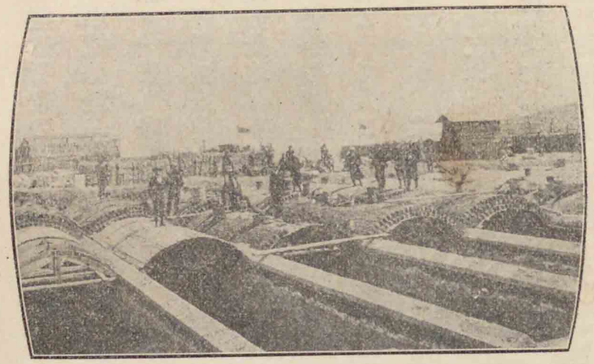


大信寺

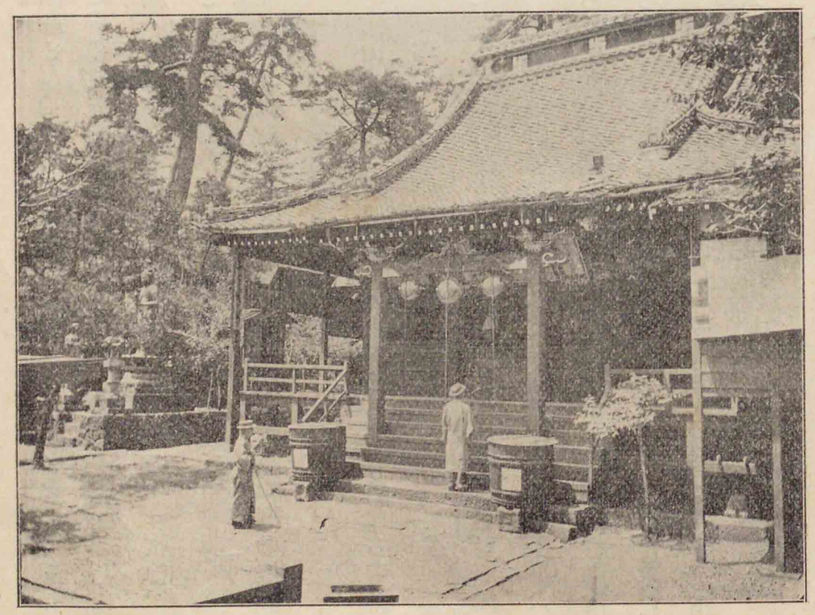
安國寺

村大字劔崎字長瀞及大塚に導き、此所に淨水場を設け、此より鐵管に導きて高崎市内に配水す、明治四十一年二月許可を得て起工し、今年十月竣工の豫定なり、工費豫算金五十八萬圓、内金十四萬五千圓を國庫補助に、金五萬圓を縣費補助に仰ぐ。

高崎水道



清水觀音（群馬郡片岡村大字石原距高崎市二十五丁）　清水寺は眞言宗にして、大悲院華藏山と號し、また俗に清水觀音



清水觀音

と稱す、大同三年の草創にして、坂上田村麿を開基とし、祐清法印を開山とす、今の本堂は天正十一年の再建に係る、地は丘陵の上頭に在りて躋るに石磴數百階を以てす、松樹蔚葱の間、花樹の巧に配せらるゝあり、直下烏川を隔てゝ高崎市街を指顧の間に望み、遠くは關東平原を一眸の中に收む、眞に登臨行樂の遊園たり、毎年舊十月十日の緣日を十日夜と稱して數萬の賽者徹宵參籠す。

小祝神社（同上）延喜式内上野十二社の一にして少彦名命を祭神とす、今の社殿は正德年間の建設に係り、安産守護の神として古來信仰する者多し。

寺尾城址（同上）觀音山の南に蜿蜒せる一小丘を館山と字し、新田義重の居城として有名なる寺尾城は則此地なりと傳ふ、其下、谿畔の民家を特に館と稱し、煙草の産地として名あり。

佐野の渡（同郡佐野村距高崎市二十四丁）高崎より山名、藤岡に至る通路に方り、烏川に沿ふ、この地は有名なる佐野渡として人口に膾炙し、往古は船橋ありしにや、舊記に佐野の船橋と云ふ文字諸所に見ゆ、距今六百五十餘年、佐野源左衞門常世冤罪に依り、貶せられて此地に潛居す、一日天大に雪ふる、偶〻行脚僧の宿を乞ふあり、常世赤貧洗ふが如く煖の取らしむべきものなし、乃、秘藏の鉢の木を折りて火を侑む、僧其志に感じ深く謝して去る、後、最明寺時頼、常世の爲に舊領を復し、三ヶの莊を賜ふ、蓋、曩日の行脚僧は實に時頼なりしなり、是、歷史の傳ふる所、又夙に謠曲『鉢の木』に上りて、斯道者の愛吟措かざる所とす。

佐野の渡

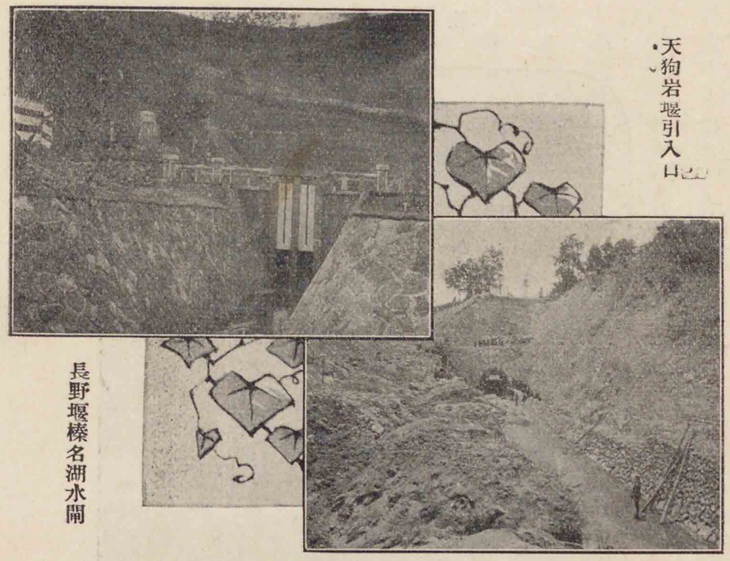
曲信濃なる淺間の嶽に立つ煙遠近人の袖寒く吹くや嵐の
大井山捨つる身になき友の里今ぞ浮世を放れ坂墨の衣の
碓氷川下す筏の板鼻や佐野の渡に著きにけり
詞急ぎ候ほどに上野の國佐野のわたりに著きて候（下略）
曲（上略）今こそいさめ此馬にうちのりて上野や佐野の舟
橋とりはなし本領に安堵して歸るぞうれしかりける

（謠曲『鉢の木』の一節）

可美都介の佐野のふなはしとりはなし　おやはさくれとわはさかるかへ　萬葉集
戀わたる佐野の船橋かけたえて　ひとやりならぬねをのみそなく　定家
駒とめて袖打はらふかけもなし　佐野のわたりの雪の夕くれ　同上
山本や佐野の船橋なかくに　たのしきことをきゝ渡る哉　匡房

麗水合資會社（同郡倉賀野町距高崎市一里）良質の生絲を生産するを以て知られ、木製百三十人取『ケンネル』式二口立の設備あり、一ヶ年優に百二十貫を産す。

天龍護國寺（同郡六郷村大字上並榎距高崎市十八丁）　天台宗にして清和帝貞觀六年比叡山第三世慈覺の開基に係る、醍醐帝小野道風をして天龍護國寺の五字を染筆せしめ給ひ、之を同寺に賜はる、今尚藏して寺寶となす。



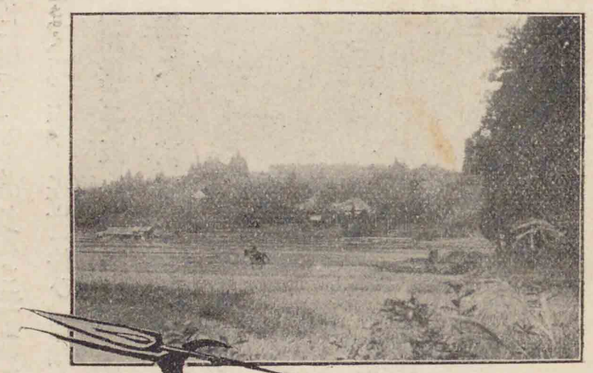
天狗岩堰引入口

長野堰榛名湖水閘

水利組合　群馬郡は普通水利組合二を有す一を長野堰普通水利組合とし、事務所を群馬郡役所内に置き群馬郡長之を管理す、明治二十五年十二月の設立に係り、烏川を疏水し榛名湖加用水を以て灌漑に供す、組合區域は群馬、高崎兩郡市に跨り、灌漑總反別千六百七十五町歩餘なり、設立以來單に烏川の流水を引入れ來りしが、旱魃の際用水の不足を告ぐることあるを慮り、榛名湖を掘鑿し、一朝水閘を開けば直に湖水を烏川に引入るべき計劃を立て、明治三十六年七月認可を得、同年九月工を起し、翌三十七年十月工を竣る、工費金三萬千六百餘圓を要せり、一を天狗岩堰普通水利組合とす、事務所、管理者共に前者に同じ、明治二十五年十二月の設立に係る、郡内駒寄

村に於て利根川を疏水して灌漑に供す、組合區域群馬、佐波二郡に跨り、灌漑總反別千八百四十二町歩に及ぶ。

箕輪城址



箕輪城址（同郡箕輪村大字西明屋距高崎市三里）　字椿山にあり、大永六年長野信業此に築づく、其子業政英邁にして忠誠の士なり、平井城歿後尚上杉氏に仕へて終始志を渝へず、武田信玄西上州を覬ふこと八年、數回の激戰ありしと雖、之を陷るゝこと能はず、永祿四年業政卒し、子業盛遂に武田氏に敗られ自殺す、于時年十八、德川氏に至り、城主井伊直政、和田城に移るに及び、城、乃、廢す。

長野氏の廟所（同郡長野村大字濱川距高崎二十五丁）　箕輪城主長野氏の廟所は來迎寺に在り、至德元年より文龜三年に迄ぶ墓碑十基、其他文字不明の古碑十餘基、今尚存す、何れも長野氏累世の墓なり。

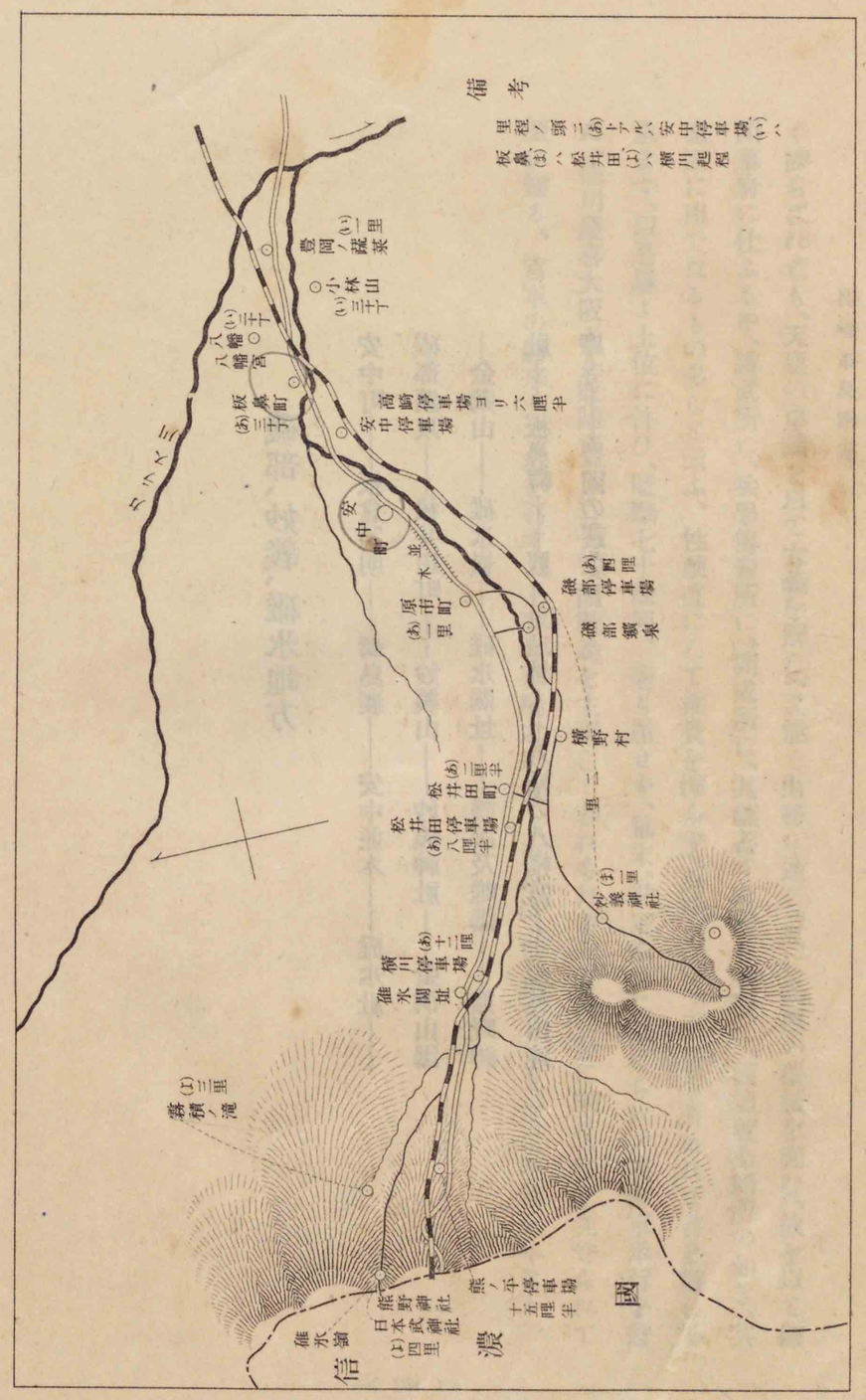
長年寺（同郡室田町距高崎市三里）　曹洞宗の禪刹なり、白井雙林寺第三世の開基にして、釋迦牟尼佛を本尊となす、傍に關東管領上杉憲政の念持佛と稱する觀音の銅像を安置す、像は弘法大師の作なりと云ふ。

小栗上野介　初、名を又一と云ひ、今の群馬郡倉田村を領す、幼にして岐嶷、群童に抽むず、讀書は博

く渉らざれども、天稟の卓識を以て大義を解し、又能く財務に通じ、夙に泰西の學技を究む、故を以て德川幕府に仕ふるや、講武所に、兵學傳習所に、開成所に、其蘊蓄する所を披瀝し、横須賀造船所の如き、其意匠に出でたるもの多しと云ふ、性硬直にして權貴を憚らず、卑賤を侮らず、念ふ所あれば言を盡して忌まず、以是屢〻上位に忤ひ、貶黜七十餘回、毫も屈せず、幕末、勘定奉行に擧げられ、陸海軍奉行を兼ぬ、德川慶喜大阪より敗歸するに及び、開戰論を主張して容れられず、直諫、怒に觸れ、職を免せられて領に歸る、官軍の將來りて之を召す、上野介單騎之に赴く、至れば、則、戮せらる、實に明治元年なり。

磯部、妙義、碓氷地方

安中町——板倉勝明——新島襄——安中並木——碓氷社——磯部鑛泉——松井田町——妙義山——妙義神社——金洞山瀑——金鷄山——碓氷嶺——碓氷關址——雄瀑及雌瀑——熊野神社——板鼻驛——鷹ノ巣城址——八幡の八幡宮——少林山達摩寺——豐岡の蔬菜



磯部、妙義、碓氷地方

安中町　碓氷郡の東部に位せる中山道の一驛にして、距前橋市五里五丁、高崎驛にて信越線に乘換へ、約二十分にして到る、板倉主計頭(三萬石)の舊城下なり、戸數千三百五十八、人口八千四十一、西上州商業地の一にして、左の官公署其他の所在地なり。

碓氷郡役所、安中警察署、安中郵便局、高崎區裁判所安中出張所、群馬縣立高崎中學校安中分校、株式會社安中銀行
同碓氷産業銀行、安中製絲株式會社、西毛電氣株式會社

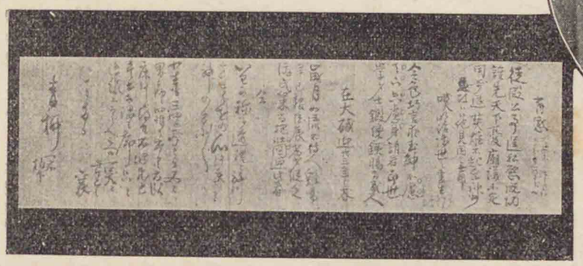
板倉勝明　舊安中藩主なり、字は子赫、甘雨と號す、性、學を好み、政務の餘暇、常に經史を研鑽し、旁、國乘に及ぶ、著す所西征紀行、東還日記、中禪寺紀游及文集若干卷あり、又慶、元以降先儒の遺著、日に湮滅に就くを惜み、多方搜索、參伍校訂、以て剖劚に付し、名けて甘雨亭叢書と云ふ、勝明又藩内に勸めて楮、漆及杉を曠地に植ゑしめ、以て民産を阜にし、橋梁を修め、驛舍を整へ、專、行旅に便にす、庶民皆其惠に浴す、安政四年卒す、年四十九。

新島襄　舊安中藩士なり、幼にして學を好み、最、漢籍に通ず、兼ねて又蘭、英の語に熟し、測量、航海の術に長ず、元治元年國を脱して米國に航し、神學を修めて學位を受く、明治七年歸朝、翌年地

を京都に相して學舍を創立す、是實に同志社の濫觴なり、爾來專、傳道と教育とに全力を傾注す、同十七年再、歐米漫遊の途に上り、翌年歸朝す、漫遊中心臟の大患に罹りてより身體漸、衰弱すと雖、猶病軀を驅りて東西に奔走し、同志社大學設立の爲に盡す所あり、惜い哉天遂に年を假さず、明治二十三年大磯の客地に於て永眠す、于時年四十又七。

新島襄肖像

同筆蹟



安中並木　安中町の西端より原市町境界に至る約半里間、中山道の兩側に巨杉の亭々として聳ゆるあり、枝葉蓊蔚として天日を蔽ひ、其大なるは周圍二十餘尺、高百餘尺に及ぶ、往時は安中並木と稱し、徒步馬背の行旅者の樹蔭に憩ふて便宜を得ること少からざりし。（上篇地理十一頁參照）

碓氷社　安中町の西方約一里、原市町に在り、上州南三社の一として其名の海外に喧傳せらるゝは夙に人の知る所なり。（上篇製絲五二頁參照）

磯部鑛泉（碓氷郡磯部村距安中町一里半）　信越線磯部停車場にて下車す、僅に二丁、此地、本、鹽の窪と稱す、鑛泉は鹽分を含み、胃病

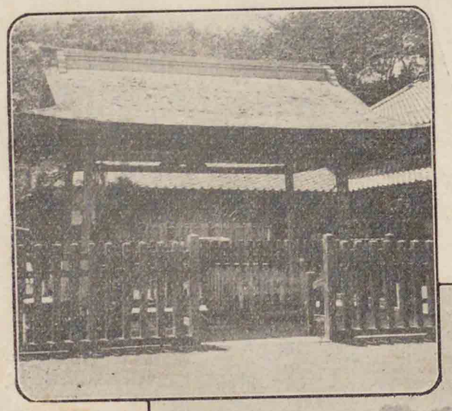
に神効あり、天明年間淺間山大噴火の際、地を拔くこと數丈、奔騰の勢を作したりと云ふ、浴館は多からずと雖、設備至らざるなきを以て京阪其他より紳士淑女の來浴する者常に絶へず、北は碓氷川の清流に沿ひ、東は磯部遊園に接し、櫻花の塢に春を飾るあり、河鹿の巖角に夏を謠ふあり、閑雅にして頗、幽邃なり、天下の奇峯妙義は此地を距ること約二里、山麓に至る道途は平坦にして登山に便なり、菫の名所横野は南五丁に在り。

紫の根はふ横野のつぼ菫　　俊成
眞袖につまむ色もむつまし

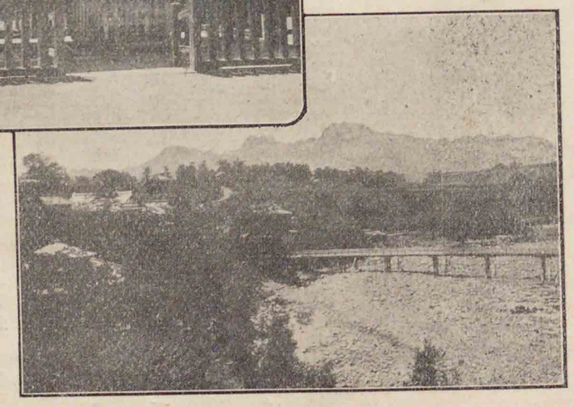
菫咲く横野のつはな生ぬれは　　西行
思ひ〳〵に人かよふなり

紫の根はふ横野の春駒は　　家隆
草のゆかりにつなくなりけり

其他附近に瀧山、城山、仙石の碑あり、佐々木盛綱入道西念の墓、淺野内匠頭の臣たりし大野九郎兵



磯部鑛泉湧出所



磯部より妙義山を望む

衞の墓は共に同村松岸寺境内に在り、鑛泉煎餅、鑛泉飴は土産の適品と稱せらる。

松井田町　碓氷郡の南部に位し、中山道の一驛として古來名あり、磯部停車場より十五分にして達すべし、妙義山に至る約一里、本町を通過するを妙義登山の第一捷徑とす。

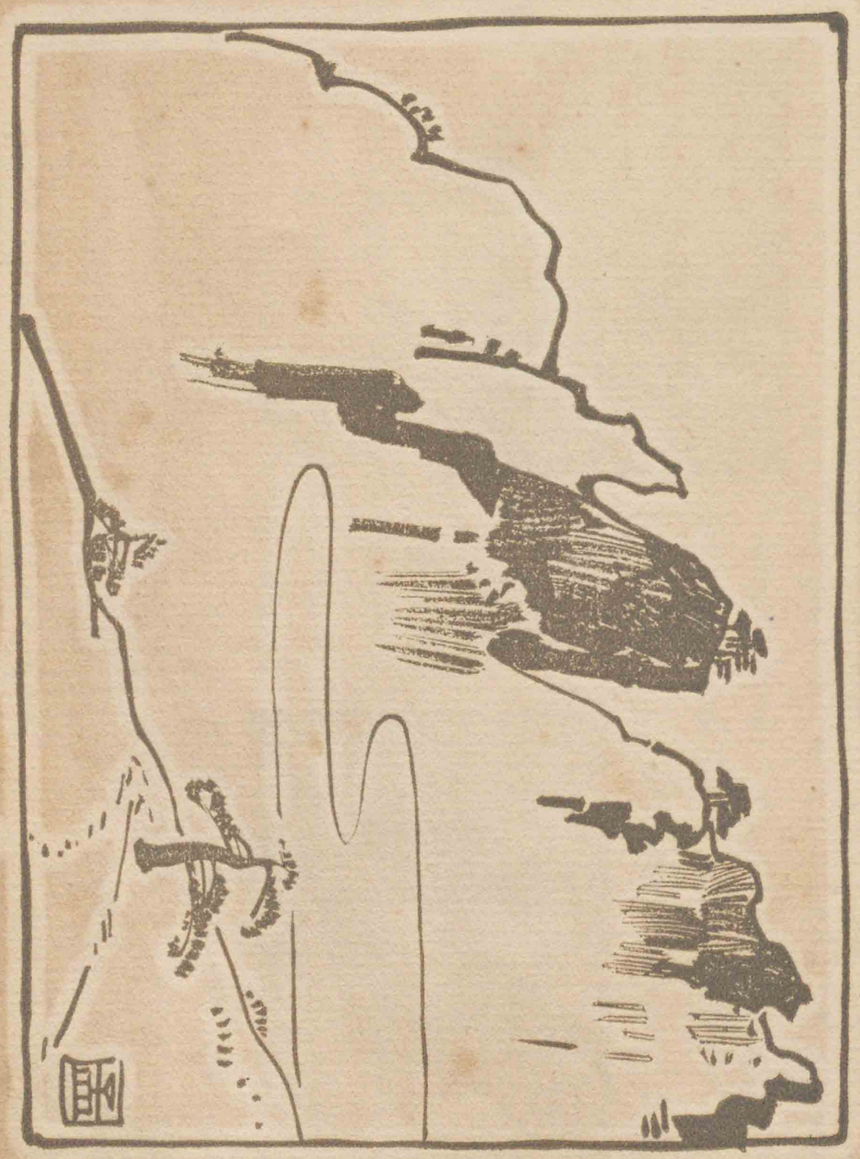
妙義山（北甘樂郡妙義町距松井田町一里）　北甘樂郡下仁田、小坂の北、碓氷郡界に渉る峯巒の總稱にして長三里に達す、山、素、奇峭を以て世に聞ゆ、其中嶽を金洞と名け、最西に在り、金鷄は金洞の東南に接して小坂の上方に位し、妙義は金洞の東北に在りて特に諸戸（モロト）の西嶺標高三千八百三十尺の所に名くと雖、又、衆峯の統名とす、一名を白雲山と云ひ、妙義神社其北方の中腹に在り。

立去事一里眉毛に秋の峰寒し　蕪村

五月雨や夜もかくれぬ山の穴　一茶

妙義神社　縣社にして、日本武尊を祀り、磐長姫命、豐受大神、丹生大神、菅原道眞公、大納言長

妙義山第一石門

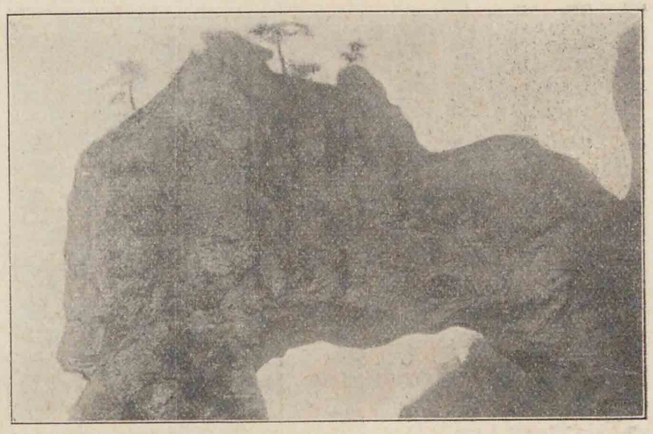


親卿を配祠す、宣化帝の二年に鎮座し、元は波已曾大神と稱へしこと社記の傳ふる所、今遠に正確なる考證をなすを得ず、往時上野東叡山宮家の御隱居所として皇室の崇敬尤厚く、殊に東叡山御親祭の神社にして、別當高顯院、是心院、石塔寺は御留守居と稱へたること及維新前上野東叡山に妙義神社を祭祀したる社殿と妙義役所なるものありしは古老の知る所たり、途、尾花坂より四丁許にして石段を登れば、石を方形に疊みて小篠を植う、是、往時宮家の在せしを表せるものなりと、上に樓門あり仁王を安置す、更に石段を登れば高三間三尺の紫銅華表あり、此を過ぎりて杉の小川に『建の岩橋』あり、北に魚形石、南に古碑あり、此邊、道の左右に老杉森立して晝尚暗し、妙義の五本杉と稱するもの亦此にあり、石段百六十五級の上に隨身門あり、古、神事に使用したる湯釜今尚存す、唐門に入れば神殿、幣殿、拜殿、饌殿、神樂殿其他の祠殿儼乎として立つ。

妙義山第二石門

妙義山　第三石門

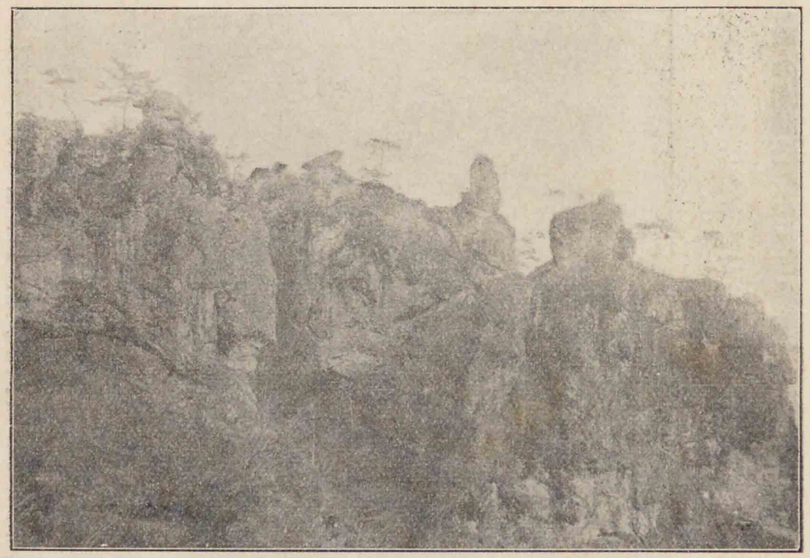
妙義山第四石門



陰雲新捲數峰出。　過客登臨興更奇。　盛胤親王
危石巉巖眼前滿。　清遊何處可無詩。
一山高聳白雲裡。　妙義廟宮在此間。
神德日新靈感顯。　珍財喜捨更無慳。　黄檗潮音
こゝろさし立つる願をうちなひく　讀人不知
此白雲の山にいのらむ
踏みわけて入らんよしなきみなれども　高行
山のゆかしき峰の白雲

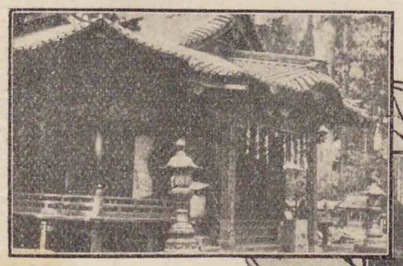
神馬殿に百合若大臣の鐵弓と鐵矢と稱するものを掲ぐ、奥の院に至る途上に鷲の瀧、日暮の瀧、菅の清水、獅子巖、船石の諸勝あり、有名なる妙義の『大』の字は其上に在り、奥の院は岩窟内に在る宮祠とす、山頂は四望曠濶にして海を拔くこと四千尺、若夫、晩秋の候登臨下瞰せば、滿山の霜楓紅潮を下界に漂はし、美觀云ふべからず、實に『秋山のもみぢの色は淡くこく染めしときこそ錦なりけれ』、轉じて巖石に攀ぢ藤

妙義金洞山大砲岩動岩

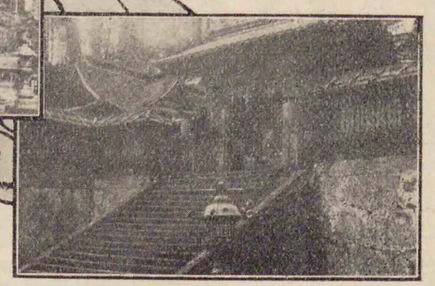


羅を捫すれば山愈〻高く途益〻險に、漸にして皷ケ岳に達すべし、進むで山の最南端なる相馬ケ岳に至れば、則、金洞山は近く指顧の間に在り、『呼べば將に應へむとするもの〻如し、其他白雲山中の名勝を擧ぐれば辨天の岩窟、天狗の兵法場、御花畠、天狗の御所、行人池、胎内潜、大矢筈、龍立の天神あり、一巖一石と雖、奇殆、端倪すべからず。

金洞山　即、中の嶽なり、尾花坂より南十數丁にして葡萄園あり、小澤某の管する所たり、左に金鷄の諸勝を望み、行くこと里許一本杉に達す、展望空濶、快言ふべからず、近く燈籠岩



妙義神社唐門



同拜殿

あり、更に一巖を加へて夫婦岩と呼ぶ、恵比須岩、東仙人の窟、眼前に迫りて漸、佳境に入る、岐路右して菅公硯水の窟あり、第一石門は矗として聳立し、高六十餘尺、幅五間に餘り、鬼斧神劃の妙工を極む、石門を潜りたる所を蟹の横這と稱す、少許にして第二石門あり、大は前者に及ばずと雖、奇は却て之に優るものあり、第三石門は最も小にして、僅に數人を容るゝに止まり、南に東大黒岩あり、第四石門は第一石門より廣しと雖、其高に於ては之に遜らざるを得ず、南端に出づれば第一石門を脚下に見るべく、第二石門の雄姿を咫尺の間に望むべし、東大黒岩、大蠟燭岩、小蠟燭岩、まぼろし岩、屏風岩、亦一眸の中に集中するを得べし、東して黒田の泣岩を過ぐれば大砲岩、動き岩、蟻の塔渡、虎岩、龜岩、東山狹橋

中ノ嶽神社

東胎内潜の諸勝あり、前面に天狗の鏡岩あり、再、前路に出で、更に登ること數丁にして中の嶽神社に達す。

中の嶽神社 小坂村に在り、村社にして日本武尊を奥宮に祀り、大國主命を前宮に祀る、北に髣

摺岩、西山狹橋あり、鐵鎖に捫し鐵梯に攀づれば朝日岳の頂に立つ、衣を千仞の岡に振ふの概是に於て始めて言ふを得べし、皆を決すれば金佛岩、八丈岩、烏帽子岩、鬼面岩、西大黒岩等の奇巖殆、應接に遑あらす、朝日岳の窮谷に八丈の窟あり、妙義開山長清坊籠居の所と稱す、金洞山中最高き所は更に十數丁の嶮を跋渉するにあらずむば遂に到る能はざるなり、俗に鷹戻し岩と稱する所即是なり、竹堂遊記中に云、

凡そ山に貴ぶ所の者肉にあらずして骨にあり、肉豐なれば則山大なりと雖、凡山たるを免かれず、唯骨多し故に石壁峭拔奇態横生、是れ金洞の勝天下に冠たる所以なり、(中略)嚄金洞の山たる、甚大なるにあらず而して秀峭絶特寸崖拳石と雖、皆平凡に超絶す、譬へば猶高士名流の皮膚毛孔一點塵俗の氣なきがごとき也、天下の山其れ誰か此に愧づる無き焉

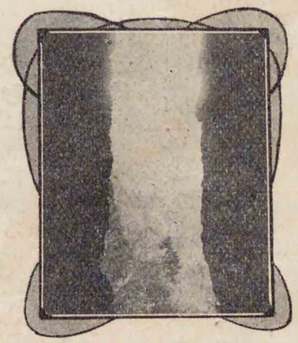
金洞山大黒岩

金洞の勝の如きは蓋、凡筆の得て曲盡すべきにあらず。

金鷄山 妙義の三山中最、低きに居ると雖、而も奇觀に乏しからず、筆頭岩あり、子持岩あり、筆

頭岩は山の一角に直立して冲天の勢を作し、或は天燭岩と稱す、金洞山の一本杉より左下せば新に發見したる細徑あり、數丁にして達すべし、子持岩は慈母の赤子を負ひたるの狀をなし、麗容云ふべからず、故に此名あり、別に干瀧の勝あり、十數丈の巖坳宛然飛瀑の懸れるが如し、其左方鐵梯を架す、攀躋して稍平坦なる所に達すべし、御嶽の祠あり、頂上最展望に適し、白雲、金洞の二峯指顧の中に在り、人をして羽化登仙の想あらしむ。

碓氷嶺（碓氷郡坂本町距安中町六里）　關東平野と信濃高原の要衝に當る峻嶺にして夙に紅葉を以て名あり、山路は坂本驛より起程し、岐れて新古の二道となる、新道は南に通じ鐵道其南に在り、古道は峠町權現祠を經るものにして新道の北に位す、古來東海道の箱根と併稱して關門の設ありたり、明治十一年　聖上御北巡の時之を改修し、同十六年更に改修する所あり、同二十六年二十六の隧道を穿ち『アプト』式鐵道を敷設し、爰に始めて東京、直江津間の連絡成り、運輸交通の便、古人夢想の外に出づ、然れども山は則、險なり、其頂界は標高三千百四十尺、此を東に下る二里にして坂本驛は實に千百六十尺の高所に在り、即、登攀二千尺の峻坂たるを知るべし。



白雲山中腹の巨巖

碓氷山行きては見ぬにひろひこし紅葉のいろにさそと知らるゝ　通躬

碓氷の紅葉

下葉さへうすしとはなし碓氷山

染るちしほの木々のくれなゐ　時行

山の名はうすひといへと幾ちしほ

染めて色こき峰のもみち葉　讀人不知

突出ては碓氷の茶屋のほとゝぎす　三千風

信濃路の山か荷になる暑さかな　一茶

碓氷關址（同郡臼井町）　横川停車場より半里、三代格所載に『相模國足柄坂、上野國碓氷坂、置關勘過の昌泰二年官符を改めたり』とあるに見ても往古既に此設ありしを知るべく、近世に在りては安中藩之を守り、中山道の要塞をなせり。

雄瀑及雌瀑（同郡坂本町）　字霧積山に在り、横川驛の西三里、山は碓氷連山の一

雌瀑

雄瀑

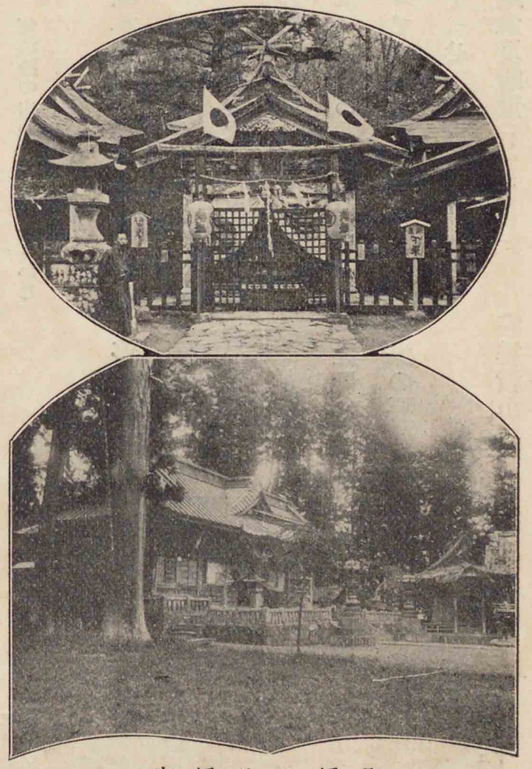
部にして、一水、源を此に發し地藏岩の南に於て飛瀑となる、雄瀑と云ふ、高百尺、幅十三尺、此水下流にて雌瀑となる、高六十尺幅十尺、此間翠壁一重雲一重の觀あり。

熊野神社　縣社にして碓氷嶺の絶頂上信の國境に在り、中央伊邪那君命、東に速玉男命、西に事解男命の三神を祀る、東の社殿は上野國に在り、西の社殿は信濃國に屬す、鳥居、石燈籠、隨身門等悉、兩國に跨る、神樂殿は明治十一年　聖上御北巡の時駐輦所に充てさせらる、境内日本武尊が橘媛を歎じ給ひたる遺蹟に尊を祀り、若宮日本武神社と號す。

千早振る熊野のみやのなきの葉をかわらぬ千代のためしにぞ引く

定家

熊野神社



八幡の八幡宮

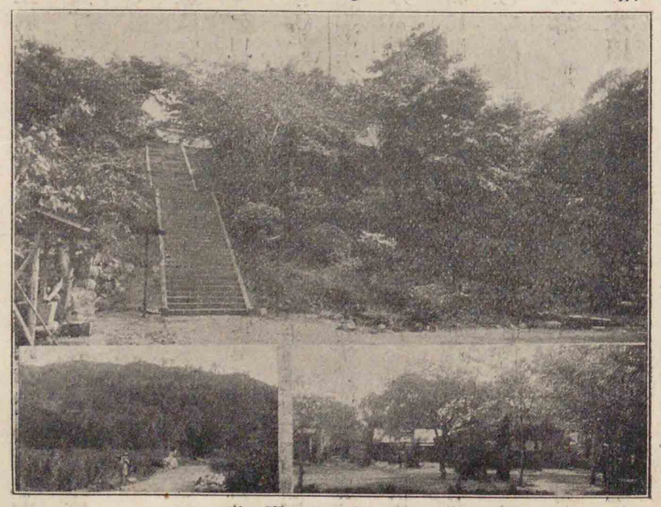
板鼻驛（同郡板鼻町距安中町三十丁）　鷹の巣城址の下、碓氷川の北岸なる板鼻驛は曾我物語及義經記等に見はる、弘

安三年一遍上人此地を過ぎり、時宗開名寺を建立す、稱光院帝の勅額、開山上人の遺品を藏す、天台宗稱名寺は聖德太子の開基と傳へられ、應永年間僧明尊其中興たり、太子の袈裟其他を寺寶とす、境内に佐野常世の手栽と傳說せる楓樹ありしも惜い哉、今は枯れて僅に實生の一樹を存するのみ。

折りたきし櫻あとある紅葉かな　紹之

鷹ノ巣城址（同上）　町の西、絶壁數仞、碓氷川其下を流れて後閑、秋間の谿流を合す、城址は即、其上に在り、武田信玄の臣依田某の據りし所、山頂に鷹ノ巣神社あり、大物主命を祀る。

八幡の八幡宮（同郡八幡村距安中町一里）　鄕社にして主神譽田別命の外に、息長足姫命、玉依姫命を合祀し、外に二十一座の末社を有す、元德元年の創建にして源義家を始め代々武將の崇敬深し、慶安年間德川幕府より社領百石諸役免除の朱印を付せらる、什寶の多くは天正年間兵燹の爲に燒失したれども、今尙古名將の文書、刀劍其他數百點あり、接續地に大聖護國寺あり、由緒ある古刹なり。



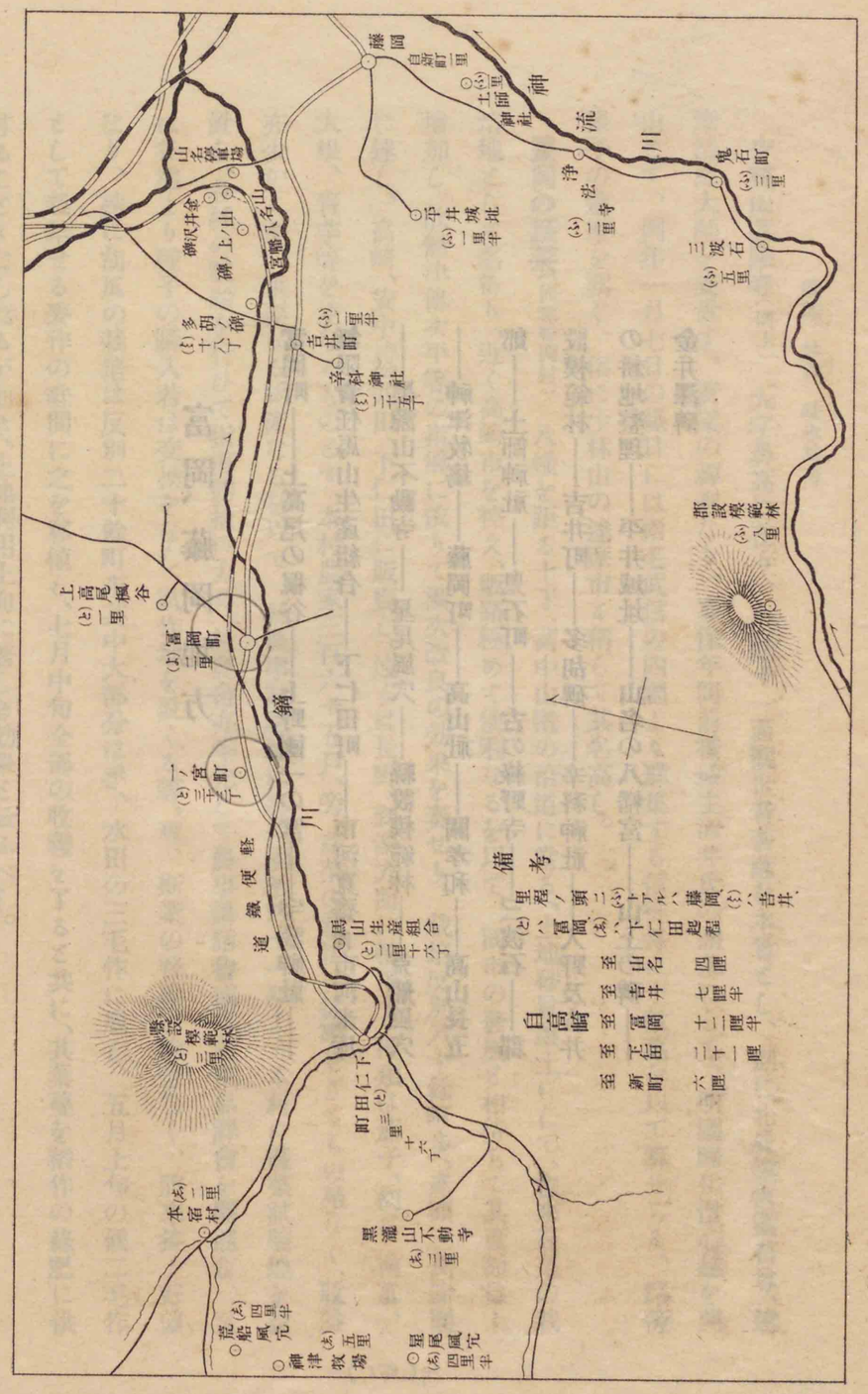
少林山達磨寺

少林山達摩寺（同上）　大字鼻高に在り、厄除十一面觀世音菩薩を本尊とし、別に北辰鎮宮靈符尊、達摩活然大師を安置す、黄檗の禪刹なり、享保年間前橋城主酒井氏の開基にして、明國歸化僧心越を開山とす、例年一月七日の緣日には兩毛武信の四國より群集する信徒毎に十數萬を以て算せらる、路傍張子の達摩を鬻ぐ、俗に少林山の達摩市と稱して其名高し。

豐岡の蔬菜（同郡豐岡村）　八幡を距る十丁、舊中山道の沿道に當る、土地砂質壤土にして、古來蔬菜の栽培地として名あり、近く高崎市を控え、販路極めて便利なるを以て、同市の發展と相待ちて其産額益〻增加し、故船津傳次平等の指導に依りて漸次改良の効果を奏せり、栽培反別八十餘町歩、産額三萬餘圓に達し、高崎、安中、松井田、下仁田に販賣し、遠くは長野、新潟方面に輸出す　種類は茄子、胡瓜　南瓜、大根、青芋等を主なるものとす、本村農家三百六十五戸、旁、蔬菜の栽培に從事せざるもの殆なく、收益亦少からず、重要なる物産なるを以て、縣農事試驗場は特に明治四十一年より本村に蔬菜試驗地を設置し、各種の試驗を行ひて指導誘掖に力め、村農會亦率先して農事講話會或は蔬菜品評會を開催し、又は各地より種子の購入若は交換をなし、試作地を設くる等、專、斯業の督勵に餘念なく、將來益〻好望なり、殊に胡瓜の栽培は反別二十餘町歩其中大部分は悉、水田の三毛作に屬し、五月上旬の候二毛作として栽培せる麥作の畦間に之を移植し、七月中旬全部の收穫を了ると共に、其葉蔓を稻作の緣肥に供することゝなしたるが如き、土地利用上洵に著しき効果と云ふべし。

富岡、藤岡地方

富岡町——上高尾の楓谷——上野國一の宮——宇藝神社——無限責任馬山生産組合——下仁田町——市河寛齋附市河米庵——黑瀧山不動寺——星尾風穴——縣設模範林——荒船風穴——神津牧場——藤岡町——高山社——關孝和——高山長五郎——土師神社——鬼石町——古の綠野寺——三波石——郡設模範林——吉井町——多胡碑——辛科神社——入野及吉井の耕地整理——平井城址——山名の八幡宮——山上の碑——金井澤碑



富岡、藤岡地方

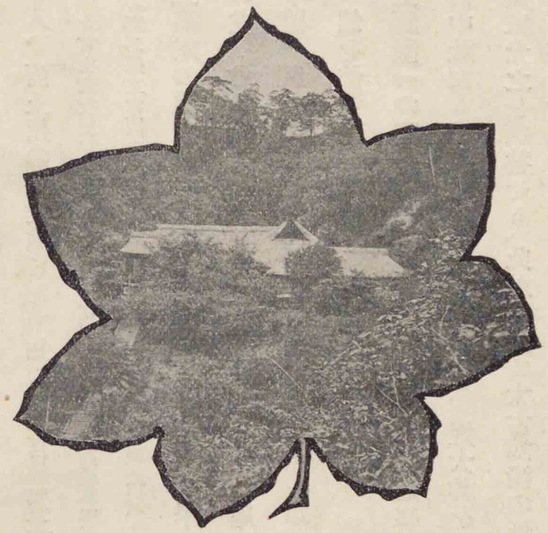
富岡町 北甘樂郡の東北部に位し、距前橋市七里十一丁、高崎市より上野輕便鐵道線に乘換へ、約一時間にして到る、大字七日市は前田丹後守(一萬十四石)の舊城下なり、戸數二千三十九、人口一萬二百六十八、西上州の工業地として知らる、官公署其他主なるもの左の如し。

北甘樂郡役所、富岡區裁判所、富岡警察署、富岡稅務署、富岡郵便局、蠶病豫防事務所富岡支所、群馬縣立富岡中學校、私立童兒社蠶業學校、甘樂社、(上篇製絲五三頁參照)原富岡製絲所、(上篇製絲五五頁參照)

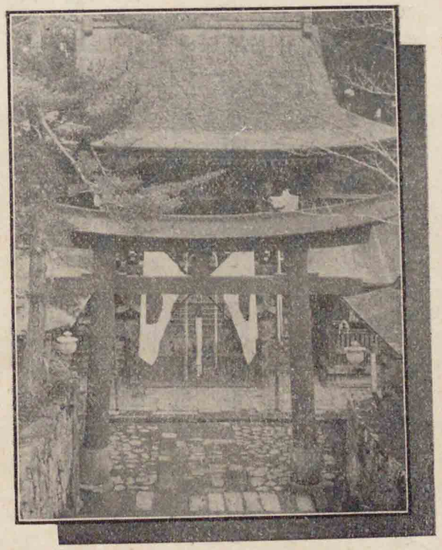
上高尾の楓谷(北甘樂郡小野村大字上高尾距富岡町一里) 曹洞宗長學寺は天平年間の創始にして天平庵と號す、建久二年大磯の虎、曾我兄弟の菩提を弔ふ爲、來りて此庵に居る、後一寺を建つ、今の長學寺是なり、境内に虎女手植の銀杏樹あり、寺域三面繞らすに山を以てし、只、前面開豁にして登攀の便あり、滿山の楓樹秋候錦を飾る、古來楓谷と稱して其名高し。

上野國一の宮(同郡一之宮町距富岡町三十三丁) 貫前神社は延喜の制、名神大社に列し、後上野國一ノ宮と稱し、今は國幣中社たり、經津主命を主神とし、姫大神を配祀す、安閑帝の元年に創建せられ、爾後足利尊氏及德川家光之を造替せり、此社は實に太古鴻濛の世、天神、天祖の勅を奉じ、大將軍として不順を逐ひ、國土を拓き、東國を定むるときの本營地にして叛神諏訪大神を征服歸順せしめ國境を定むるに當り、其鋒

を拔き此地に立てしより、拔鉾明神と稱へたり、是所謂神代鎭座の大舊社なり、故に朝廷の尊崇殊に厚く、神寶と勅額とを納め給ひ、歷世の武將亦瞻仰して止まず、全國一ノ宮中七社の第一たり、



上高尾楓谷



國幣中社貫前神社

日露戰役に際し、勅使參向して宣戰奉告祭を執行せられたり、寶物には勅額、神鏡、劍其他數百種あり。

上野一ノ宮鐘銘

林羅山

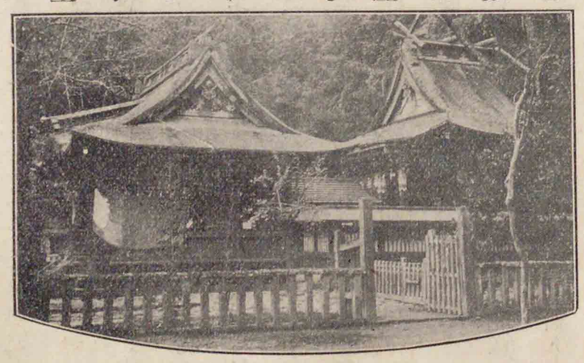
上野大社。貫前名神。驅邪除害。鎭國利民。靈區既久。秘殿維新。祭儀隨例。功驗呈眞。

九乳遠響。萬祥必臻。風和雨順。世世無垠。

宇藝神社（同郡吉田村大字神成距富岡町二里）　延喜神名式中上野國甘樂郡二座、大一座、小一座とあり、大一座は貫前神社にして、小一座は則此社なり、倉稻魂命を祀る、五穀養蠶の守護神と稱へ信仰する者多し。

無限責任馬山生產組合（同郡馬山村距富岡町二里十六丁）　明治四十二年九月製絲器械を備へ、之を組合員に使用せしむるを目的として設立せり、最初、釜數四十七に過ぎざりしが、漸次發達して七十七に增加し、將來有望と稱せらる、同郡星澤村無限責任星尾生產組合、靑倉村無限責任靑倉生產組合、一ノ宮町無限責任一ノ宮生產組合等皆同一の目的を以て相次ぎて設立せらる。

下仁田町　北甘樂郡の中央部に位し富岡町を距る三里十六丁、同町より上野輕便鐵道線に乘車せば四十分にして到る、之を同線の終點とす、戶數七百七十、人口四千二百十九、下仁田警察分署、富岡區裁判所下仁田出張所、下仁田郵便局、株式會社下仁田銀行等の所在地にして、上州南三社の一たる下仁田社（上篇製絲五四頁參照）此地に在り、北甘樂郡より妙義山に攀登するには本町よりするを順路とし、里程約三里半なり、附近より葱を產す、下仁田葱と



貫前神社側面

稱して名あり。

蓋上毛山水。聚其勝於西南牧之鄉。西南牧野之勝。仁田是爲稱首。
夫白雲之高峻。金洞巖巖。大桁蕩蕩。蕪川牧水。瀏々繞其麓。
泉甘土肥。是以桑麻之業。民以富饒

（澤氏漫遊文章）

市河寛齋附市河米庵　名は世寧、字子靜、寛齋は其號なり、今の北甘樂郡磐戸村大字大鹽澤に生まる、少にして學に志し、笈を負ふて東都に遊ぶ、業成り名顯るゝに及び、昌平黌學員長に擧げられ、居ること五年、病を以て辭す、富山侯其名を聞き、聘して藩黌の教授となす、職に在ること二十餘年、老を以て致仕す、寛齋學博く、才敏に、最、詩に長ず、又、性山水を好む、上毛は故山の地にして佳勝に富めるを以て、屢〻遊涉探討を試み、遂に上毛志を編す、其他陸詩意註、日本詩記、全唐詩逸等著書頗、多し、文政三年七十二にして歿す。

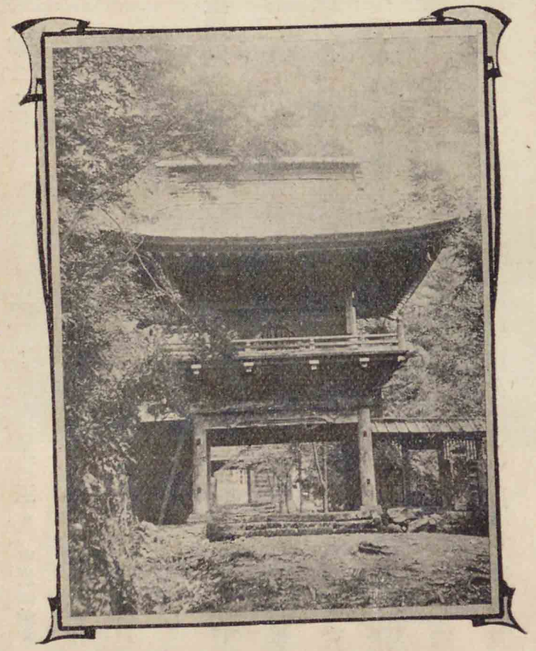
孤舟月上水雪長。崖樹秋寒古戰場。一自風流屬坡老。功名不復畫周郎（東坡赤壁圖）　寛　齋

米庵は寛齋の男、書を能くす、名は三亥、字は孔陽、安永八亥年亥月亥日を以て生まる、書體は米元章を學びて別に一家を成す、最、楷隷に巧なり、近世墨池の技の著しく聞けしは、米庵の鼓舞作興與りて力ありと云ふ、安政四年歿す、年八十、著す所米家書譚、米庵墨談、毛信遊草等あり。

黑瀧山不動寺（同郡磐戸村大字大鹽澤距下仁田町三里）　元正帝の朝、行基菩薩の作に係る不動明王像を安置し、山を黑瀧と稱し、寺を不動寺と號す、嵯峨帝の時、勅願の道場となさしめ給ふ、靈元帝の延寶年間中興の祖潮

音に至り堂塔伽藍悉、備はり、一大禪林となる、朝廷の歸依、將侯の崇敬淺からず、今は黃檗宗潮音門派にして黑瀧派と稱し、支院末寺二百餘を有す、境内幽邃にして禪窟は深山谿棧の中に在り、怪岩奇石處々に起伏して千態萬狀、眞に一幅の活畫圖を展す、就中、日東、星中、月西の三巖は抽むで各〻百尺の上に出づ、飛泉あり高く巉巖に懸る、一橋横に架して蛟龍の澗に飲むに似たり、名けて臥龍橋と云ふ、其他天壺洞、稻荷窟、天王嶺、五老峰、渡驢橋、三十三觀音、九十九谷等の諸勝あり、尤三伏の避暑に適し、晩秋の紅葉亦大に賞すべし、潮音禪師十二勝の詩あり、左に節錄す。

黑龍山山門



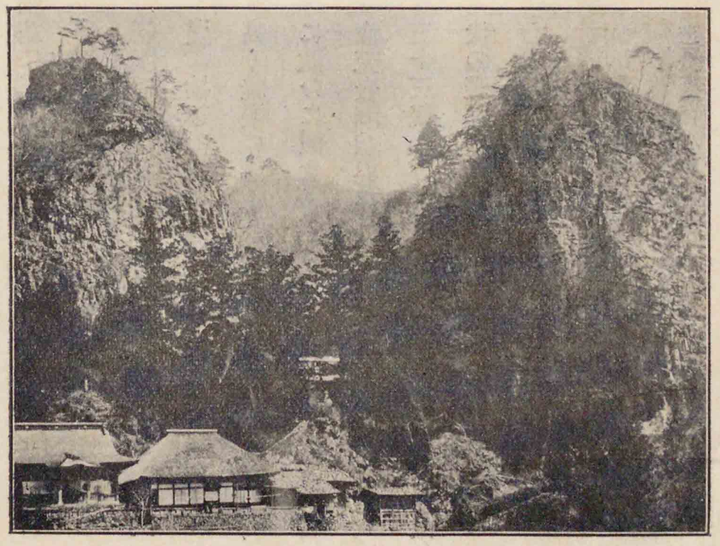
曉天日出照東岩、岩裡自然三德含（日東岩）潮　音
人與非人蒙惠澤、萬今千古仰斯巖
月落西山天欲曉、衆僧聚看意金經（月西岩）同
明王不動個中座、威德如神感巨靈
兩瀾中間石橋橋、度驢度馬上雲宵（渡驢橋）同
一過此處來遊士、生死穿開自透超
鎭座中間作主翁、千尋壁立聳虛空（星中岩）同
明星出現窟巖上、夜々放光照沒窮
飛泉直下數千尺、疑是廬山移此中（黑瀧泉）同
透石穿雲流出去、終歸大海自同通

小澤より左折し、上ること半里、石壁磊落相對し、嵌空屋宇の如し、人其間より過ぐ、天光穿透綫の如く四顧寥闃、萬響皆絶ゆ、乍人語頭に在るを聞き、仰げば即紅闇樹間に隱見す、乃其寺爲るを知るなり、寺の門内三岩亜峙して鼎脚の如し、品字巖と曰ふ、左巖は盤據して巨山の如く、右岩は險峭數十丈、勢脅渓に逼る、中岩は稍卑く、瀑布其巓より落ち、珠を濺ぎ、玉を噴き下りて石〻闘ひ激射四散、瀉ぎて潭中に入り、科に盈ち復流る、狀奔蛸の如し

（竹堂遊記）

星尾風穴（同郡尾澤村大字星尾距下仁田町四里半）　星尾山の山腹、海拔二千三百三十尺の所に在り、明治三十八年の創設にして、星尾風穴合資會社の經營に係る、蠶種貯藏力は春秋兩種を通じて五萬枚に過ぎずと雖、成績頗、良好なり、風穴内の温度、最低二十八度、最高四十五六度を昇らず。

縣設模範林　縣は殖林上の模範を示し、併せて縣有財産を增殖するの目的を以て、郡内妙義町、高田村、丹生村、吉田村地内（富岡町約三里）に屬する國有林野面積

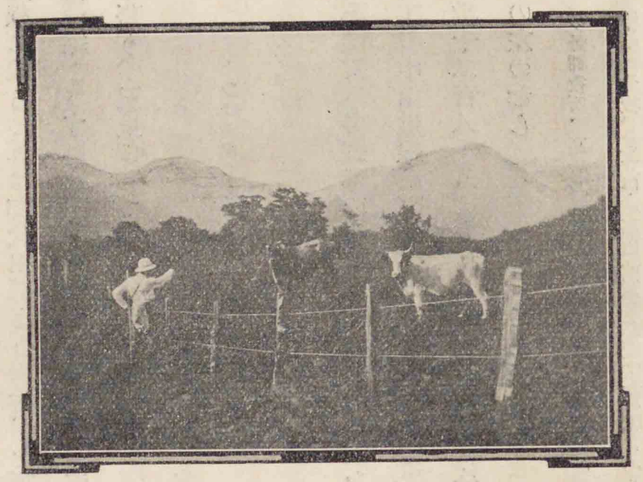


黑瀧山全景

三百六十七町八反四畝三歩の一團地を拂受けて、第一模範林を設置し、明治三十九年度より事業に著手し、植栽竝附屬苗圃の事業共に實行中に在り、成果著々として見るべく、將來に於て、一大造林の偉觀を呈し、好箇の財源を作すべきを疑はず。

荒船風穴（同郡西牧村距下仁田町四里半）　荒船山の中麓、海拔三千尺の所に在り、庭屋靜太郎の經營にして、明治三十九年の創設に係る、温度最高三十四度に昇らず、蠶種の貯藏成績極めて良好なり、同四十二年業務を擴張してより優に秋蠶種五十萬枚、春蠶種六十萬枚の貯藏力を有す。

神津牧場（同郡同村大字南野牧距下仁田町五里）　字物見山に在り、上信の國境、海拔四千尺の高地に位し、面積四百八十餘町歩を有す、明治二十年長野縣人神津邦太郎の開牧に係る、初、蕃殖の成績良好ならざるに鑑み、同二十八年場主自、米國に赴き、合衆國及加奈陀兩國より、有籍純粹種なる『ゼルシー』種、『フレンチカデアン』種及『エアシアー』種の三種牝牡四十五頭を直輸して一大革新を斷行したり、其結果逐年蕃殖力を增加し、今や良牛の産地



神津牧場（一）

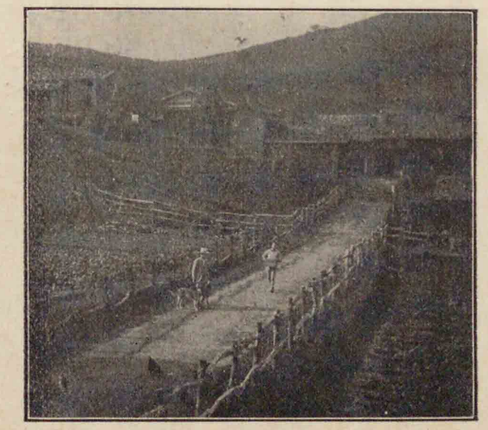
として喧傳せらる、現に畜養する所、牛八十餘頭及豚數十頭を算す、加之本場製造の乳油は、之を外國品に比するも敢て遜色なく、所謂神津『バタ』と稱して歡迎せられ、一年の產額約一萬斤に達す、信越線に依るときは御代田驛より岩村田を經て五里、上野輕便線よりすれば下仁田驛にて下車し、直に人力車の便を藉り、三里にして達すべし。

上つけや出でしもおそき有明の
かけ見ぬ月の末の駒ひき

定　信

藤岡町　多野郡の南端に位し、前橋市を距る五里二十四丁、中山道線新町驛より一里四丁、鐵道馬車の便あり、戶數千二百八十八、人口八千七百五、官公署其他主なるもの左の如し。

多野郡役所、高崎區裁判所藤岡出張所、藤岡梳務署、藤岡警察署、蠶病豫防事務所藤岡支所、藤岡郵便局、群馬縣立富岡中學校藤岡分校、私立甲種高山社蠶業學校（上篇教育八八頁參照）、株式會社藤岡銀行、綠野馬車鐵道株式會社、株式會社藤岡青物市場、順氣社蠶業株式會社



神津牧場（二）

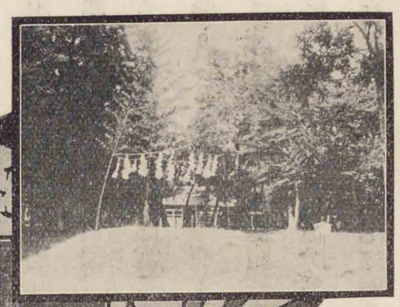
高山社　養蠶界の泰斗たる養蠶改良高山社は藤岡町に在り（上篇養蠶三九頁參照）

關孝和　字は子豹、通稱新助、自由亭と號す、寛永十九年今の多野郡藤岡町に生まる、幼より數埋を解し、長じて益〻造詣する所深く、遂に一家を成す、關流數學の祖是なり、著す所の書數百卷、大成算經、規矩要明算法、開方算式等最、世に行はる、英國の『ニュートン』、獨逸の『ライブニッヒ』微分積分を公にすると同時に、孝和は圓理術を發見す、此の如く洋の東西に於て、時を同うして大數學家の出で、其發見する所亦互に符節を合するものは洵に奇と謂ふべし、寶永五年歿す、年六十七、明治四十一年從四位を追贈せらる。

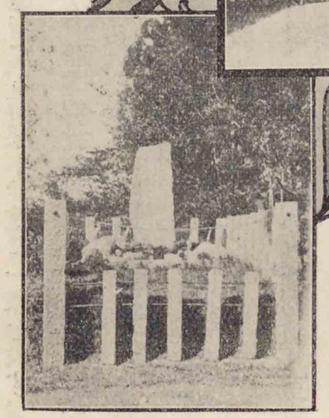
高山長五郎　名は重禮、天保元年今の多野郡美九里村大字高山村に生まる、資性沈毅、寡言にして謙讓の德を備ふ、長五郎常に心を農桑に留め、大に蠶業を興し、以て富源を涵養せむと欲し、躬、其勞を執り、日夜懈らず、而も屢〻蹉跌して意の如くならず、竟に神佛に祈請するに至る、一日野蠶の桑上に棲息して眠食蠕動自在の狀を視、恍然として悟る所あり、謂らく造化の妙理此に在りと、後數年遂に一種の養法を創め、名けて淸温育と曰ふ、蠶室の構造、寒温の程度、飼育の原理と相須ちて以て宜に適す、之を試みること數回、蠶兒叢生して繭を得ること尤、夥しく形狀鉅大にして其色澤美麗なり、蓋、業を始めてより是に至るまで八年、其間故老に諮詢して之を實蹟に參じ、焦心苦慮到らざる所なし、乃、蠶卵催靑器、殺蛹器、桑篩、桑切庖刀の式より蠶種の撰擇、桑樹栽培法に至る迄、一々

改良して新案に出でざるはなく、秩序整然として具備せり、於是、四隣喧傳來りて其術を求むる者相踵ぐ、而も長五郎未、輙く應せずして曰く、此、唯一家の私法のみ、吾豈人の師たるに堪へむや、若夫、之を誤用する者あらむか、其失、復、償ふべからずと、衆、懇請して已まず、遂に之を一二の親戚鄉黨に傳ふ、功効立ろに見はれ、其名益〻遠邇に噪ぐ、前後門に及ぶ者八百人、乃、高山組を創め、後、養蠶改良高山社と改む、衆推して以て社長となし、社員を四方に派遣して其法を教授す、高山社の今日あるは實に長五郎の賜なり、明治十九年病むで歿す、翌年農商務大臣より其功を追賞せらる、同二十四年再、賞勳局より追賞あり、同年社員相謀り記念碑を藤岡町に建つ、其篆額『高山長五郎功德碑』なる八字は實に能久親王殿下の賜ふ所なりとす。(上篇養蠶三九頁參照)

土師神社角紙壇



同埴輪製造の窯址



毛之野分何其沃。有山峙分蔚蒼蒼。毛之土分何其潤。有水流分滃泱泱。秀氣鍾分流且峙。伊人逝分我心悲傷。
噫伊人逝分其澤不亡。(功德碑詞)

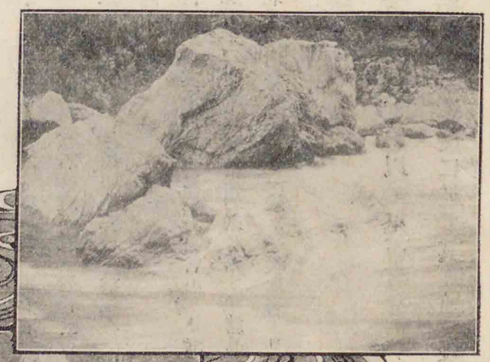
土師神社(同郡美九里村大字本鄉距藤岡町一里) 野見宿禰を祀る、境内の中央に宿禰の築きたりと云ふ日本三辻の一なる

角紙壇あり、今尚埴輪製造の窯址殘れり、二子塚及古塚六百餘附近に散在す。

鬼石町 多野郡の南端に位し、距藤岡町三里、鐵道馬車の便あり、戸數六百四十二、人口三千八百六十八を有する一小邑なり。

古の綠野寺(鬼石町大字淨法寺距藤岡町二里餘) 淨法寺は古の綠野寺にして、今の天台宗廣嚴山般若淨土院是なり、聖武帝の勅願にして、東國導師道忠を開基とし、傳敎大師を中興とす、境内名蹟多く、就中聖德太子靈塔の如き、五輪にして其石甚、古し、寺寶亦少からず。

三波石(同郡美原村大字讓原距藤岡町五里) 字柏ヶ舞地内神流川の河床數百間に亘りて、青質白理の奇石大小四十八箇の點在せるを見る、此地、元、三波川鄉と稱したるに因り、此く名けしなるべし、石は總べて豪岩瑰偉、奇峭幽拗、而も其形に至りては、或は崔巍として屋梁の如きあり、或は細痕閃燿彫紋の如きあり、或は高脊蜿蜒とし



浦島の釣石
師毛石
無名石
曼陀羅石より
兩乞石、不動
石を望む

て蟠まるが如きあり、一樣一態の奇趣、自、別異あり、造化の至妙殆、測り知るべからず、巨石の錯立する所に清冽玉の如き神流の水あり、激して奔湍怒濤をなし、千百の雷霆を挾むに似たり、四境皆翠壁を垂れ、夏時の探勝、恐らくは身、蒼蒨綠石に染して凍碧と成るかを疑はしむ、若夫、晩秋の候に至りては、水稍〻涸れて石愈〻其奇を現し、崖壁を飾る錦楓と相俟ちて觀賞尤佳なり、村に案内所あり、就きて東道せしむべし、三波四十八石の名を擧ぐれば左の如し。

三波石（一石、二石、三石）　日暮石　坪石　硯石　駒蹄石　龍卷石　手淨石　獅子石　夫婦石　茗荷石　虎毛石　浦島太郎釣石　流水石　無名石　鯰石　蛇腹石　護摩壇石　法螺貝石　猫石　立石　伏石　稚子石　五色雲石　釜石　富士石　白藤石　鞍掛石　亀石　唐絲石　姥石　象石　御座石　達摩石　横家石　蓮座石　達摩の座禪石　破風石　室石　曼陀羅石　雨乞石　不動石　絹掛石　船石　鎧石　兜石　茶盆石　袖石　阿彌陀石

本邦太古界は大體より論ずれば三部に大別するを得、則ち其下部は重に長石を含有する者、即片麻岩より成り、上部は樣々なれども、主に千枚片岩より成立す、前者を片麻岩系、後者を結晶片岩系と稱す、結晶片岩の下部或は其上部にもて不整合線を爲して、太古界の下に位し、關東山脈の北緣に沿ひて露出し一般に千枚片岩よりなるものを稱して三波川層と云ふ（地學雜誌）

郡設模範林　多野郡は面積百町歩の模範林造成の計劃を以て鬼石町を距る約五里、神川村地内に國有林百町歩を拂受け、現に事業に著手し、明治四十一年度に於て其栽植を終り、更に適當の土地を得て事業の完成を期せむとし、今や附屬樹苗圃を設置して稚苗の養成中に在り。

吉井町　郡の東北部に位し、藤岡町を距る二里十八丁、高崎市より上野輕便線に乘車すれば僅に三十五分にして到る、吉井侍從（一萬石）の舊城下にして戸數千十九、人口六千五百八十七、吉井警察分署、專賣局吉井出張所、高崎區裁判所吉井出張所、吉井郵便局、株式會社吉井銀行等の所在地なり。

多吉碑

多胡碑（吉井町）　大字池に在り、我邦三碑の一として、將、上野三碑の一として其名洽し、距今千二百年、元明帝の和銅四年に建設せられ、下野那須國造碑に後るゝ二十餘年、陸前多賀城碑に先つこと五十二年の有文古碑なり、高四尺餘、厚幅各二尺弱、頂上に方三尺許の覆石あり、碑面に文字八十を鐫せり、字體古雅、筆畫遒勁、氣韵掬するに堪へたり、白河樂翁の集古十種に之を收め、清人編選の楷法溯源亦、之を載せて古體楷字の模範となす。

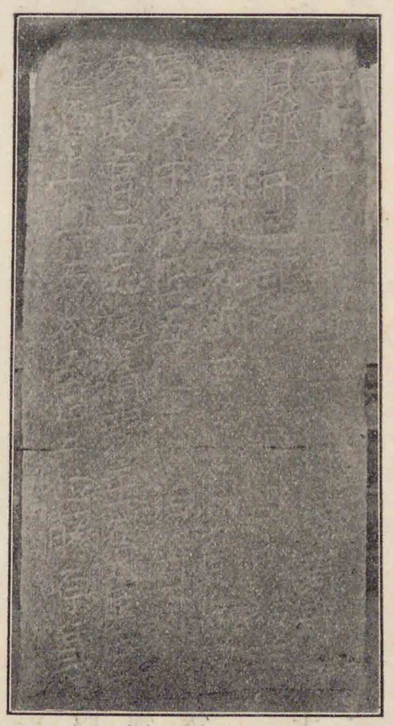
文中給羊の二字は古來史家、考古家の難解とする所、或は羊を以て人名となし、或は給羊は給養に通ずとなす、口碑の傳へて本碑を以て羊の太夫の墓碑となし、今尙『ひつじさま』又は羊大明神と稱するに見れば、羊は果して人名若は氏號に歸すべき

歎、明治の初年、時の縣令楫取素彥稀世の古碑の久しく榛莽風塵の間に埋没せるを歎じて斡旋する所あり、有志者亦、資を醵して碑亭を設くる等稍〻舊觀を改めたり。

一片羊公碣。素傳絕妙辭。石當青嶂出。
字映碧苔滋。雨洒龍文怪。雲飛鳥跡奇。
悠然千載下。悵望淚先垂。

東　江

辛科神社（同郡多胡村大字神保距吉井町二十五丁）　鄉社にして、速須佐之男命、五十猛命、木花咲夜比賣命、倉稻魂命外十二神を祀る



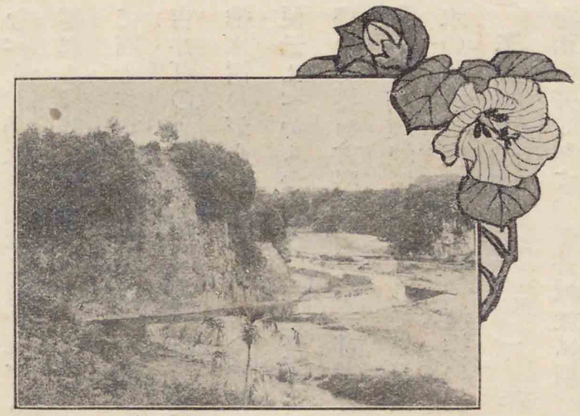
多胡碑文

大寶年間の創建なり、和銅四年甘樂、綠野、片岡三郡の內、三百戶を割きて多胡郡を置かれしとき、本社を以て總鎭守とせらる、建久八年源頼朝の寄進せし神鏡、今尙社寶として襲藏す。

入野及吉井の耕地整理　多野郡は本縣耕地整理中尤、面積の大なるもの及特殊の施設をなしたるもの二を有す、其一は則、入野村の耕地整理（距吉井町二十丁）なり、由來同村大字馬庭、小暮、岩井三ヶ村は鏑川の東北高地に在り、古より村民は僅に谿間の潴水と雨水の貯溜とを灌漑用に供するに過ぎ

ず、其困難名狀すべからざるを以て、幾たびか水利を低地なる鏑川に求むるの計劃ありしも、奏功の如何を慮りて未、之を果さず、會〻明治三十七年九月新井新作等數名千葉縣下に赴き、市原郡鶴舞村に設置しある藤原式揚水機の簡易にして適當なるを視、歸來之を同志者に謀り、幾多の疑惧と困難とを排し、漸にして議を決す、乃、工を同年十一月に起し翌年五月工成る、經費金一萬餘圓を要せり、惜むべし、揚水の利既に通ずれども、用惡水路の設備之に伴はざるものあり、於是、更に耕地整理の必要起る、時恰、地方凶歉に際し、縣は是が救濟の策として斯業を奬勵するに會す、同年十一月發起して四十年十月總面積百六十餘町歩の整理工事を完了し、二毛作の水田となすことを得たり、他は則、吉井町の耕地整理にして、同町大字長根は從來水利の便を缺き、用惡水路の區別なきを以て灌漑、排水兩ながら意の如くならず、作路亦、不整を極め、加之燒石、土礫點々耕地內に堆積して耕耘の不便云ふべからず、村民之を憂ふること久し、明治三十八年、縣の奬勵に依り時の町長安藤馬五郎等整理の必要を首唱し、翌年一月實行に著手し、其年四月、長根と同一狀態に在る隣接地大字下長根及本鄉をも整理地區に編入して總面積二百十二町歩の整理を行ひ、明治四十一年三月工全く竣る、爾來用水の潤澤、交通の便利、灌排の緩急共に宜きを得、尙有効地積十二町歩を增加するを得たり。

平井城址（同郡平井村大字西平井距藤岡町一里半）　平井の地、鮎川西南より來りて、東北に流る、東を東平井と云ひ、西を西平井と稱す、平井城址は則、西平井に在り、文明年間、山內上杉顯定始めて此に築きて居る、玄

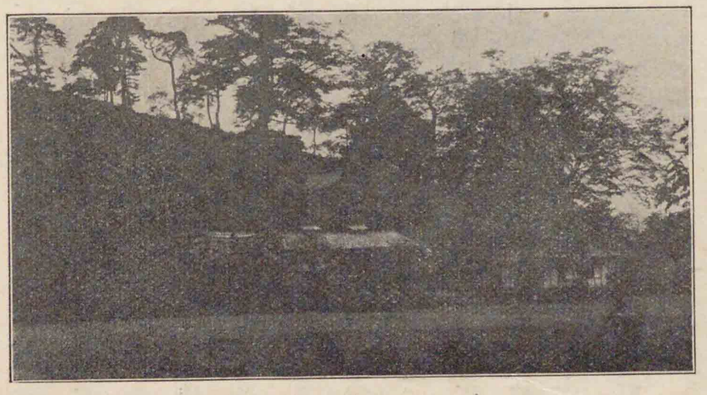


孫憲政、北條氏康に攻められて越後に奔り、嗣子龍若、北條氏に降り、上杉氏爰に亡ぶ、山河空しく存して、覇業復見るに由なし。

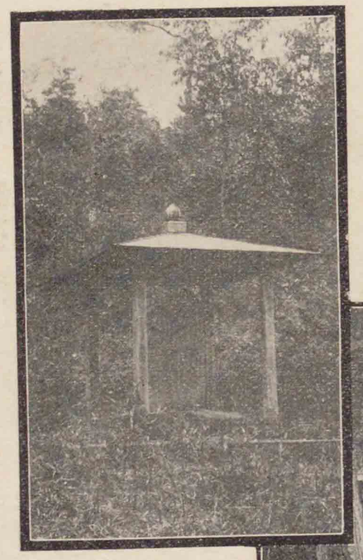
平井は繁華にして京より紅霧、松霧、梅霧、藤霧、上霧、とて白拍子五人、其下にイタイケ美人、シッサ美人などいふが下り居て、賑しかりし故、侍衆武を忘れたるまゝ亡びたるなり。（甲陽軍鑑）

平井城址

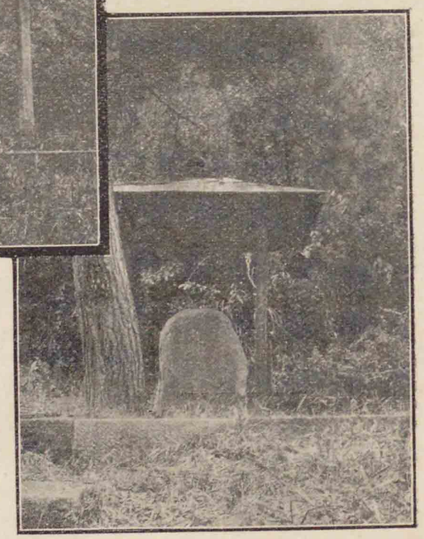
山名の八幡宮（同郡八幡村大字山名距藤岡町一里半）　上野輕便線、山名停車場より僅に一丁、譽田別命、息長足姫命の二神を祀る、往昔宇佐八幡宮を勸請し、文明年間新田氏、源家の守護神たるの故を以て宮殿を再建せり、爾來州人の崇敬淺からず、今尚春秋二季の祭典は山名の八幡祭と稱して遠近の賽者雲集し、輕便鐵道は爲に



山名八幡宮



山上の碑



金井澤碑

臨時列車を運轉するを例とす、社域開豁、翠松綠樹の間、櫻樹點綴して花時の風光最佳なり。

山上の碑（同上）　字山の上に在り、上野三碑の一たり。高三尺五寸、幅二尺、碑面に辛己歳集月三日記、佐野三家定賜建安命孫黑賣刀自此　新川臣兒斯多彌足尼孫大兒君娶三兒長利僧母爲記文也、放光寺僧と刻せり、其意義に就きては所說區々にして歸する所なし、文中、辛己歳集月三日とあるは天平十三年に當る。

金井澤碑（同上）上野三碑の一にして字金井澤に在り、山上の碑を距つること僅に數丁に過ぎず、碑面に左の文字あり、意義未、詳ならず。

上野國群馬郡下賛郷高田里三家子孫爲七世父母現在父母現在侍家刀自□□君□部刀自人兒□刀自孫物部君千足次賊刀自□□刀自合六合又知識所結人三家氏人□□次知万呂鍛師礒部君牛麻呂合三□如是知識結而天地誓願仕奉石文

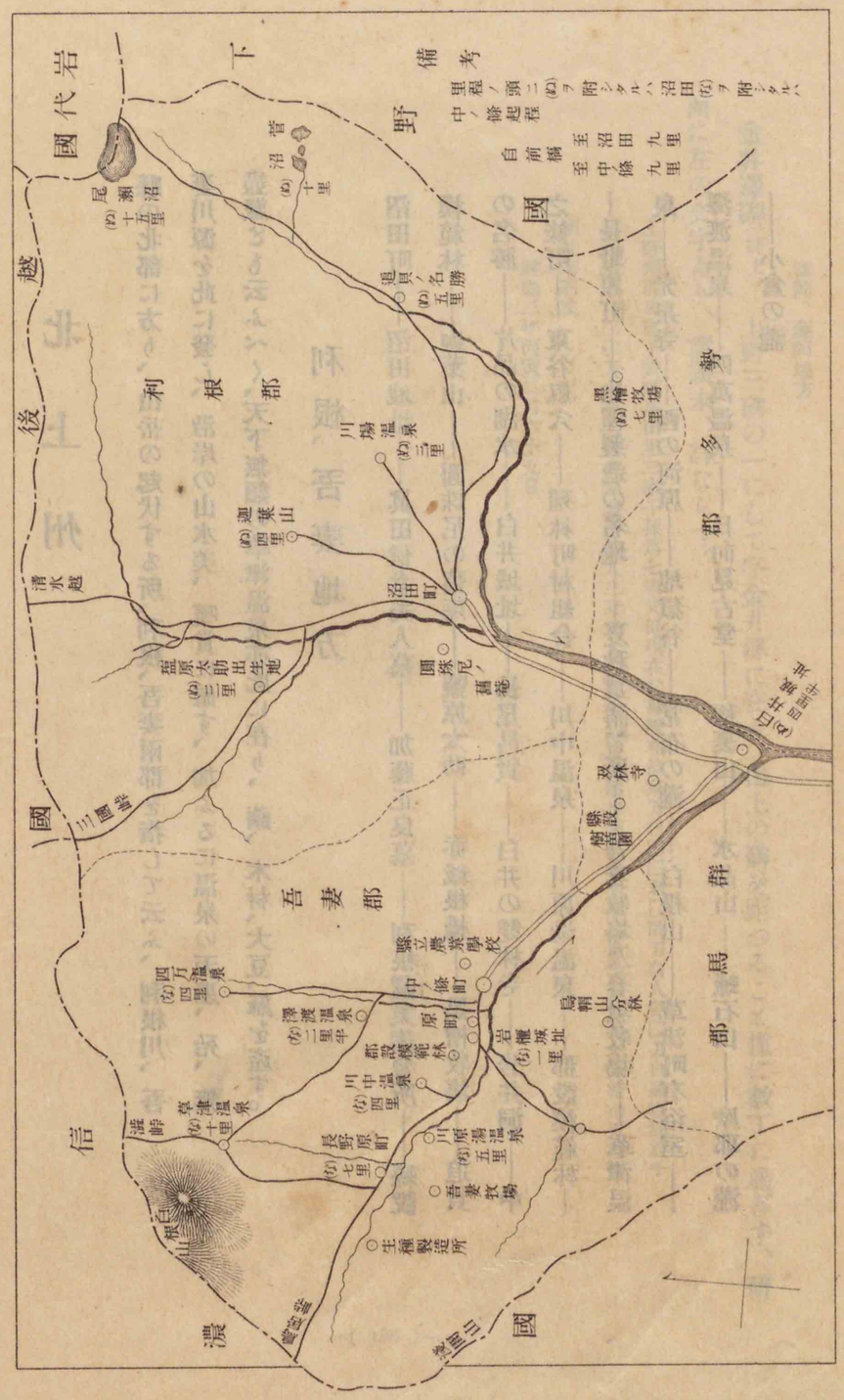
神龜三年丙寅二月二十九日

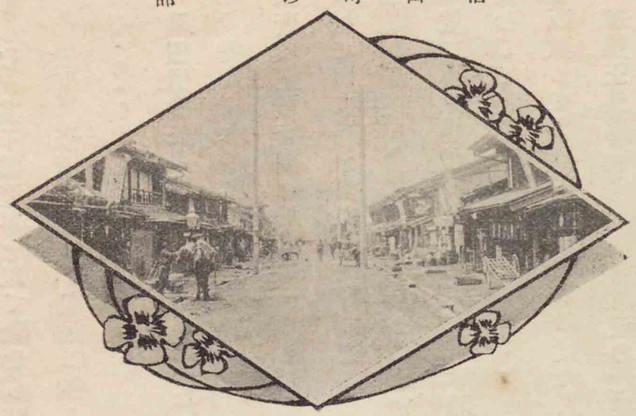
北上州

縣の北部に方り、山岳の起伏する所、利根、吾妻兩郡を指して云ふ、利根川、吾妻川源を此に發し、沿岸の山水美、嘆賞に値す、加ふるに温泉の天惠、殆、無盡藏とも云ふべく、天下無類の草津温泉亦此に在り、繭、木材、大豆、麻を産す。

利根、吾妻地方

沼田町——沼田城址——眞田信幸夫人墓——加藤正良墓——利根蠶業講習所——縣設模範林——迦葉山——圓珠尼の舊庵——鹽原太助——赤城根橋——黒檜牧場——追貝の名勝——片品の湖水——白井城址——長尾昌賢——白井の雙林寺——岩井洞——中之條町——東谷風穴——殖林町村組合——川中温泉——川原湯温泉——郡設模範林——長野原町——生種製造の名地——夏秋蠶講習所——吾妻牧場及暮坂牧場——草津温泉——光泉寺——西の河原——地獄谷——常布の瀧——白根山——草津町有浴室——澤渡温泉——四萬温泉——日向見古堂——稻裏山——水晶山——蠟石山——摩耶の瀧——小倉の瀧




沼田町の一部

利根、吾妻地方

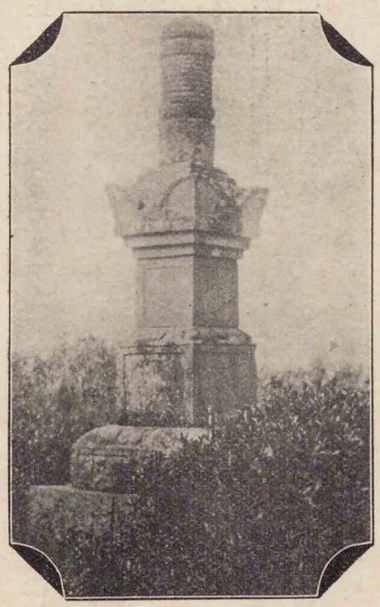
沼田町　利根郡の西南隅に位し、距前橋市八里三十二丁、澁川町に至る間電車の便あり、其北五里は馬車、人力車を以て通ず、土岐隼人正(三萬五千石)の舊城下にして、三國街道及會津街道に沿ひたる要路に當る、戸數千五百三十八、人口六千七百六十七、本縣北部に於ける繭絲の集散地にして、商業亦繁盛なり、主なる官公署其他左の如し。

利根郡役所、沼田警察署、沼田稅務署、沼田區裁判所、沼田小林區署、群馬縣立前橋中學校利根分校、沼田郵便局、株式會社沼田銀行、同利根貯蓄銀行、同沼田貯蓄銀行、委托販賣倉庫株式會社、沼田物產株式會社、利根電力株式會社、利根通運株式會社、利根酒造株式會社、利根畜產株式會社、利根繭絲同業組合

沼田城址(沼田町)　郡の中央高地の北端に位し、北に薄根、南に片品、西に利根の諸川を控え、繞らすに重山複嶺を以てす、所謂金湯の要地たり、始、沼田氏之に據り、天正十八年眞田昌幸及其子信幸

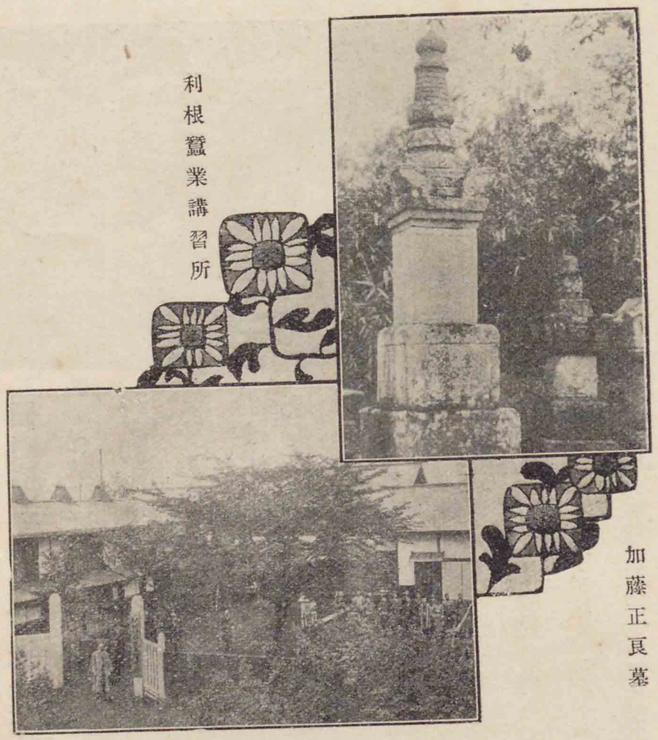
本城を領す、慶長五年關ヶ原の役昌幸西軍に應じ、信州上田城に據りて東軍を支ふ、信幸は東軍に屬す、役終りて信幸上田に移り兼ねて沼田を領す、元和元年此地を庶長子信吉に分與して別に一家を立てしむ、其子信澄事を以て除せられ、城乃廢し、後復、修理せられ。寛保二年より土岐氏の領となる。

眞田信幸夫人墓（同上） 淨土宗正覺寺に在り、夫人は本多忠勝の女なり、慶長五年德川家康の上杉景勝を征するや、信幸其父昌幸弟幸村と與に兵を率ゐて佐野に到る、會〻石田三成の書到り、大阪に就かむことを勸む、昌幸俄に心を變じて軍を旋す、信幸乃、單身東軍に留まる、昌幸途に沼田を過ぎり、城に入りて兒孫を見むことを要む、夫人夙に舅昌幸の異志あるを疑ひ、拒みて城に入れず、昌幸其志の奪ふべからざるを感歎して去る、是、史乘の賢夫人として傳ふる所なりとす。



眞田信幸夫人墓

加藤正良墓（同上） 加藤清正の曾孫正良、祖父忠廣自殺の後、母妹と共に眞田氏に預けられ、次で自刃す、日蓮宗妙光寺に加藤藤松正良墓とある古墳墓は其遺骸を埋めたる所なりと傳ふ。



加藤正良墓

利根蠶業講習所

範林と同一目的を以て、利根郡川場村地内（距沼田町約三里）に屬する國有林野面積百八十一町三反九畝十一歩を拂受け、第二模範林を設置し、著〻功程を進捗せむとしつゝあり。

迦葉山（同郡池田村大字上發知距沼田町四里） 沼田の北方に屹立せる高峰を迦葉山と云ふ、山中に龍華院彌勒寺あり、嘉

利根蠶業講習所（同上） 明治三十二年利根郡農會の設立に係り、生徒を養成するを主なる目的とし、旁、蠶種を製造して實費配布を行ふや、希望者頓に增加し、講習生亦、漸、加はりしを以て、同四十一年其計劃を擴張すると同時に赤城山麓なる川田村地内に分場を設け、秋蠶生種の試製をなして好果を得たり、爾來之が製造は郡内各地に試みられ、將に生種製造の好機運に向はむとす。

縣設模範林 縣は北甘樂郡所在の模

祥元年上野大守葛井親王、天台の慈覺大師を招きて精舍を草創せらる、之を始祖とす、中興は慈運律師、再中興は慶順和尚なり、慶順寂後曹洞宗となる、寺域は全く巉巖を以て刻まるゝが如く、老杉半天を摩す、眞に深奥無限の靈境なり。

鹽原太助接待茶釜

圓珠尼の舊庵（同郡川田村大字下川田距沼田町一里）

圓珠尼は和歌を善くし、其名四方に喧し、

立田山紅葉を分けて入る月は
錦につゝむ鏡なりけり

の歌畏くも正親町帝の叡感を蒙り左の御製を賜はる

上野の沼田の里にまとかなる
玉のありとは誰かしらまし

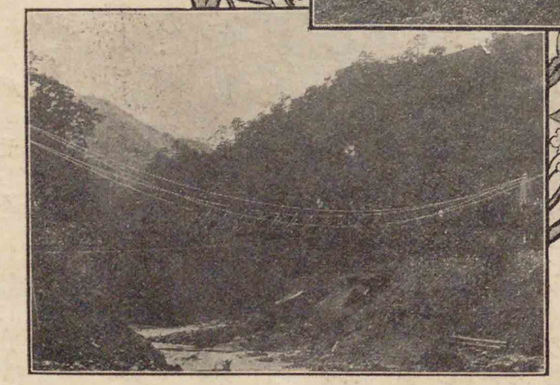
天正十年瀧川一益の厩橋城に在るや、圓珠を延きて師となす、死して川田村舊庵の側に葬り、流泉院殿圓珠法尼と號す、既にして舊庵を寺とす、今の淨土宗遷流寺是なり。

鹽原太助筆蹟

鹽原太助 今の利根郡新治村下新田の人、其先、士たりしの故を以て、太助常に遠祖の業を回復するに意ありしも、事志と違ひ、居常怏々たり、一日飜然として決する所あり、直に江戸に奔り、神田佐久間町の薪炭商山口屋の僕となる、太助至誠忠實、加ふる勤儉、一絲の微と雖、苟もせず、常に意を貯蓄に留む、乃、主家の知る所となり、其扶助を得て家を本所に索め、炭商を營む、幾もなく富鉅萬を累ね、『本所に過ぎたるものが二あり、津輕大名、炭屋鹽原』と謠はるゝに至る、太助又孝養を盡し、力を公益事業に致したること尠からず、老後心を風流文雅に寄せ、壽山と號し、俳諧を能くす、文化十三年病歿す、年七十又七、墓は東京淺草高原町東陽寺に在り。

江戸中のすみから炭のうり初はけふ山口のくちをひらひて　太助
鶴の千代龜のよろづよつきたさん八十八を數とりにして　壽山

黑檜牧場



赤城根橋

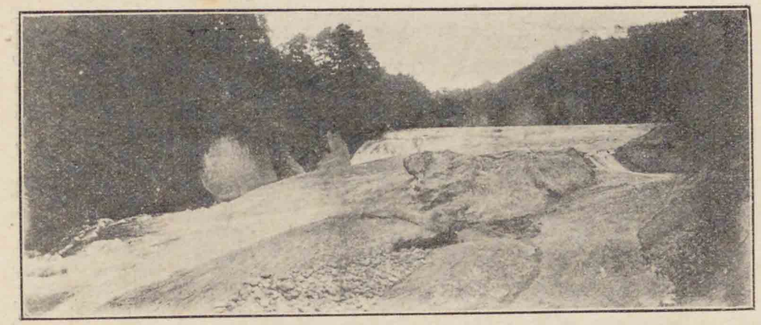
赤城根橋（同郡赤城根村大字日向南郷距沼田町三里半）　河川の多き本縣は到處に大規模の橋梁を架設せらる、鐵橋に在りては吾妻、坂東、利根の三橋を推し、他に尤なるもの九橋あり、本橋は『サスペンション』式にして同郡白澤村入會片品川に架する所、附近絶好の水容山態は、橋型の奇と相對照して畫題の一に入るべきものなるべし。

黑檜牧場（同上）　沼田町より七里の山中に在り、面積六百町歩、地勢、水草の利を兼有し、牛馬の放牧に適す、毎年優に三百頭の牛馬を放飼するを得べし、黑檜牧場株式會社の經營に係る、郡内別に根利牧場、高戸谷牧場、新治牧場、二本栖牧場等あり。

追貝の名勝（同郡東村大字追貝距沼田町五里）　片品川の中央、河底一面の盤石坦々として砥のごとく、縱數十間上流に向ひ、横十三間劈けて大皷狀を作し、奔流此に注ぎて瀑となる、天然の妙、巧緻を極むるものあり、之を吹割の瀑となす、其他附近に浮島、猪の鼻瀑の勝あり、風光共に絶佳なり。

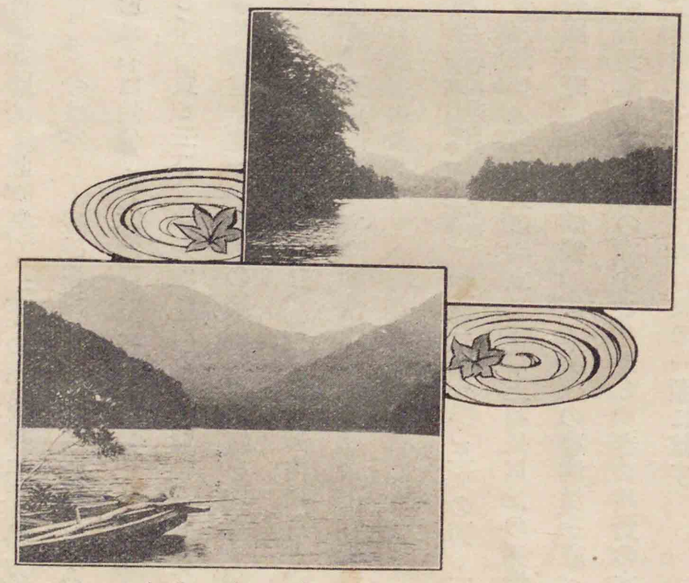
片品の湖水（同郡片品村距沼田町十里）　村は元、僻遠の一寒村たるに過ぎずと雖、栃木、福島兩縣に通ずる二條の山道あるを以て、此地を往來する者少からず、殊に西洋人の日光に赴くものは、沿道の風光尤、明媚にして長途

吹割の瀧



の疲勞を忘れしむるを愛し、夏季本村を過ぐるもの、年と共に增加するの傾向あり、大字東小川の白根山は海拔八千尺、其一面は栃木縣に屬し、山麓に菅沼あり、一に瓢簞沼と稱ふ、周回一里に滿たずと雖、夏は積翠の湖上に落ちて凉氣の人に逼るあり、秋は則、紅葉の林樾を飾るあり、其景趣の美、殆、曰ふべからず、近年千明賢治の經營に依り、鱒、雨鱒、鮒等を養殖す、湖畔に別墅の設ありて探勝者を待つ、此より十丁を距てゝ清水沼あり、魚族の蕃殖は前者に及ばずと雖も、面積の大と風光の美とは夐に之に過ぐ、共に栃木縣に通ずる道途に當る、別に福島縣の境界に尾瀬沼あり、周回三里餘、高峻の山峰四面を環繞して山中の勝たり、湖に多くの嘉魚（イハナ）を産す。

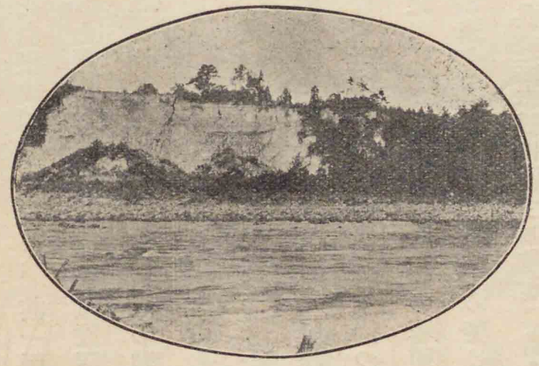
菅沼の風光（一）



（二）　上　同

白井城址（群馬郡長尾村大字白井距沼田町四里半）　村の南端、利根、吾妻二川の交流する所に高地あり、之を白井址城となす、康永元年長尾景煕始めて白井の庄を上杉憲實より賜はり此に築く、五代の孫昌賢に至り勢力漸、大となる、爾後幾多の興亡を閲し、慶長六年廢城となり、今は空しく殘礎遺濠に當年を追想するのみ。

白井城址

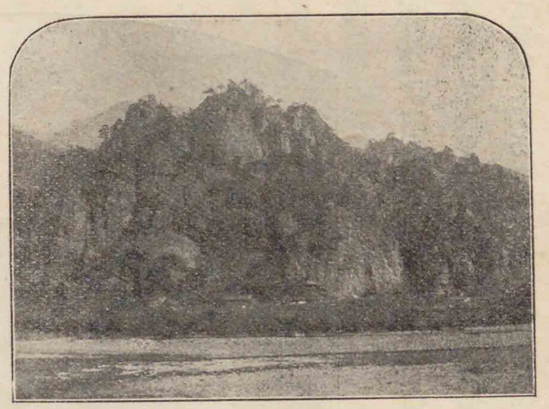


長尾昌賢　名は景仲、上杉憲實及其子憲忠に仕へて功あり、晩年剃髮して昌賢と云ひ、白井城に居る、昌賢性、學を好み、城中に聖廟及講堂を建て、京師の儒、藤原清範を聘して講莚を開き、諸士をして之を聽かしむ、好學の風領内に起り、德化大に行はる、寛正四年歿す、壽像今に傳はりて雙林寺に在り。

白井の雙林寺（同郡白郷井村大字中郷距沼田町五里）　寶德二年僧、正文の開く所、白井城主長尾景仲入道昌賢の建立とす、上杉長尾氏の盛世に際り、其管國上野、信濃、越後、佐渡所在の曹洞派を總べし、を以て、今尚到處に其門末の存するを見る、寺に昌賢の木像を藏す、古撲掬すべく、正に考古家の一顧に値す。

縣設樹苗圃　群馬郡白郷井村大字中郷字西組國有林内に在り、面積約五町歩、特種用材たる欅、

岩井洞



栗、朴等の樹苗を養成し、一般希望者に無代下付せらるべき國の奬勵補助に係る事業なりとす。

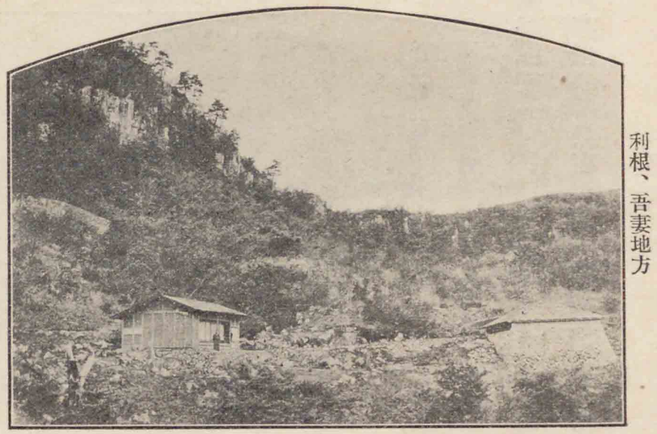
岩井洞（同郡小野上村大字村上距沼田町六里半）　村と吾妻郡中之條町大字市城との間に奇勝あり、山峯皆石にして、起てるもの、臥するもの等、千態萬狀を極む、翠樹紅葉點綴の妙、畫も亦若かず、下に一佛堂あり、岩井洞是なり。

中之條町　吾妻郡の東端に位し、距前橋市北西八里二十五丁、前橋市より澁川町に至る間電車の通ずるあり、更に澁川町より北西五里は馬車、人力車を通ずべし、戸數九百一、人口四千八百八十二、郡内第一の商業地なり、官公署其他主なるもの左の如し。

吾妻郡役所、中之條税務署、中之條區裁判所、中之條小林區署、中之條郵便局、群馬縣立農業學校、株式會社吾妻銀行
同吾妻興業銀行、同吾妻貯蓄銀行、草津馬車株式會社

東谷風穴（吾妻郡名久田村大字大塚距中之條町一里二十四丁）　字垣掛東谷山の中腹に在り、明治三十九年の創設に係る、土地高燥、温度亦低く、最高三十四度を超えず、蠶種貯藏力春秋種を通じて約四萬枚にして、東谷風穴合資會社の

東谷風穴



經營する所たり。

殖林町村組合　烏帽子山殖林町村組合は明治四十二年吾妻郡中之條町外五ヶ町村より組織せられ、設定許可を受けたる部分林（三官七民）字烏帽子山國有林面積七百八十一町八反二畝四歩の殖林事業を經營するを目的とし、町村組合設立の許可を得て實行中に在り。

川中温泉（同郡岩島村大字松谷距中之條町四里）　海拔一千百五十尺、空氣清澄人體に可なり、泉質は無色透明にして少許の苦鹹味を帶べる硫化水素臭を有す、發見未、詳ならず、萬治年間竹淵某、温泉の經營を應永寺に托し、同時に藥師堂を建立して面目を新にしたるものゝ如し、浴館の設備稍ゝ整頓し、都人士の來浴年を逐ふて加はる。

川原湯温泉（同郡長野原町大字川原湯距中之條町五里）　土地高燥、空氣清涼風景の美、郡中無比と稱す、發見の時代未、詳ならずと雖、源頼朝三原狩の當時既に開けたりしことは口碑の傳ふる所なり、泉質は無色透明の硫黄泉にして諸病に効あり、浴館は設備整頓し、一年の來浴者、延べ三萬を下らず、外人の來浴亦年を逐ふて

多きを加ふ、不動瀧、雲裡隧道、獅子穿、辨天橋、大澤瀧、千歳橋橡洞澤の大橡等の諸勝附近に在り、轆轤細工、温泉煎餅、椎茸、山葵を産す。

郡設模範林　吾妻郡は岩島村地内（距中之條町約三里）に屬する國有林面積五十町歩の部分林（二官民三）設定許可を受け、之れに十ヶ年に植栽する計劃を以て、明治三十九年度より事業に著手したるが、吾妻郡農會は此の郡設模範林の植栽用竝郡内造林者に寄附の目的を以て約三反歩の樹苗圃を設置し、稚苗を養成して援助を與ふ。

長野原町　郡の西部に位し、距中之條町七里十三丁、戸數六百二十六、人口四千百二十三、長野街道の一驛にして、此より四里十丁にして草津に達す、共に馬車、人力車の便あり、長野原警察分署、中之條區裁判所長野原出張所、長野原郵便局等皆此地に在り。

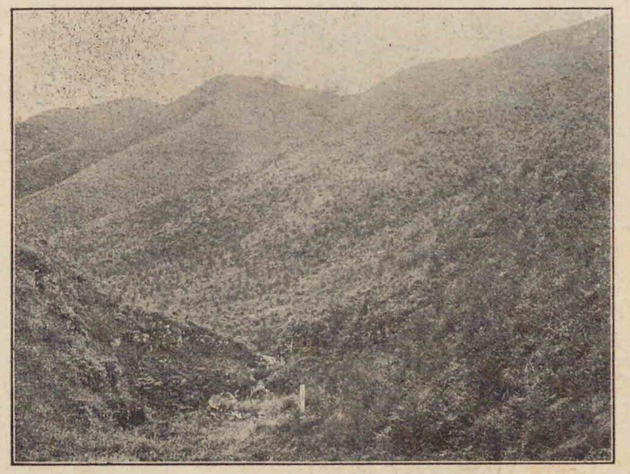
雲裡の曉色

川原湯温泉

生種製造の名地（同郡嬬戀村距中之條町十里）　嬬戀村は淺間原野に瀕し、長野縣北佐久郡に接する地にして、氣候極めて寒冷なり、故に毎年五月下旬より六月上旬に亘りて、蠶種を掃立つるを例とす、此地特に人工究理を施すの要なく、生種の製造地として天然の要素を具備す、宜なる哉、同郡に於て製造せる生種の七分は、同村の生產に係るの盛況を呈せり、今後蠶蛆の撲滅に意を用ゆるに於ては、將來益〻有望の事業なりとす、

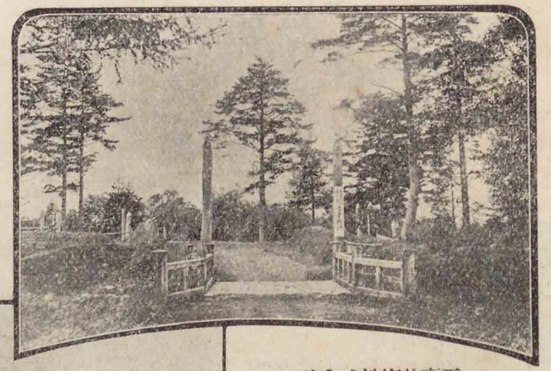
夏秋蠶講習所（同上）　大字大前に在り、明治四十二年の設立に係り、生種製造の改良發達を圖るを以て目的とす、同村別に吾妻蠶種組合あり、生種製造販賣業者の組織したるものなり。

吾妻牧場及暮坂牧場　吾妻郡は由來牧場に富む、就中經營の大なるものとしては吾妻牧場、暮坂牧場の二を推さゞるべからず、前者は長野原町大字應桑村地内、海拔四千九百五十尺の淺間山北方裙野に在り。面積約三千町歩、放牧地、耕作地及牧草地の

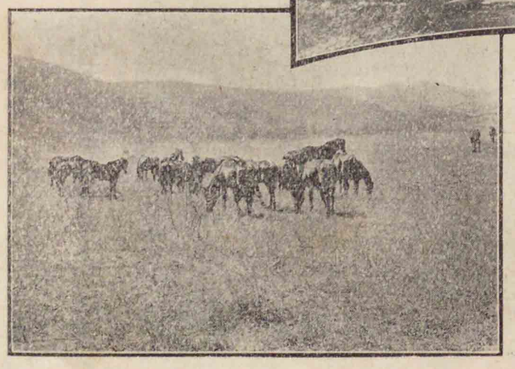


吾妻郡模範林

三區に別ち、耕作地百三十町歩は主として馬匹の飼料を耕作する所とす、其創始は明治十五年　北白川宮家に於て專、馬匹の改良蕃殖を經營せられし時に在り、明治三十九年に至り吾妻牧場株式會社の所有に移るや、會社は從來の經營法に則り、勉めて堅牢なる馬匹を生產するの方針を立て、漸次淘汰を行ひ、改良に努めたる結果、逐年多くの駿馬を出だし、現に種牡馬三頭、牝馬及使役馬等百六十四頭を有す、毎年九月馬匹の糶市を行ふに見ても其盛況を察すべし、信越線輕井澤を經て、草津温泉街道よりすれば約四里半にして達すべく、中之條町よりせば長野原町まで馬車の便あり、同所より約二里半にして達す、後者は六合村に在り、面積三百町歩にして吾妻產牛馬組合の經營に成り、毎年二百頭内外の牛馬を放飼す、其他嬬戀牧場、淺間牧場、佐藤牧場等を主なる



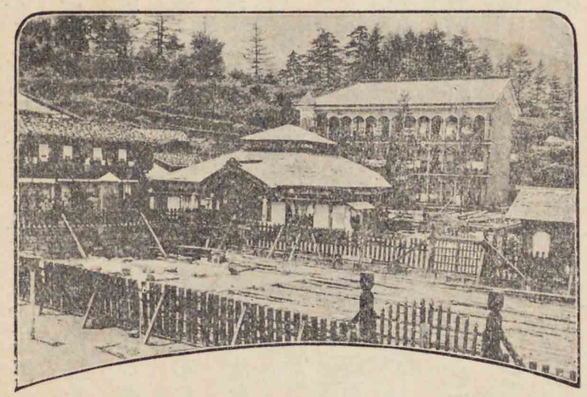
吾妻牧場株式會社



大屋原放牧地

ものとす。

草津温泉（同郡草津町距中之條町十里）　草津の地は海拔四千五百尺、極暑の候と雖、尙華氏寒暖計八十度を超ゆること殆、稀にして蚊蠅毒蟲の類を生ぜず、實に人寰を隔つる避暑の別天地なりとす、戸數三百、中之條町より馬車、人力車の便あり、西に白根の硫黃山を仰ぎ、東南廣漠たる山野を隔てゝ吾妻山、浦倉山、萬座山、池の嶺、岩寥山等の群山逶迤蜿蜒

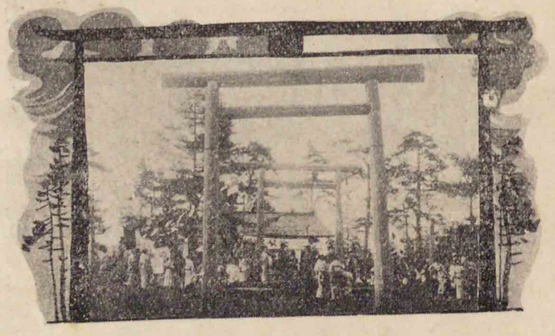


熱の湯附近

地藏の湯附近

として四隅に綿亘し、遙に淺間山の噴煙を望む、發見時代、未、詳ならずと雖、或は皇極帝以前に在りと云ひ、或は養

老年間僧行基の發見する所なりと傳ふれども、建久四年源頼朝三原狩の時、此の温泉に浴したるより名聲頓に揚れるもの〻如し、市街は湯畑と稱する方五十餘坪の熱泉を圍繞して形成せられ、新田町、竪町、東仲町、西仲町、泉水通、關屋町、瀧下町、地藏町の八ヶ町に分つ、鑛泉宿は一等六軒、二等二軒、三等五軒、四等十軒、五等十九軒、六等十軒あり、概、三層の高樓を搆へ、各〻浴場を有し、澡泉尤、便を極む、宜なり、毎年一萬五千人の浴客を迎へ、一ヶ年通じて二十五萬人の多きを見る、而して松の湯は東仲町に、熱の湯、白旗の湯は西仲町に、鷲の湯、千代の湯は瀧下町に、地藏の湯は地藏町に在り、別に瀧の湯、關の湯、綿の湯、玉の湯、富の湯、仁川の湯の六湯は時間湯と稱して共同浴場に供せらる、名產に硫黃、明礬、木の葉石、湯の花、轆轤細工、篠細工、氷蕎麥、氷餅、生蕎麥、鑛泉煎餅、蕨、薇、蕨粉、岩苔、山蜜柑、山葡萄、甘露梅、落葉松あり、此地、距帝都四十五里、信越線よりするものは輕井澤に下車し、沓掛を經るも可なり、馬背途上の風光を恣にして不知不識、此の別天地に入るを得べし、附近景勝少からず、記して東道の栞となさむか。



白根神社

光泉寺　北國紀行、上信日記等に載る所の眞宗の名刹なり、境内老樹欝蒼として閑靜なり、近衛龍山公の和歌を刻したる碑石あり、附近に鄕社白根神社あり。

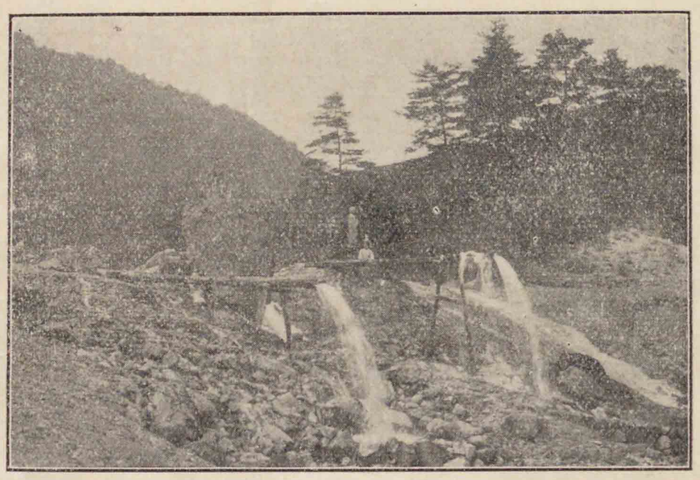
草津湯治の中於藥師堂彼本尊之名號を句のかみにすへて法樂のために十首の歌をよみけり　龍山

山路新樹　名もしらぬ草木あまたに茂あひてふかき山路やわけまよふらむ
郭公幽　むらさめのすきたつ山のみねこえてかすかに名のるほとゝきすかな
海邊夏月　やまおろし磯邊の松に明たちてなつなきなみのよする月影
五月雨　雲はなをかさなる山のをちこちもわかぬはかりのさみたれのころ
夏草夕露　しけりあふ草のむら〳〵おく露やくれてほたるの色にみゆらむ
契後隱戀　うきはたゝちきりおきにし閨の戸をあけやらぬ夜の人のつれなさ
別切戀　にくからぬ人にそひねのきぬ〳〵はいのちにかへておしきものかな
馴增戀　しらさりき露の情にならしはのなるゝに袖のぬれんものとは
旅行友稀　しなのなる木曾路の山のけはしきにゆきかふ袖もまれのたひ人
寄湯祝　わすふてふこの谷かけの出湯こそむへも老せぬくすりなりけり

西の河原　距街五丁餘に在り、温泉處々に湧出して一條の川となり、硫氣に化せる奇石亂立す、其狀頗見るべし、其奥に搖き石と稱する巨石あり、此邊木の葉の化石を產す、更に約一丁の所に氷谷あり、積雪凍化して盛暑と雖、陰壑に皚々たる堅氷を見る。

地獄谷　距街數丁の巖谷、約一反歩許の凹地ありて圓形を成す、硫氣盛に噴出して餘熱草樹を生育し、雪中尙實を結ぶものあり、禽獸の之を啄まむとして近くものあれば、忽、硫氣の爲に窒息して

西の河原



て斃る、是、地獄谷の稱ある所以なり。

常布の瀧　白根山の北麓、澁嶺の途上に在り、高百二十尺、南面して二段に落下す、轟轟の聲洞壑に震ひ、凄絶壯觀、無比と稱せらる、其他嫗仙、小仙、霜間山、箭澤、唐詩、北仙、南仙、狹藤、獨石、温井、小倉、長篠、王子、翁澤の諸瀑亦山中の奇として或は姿を以て勝り、或は勢を以て勝る。

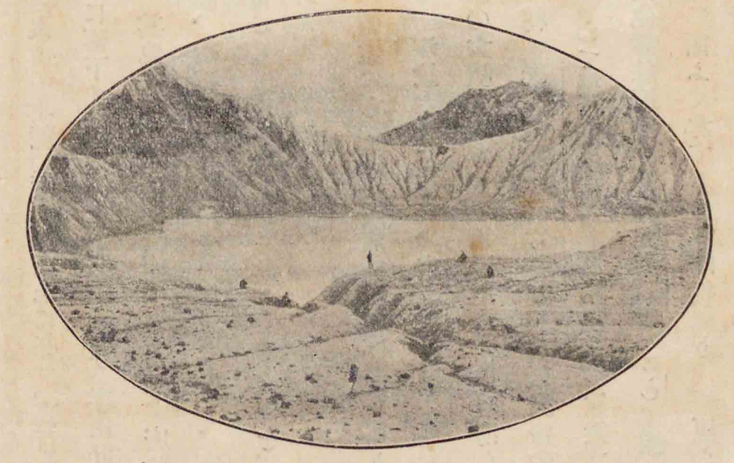
白根山　草津の西嶺にして信州高井郡の境界に在り、萬座山其西に連る、海拔六千五百尺、街より山巔に至る約三里、山中に三個の大噴火坑あり、熱湯冷水常に噴湧して止まず、人をして轉〻凄絶に堪へざらしむ、安積艮齋の登山記に曰く、『既にして絶頂に至る、一峰巑岏、刻厲桀立して單楹の如し、其他諸峰繚遶、池有り焉、泓然として深く、清冽掬す可し、地に循ふて北するに亂峰復起り、周匝して環の如し、池有り焉、渺然以て廣く、甚温にして浴す可し、大抵諸峰硫氣の薰蒸する所となり、或は黑

く、或は赭く、骨立して膚無く、絶て草を生ぜず、怪奇卓異の狀を極む、而して池水一冷一熱咫尺にして頓に異なり、造物者詭幻を致す、尤も思議すべからず』と文簡にして形容洵に適切なり。

里はまた紅葉の秋を時知らぬ　龍山
白根に今朝は雪ぞ降りける

草津町有浴室　草津鑛泉は官有地より湧出するを以て、草津町之を借用して十一の浴室を建設し、鑛泉宿屋に使用せしめて一定の使用料を徴收するを例とす、其金額實に六千九百四十餘圓、優に歳入の二分の一以上に相當し、町歳出の好財源なり。

澤渡温泉（同郡澤田村大字上澤渡距中之條町二里半）　海拔二千三百尺、空氣清澄、四面重峰複嶺を負ふの境なり、澁川、中之條より定時馬車ありて旅客の來往に便なり、發見の時代未、詳ならずと雖、源頼朝三原狩の時、梶原景季扈從して此地を過ぎり、



白根山噴火口

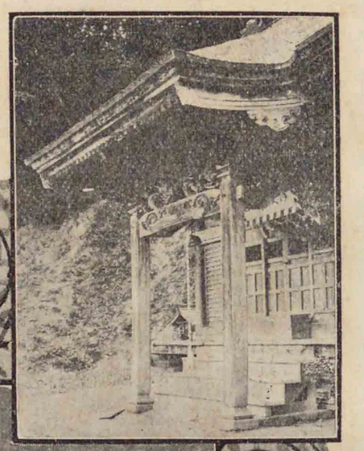
湯間時の事

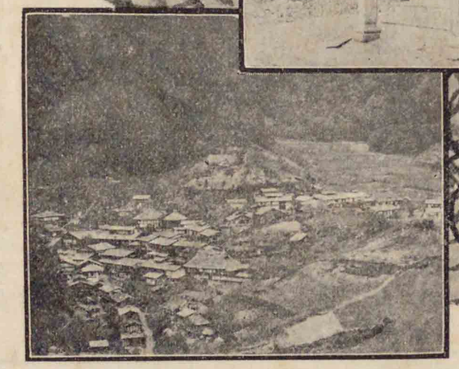
の歌を刻む、其他藥師堂、金比羅山、寺社原の桃林、大岩不動の瀧等、浴後の散策に適する所少からず。

四萬温泉（同郡澤田村大字四萬距中之條町四里）　村の北端に位し、新湯を中心として山口、日向見の三ヶ所より成る、温泉の發見は遠く延暦三年、坂上田村麿東夷征伐の時代に在りといふも、是唯、口碑に傳へらるゝのみ、

利根、吾妻地方

温泉神社





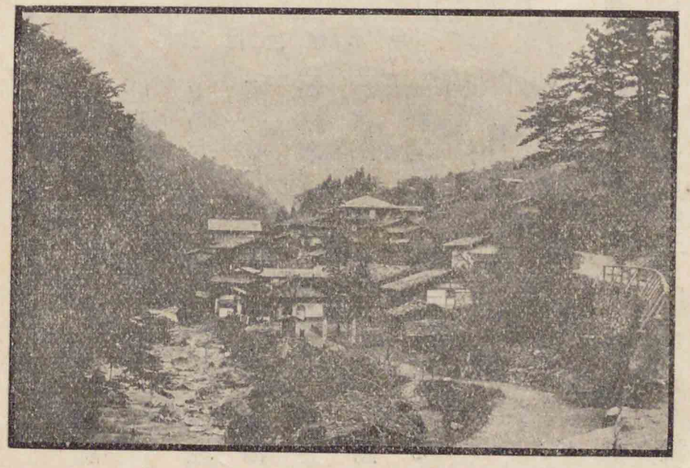
澤渡温泉場

梓弓日も暮坂につきぬれは
有笠山を指していそかむ

と詠める歌に徵するも、其以前より開かれしことを推知すべし、幕末の偉人高野長英、久しく此地に潛伏したることあり、草津湯治客の歸途、來浴して全癒の効を奏するは能く世の人知る所なり、湯前神社境内の石碑に萬葉集にある

猿渡の手兒にいきあひ赤駒の
足搔を速みこゝはす來ぬ

然れども慶長十七年以前に於ては日向見の一隅稍〻繁昌し、元祿時代に至り其區域漸、擴大して、最、般賑を極めたるもの〻如し、天保十七年以降、復昔日の如くならず、以て明治初年に及べり、同十四年の頃、再頽勢を挽回して名聲の四方に喧傳せらるゝと與に、著しく鑛泉の體裁を改善し、設備大に整頓せり、浴館は二層或は三層のもの大小十數軒あり、山に對し水に枕み、眺望快濶悉、内湯の便を有す、土地清爽にして空氣新鮮なるを以て近時著しく浴客を增し、一年一萬人の多きを算す、名產に寒晒干飯、湯垢染、焚詰鹽、水晶、蠟石等あり、附近勝地少からず、左に主なるものを擧げむ。



四萬山口温泉

日向見古堂　新湯を距る東北十町餘、日向見鑛泉地定光寺に在り、往昔日向守定光なる人、痾を此地に養ふて癒ゆ、乃、守本尊藥師如來を安置して温泉守護の祈願をなしたるなり、後日向見の藥師と稱す、境内閑靜にして塵俗の氣を絶ち、尤 逍遙に適す。

水晶山

稻裏山　温泉場の東北半里にして、石祠竝古碑あり、稻裏神社の參拜所とす、本社は遠く、越後の國境に峙てる最高山の頂に鎭座す。

水晶山　新湯を距る八丁、東南方を環繞せる連峯を總稱す、全山水晶帶より成る、故に此名あり。

蠟石山　北方十丁餘の所に在る一角の山頭にして蠟石の奇巖より成る、水晶山と併せて此地の名邱となす。

小倉の瀧　北方半里小倉山中に在り、一道の飛瀑巖背を奔り、碎けて四散するの狀、宛、萬斛の珠玉を轉するが如く、頗、美觀なり、此地紅葉を以て著る、摩耶の瀧、小泉の瀧、亦山中の奇勝として夙に名あり。

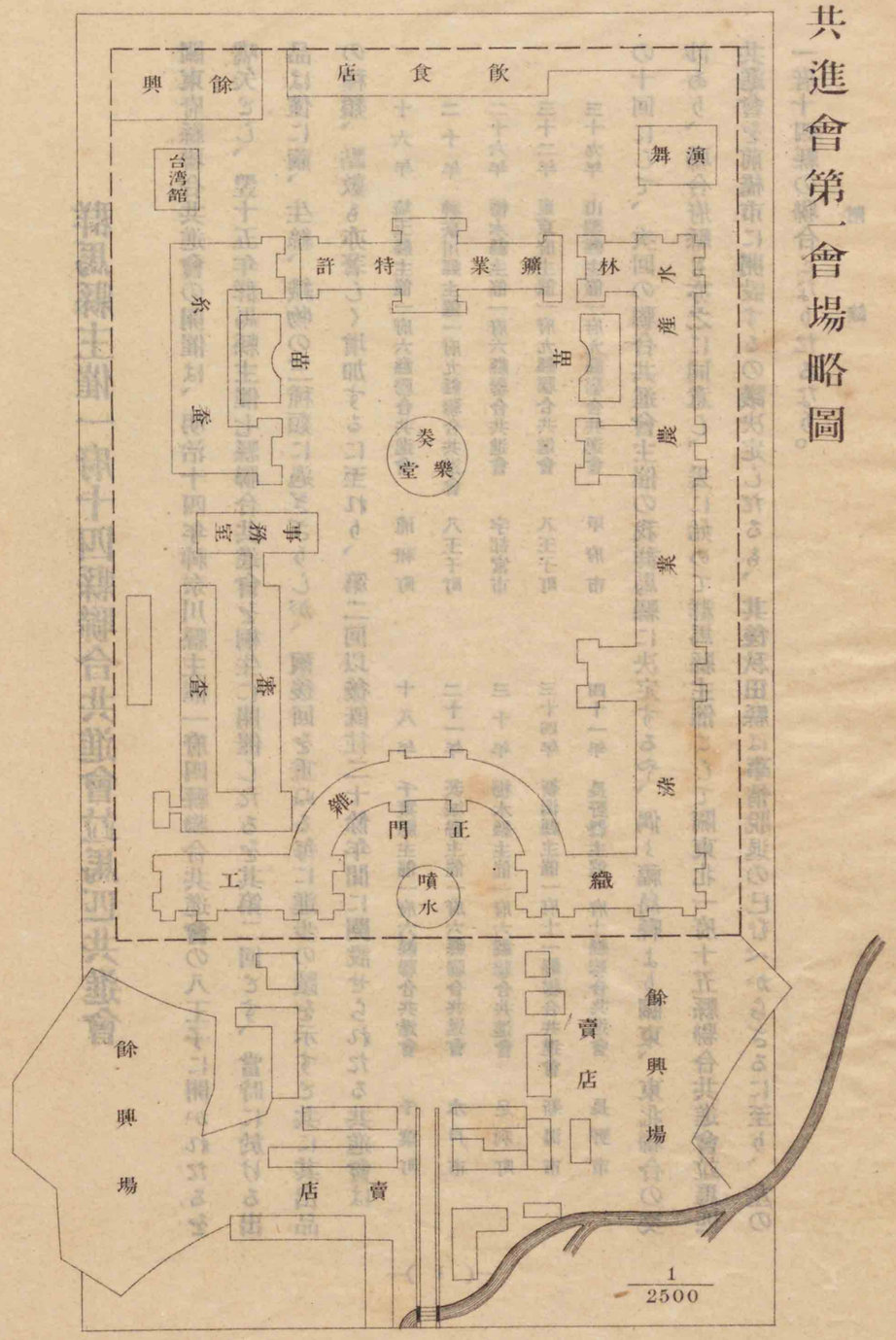
群馬縣主催一府十四縣聯合共進會竝馬匹共進會

關東府縣聯合共進會の開催は、明治十四年神奈川縣主催一府四縣聯合共進會の八王子に開かれたるを嚆矢とし、翌十五年群馬縣主催七縣聯合共進會を桐生に開催したるを其第二回とす、當時に於ける出品は僅に繭、生絲、織物の三種類に過ぎざりしが、爾後回を重ぬる毎に進歩の蹟を示すと共に其出品の種類、點數も亦著しく增加するに至れり、第二回以後既往二十餘年間に開設せられたる共進會は

十六年　埼玉縣主催一府六縣聯合共進會　浦和町
二十年　神奈川縣主催一府九縣聯合共進會　八王子町
二十六年　栃木縣主催一府六縣聯合共進會　宇都宮市
三十二年　東京府主催一府九縣聯合共進會　八王子町
三十九年　山梨縣主催一府九縣聯合共進會　甲府市
十八年　千葉縣主催一府六縣聯合共進會　千葉町
二十一年　茨城縣主催一府六縣聯合共進會　水戸市
三十年　栃木縣主催一府六縣聯合共進會　足利町
三十四年　新潟縣主催一府十一縣聯合共進會　新潟市
四十一年　長野縣主催一府十縣聯合共進會　長野市

の十回にして、次回の聯合共進會主催の我群馬縣に決定するや、偶〻福島縣より關東、東北聯合の交渉あり、聯合府縣も亦之に同意し、爰に始めて群馬縣主催として關東北一府十五縣聯合共進會竝馬匹共進會を前橋市に開設するの議決定したるも、其後秋田縣は事情脫退の已むべからざるに至り、左の一府十四縣の聯合となりたるなり。

共進會第一會場略圖



東京府　神奈川縣　新潟縣　埼玉縣　長野縣　千葉縣　茨城縣　栃木縣
山梨縣　福島縣　宮城縣　山形縣　岩手縣　青森縣　群馬縣

即、今回の共進會は、關東府縣聯合共進會としては、其第十三回に相當するも、關東北聯合共進會としては、實に始期となす、今左に開期、會場、設備其他の概況を擧げむ。

開期

聯合共進會　自明治四十三年九月十七日至明治四十三年十一月十五日　馬匹共進會　自明治四十三年十一月一日至明治四十三年十一月十一日

設備

▲第一會場(清王寺町)　敷地總坪數一萬九千坪　蠶絲館　六百九十四坪五　鑛業館其他　三百二十一坪八七五　林業館　百二十三坪五　水産館其他　二百七坪二五　農業館　六百五十四坪　染織工業館　九百六十六坪九七　正門　百五十二坪　雜工業館　七百六坪一六　工費計金八萬五千八百二十六圓　特許館　六百一坪五(内、特許品の陳列坪數二百七十九坪餘)　工費金一萬六千二百五十五圓　奏樂堂　十坪一四　工費金九百二十一圓　群馬縣事務室　二百五坪(二階建)　工費金九千百九十八圓　審査室及聯合府縣事務室(三棟内一棟二階建)　百九十坪　工費金二萬二千五百圓　郵便局　三十四坪五　工費金千二百二十三圓餘　式場　二百坪　第一餘興地　構内)　四百五十五坪　私設物(無料休憩所等)　五十八坪　飲食店(構内)　五百九十六坪　賣店(構外)　七百二十坪(聯合府縣及特許協會、名古屋、堺、高岡、石川、岐阜共)　入場券賣場(構外)　三坪六　便所(構内)無料八ヶ所　有料二ヶ所　第二餘興地(構外)　千六百坪　第三餘興地(構外)　千九百坪

▲第二會場參考館(連雀町外入會)　敷地總坪數七百六十六坪四七　參考館　百三十坪三六　工費金一萬九千四十七圓餘　附屬建物其他　工費金三千五百三十三圓

▲第三會場馬匹共進會　敷地總坪數七千坪　廐舍　五百四坪　牛舍　二百二十一坪　豚舍　百二十坪　鷄舍　百四十四坪　事務室其他　工費計金一萬四千七百五十圓

而して聯合府縣の出品の種類及點數は多少の增減あるを免かれざるべしと雖、最近の豫定點數は實に左掲九萬餘點の多數に達せり、加之今回の共進會に於て特記すべきは、從來の共進會の動もすれば其

外形を華美にせむが爲、往々競爭の弊を生じたるに反し、聯合府縣深く此に鑑み、陳列棚の製作竝館內の裝飾は一切を擧げて之を主催縣に託したる一事なりとす、以是、主催縣は專、考案研究を凝らして陳列棚の形狀を整一にし、各陳列館には其出品に因める一定の門を設けて容易に其何種の陳列場なるかを知らしむると共に、力めて華美を避け、其意匠の斬新にして而も統一せる裝飾をなすの設備を整頓したるを以て、眞摯なる一種の色彩は內容の充實と相俟ちて觀るべきものあらむ。

	第一部 農業	第二部 蠶絲業 其他	第三部 林業	第四部 鑛業及水產業 其他	第五部 染職工業	第六部 雜工業	第七部 畜產業(牛豚鷄(馬)	第八部 特許品	第九部 參考品	第十部 計
東京府	七五二	六五六	一八二	六一	八七	一二七一	二七九五	三二	一	三四六	八七	六二六九
神奈川縣	一二七五	五四三	五〇	一三〇	八五	六三〇	一三九〇	二一	二	七四	一	四一〇〇
新潟縣	九五〇	九三二	一二一	五四四	三八八	三三三六	四一二二	一五	二	二七三	五六	一〇七三九
埼玉縣	四三八五	一七三七	二九五	一三〇	二	二三一〇	七五五	四八	五	七五	二〇	九七七二
長野縣	一二五三	二八〇七	二五三	五〇〇	四四	五六三	一〇七三	八	七	九五	一三	六六一六
千葉縣	一三八三	一〇七三	四七	九	五七〇	一二〇	八六	三〇	八	一七	五	三三四八
茨城縣	二二〇二	八八四	一六六	一九〇	四六二	三二一	六二〇	一二	五	二一	二	四八八五
栃木縣	二六五五	七一二	一五五	二〇〇	—	二二六〇	九二六	一八	八	六二	一〇	七〇〇六
山梨縣	九七九	九七八	一〇七	五	—	四六〇	一八一〇	一〇	—	二七	二三	四三九八

福島縣	九二〇	八一五	一二三	九五	一三三	三九二	一二四	五一〇	三〇	五〇	三八一六
宮城縣	一一五〇	四〇四	一〇七	六二一	三五七	三八四	七〇九	七五	二	五〇	三七九六
山形縣	一一九二	九四六	九八	三三〇	二一二	二四三五	一八四八	二三	四	二五	一〇〇	七三一三
岩手縣	一三八七	一三〇六	二六六	三四〇	五〇二	六六〇	一〇五一	一八一〇	一七	一〇〇	四六五七
青森縣	一二九六	一一九五	一一九五	六四〇	八二五	三〇〇	七五七	一七一〇	三〇	一〇〇	四三六五
群馬縣	二六五五	三〇〇四	一一六	五二〇	一	二八五一	四六八	五〇一〇	五四	五一	九七八〇
計	二四四三四	一五九九二	二二八〇	四三一五	三六六八	一八三〇三	一九六五四	三一四八六	一一四八	七六六	九〇九六〇

群馬縣協賛會

聯合共進會の事業を翼賛せむが爲、縣下二市十一郡の有志者を以て組織し、會員の醵金、寄附金及補助金を主とし、豫算金拾六萬二千餘圓を支出して、來賓を優遇し、觀覽者の便宜を圖るを目的とし、所定の事業を遂行せむことを期す、即、來賓の接待、餘興の設備等に關して左の施設をなしたるが如き是なりとす。

貴賓館(柳町臨江閣構內)　百八十七坪五四一(二階建)　工費金二萬八千二百八十二圓餘　演藝館(第一會場內)　百五十八坪　工費金五千九百九十二圓餘　臺灣館(同上)　六十五坪一　工費金五千八百六十五圓餘　會員接待所(同上)　六十坪

群馬縣教育品展覽會

上野教育會は、群馬縣主催一府十四縣聯合共進會を機とし、明治四十三年九月二十日より同年十一月十五日に至る五十七日間、高崎市高崎中央尋常高等小學校（距高崎停車場十丁）に於て群馬縣教育品展覽會を開設して公衆の縱覽に供す、出品種類左の如し。

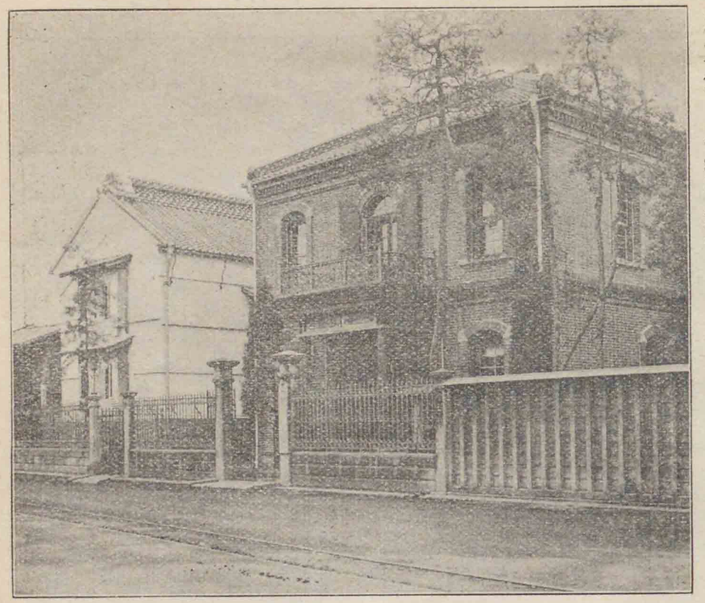
第一部（初等教育）幼稚園及小學校に於ける保育教授、管理、訓練、衛生等に關する調査、統計、考案、繪畫、寫眞、表簿、圖案、機械、器具、標本、模型、格段なる方法により教授したる兒童の成績品等　第二部（中等教育）師範學校、中學校、高等學校及之に準ずる諸學校に於ける教授、管理、訓練、衛生等に關する調査、統計、考案、繪畫、寫眞、表簿、圖案、機械、器具標本、模型及生徒の成績品等　第三部（實業教育）甲乙種實業學校、徒弟學校、實業補習學校及之に準ずる諸學校に於ける教授管理、訓練、衛生等に關する調査、統計、考案、繪畫、寫眞、表簿、圖案、機械、器具及生徒の成績品等　第四部（社會教育及特殊事業）盲唖教育、子守教育、家庭教育、育英事業、感化事業、教育會、學事會、講習會、青年會、夜學會、婦人會、老人會圖書館、記念文庫、展覽會及陳列場等に關する狀況調査、統計、繪畫、寫眞等　第五部（教育行政に關する部）教育行政に關し縣及各郡市町村の調査及研究したる事項　第六部（共進會聯合府縣の出品）第一部乃至第五部に屬するもの　第七部（參考品）教育に關する諸種の出品物

明治四十三年八月三十一日印刷
明治四十三年九月　五　日發行

群馬縣協賛會編纂

東京市日本橋區兜町二番地
印刷者　神谷岩次郎

東京市日本橋區兜町二番地
印刷所　東京印刷株式會社



前橋市本町七十八番地（電話五九番）

銀 株式會社 第二銀行前橋支店

資本金 壹百五拾萬圓
積立金 八拾五萬圓

前橋本金庫
日本銀行前橋代理店

高崎市九藏町

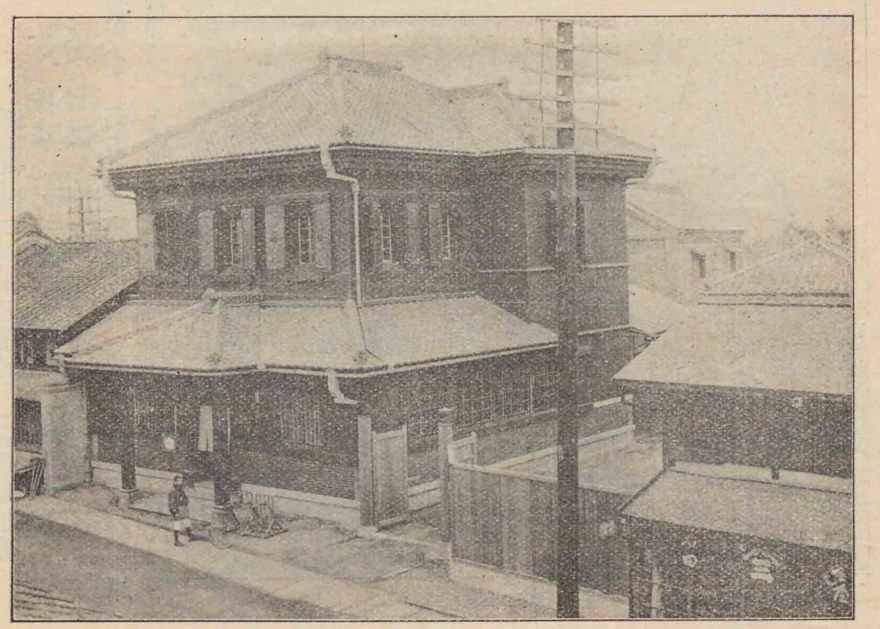
銀 株式會社 第二銀行高崎支店

（電話二番）

資本金 壹百五拾萬圓（全額拂込濟）
積立金 八拾五萬圓
諸預金 五百六拾餘萬圓

◎銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候

祝一府十四縣聯合共進會開催



創立　明治三十三年六月
資本金　金壹百萬圓

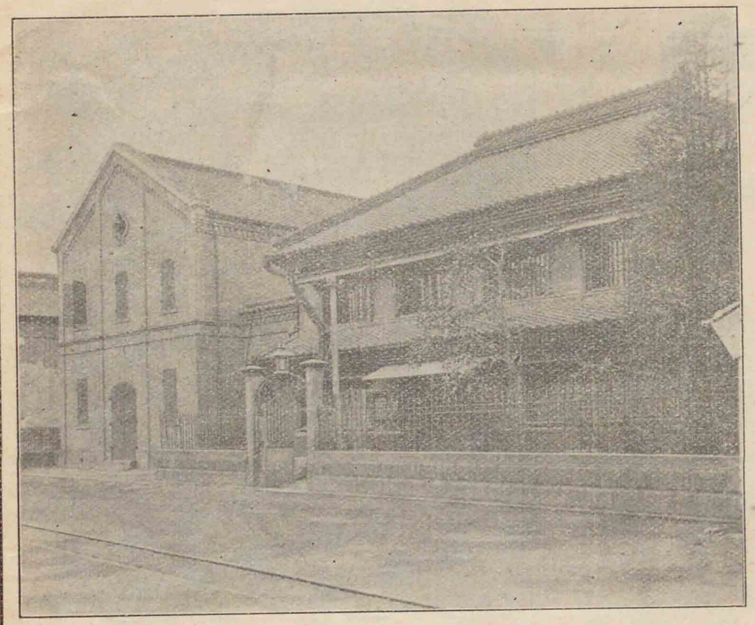
前橋市本町
株式會社 **群馬商業銀行**
前橋支店
（電話　一三七）

監督　安田善三郎
頭取　安田善衛

本所　本店（電話　五五）佐波郡伊勢崎町
支店出張所　支店（電話一三八）高崎市田町
同　佐波郡境町
同　出張所　多野郡藤岡町

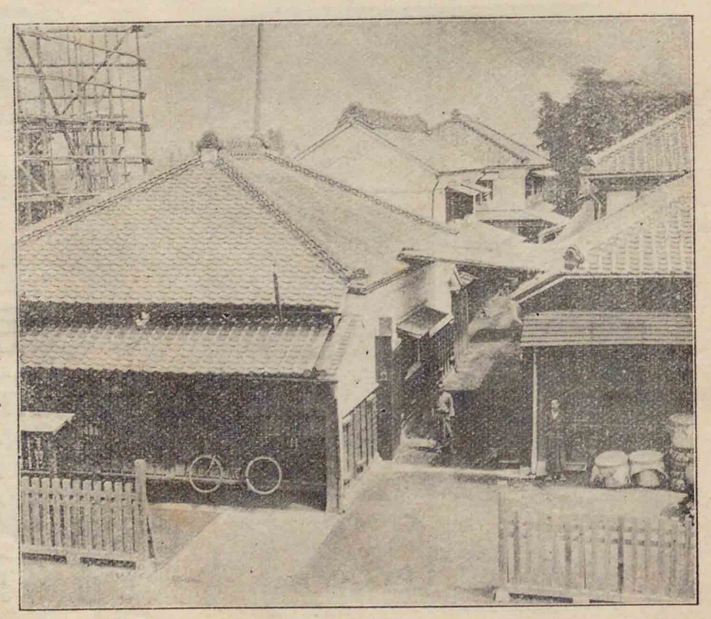
◎銀行一般の業務は親切鄭寧且敏速を旨とす
◎普通送金は無手數料

◎共進會開催中は正門前へ臨時派出所を設け各地送金其他とも便宜御取扱可仕候



前橋市本町
株式會社 **三十九銀行**
（電話　二三番）

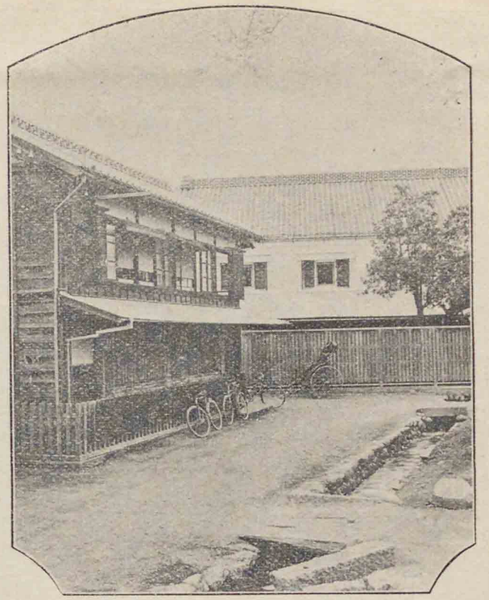
資本金　貳拾萬圓



積立金　五萬壹千圓

創立期　明治十四年六月

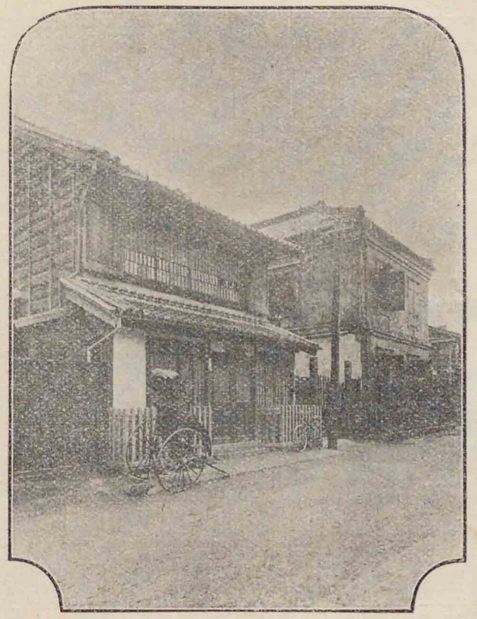
前橋市本町
株式會社 **上毛物産銀行**
（電話　二十一番）



前橋市一毛町甲九番地

株式會社 **前橋商業銀行**

電話 百拾五番
電略（マシ）



無限責任

前橋市紺屋町三十四番地

株式會社 **上毛貯蓄銀行**

電話 六番
電略（ウチ）

祝一府十四縣聯合共進會開催

高橋駒次郎　　高橋源之助　　高橋伊三郎

弊店の事業は兄弟三名の合同組織にして何れも責任を帶びて分擔的に業務に從事し敏活簡捷に百事を處理す

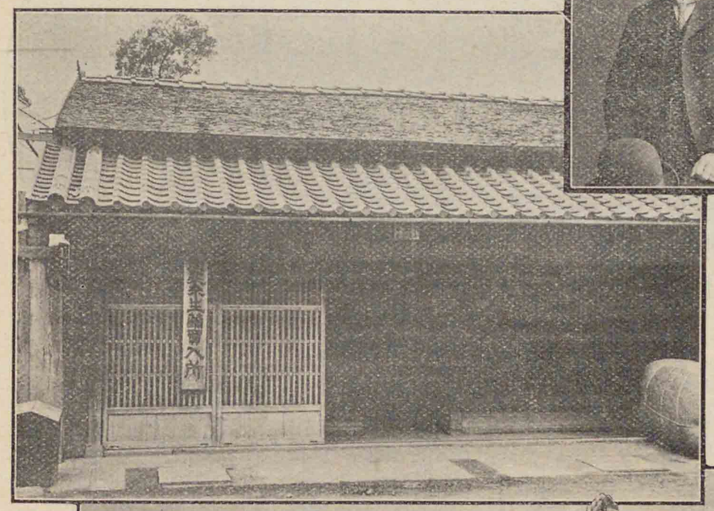
繭絲玉繭委托販賣業
前橋市本町
高亀田屋商店
電話 二二番　電略（タウ）

玉絲各種製造販賣業
前橋市田町
高亀田屋製絲所
電話三〇二番　電略（カセ）

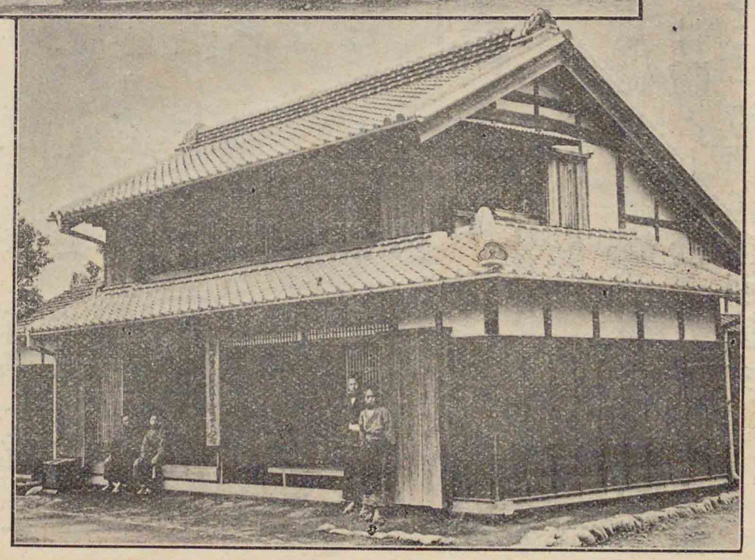
信用を基礎とし誠實を生命とし商業道德を骨髓として營業方針を立て懇切叮嚀に一般顧客を迎接す

支那玉繭
内地玉繭
玉絲
繭
屑物
委托賣買

（佐久間茂太郎）



（細ヶ澤町　樋口本店）

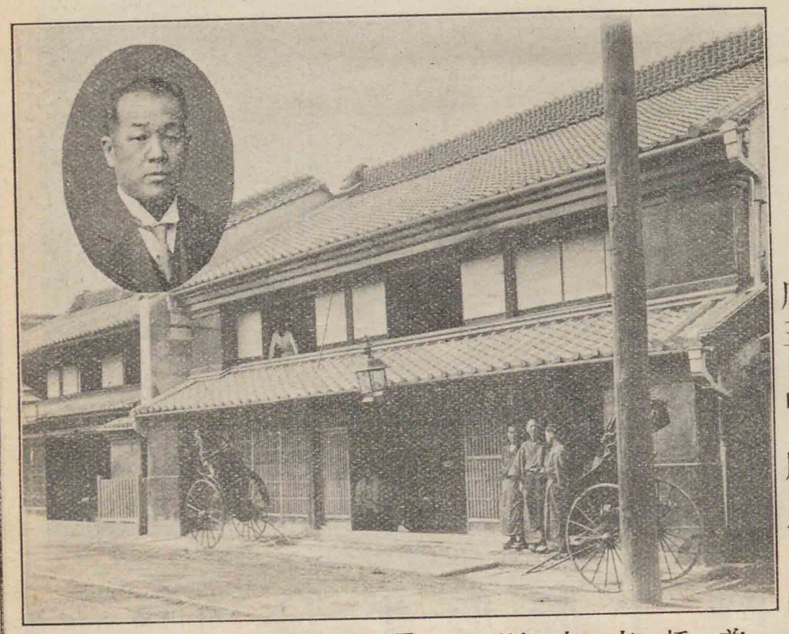


（才川通　樋口出張所）

大

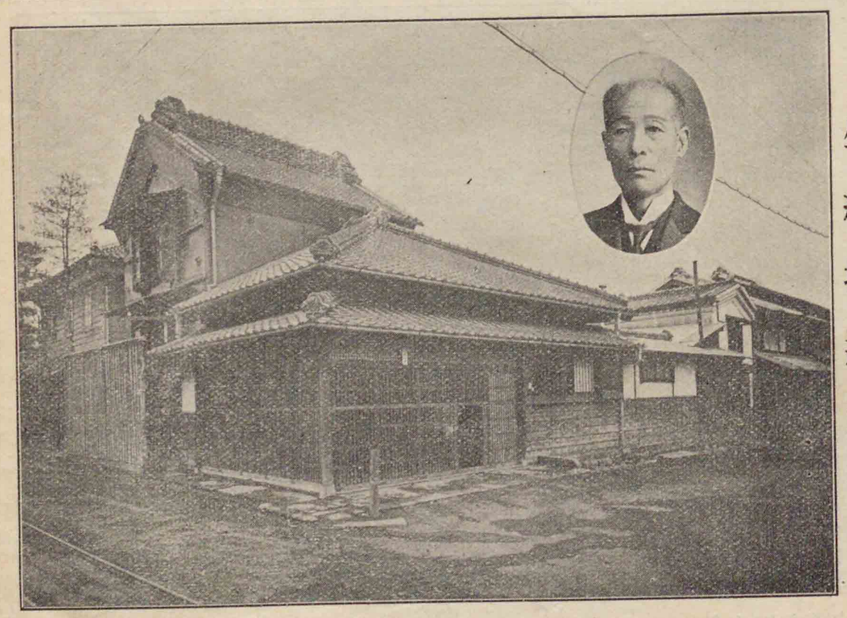
前橋市細ヶ澤町
大黒屋　樋口商店
電話三七電略（ヒク）

繭絲委托販賣業



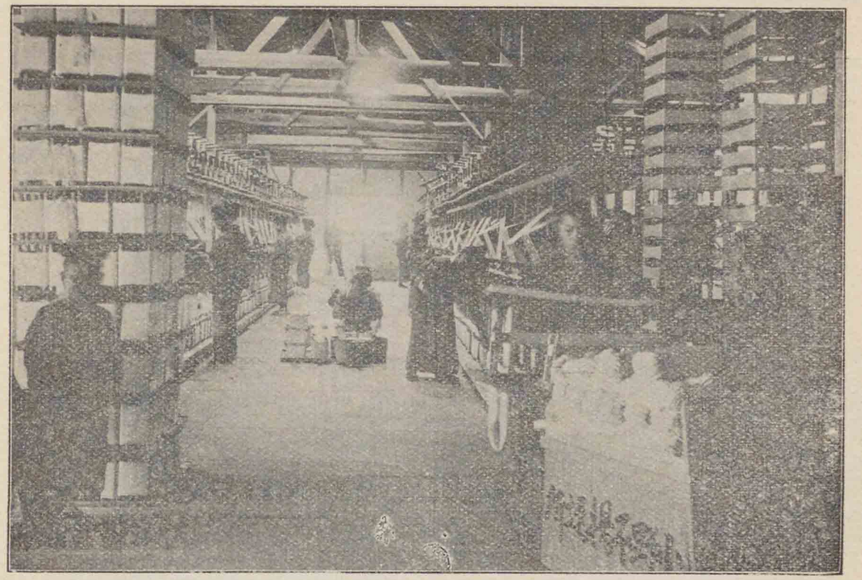
太○中原商店
店主　中原仙藏

前橋市本町　電話二二一番



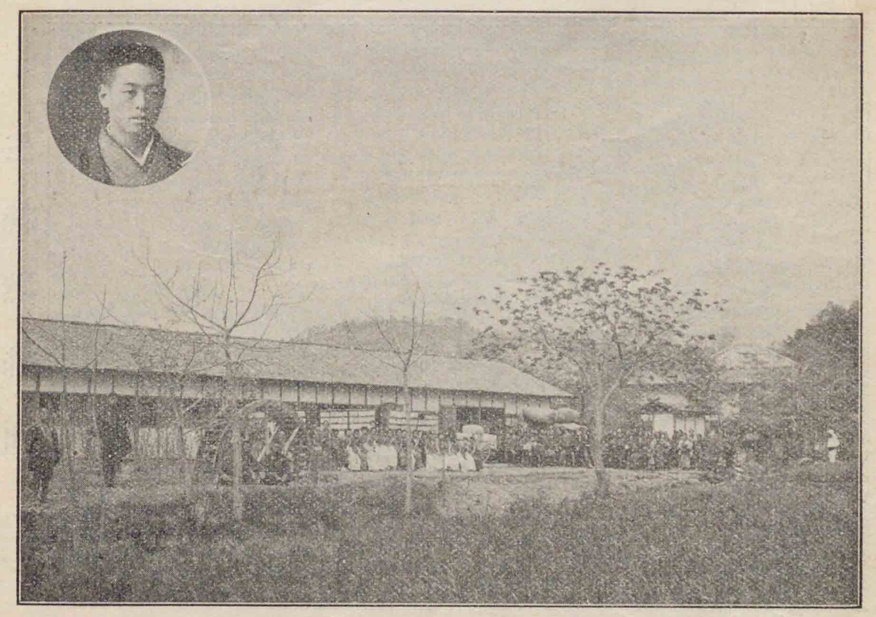
生絲撚絲商

前橋市横山町　杉本利三郎
電話三〇〇
電略〇七〇



金鶴印細玉絲製造業

前橋市立川町　平形平藤平　電話一五二番



改良長手玉絲若松印製造元

内田伴造

勢多郡南橋村大字上細井村

群馬縣勢多郡富士見村大字時澤村

改良長手玉絲製造業

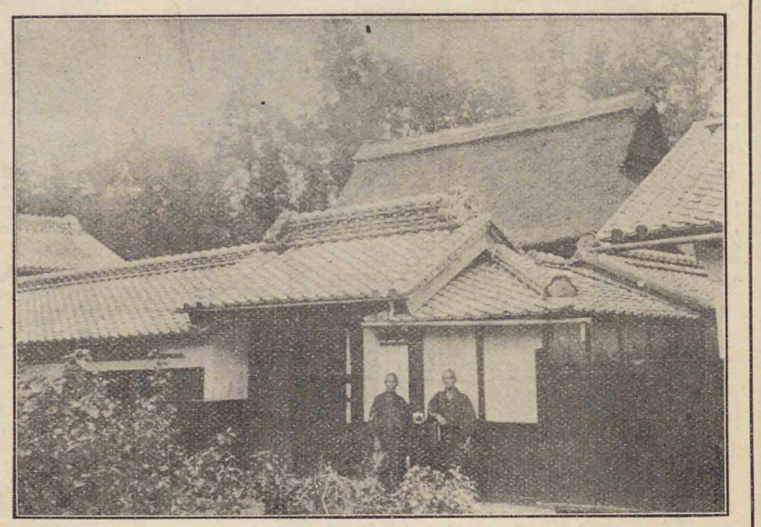
荒井三郎

群馬縣勢多郡富士見村大字時澤村

繭絲玉絲撚絲製造及販賣業

北澤仁作

繭玉繭委托賣買撚絲製造



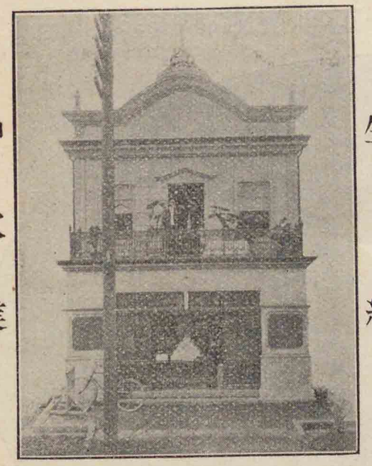
前橋市本町
中村峰吉
（電略 ナカ）

繭絲 タ 問屋
前橋市本町
高柳好作
（電略タカ）電話三六一番

繭絲玉繭委托販賣業
リ
鹽屋 **河野要治**
前橋市辨天通
電話二二二番

前橋市本町
武田清吉
電話二五七番　電略タケタ又は タ

繭絲 問屋
永
永井篤三郎
前橋市本町　電話五五番



仲次業 生絲
下
星野正三郎
高崎市停車場前　電話百十番

撚絲製造販賣
狩野喜平
前橋市才川町

前橋市北曲輪町五七
生絲賣買撚絲製造
㊤ 渡邊榮吉
特に秩父縞原料の玉絲撚を精撰販賣致候

前橋市片見町乙二
撚絲製造販賣業
松尾直太郎
弊店の製品は專ら秩父縞原料撚絲にして品質確實に付廣く御需用の程謹で奉願上候

前橋市才川町四二九
撚絲製造業
塩原榮吉
弊店精撰の玉絲撚は秩父縞原料として專ら好評を博し居り申候

前橋市本町三八
繭絲委托販賣業
神山雄一郎
電話 三四〇番

前橋市本町二一六
繭絲委托賣買專業
共立商店
電話五一〇番（電略キリ）
齋藤庄次郎
石井信次郎

前橋市細ヶ澤町四一
船津保平

前橋市小柳町五八
繭絲玉繭屑物委托賣買業
富岡守治
電話 五四番
電信略號（トミ）

前橋市向町一〇〇
生絲仲買業
須田德太郎

前橋市榎町
繭絲屑物委托賣買
福田五三郎
電話 二六三番
電略（フク）

前橋市細ヶ澤町五拾番地
絲繭商
片野久太郎
電話 三五六番

前橋市本町七〇
繭絲玉繭委托賣買業
眞下善次郎
電話 三七〇番
電信略號（マシ）

前橋市本町八二
繭絲玉繭委托賣買業
東洋商會
松本善太郎
電話 三二二番
電略（トヨ）

前橋市才川町
生絲商
神山豫一郎
電話 三五二番

前橋市才川町
生絲商
野村季吉

富士瓦斯紡績株式會社
製品特約販賣店
蠶絲屑物商
㊇ **富澤才次郎**
前橋市本町三〇

前橋市本町七二
生絲仲次撚絲製造業
吉野新三郎
電略（ヨシノ）

前橋市新町五
撚絲製造販賣業
後藤賢太郎

前橋市小柳町三六
撚絲製造販賣
今井庄平

勢多郡富士見村大字田島
玉絲製造業
須田貞助

勢多郡富士見村
大字時澤村
玉絲製造業
久保田常吉

生絲撚絲販賣業
㊂ **田畑宇之助**
前橋市本町三六

前橋市一毛町六六
改良細玉絲製造
精玉館
業務擔當者
小池愼太郎

前橋市小柳町三三
改良太玉絲製造販賣
遠藤大吉

商標

玉絲及撚絲製造業
藤井紋三郎
上州勢多郡八崎

前橋市向町八九
製絲業
戸田留八

前橋市本町八〇
製絲業
羽鳥常吉

前橋市國領町
製絲業
原澤英治

前橋市細ヶ澤町六六
製絲業
石原伊三郎

前橋市向町九五
製絲業
石川文吉

前橋市萱町一
製絲業
生田榮十郎

前橋市神明町四五
製絲業
遠山篤次郎

前橋市向町九四
製絲業
岡部傳平
電話 三三〇番

前橋市向町九八
製絲業
田中喜代造

前橋市諏訪町六二
製絲業
田村作太郎
電話 五〇六番

前橋市本町三五
製絲業
角田久吉

前橋市向町一四
製絲業
中島雅各

前橋市向町一二
製絲業
中村伴吉

前橋市諏訪町五七
製絲業
梅澤惠三郎
電話 五二二番

前橋市向町一三
製絲業
桑原元吉
電話 五〇一番

前橋市向町
製絲業
町田源造

前橋市向町一〇一
製絲業
近藤金太郎

前橋市向町六
製絲業
新井宇市
電話 三三〇番

前橋市紺屋町六八
製絲業
青木馬藏

前橋市北曲輪町五六
製絲業
關本市五郎

前橋市向町七五
製絲業
須田玉吉
電話 四六五番

前橋市萱町三二
製絲業
須田茂平治
木材業
須田茂平治

前橋市小柳町六二
製絲業
井出由藏

前橋市一毛町六七
太玉絲製造業
富澤知三

販賣品目

時計各種
同附品屬
蓄音器
及音譜
各種眼鏡

其他貴金屬製作品は御迅速御需めに應ず

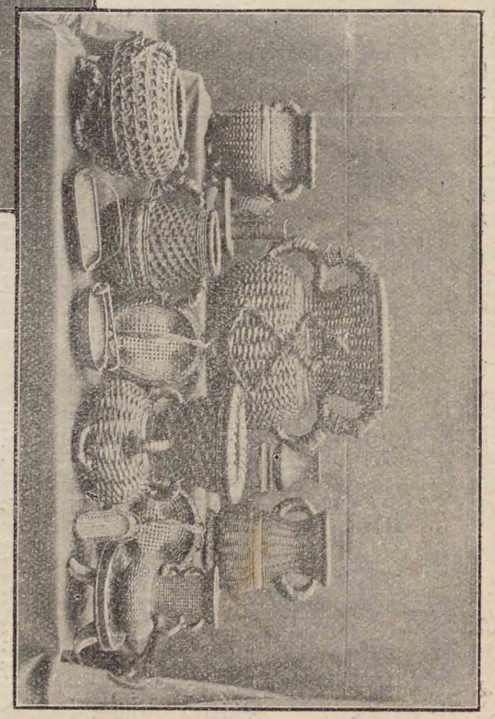
前橋市連雀町
齋藤順吉
電話 四四番

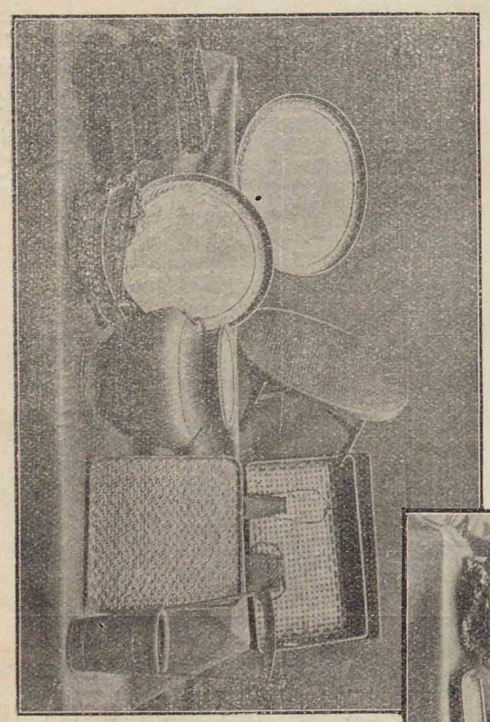
製品目錄

赤城塗食盆
赤城塗吳服臺
赤城塗卓
竹籠
美術
各種

於手工產品部會
壹等賞受領

赤城塗製造販賣元
前橋市
鹽川商店





東宮殿下行啓紀念

上野名勝繪葉書目錄

一冊 金拾八錢 郵税 金貳錢
十二冊 金壹圓九拾五錢 小包郵税 金八錢

第壹輯目次

一、前橋市御旅館臨江閣 二、前橋市御旅館臨江閣遠望 三、群馬縣廳
四、前橋城址之碑 五、前橋彰忠碑 六、前橋師範學校 七、前橋中學校
八、前橋武德殿 九、前橋市街竪町 一〇、前橋市龍淵院

第貳輯目次

一一、高崎歩兵第十五聯隊 一二、高崎市停車場附近 一三、高崎市街九藏町通 一四、高崎市頼政神社 一五、高崎市本町成田山 一六、前橋市八幡宮 一七、前橋市積善會病室 一八、前橋市自敬子守學校 一九、前橋市上毛孤兒院 二〇、橋本園太免囚保護事業

第參輯目次

二一、前橋市利根橋 二二、勢多郡赤城神社 二三、勢多郡赤城沼 二四、勢多郡湯の澤大屋 二五、勢多郡木曾三社神社 二六、同三社本宮御慶事紀念松 二七、木曾神社玉乘の瀧 二八、刀川尋常高等小學校造林地 二九、木曾神社宮內省御用生洲 三〇、勢多郡赤城山大沼

第四輯目次

三一、群馬郡伊香保御用邸 三二、群馬郡伊香保入口 三三、群馬郡伊香保町（其一） 三四、群馬郡伊香保湯元 三五、群馬郡伊香保神社 三六、群馬郡伊香保町（其二） 三七、群馬郡伊香保大瀧 三八、群馬郡伊香保辨天瀧 三九、群馬郡水澤觀音堂 四〇、群馬郡榛名神社神橋

第五輯目次

四一、群馬郡榛名神社 四二、群馬郡榛名神社燈籠 四三、碓氷嶺男瀧 四四、碓氷嶺女瀧 四五、碓氷嶺神門岩 四六、碓氷郡湖橋守の碑 四七、群馬郡岩井洞（其一） 四八、群馬郡岩井洞（其二） 四九、群馬郡行幸田（其一） 五〇、群馬郡行幸田（其二）

第六輯目次

五一、多野郡平井城城門 五二、多野郡平井城の一角 五三、群馬郡箕輪城址 五四、群馬郡白井城趾（其一） 五五、群馬郡白井城趾（其二） 五六、群馬郡白井城趾（其三） 五七、群馬郡桃井村基本財産林（其一） 五八、桃井村基本財産林（其二） 五九、桃井村基本財産林（其三） 六〇、桃井村基本財産林（其四）

第七輯目次

六一、群馬郡坂東橋 六二、群馬郡大八木御臨幸地（其一） 六三、大八木御臨幸地（其二） 六四、群馬郡桃井村基本財産林 六五、群馬郡古卷村大字有馬御臨幸地 六六、古卷村大字牛田御臨幸地 六七、群馬郡豐秋村御臨幸地（其一） 六八、豐秋村御臨幸地（其二） 六九、豐秋村御臨幸地（其三） 七〇、吾妻郡中之條町より伊勢町を望む

第八輯目次

七一、北甘樂郡貫前神社本社拜殿 七二、北甘樂郡貫前神社隨神門 七三、北甘樂郡妙義神社拜殿 七四、北甘樂郡妙義神社御殿 七五、北甘樂郡妙義神社唐門 七六、妙義神社御殿石段 七七、妙義神社階前神門 七八、妙義神社白雲山巨岩 七九、勢多郡三原田尋常小學校造林地 八〇、木曾神社宮城遙拜所

第九輯目次

八一、北甘樂郡金洞山中之嶽神社 八二、北甘樂郡金洞山第一石門 八三、北甘樂郡金洞山第二石門 八四、北甘樂郡金洞山第三石門 八五、北甘樂郡金洞山第四石門 八六、北甘樂郡金洞山鏡岩 八七、北甘樂郡金洞山大砲岩 八八、北甘樂郡金洞山東大黑岩 八九、北甘樂郡金洞山白綾瀧 九〇、富岡製絲所御休所

第拾輯目次

九一、碓氷嶺櫓現大神社 九二、縣立織物學校機織實習場 九三、山田郡森山工場 九四、赤羽村躑躅ヶ岡公園 九五、赤羽村躑躅ヶ岡行啓四阿 九六、多野郡植輪之碑 九七、多野郡多胡碑 九八、多野郡金井澤の碑 九九、多野郡山上の碑 一〇〇、多野郡土師之辻

第拾壹輯目次

一〇一、新田郡新田神社 一〇二、新田郡新田義貞木像 一〇三、新田郡大光院 一〇四、新田郡大光院行啓御座所 一〇五、新田郡生品神社 一〇六、新田郡金山御料地 一〇七、新田郡高山神社 一〇八、山田郡丸山公園 一〇九、山田郡桐生西尋常小學校 一一〇、三原田農業補習校造林地

拾貳輯目次

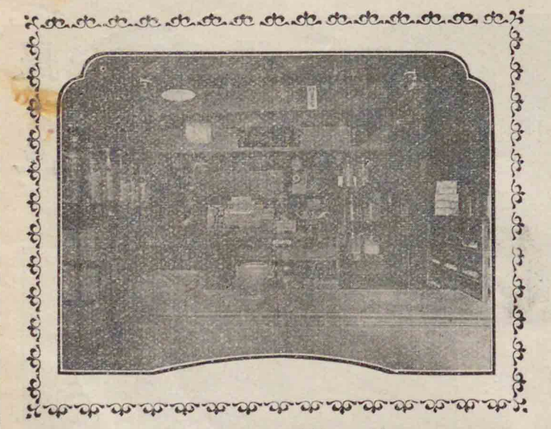
一一一、聯合共進會敷地全景 一一二、全地鎭祭地均したこつき 一一三、共進會敷地に於て地鎭祭當日前橋市內縣市立學校聯合運動會の全景 一一四、前橋中學校生ヤード競爭 一一五、師範學校生中隊教練 一一六、中川尋常高等小學校生徒旗體操 一一七、師範學校附屬小學校女生ピーポルカ 一一八、桃井尋常高等小學校生徒花の舞 一一九、桃井尋常高等小學校女生徒各個演習 一二〇、群馬縣立女子師範學校

發行所 前橋市曲輪町
書肆 煥乎堂本店
電話 一二一番
振替東京八四八番

○頗る美製にて御進物用抔には最も適し候

於手土產品品評會
優等賞牌受領

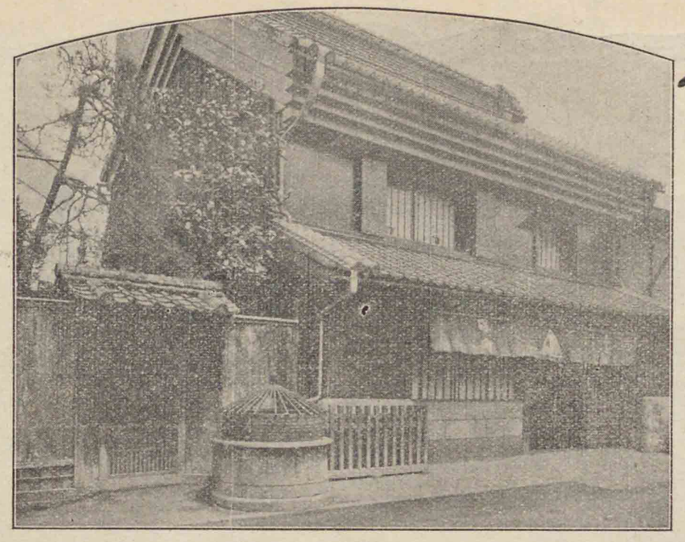
（名物 三山煎餅）
（名物 二子山）



御菓子司
前橋市連雀町
龜松堂
電話 一三一番

最上醤油

最上麥味噌

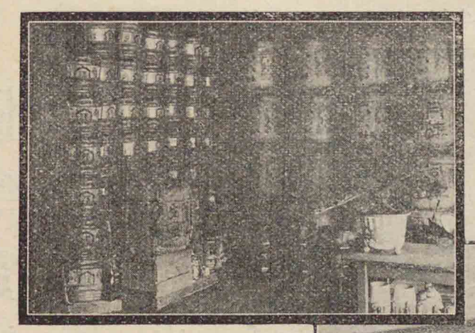


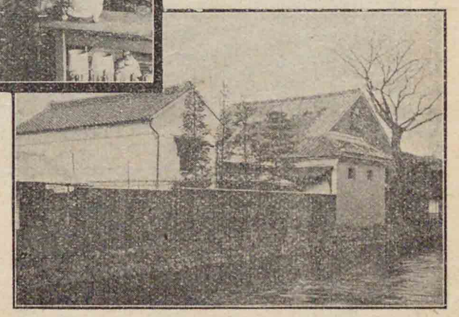
釀造場

前橋市横山町

清水井事　深町富八　電話二十四番

最上醤油





野田銚子最上醤油
清酒櫻正宗酒
攝州優等各酒
洋酒類各酒

前橋市細ヶ澤町

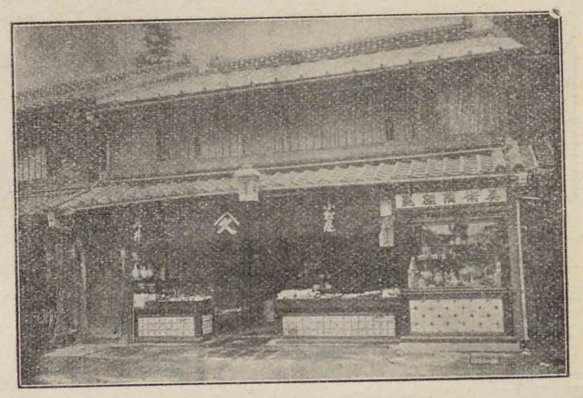
澤村嘉平治

電話　二百十六番

營業種目

水瓶　土管　煉瓦　各種

諸國陶磁器

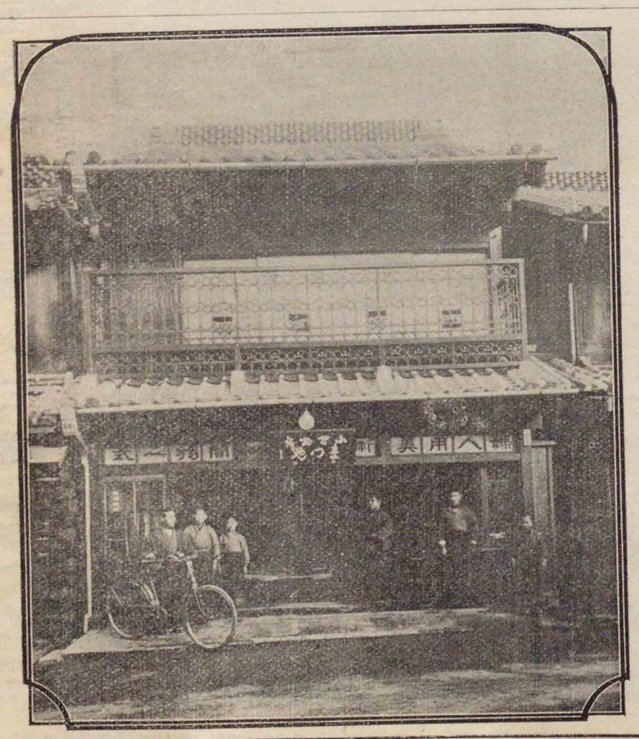


前橋市竪町

小久陶器店

小松屋號　荒井久七

電話　四十二番



貴金屬小間物商

田島豐太郎

前橋市連雀町坂

電話　一一六番

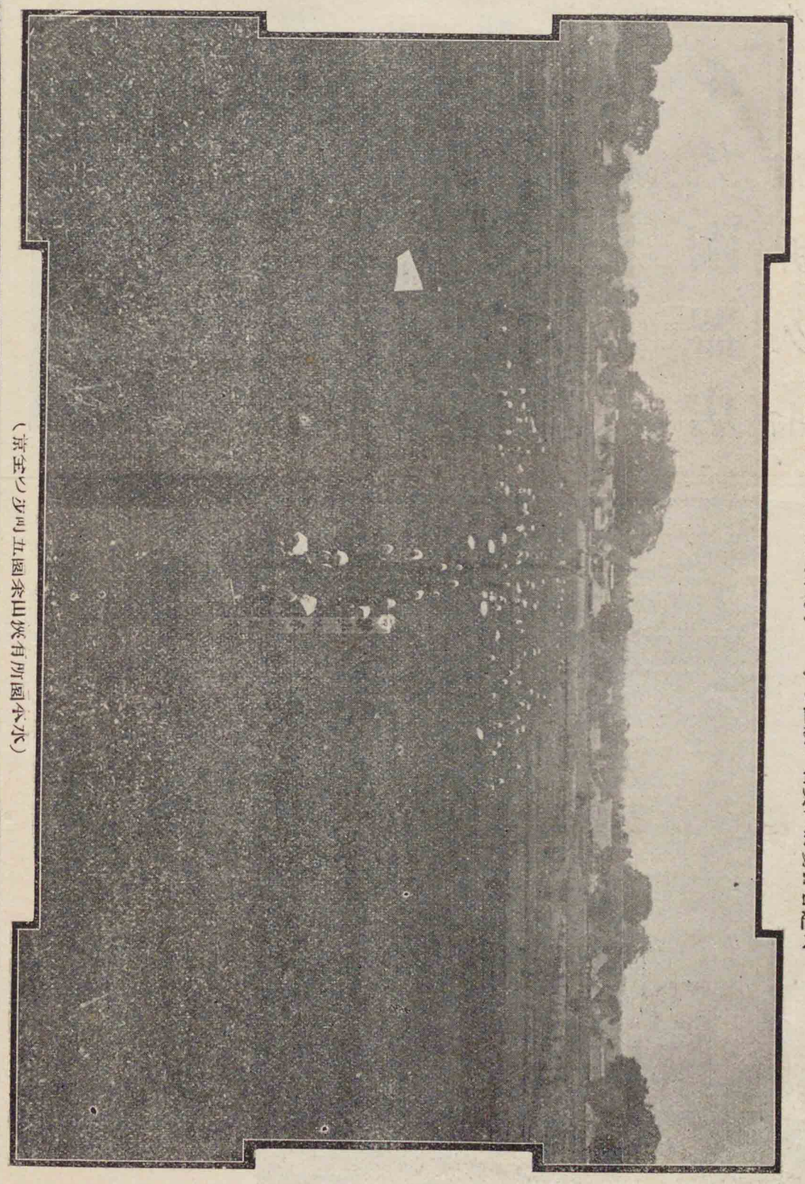
賣販手一縣馬群合組商茶山狹

ふ乞ね文注御へ店弊は方御の用入御茶山狹　りあ置設の店賣に前場會會進共

前橋市桑町

水本園茶舗

電話一〇六番
振替口座東京九二六四



（京玉ング町五園茶山狹有所園本水）

前橋印刷所

活版石版を始め印刷物は種類の何たるに拘はゞ御注文に應じ候

内外洋紙類
各地産和紙類
學校用品
文房具
表具用品

前橋市北曲輪町縣廳前通
電話三百二十番

清水井紙店

商品陳列場の設けあり縱覽御隨意御壓候

前橋市堅町　電話二十五番

主店　深町傳七

祝共進會開催

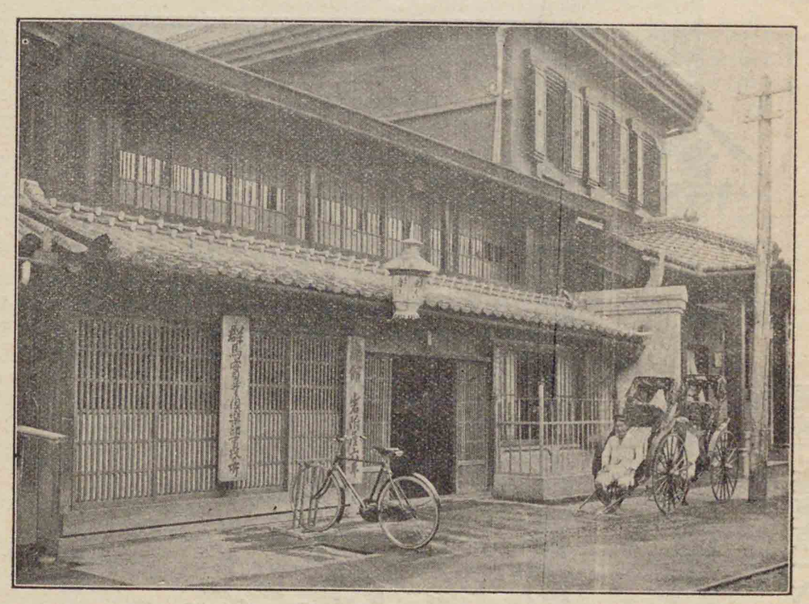
意匠登錄珍菓
手土産品品評會金牌受領
登錄
商標
やまびこ落鴈

高

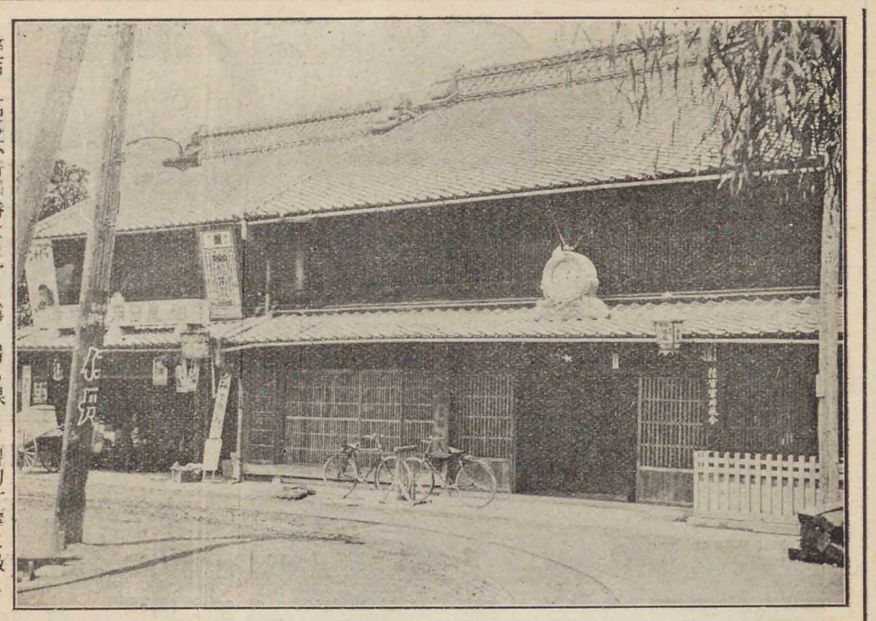
前橋市國領町
高島商店
電話四一八
振替口座東京一六二三一

旅館

前橋市本町　白井屋　電話一〇二番



前橋市本町　留春館　岩六　電話五十二番

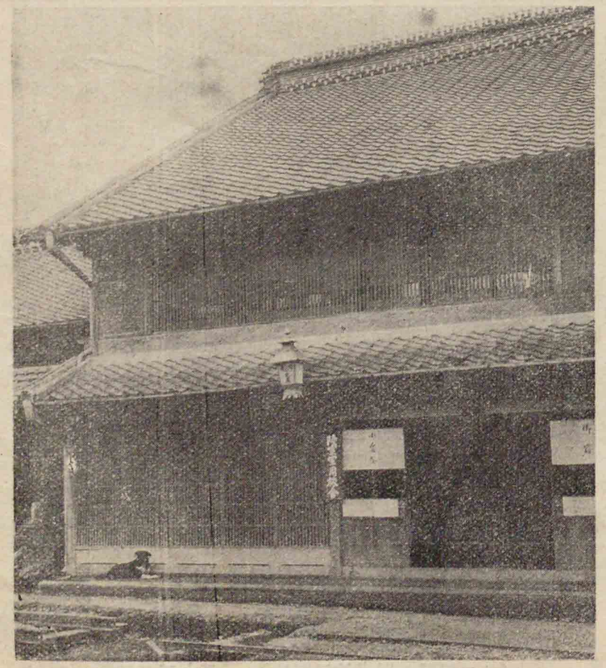


弊店に萬事不行屆勝なれども爲し得る限りは親切叮嚀に致し御旅中の慰安を心掛け申候

農商工會特許消火器販賣　御旅館　油屋安太夫

前橋市本町（目標　屋上大時計）

電話二二九



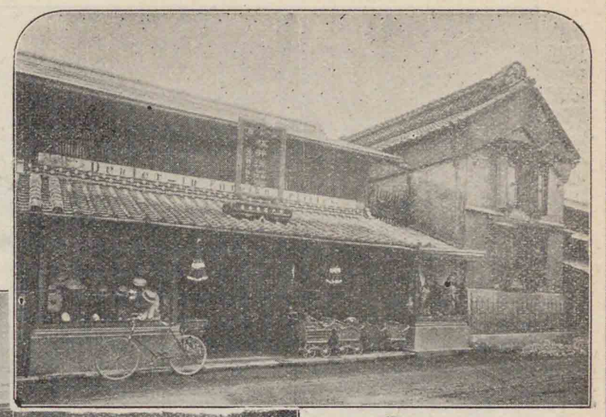
前橋市曲輪町（參考館側）

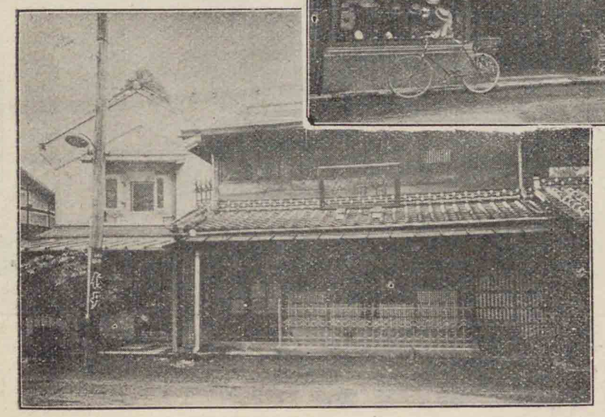
御旅館　小泉屋

電話一三番

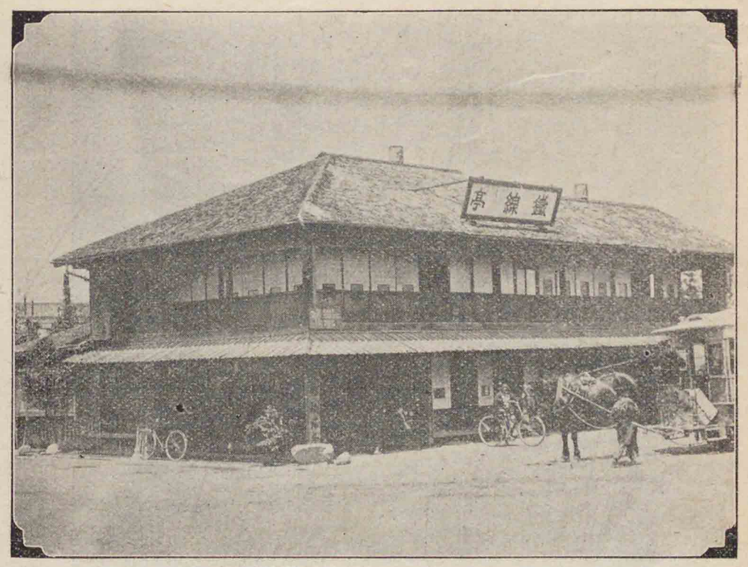
上毛新聞一手專賣
上州新報特約販賣
群馬新聞大販賣
東京諸新聞大販賣

博聞舍新聞舗
主任 板井忠七
前橋市連雀町
電話一六七乙
振替口座東京八三七





歐米雜貨
帽子洋傘
洋服裁縫
水戸屋號
板井洋品店
前橋市連雀町七
電話一六七



前橋驛に御下車相成候はゞ御休泊の何れにせよ兎に角御尋れ被下度プラツトホーム出口よりは最も手近き位置に御座候間鐵道構内にて御呼び被下候へば直に手代御伺ひ致し御旅行先の萬事に就ては聊か御不自由無之樣御用相達し可申上候又伊香保四萬、草津其の他各溫泉地行きの電車は店前より御乘車之便有之候
當市は日光、善光寺の中間に有之候又繭絲を以て世界に其の名あり

上州前橋市停車場前
御旅館 鐵線亭 本館 別館
電話二三九番
（電話口消毒器ノ設備アリ）

貨物保管
保管貨物 擔保貸附
生繭乾燥
上毛倉庫株式會社
前橋市田中町（電話四十四番）

高山齒科醫院
齒科醫 高山守衛
本院 前橋市細ヶ澤町五二六番
分院 武州本庄町警察署前（分院治療二、七の日）

手土產品評會有功賞受領

前橋十景
バナナ、煎餅
バナナ、羊羹
絲乃玉露
三味最中
其他
御みやげ菓子各種

前橋本町 三村屋 電話一二二番

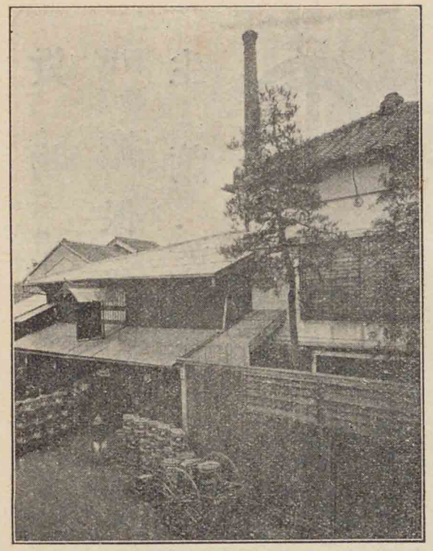
酒類製造
各地醬油酢販賣業
岩附屋號
中島榮六
前橋市中川町五番地

諸國産紙文房具

前橋竪町

白子屋紙店

電話 二四九番



味噌醬油釀造

清水井商店

前橋市相生町

電話五十三番

和洋酒類醬油薪炭商

三益舍

高橋源治郎

前橋市連雀町

本店 群馬縣北甘樂郡富岡町

洋服雜貨 吉田金太郎

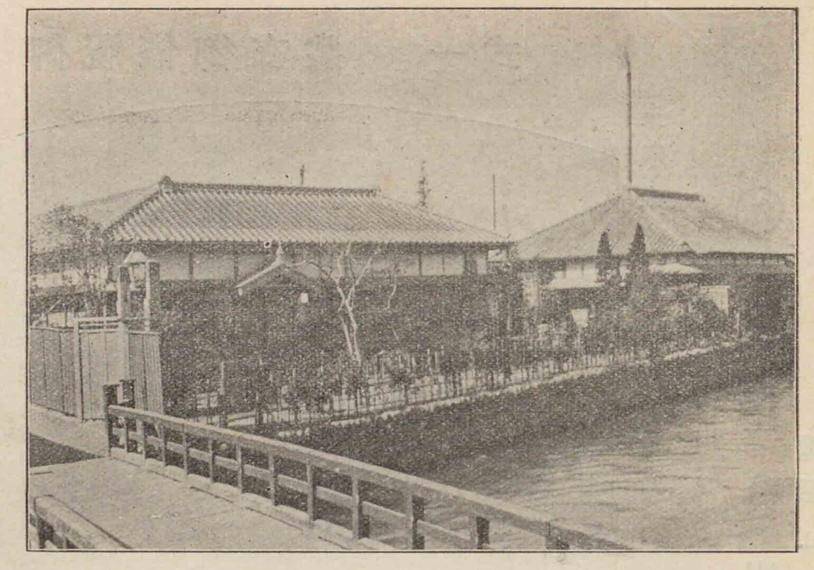
電話 一六番

支店 群馬縣前橋市竪町二番地

高等裁縫 吉田金太郎

洋服部

電話 四三六番



ドクトル メヂチーネ 山下理作

前橋市萱町裏一毛

山下外科病院

眼科

内科

外科

入院の需に應ず

前橋市立川町

矢部醫院

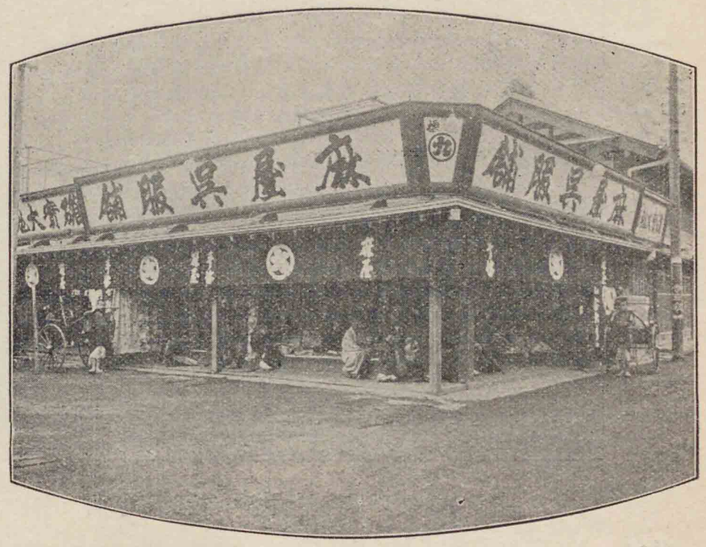
電話四一五番

前橋市横山町二十四番地

眼科專門醫師 羽生田俊次

電話 四二七番

御祝儀御衣裳　一式

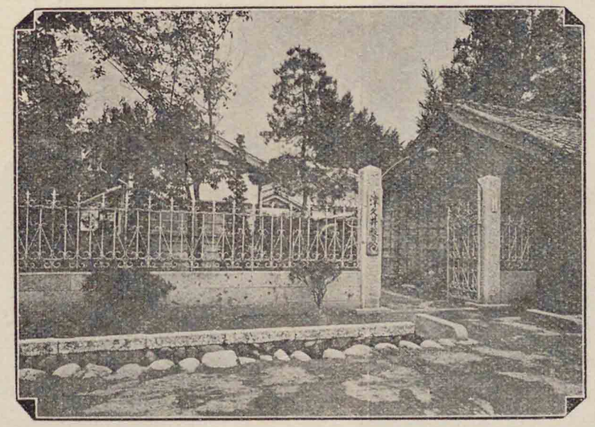


吳服太物卸小賣

前橋市横山町

㊾ 麻屋吳服店

電話 一五〇番



前橋市相生町

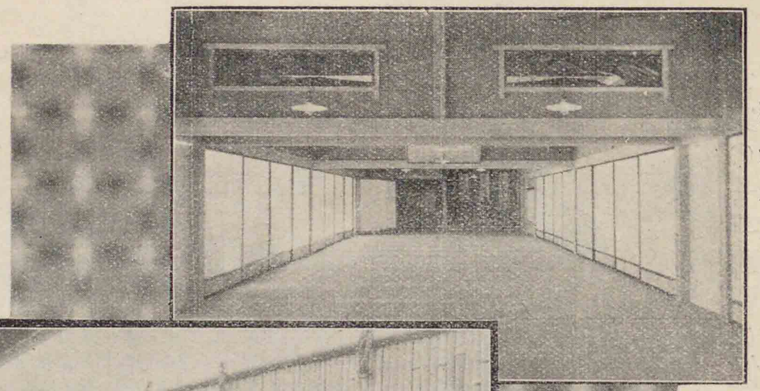
津久井醫院

電話 一六八番

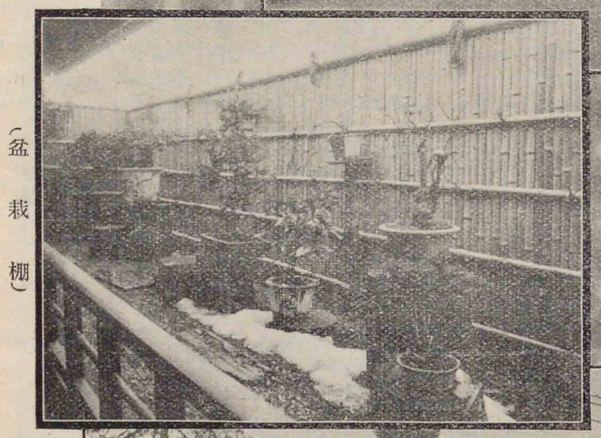
院長 醫學士 津久井省己

副院長 仙臺醫學專門學校醫學士 澤平晧

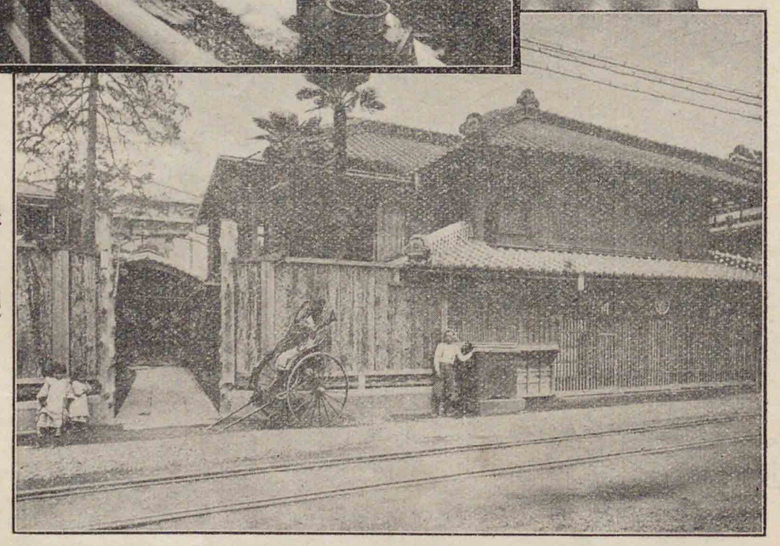
○午前宅診 ○午後往診 ○病室の設備あり



（新館大廣間）



（盆栽棚）

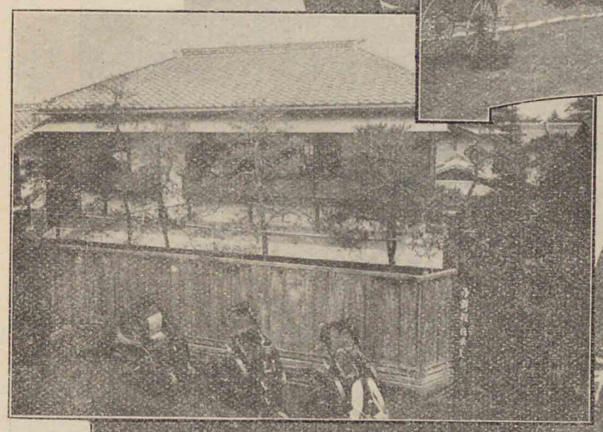


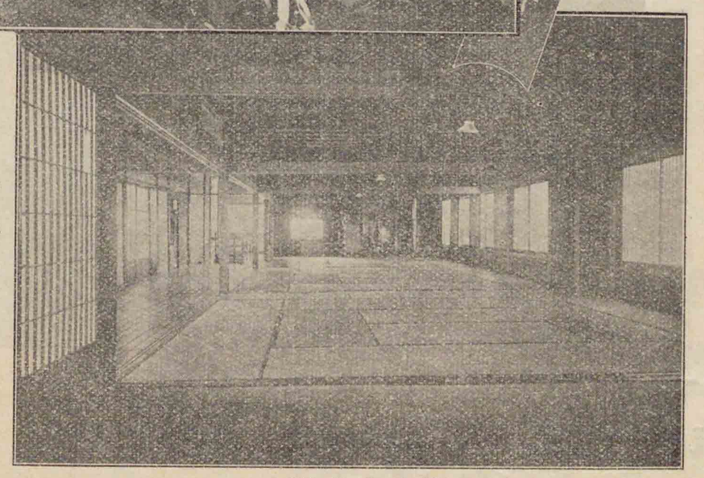
（表門）

前橋　嬉野　電話 一四五

前橋
第一の
勉強
料理店
上中下
三段の造り分けは
當家の一手專賣に候

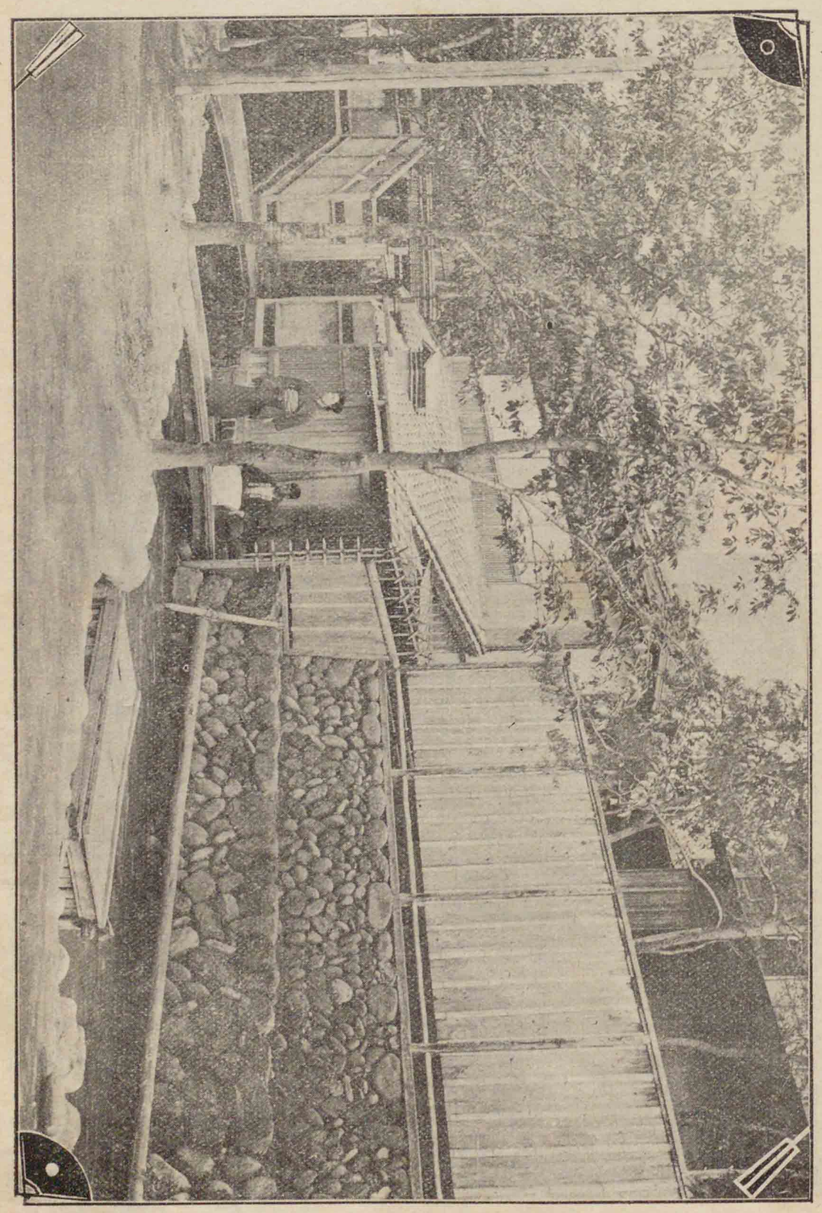
（新昇表入口）


（新昇裏二階）


（新昇大廣間）

御料理
新昇
前橋市立川町
電話一二八番

すなりさで山澤が敷座御なか靜てしそい良のし通風い良のしら晴見



庖丁
鹽梅
御試め
し旁々
御光來を願ひ上げます

割烹店
前橋市本町
（馬場通り）
岡源支店
電話一二七番

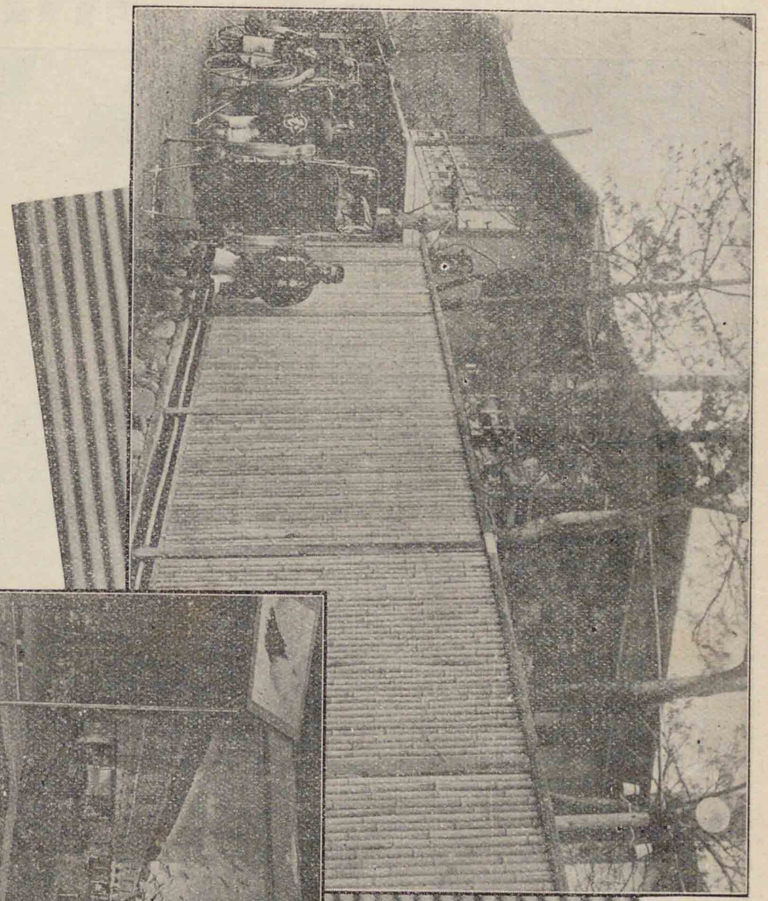
各種料理調進、
御祝儀御献立
遠足會折詰類
出前仕出園遊會、
御宴會仕出仕候

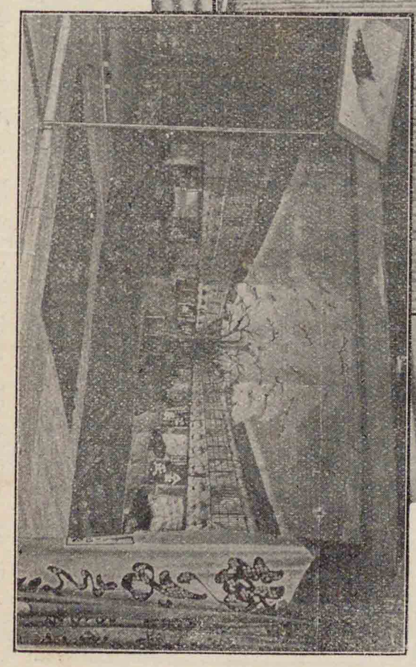
珍鳥號

前橋市横山町

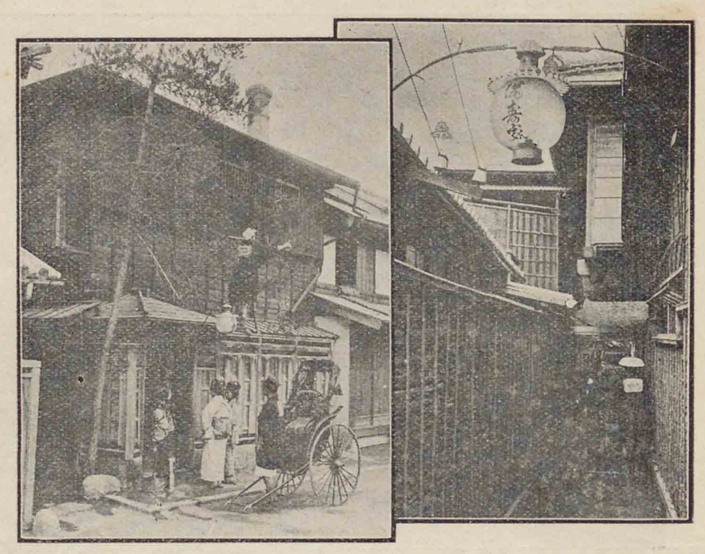
梅花

電話二百〇五番





演藝會、温習會の用意ある廣間には御座敷舞臺有之候



御料理

前橋市横山町

滿壽家

電話 二二五番

御料理

出前

御辨當

精々入念に調理仕候間何卒御試し被下度候

前橋市榎町

御料理 武藏野

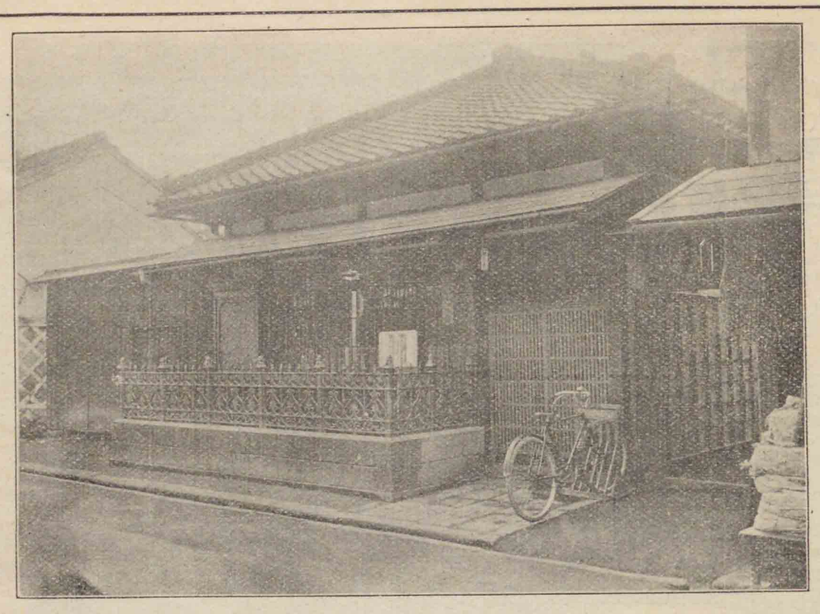
電話 百十一番

市街の中央にあり高樓に上れば赤城榛名妙義の三山は素より淺間の煙りまで眺望自在前橋市中よりさにらみ

御料理

三省樓

前橋市榎町(電話三番)



株式會社 高崎銀行

高崎市寄合町貳拾番地 （電話 六番）

頭取 相川藤平

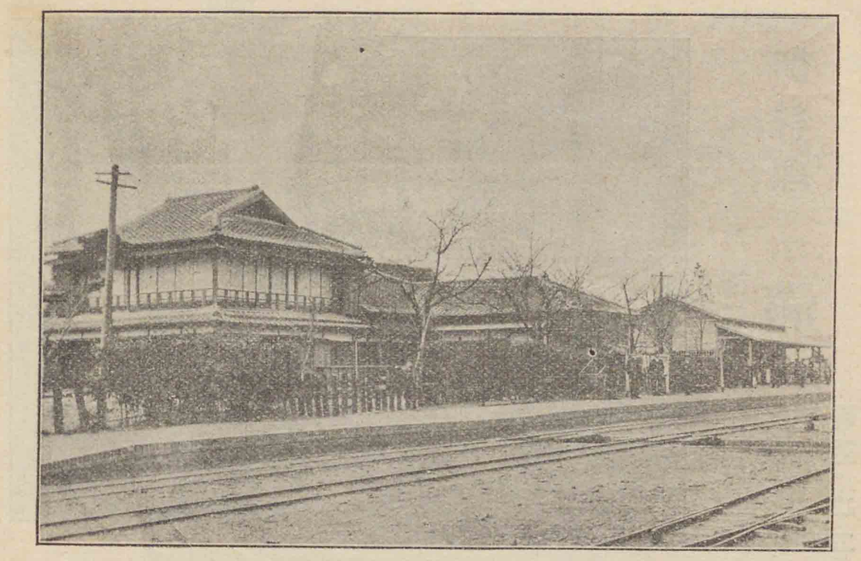
群馬縣高崎市田町

株式會社 高崎積善銀行

電話 七番

（銀行内部）

（銀行外部）



上野鐵道線路案内

▼高崎市

本鐵道の起點にして大河内家の舊城地なり市街殷盛を極む高崎城趾、高崎公園、乘附山、船橋の古蹟、佐野常世の遺蹟、清水觀音堂、大信寺（駿河大納言の廟所）等見るべきもの多し

▼山名

根小屋城趾及上野三碑の山上碑あり白凰年間放光寺僧の建設する處なり又有名なる八幡神社あり

▼吉井

多胡碑あり下野國造の碑、陸前多賀城の碑と共に日本三古碑の一なり

▼福島

有名なる笹森稲荷神社あり

▼富岡

製絲場として有名なる原製絲所あり工女數百名を有し業務盛大を極む、又公園あり、演戯場あり、山間の一都市を爲し商業盛なる地なり

▼一ノ宮

安閑天皇の御世の草創に係る國幣中社貫前神社あり其他名所古蹟及遊覽すべき所多し

機械器具製作造

上州高崎市歌川町

小島鐵工所

電話（一振替五七〇六）百十五番

一諸設計機ノ應製ノ修繕ニ依ル

一梵其他鐘、黃銅、鑄物鐘

一意匠登錄

一門扉

一暖爐

一特專新實用許賣案

一鍋、釜、

一チルド車輪

一流罐

一煙突

一其他機械諸器

一精米精糸

營業品目

一鐵柵

一蒸溜

一波形

一風呂

一風呂罐

一暖房各種

一爐間炊釜

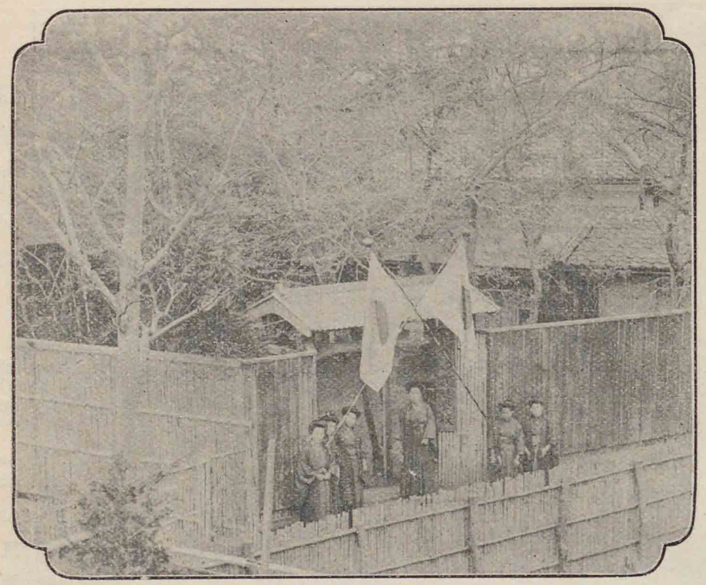
一爐類

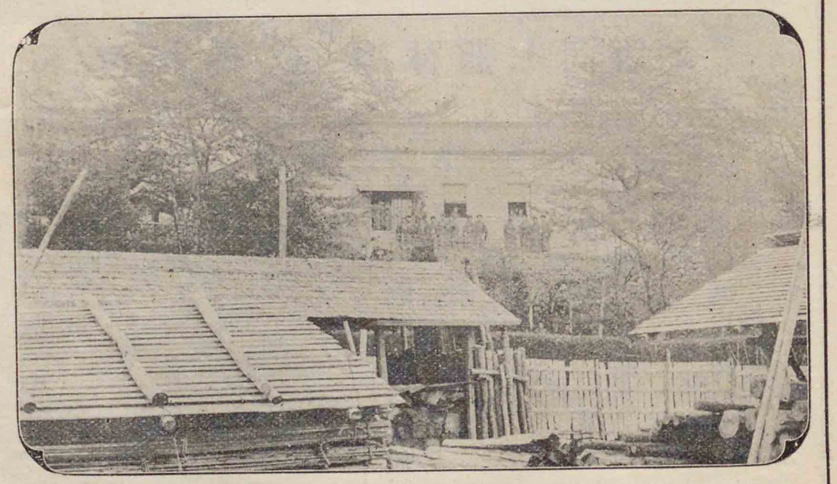
一輪類

一橋類

高崎裁縫學校

高崎市柳川町百六十四番地





●創立●は明治三十八年十二月二十六日設立認可明治三十九年二月五日開校す

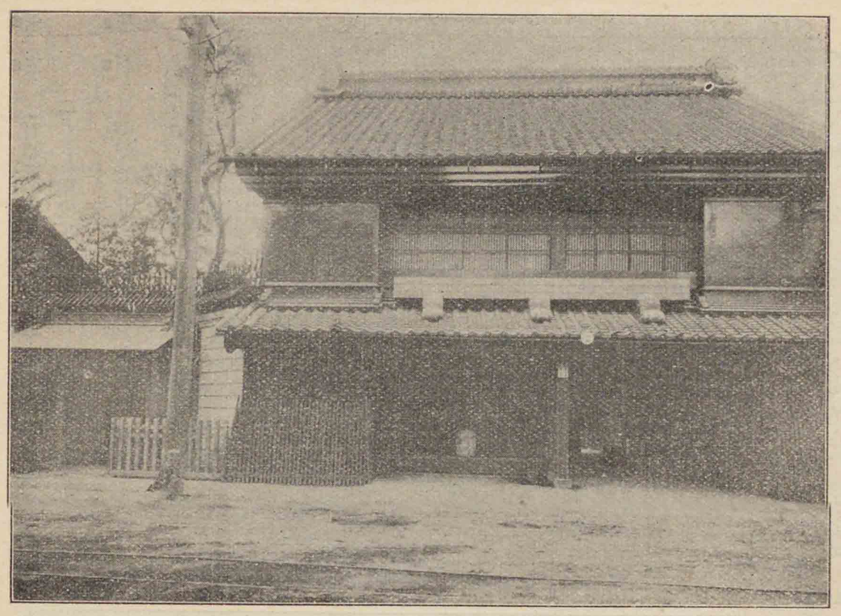
●學科●は本科高等科の二科の外別科として技藝科を設く

●本科●普通家庭に必要なる裁縫を教授し修業年限は二ヶ年又入學資格は尋常小學校卒業以上の學力あるものの高等女學校卒業生及之と同等の實力あるものは第二學年に入學することを得

●高等科●普通の裁縫を終り尚以上の研究を爲さんとするもの又は教員たらんとするものゝ爲に設く修業年限一ヶ年又入學資格は本科卒業生若くは之と同等以上の實力あるもの

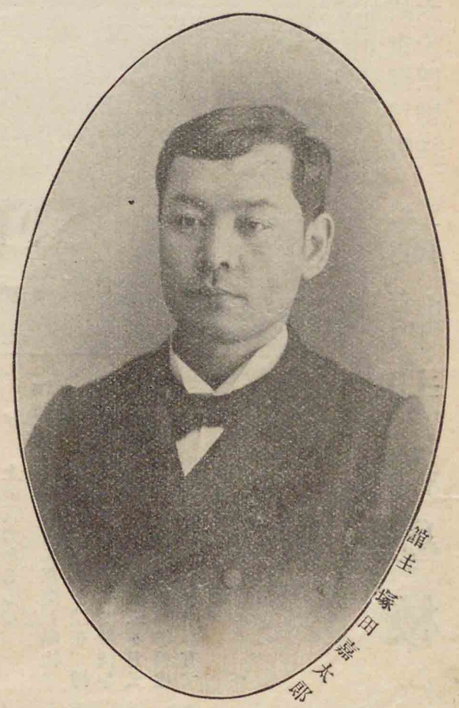
●技藝科●隨時生徒を募集し編物、摘細工、刺繍、造花、挿花の中一種若くは數種を教授す修業年限三ヶ月又入學資格は本科高等科生徒及本科入學資格を有するもの

●寄宿舍●の設備あり



高崎市本町　電話〔二五〇五番〕

砂糖油商　㊟　小林彌七商店



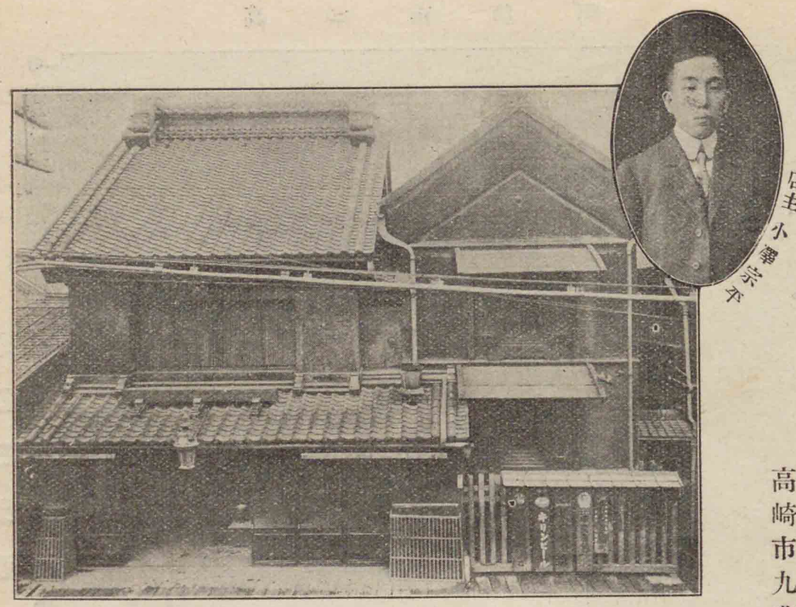
店主　塚田嘉太郎

客室清潔、庭園絶佳、料理新鮮、三館を合し優に五百人を容るゝ設備あり

前橋市紺屋町　第一松島館　電話五〇八番

群馬縣廳前　第二松島館　電話架設中

前橋市岩神町（向町裏）　第三松島館　電話架設中



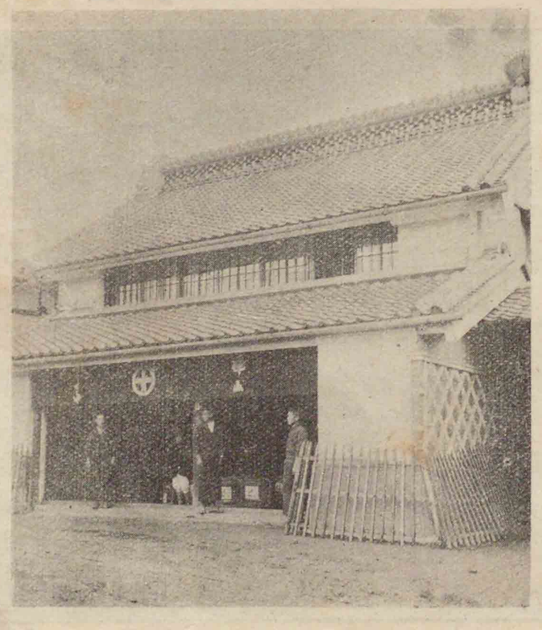
藥種洋酒鑵詰商

店主　小澤宗平

小澤宗平商店

高崎市九藏町

清酒吉泉釀造元



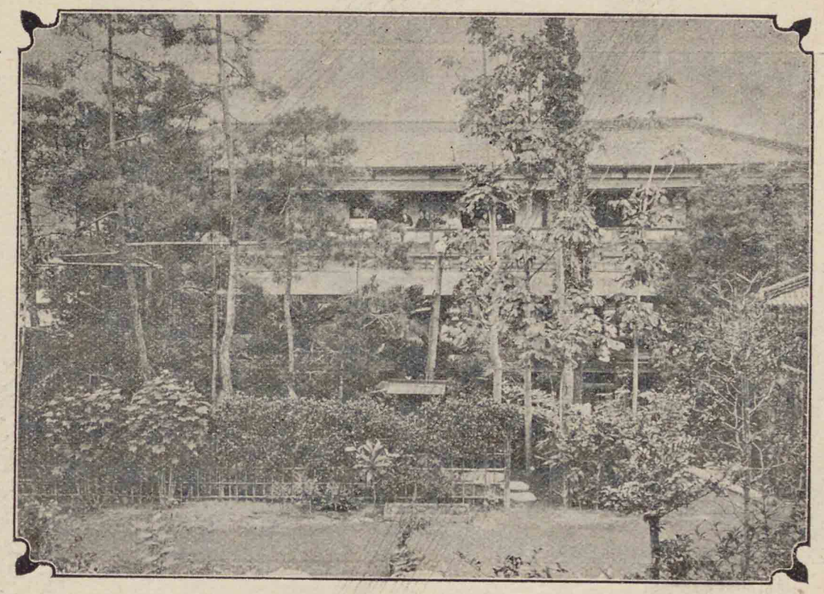
高崎市歌川町

蠟山商舗

高崎市新町

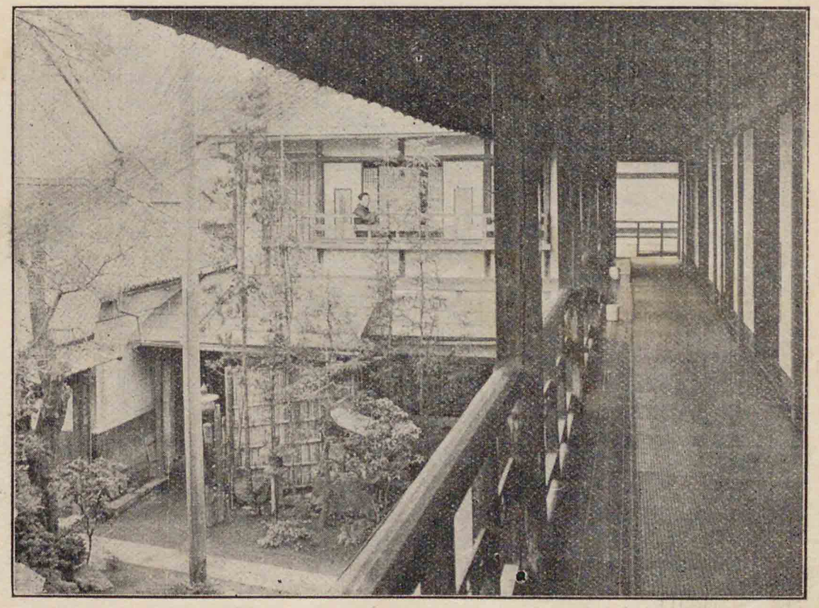
本店 電話三五番

公園支店 電話二一四番



割烹店 岡源

確實親切御旅館



高崎市停車場突當り（電話一二四番）

慶雲館 信濃屋金五郎

高崎銘產手土產品

一麥打

一勇煎餅

辰巳屋 古海治助

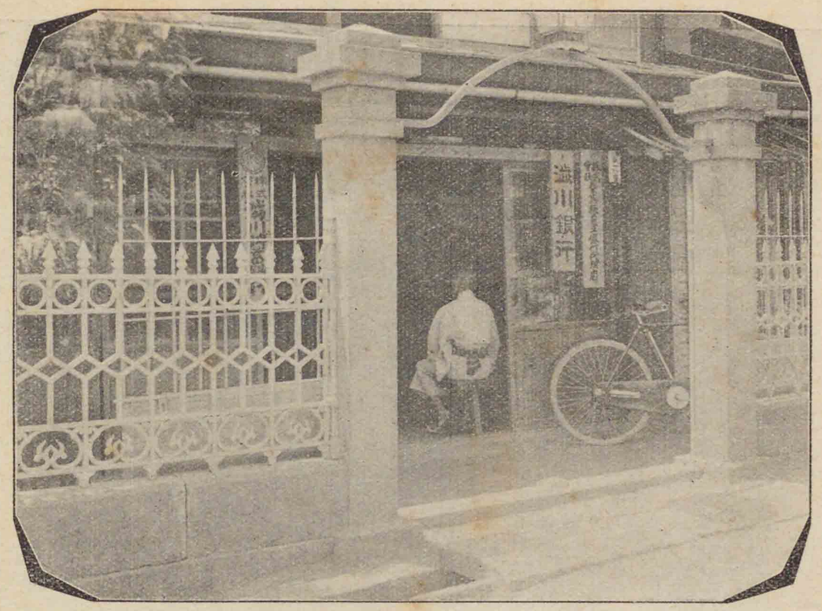
高崎市本町

漆器卸小賣商

中田伊勢太郎

群馬縣高崎市田町

電話 二三三番



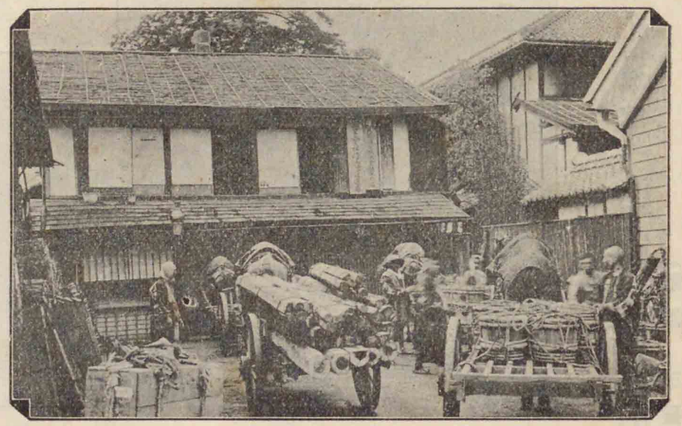
群馬縣澁川町

株會社 澁川銀行

株會社 澁川貯蓄銀行

（澁川銀行頭取以下行員）

我ガ澁川町ハ利根吾妻二郡ノ咽喉ニシテ伊香保、四萬、草津其他上毛靈泉地ノ要衝ニ當リ南ハ電車ノ便ヲ以テ高崎前橋兩市ニ接續ス弊店ハ是等ノ輸出入貨物ヲ極メテ迅速ニ安全ニ鄭寧ニ專ラ運送賃ノ低廉ヲ期シ猶ホ內國通運株式會社澁川取引店ヲ兼ネ居候間內外各地ヘ輸送上ノ連絡アリテ至極便利ニ御座候

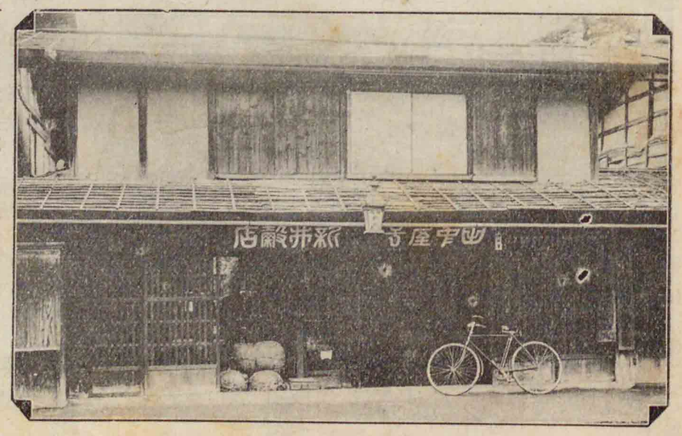


群馬縣上野國澁川町下ノ町

合資會社 峰岸運送店

電話 五番
電略 〇一

內地米
外國米
雜穀類
食鹽
卸賣專業

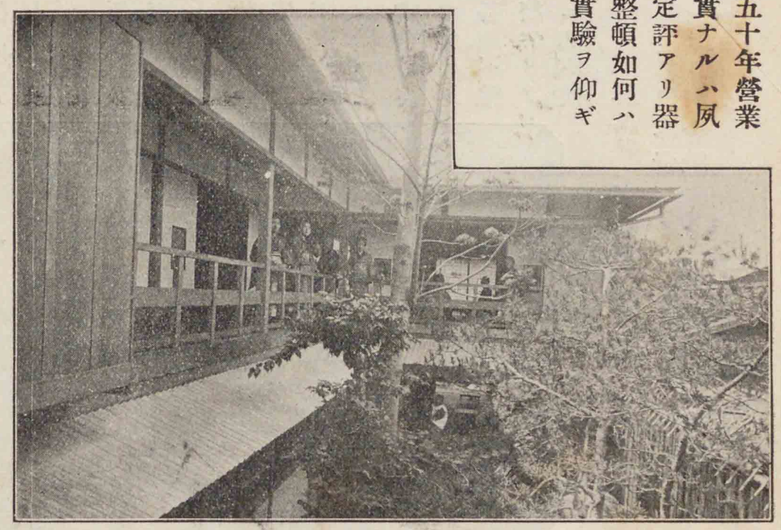


專賣局指定鹽元賣捌人
橫濱生命保險會社澁川取引店
群馬縣群馬郡澁川町百六番地
田中屋號

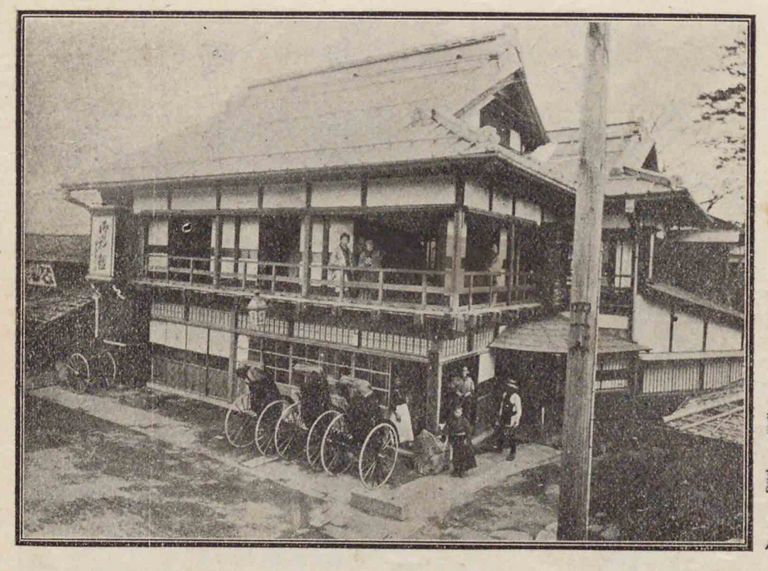
新井貞五郎

振替口座東京 三三六六番
電話四番、電略アライ又ア

創業以來五十年營業振リノ堅實ナルハ夙ニ江湖ニ定評アリ器具調度ノ整頓如何ハ宜シク御實驗ヲ仰ギ度ク候



旅館 清寧館 滋川町 山田喜平治 (電話三番)



和洋御料理 上毛滋川町 佐鳥屋彌五郎 (電話弍番)

最も良好にして最も設備の完備せる

蠶種貯藏 榛名風穴

前橋市へ四里、伊香保より一里餘、一日の清遊には頗る好適なる地なり實地御來觀を乞ふ

案内書は御申込次第進呈可仕候

明治四十三年

群馬縣群馬郡箕輪村

榛名風穴合資會社

電話 (ハン) 署

振替口座一〇三三

本劑は精神の刺戟より來る一切の發狂病腦病總ての逆上を引き下げ精神を安泰ならしむる靈藥にして著しき効顯あり委くは効能箋に附て見るべし

官許 商標

精神病特効藥 治狂散

定價 壹廻分但七日分 金壹圓五拾錢

上野國群馬郡元總社村大字元總社村三百八十一番地

治狂散發賣本舗 弘濟園 山崎希運

登錄商標

醬油醸造 群馬縣邑樂郡館林町 圖司榮次郎

電話 一〇番

振替口座東京二〇五二一番

各工場所在地

本社	京都市上區東竹屋町
絹絲紡績株式會社	
社長	佐森茂規
新町絹絲工場	竹田茂方
新町	吉
上京絹絲工場	
新町	
下京絹絲工場	
新町	
六條下ル	
京都市上京區東竹屋町	
沖小路八條下ル	
京都市上京區六供町	
群馬縣多野郡新町	
岡山市大宇花田	
岡山市大宇門田	
岡山市大宇畑	
群馬縣多野郡新町	
岡山縣小都市前橋市新町	
岡山縣英田郡中島村	
岡山縣海草郡海南村	
岡山縣備前	
岡山縣綿絲工場	
岡山縣綿絲工場	
岡山縣綿絲工場	

販路

絲及絹布は主として支那韓國に輸出す

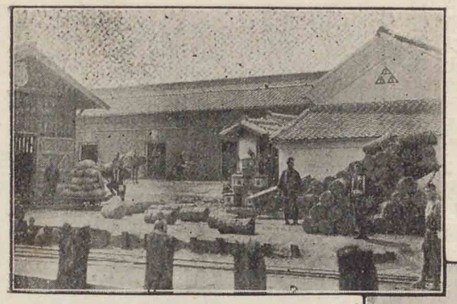
付地に販賣し地方一圓は歐洲及印度に輸出し他は各國向は伊勢崎、桐生、足利越後見

丹後峰山地方一圓尾張一の宮地方一圓は京都、京生絲、紬、紬織絲及紬絲は內國向ほとんど輸出し他後見

原料及製造

蠶繭、屑糸、篠巻等は生絲、皮革、羽毛、穀粉、糖蜜等は製造用ふ、製造法は各種原料を合併し資本金六百八拾七萬五千圓にて現今社員一日に平均四千五百人を使役し年産額五百十萬餘の代用品に各部工程を經て紬絲、紬織絲、紬絲、紬織絲、紬織絲、紬織

運送に關する
百般之事業
懇切迅速に
御取扱可仕候



上野國
吉井停車場前
內國通運株式會社取引店

E通E

秋山運送店

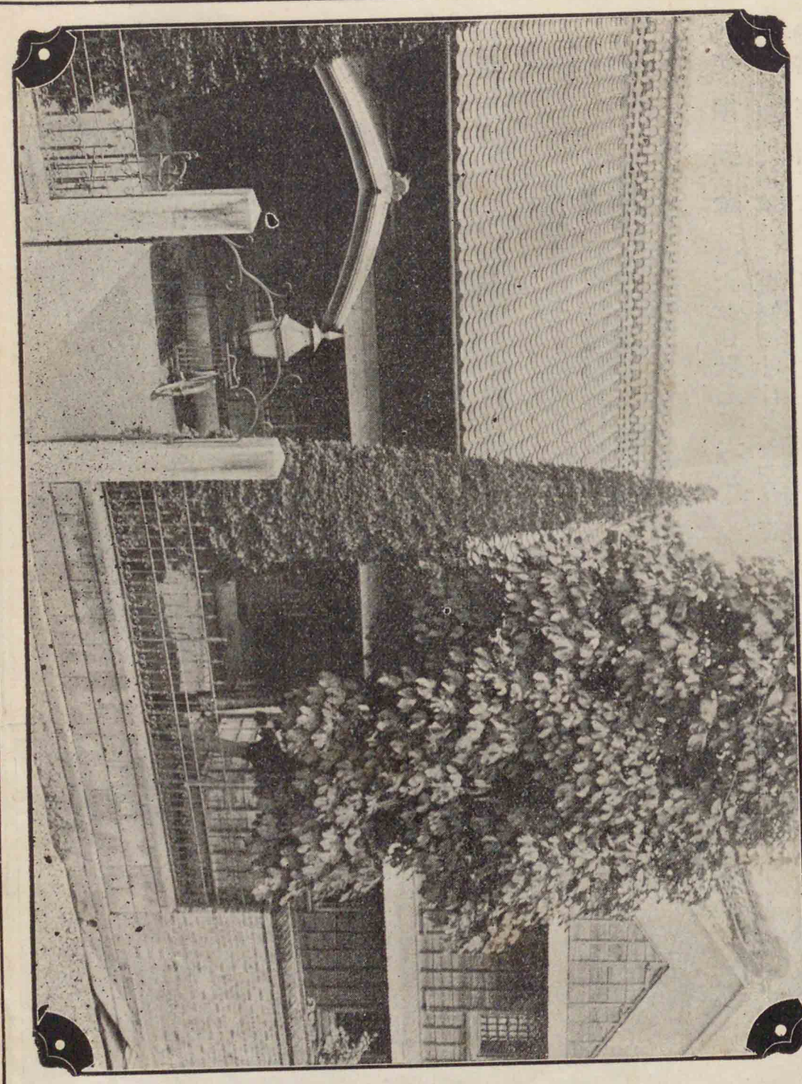
主店　秋山豐次郎

群馬縣多野郡新町

組製絲所

頭取　三木源七

群馬縣多野郡吉井町　株式會社　興志井銀行

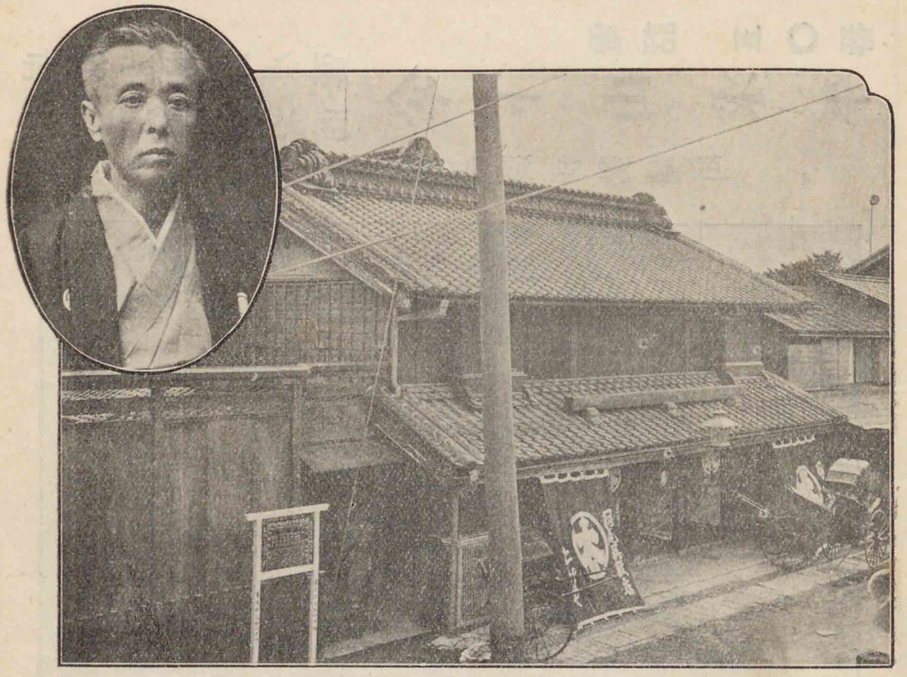


創立
明治二十年五月十日
資本金　金五拾四萬六千百圓
積立金　壹百八拾萬圓

群馬縣佐波郡境町　同支店

群馬縣佐波郡伊勢崎町　株式會社　伊勢崎銀行

電信暗號（イセ）
電話三十二番



國産伊勢崎織物買繼部

吳服太物小賣部

和洋染料販賣部

群馬縣伊勢崎町本町二丁目

羽尾勘七商店

電話　壹番

電略　ハヲ

振替貯金東京一八七〇七

頭取　町田孝五郎

◎資本金　金貳萬圓

◎積立金　金貳千貳百圓

◎諸預金　金六萬七千四百拾五圓（明治四十三年十一月）

佐波郡玉村町大字下新田村百三十二番地

株式會社玉村銀行

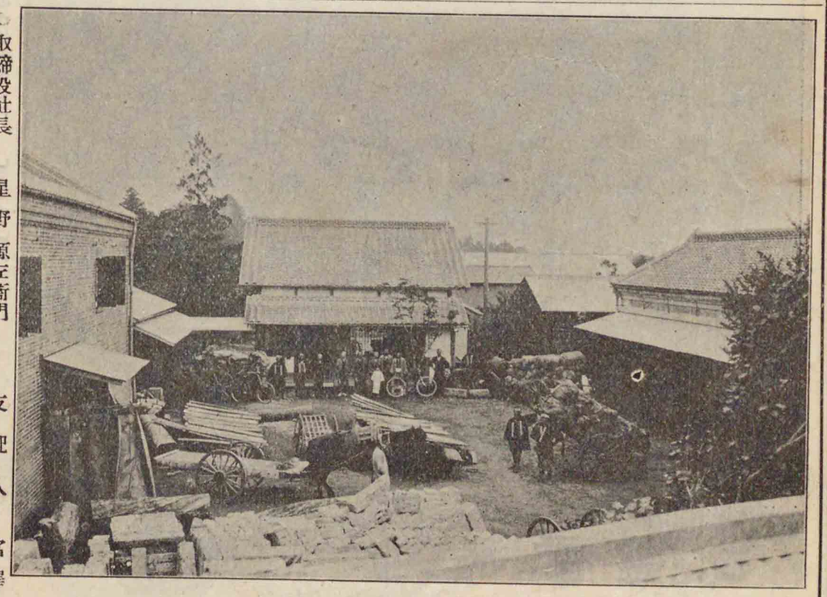
電略（タマ）

◎定期預金　六ヶ月以上年六分

◎特別當座預金　百圓に付日歩金壹錢貳厘

◎當座預金　百圓に付日歩金壹錢

◎其他銀行一般の業務精々御便利に取扱申上候



群馬縣伊勢崎町

(庫)伊勢崎倉庫株式會社

（電話　二九番）

取締役社長　星野源左衛門

同取締役　羽尾勘七

同同　下山求平

同同　川上銀七

同同　中澤豐藏

支配人　富澤長三郎

同監査役　武内孫和

同同　山和助

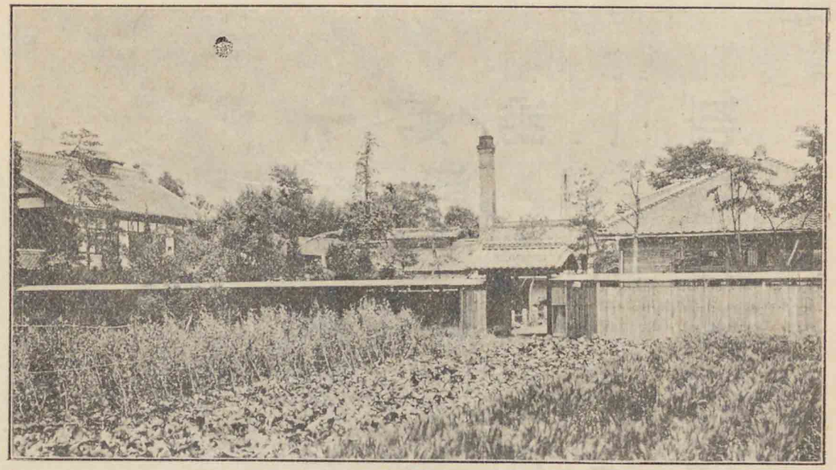
同　中島延太郎

伊勢崎織物買次商
吳服太物卸小賣
群馬縣伊勢崎町
下山求平
電話五〇番

伊勢崎例月會會員

石原善平
井下久馬
八田榮藏
星野榮作
奥山勸三郎
大竹彌十郎
田島瀧三郎
田島好太郎
大和房吉
丸橋已代吉
阿部德次郎
菊地順之
三間市五郎
下城榮作
下城彌一郎

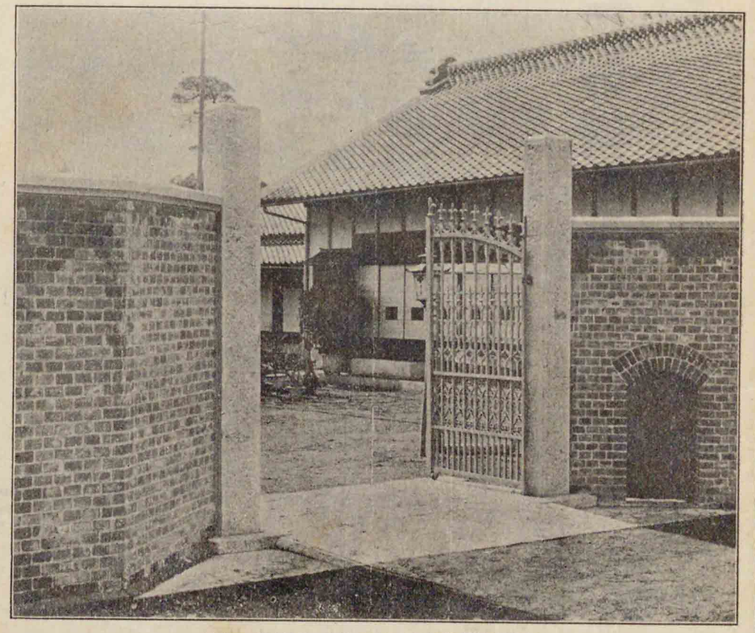
各地共進會に於て毎に壹等賞を賜ふ



伊勢崎縞製造元

榮下城榮作

群馬縣佐波郡殖蓮村

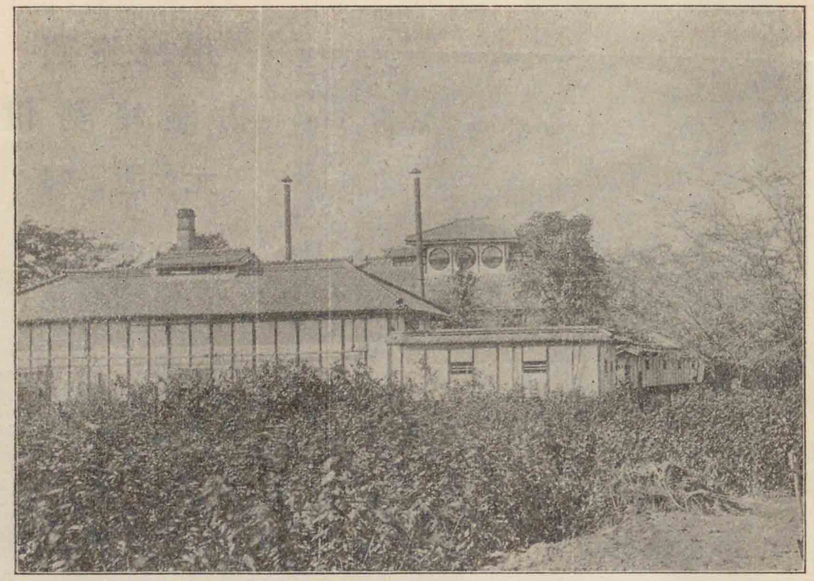


（伊勢崎機業家星野榮作氏住宅及工場）

群馬縣伊勢崎町

星野榮作

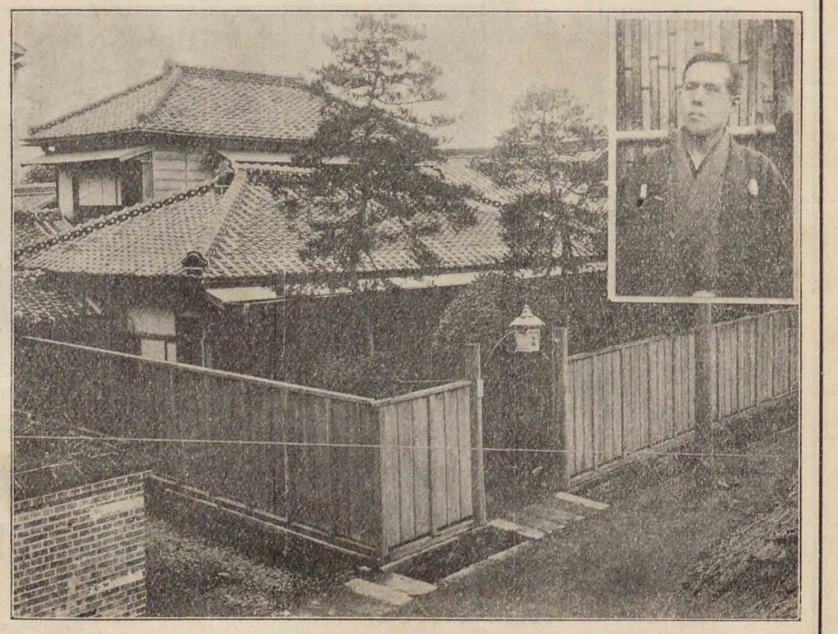
機業部　染色部



群馬縣伊勢崎町

德江製絲所

所主德江彌三郎



群馬縣伊勢崎町

國產織物
買次商

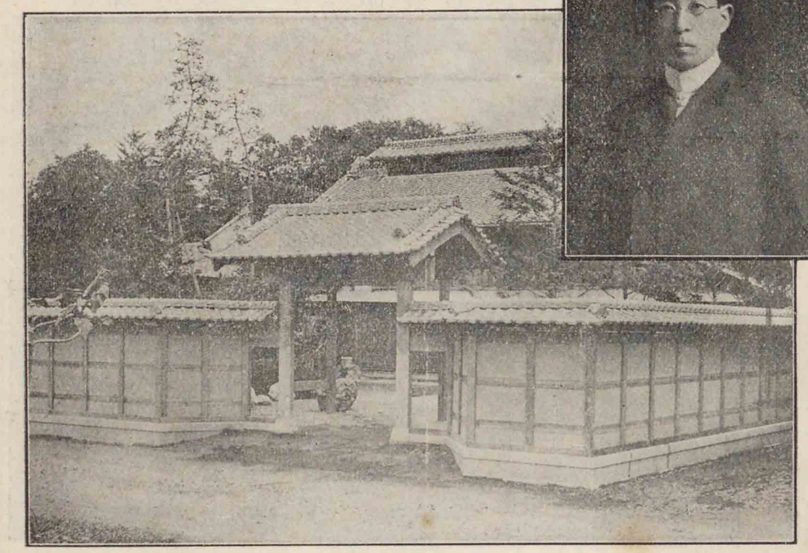
下城好雄商店

電話三六番　電略（チカ）

伊勢崎織物製造元

下城雄索

群馬縣佐波郡殖蓮村



（伊勢崎機業家下城雄索氏肖像と邸宅）

祝共進會開催

兩毛線伊勢崎驛

內國通運株式會社取引店

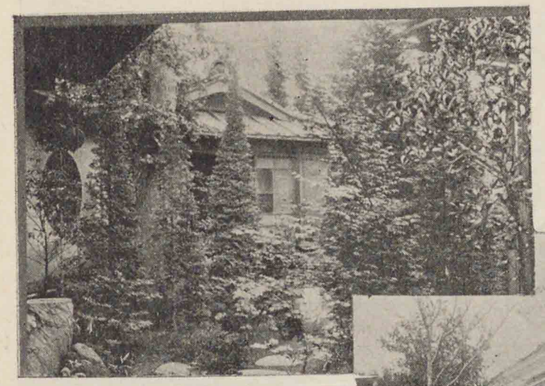
武孫運送店

電話五二番

用應案圖

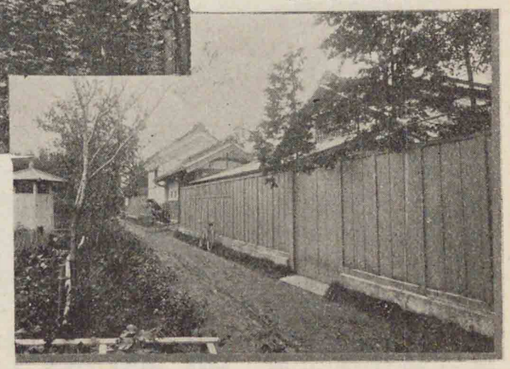
伊勢崎織物

製造元



（室接應）

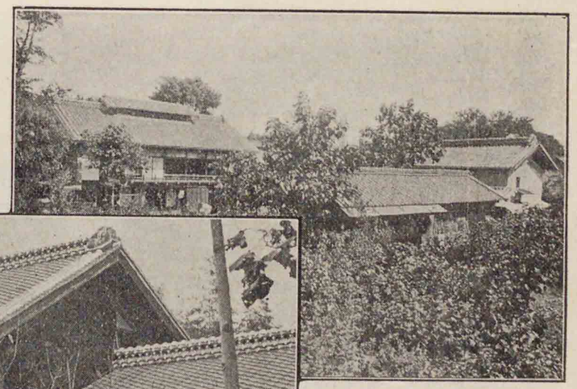
（邸宅の外面）

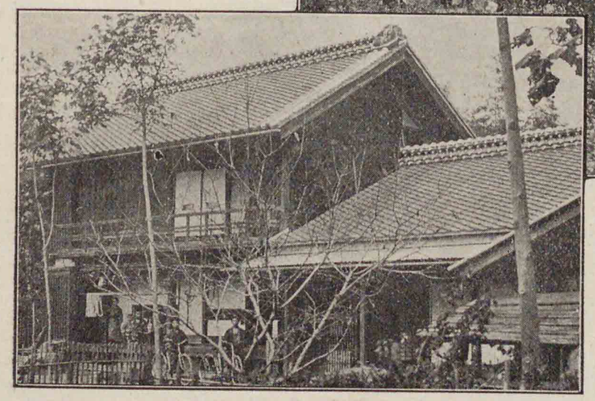


佐波郡剛志村

椎名勤次郎

伊勢崎織物製造業

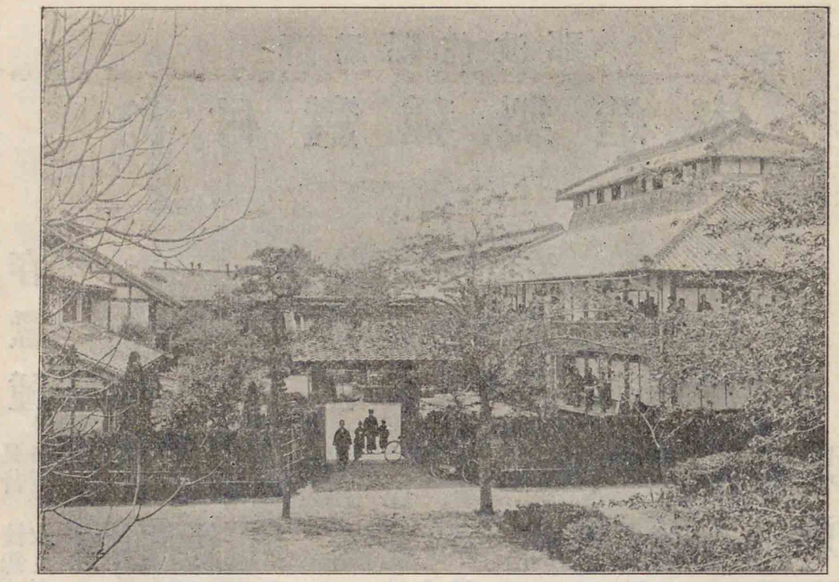




（住宅及工場の一部）

佐波郡茂呂村

八田榮藏



蠶種製造業　勸業社　**田島彌平**　群馬縣島村

群馬縣佐波郡

島村蠶種製造家

春蠶種　良白。大又。又昔。形生。
佐波郡島村
田島八郎

春蠶種　白玉。又昔。白龍。
佐波郡島村十一番地
樂果園　**田島力太郎**

佐波郡島村三十四番地
田島平內

春秋蠶種　良白。白龍。原又昔。多摩錦。更級。
佐波郡島村新地
勸業社　**田島林平**

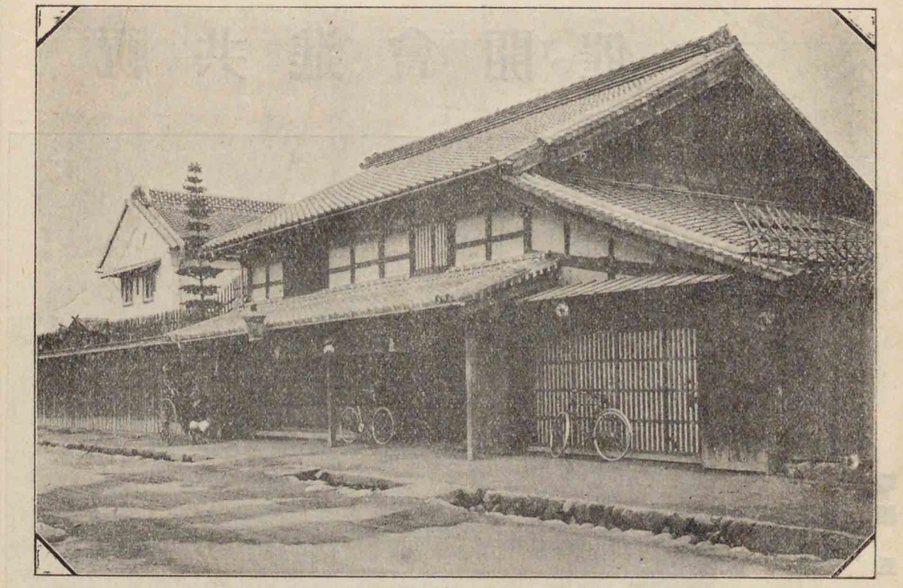
佐波郡島村三十五番地
進成館　**田島乙三郎**

陸軍御用

內國博覽會各地品評會受領

店主　瀨川喜三郎

釀造開始百四十五年前



釀造元　**瀨川商店**　群馬縣玉村町

群馬縣佐波郡

島村蠶種製造家

春蠶種　又昔。綾錦。支那種。白玉。改良又昔。
佐波郡島村九番地
刀水館　田島太平

佐波郡島村
田島彌四郎

春蠶種　中又。白龍。清白。
佐波郡島村十三番地
芳流館　田島源三郎

春蠶種　白龍。良白。伊達錦。銀生。
佐波郡島村六番地
蠶愛館　田島彦次郎

春蠶種　白玉。白龍。又昔。清白。
佐波郡島村九十二番地
栗原甚太郎

秋蠶風穴種　玉錦。支那種。更紗。
佐波郡島村八十四番地
栗原勘三

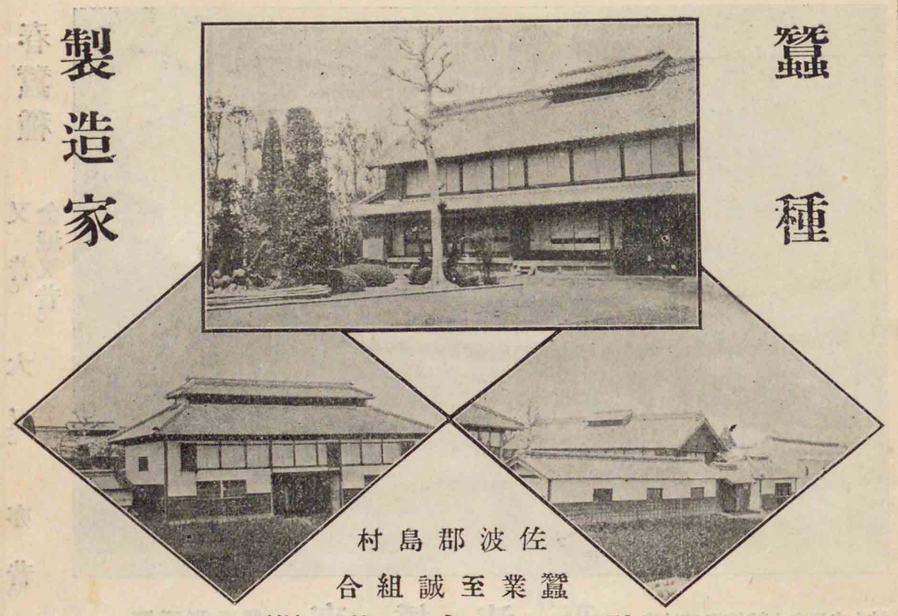
佐波郡島村
栗原清五郎

佐波郡島村
町田佐十郎

春蠶種　改良又昔。金城又昔。青熟。白龍。白玉。
佐波郡島村二十二番地
弘德館　小暮開平

秋蠶種　多摩錦。大錦。
佐波郡島村蠶業至誠組合
關口儀兵

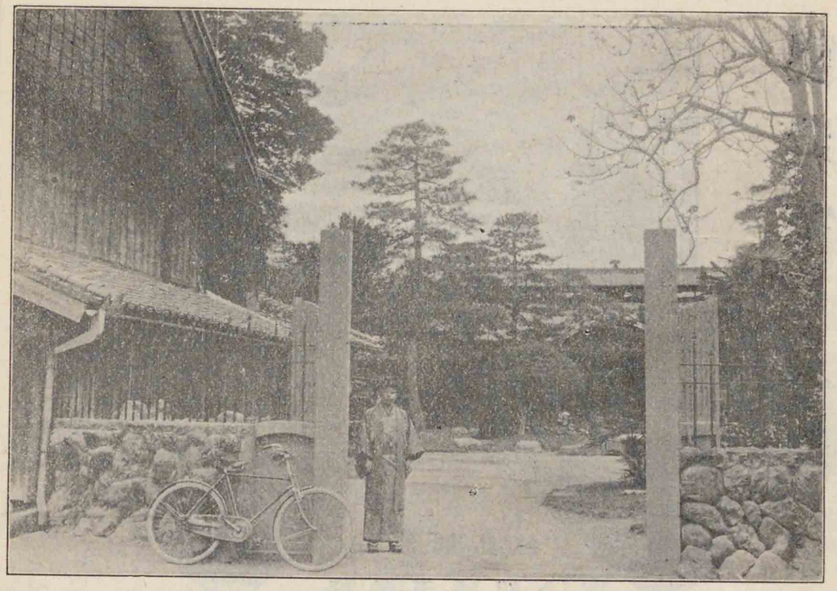
蠶種製造家



佐波郡島村
蠶業至誠組合
關口嘉衛門

橋本式養蠶法は專ら種類の統一を旨とし飼育方法に於ては學理を應用し五齡期の始めより蠶糞の一刻も停滯せざらん樣蠶莚を使用せずして繩細を敷き蠶座の間に蠶糞受けを設備し病根を豫防し病毒の撲滅を目的とし既に功績を揚げたり

群馬縣佐波郡島村
蠶種製造者
橋本春三郎



春蠶種　又昔。金城又昔。大又。亦昔。

蠶種製造業　高橋清平　佐波郡芝根村大字沼之上村

春蠶種　大又、又昔、風穴蠶種　國富、白鶴、寶來、

佐波郡芝根村大字沼之上村
蠶種製造業　高橋嘉策

春蠶種　白龍、金城又昔、又昔、改良清白、風穴蠶種　白玉、

佐波郡芝根村大字沼之上村
蠶種製造業　岩田治三郎

佐波郡豐受村
蠶業長沼社
蠶業益進社

春蠶種　青熟、金城又昔、伯州又昔、伊達錦、
風穴秋蠶種　白玉、白龍、千代鶴、出穴八七月二十日ヨリ八月二十五日迄

蠶種製造業
原撰館主
原紋太郎
佐波郡芝根村大字下之宮七番地

春蠶種　改良清白又昔、中巢白龍後藤、金城又昔、
風穴秋蠶種　白玉、白龍、千代鶴、青熟中巢、

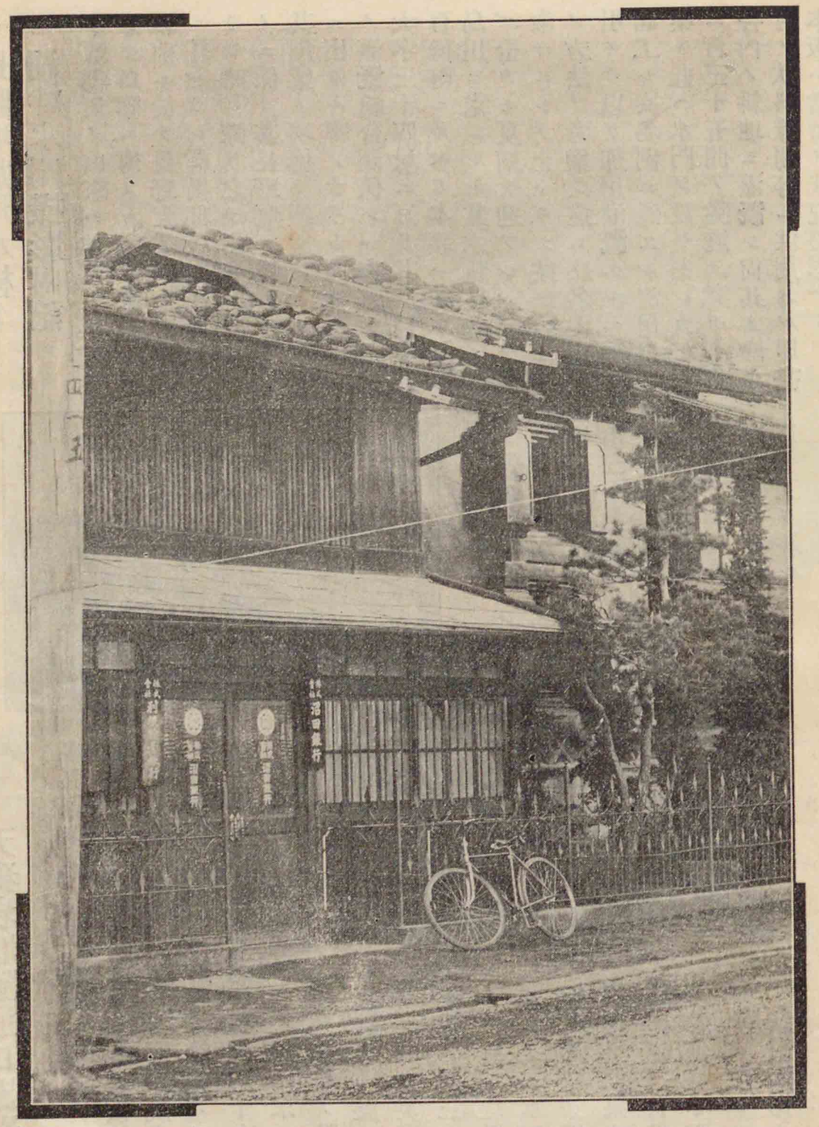
蠶種製造業
德江常三郎
佐波郡芝根村大字沼之上村

佐波郡玉村町角淵蠶種組合

群馬縣佐波郡玉村町角淵は烏川北沿天與の適蠶地にして其名斯界に高し昔年農商務省地質局分析の證明に依れば蠶種製造地として本邦首位と賞せらる高燥砂質壤土の桑園なれば未だ嘗て霜害雹害等を蒙りし事なく從て蛆害を免れ最も免疫性に富める左記種類は何れも目下繭質統一理想の好評嘖々

又　昔、　青　熟、
伊達錦、　大巢又昔、
金城又昔、

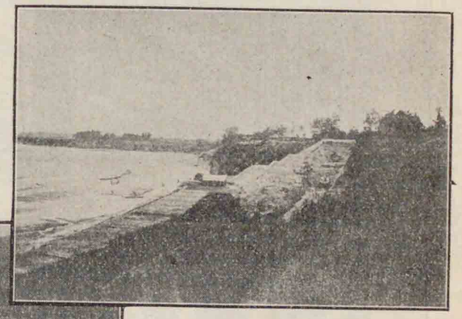
高山社員
高靜館　高橋惣藏
高山社員
高橋館　高橋倉藏
縣農會評議員高山社分教場
良育館　野村要藏
高山社分教場
桑友館　山田嘉平治
高山社分教場
潤國館　山田菊藏
高山社分教場
勢蠶館　山田伊勢藏
高山社分教場
烏川館　鈴木龍八

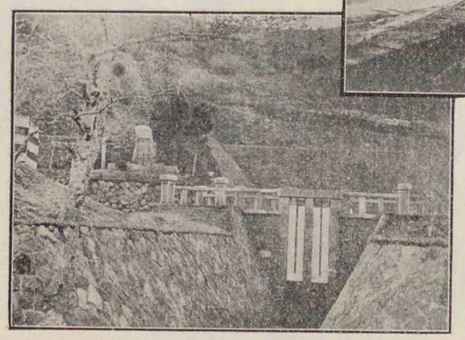


資本金五拾萬圓
株式會社 利根貯蓄銀行
群馬縣沼田町　（電話　一三番）

長野堰加用水榛名湖畔水門撮影附記

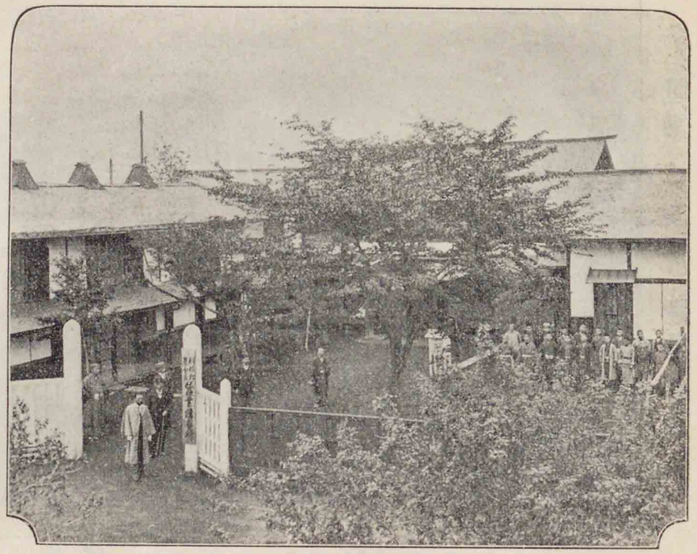
本堰創業ノ由來ハ詳カナラズト雖モ口碑ニ傳フル所無慮一千年以前ニ於テ長野康業ノ上野國守ニ任ゼラレ群馬郡濱川ノ地ニ在リシ時ニ際リ之ヲ創搬シタルモノニ係リ其長野堰ノ稱アル蓋シ其創業ノ功德ヲ頌セントスル所ニ出タルモノナリト而シテ現時ノ灌漑組合關係ハ一市八ケ町村大字三十四村ニ亘リ其反別千八百餘町ニ及ベリ本堰ハ其水源ヲ烏川ニ求ムルモ其水量往昔ヨリ肥滿ノ容ヲ作サズ恰カモ夏期ヲ迎フレバ缺乏ノ急ヲ告グルコト歳々ニシテ止マラズ玆ヲ以テ本組合ハ種々水利ノ方法ヲ考案シ遂ニ榛名山頂ナル榛名湖ノ水ヲ引キテ以テ加用灌漑スルニ決シ明治三十七年中起工シ榛名湖ニ通ズル沼尾川ノ水源地ニ堤防ヲ築キ此ニ水門ヲ設ケ夫レヨリ天神嶺ト稱スル所ニ百三十五間ノ隧道ヲ穿チテ此ニ湖水ヲ引入組合内ノ耕地ニ灌漑シ尚其ノ餘水ヲ以テ組合市町村ノ飲料雜用等ニ供用スル規畫ヲ以テ工ヲ竣ル本版ハ當時ノ狀況撮影ナリ





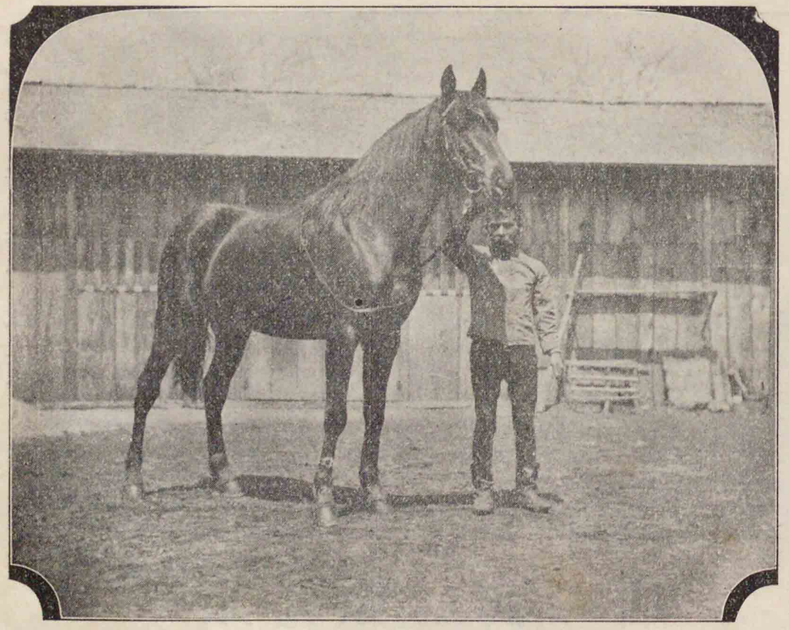
天狗岩堰隧道口撮影附記

本堰創業ノ由來ハ舊誌ニ徵スルニ慶長六年舊藩主秋元長朝ノ本地ヲ領スルヤ封内ヲ按檢シテ其水利ニ乏シク民ノ耕耘ニ困ムアルヲ察シ規畫セルモノニ係リ現時ノ灌漑組合町村ハ群馬、佐波ノ二郡ニ跨リ十箇町村大字五十九箇町村ニ亘リ其反別千九百町餘ニ及ベリ本堰ハ其水源ヲ著名ナル利根川ニ求メ創業以來河川氾濫ノ爲メ堰筋ノ災害ヲ蒙ル幾十回其ノ痕跡今ニ歷々トシテ眼底ニ止リ而シテ其ノ災害ノ大ナルモノ二十九年七月及三十九年七月ノ洪水ナリトス時ニ堤防ヲ破壞シ疏水ヲ杜絶シタメニ水田龜裂稻苗黃色ヲ呈シ頗ル慘狀ヲ極メタルヲ以テ組合會決議ノ結果貳萬有餘圓ヲ支出シ新ニ隧道三百餘間ヲ穿チ其他床浚石垣等延長千四十餘間ノ工事ヲ經營スルニ至レリ本版ハ即チ竣功當時ノ狀況撮影ナリ



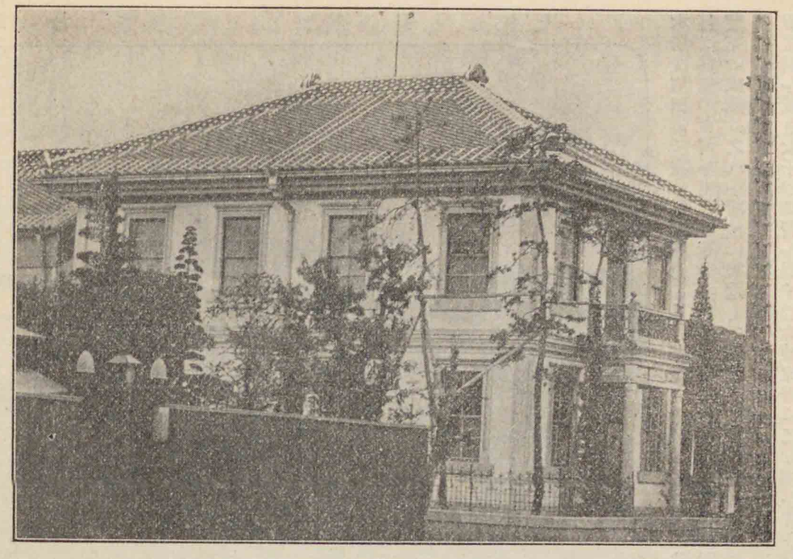
群馬縣利根郡農會蠶業講習所

本所は沼田町に在り毎月四月一日に開始し七月三十一日に終了す講習科目は養蠶の實習を主とし斯業に關する學理の一班を授け講習に供したる蠶兒の成繭は之れを蠶種に製造して希望者に實費配付す其產額毎年千枚内外にして配付先の成績良好なり◎尙八月一日より十日まで秋蠶飼育の實習科を置き女子の講習を爲す◎赤城原野には分場を置き秋蠶種の製造をなし希望者に實費配付を行ひ其成績佳良なり



群馬縣利根郡沼田町 利根郡產牛馬組合

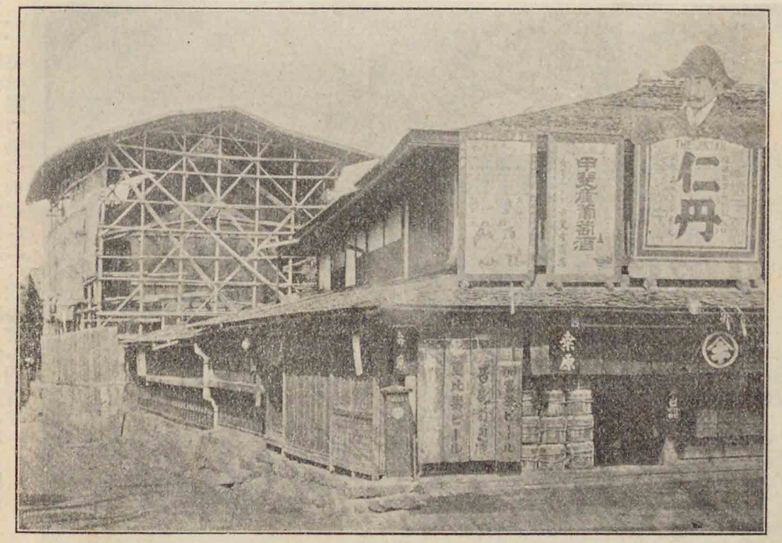
一、洋種牡馬二頭雜種一頭洋種牡牛三頭を以て毎年四月より組合員及一般希望者の種付を爲す
一、毎秋十、十一月頃に於て產駒を犢の糶市場に開催す
一、毎秋糶市場の前後に於て競馬會を開催す



群馬縣沼田町

電話 一四番 電畧（ヌチ）

沼田貯蓄銀行 株式會社

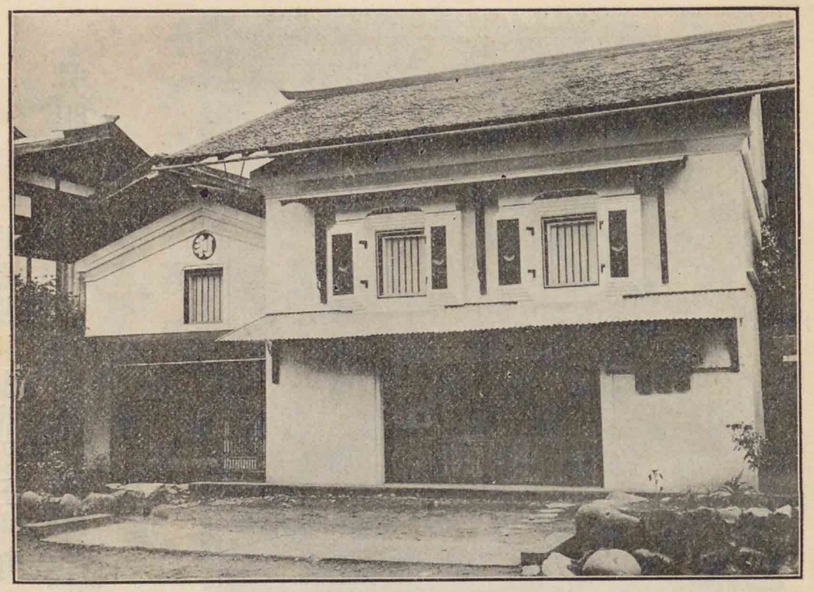


砂糖類、紙類

藥種商

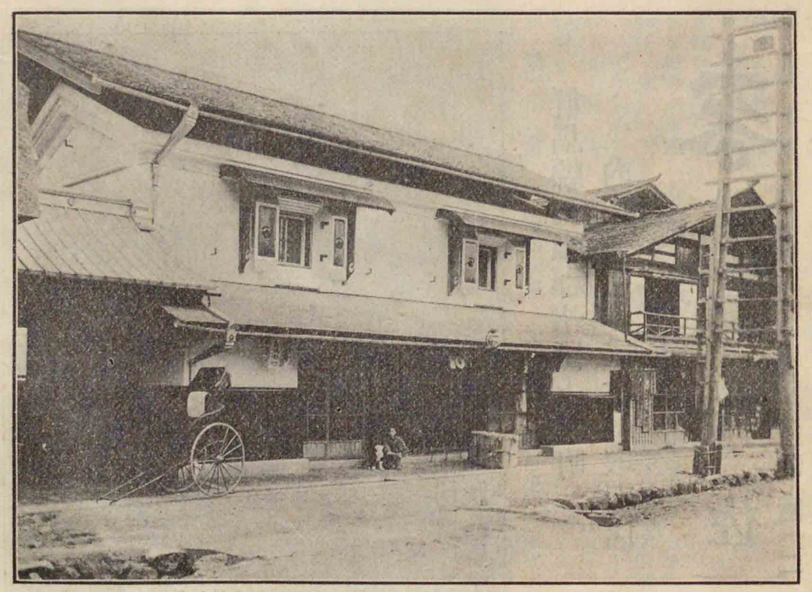
桑原商店

群馬縣利根郡沼田町 （電話 三番）



群馬縣利根郡沼村下新田

利根銀行 株式會社



群馬縣利根郡沼村下新田

棒丸屋 生方太吉商店

群馬縣利根郡沼田仲町

吳服太物商　中島藤兵衛

電話　五番

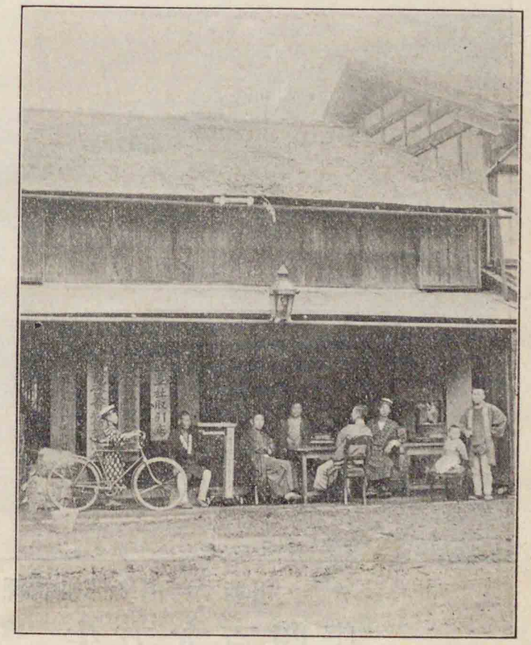
群馬縣利根郡沼田上之町

內國通運株式會社取引店

運送業

金井佐市

電話　二三番



創立　明治三十三年三月十四日

資本金　貳拾萬圓

積立金　壹萬五千參百圓

預り金　拾五萬圓

群馬縣北甘樂郡富岡町

株式會社　甘樂銀行

頭取　相川愛三郎

名稱　株式會社富岡銀行

位置　群馬縣北甘樂郡富岡町大字富岡町五百十三番地

設立年月日　明治二十六年二月十三日

資本金額　貳拾萬圓

拂込濟資本金　拾貳萬五千圓

未拂込資本金　七萬五千圓

業務取扱ノ種類　銀行一般ノ營業及國稅、縣稅、郡稅金ノ取扱

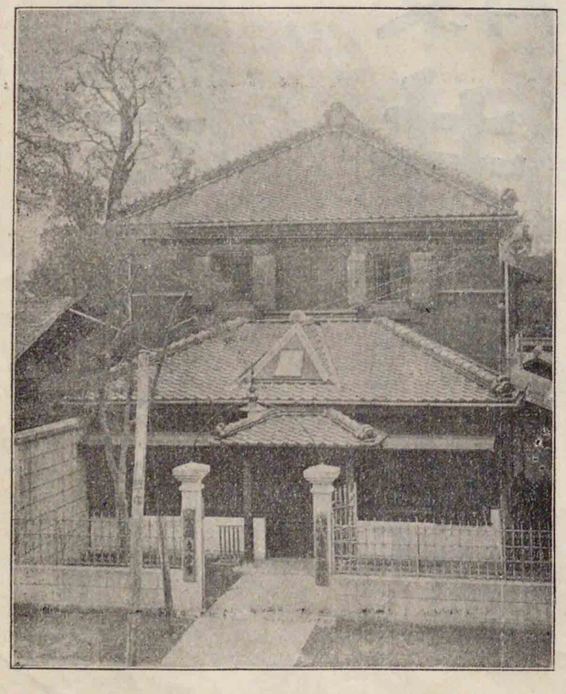
經營者　頭取　福澤常五郎　支配人　畑菊次郎

現今取扱ニ係ル預金利子割合

當座預金　百圓ニ付一日金壹錢

特別當座預金　百圓ニ付一日金壹錢貳厘

定期預金　壹ヶ年以上年六朱六ヶ月以上年五朱五厘



祝一府十四縣聯合共進會開催

蒟蒻商　櫻井朝雄

群馬縣下仁田町

電話　一〇番

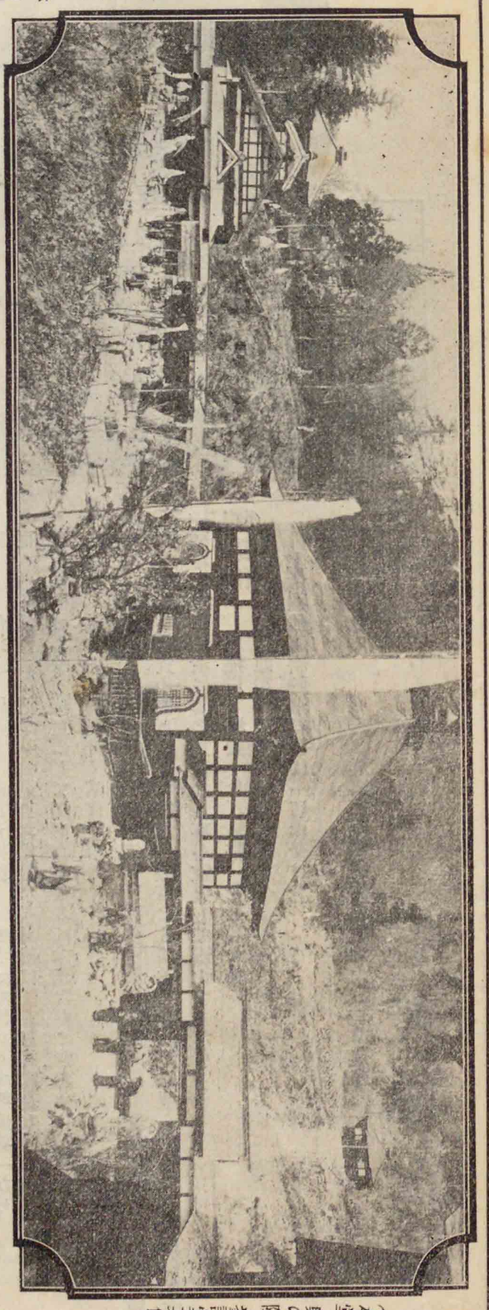
曹洞宗寺格常恒會

群馬縣上野國

迦葉山龍華大学上院水彌大勒寺

利根郡池田村

現住職



（本堂、奥の院、參詣堂其他）

高崎市へ十三里五里　沼田町へ四十二里　前橋市へ四十三里　東京市へ

佛像は大般若經、又六百軸の寶物は多數の典籍、又た日清戦役始め數多の戦

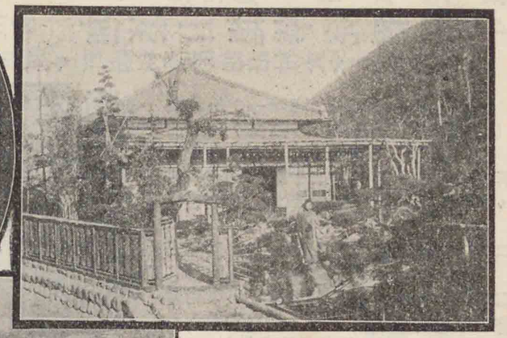
當山は參詣者の稀に見る大伽藍にして、殿堂の數は十餘、其他の建物は數百棟、奇觀壁は迦葉山の雄峰、左りに鐘の如き峰、右に剣の如き峰、遠く連なる山々、烟霞の間に聳ゆる高峰、中に仙人窟の洞、裡に入れば望み、絶頂の景、美、得も言はれぬ夕雲、山の深渓、岩崩れ、即ち其名相に負はず、優なる

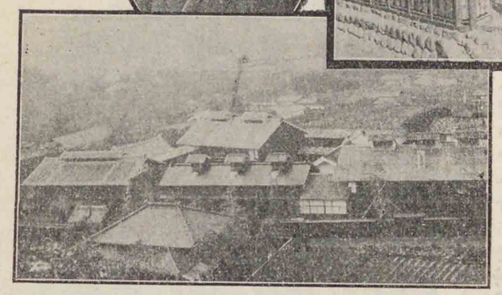
（裡庫及樓鐘）

寺三十餘、職同に共に明治廢寺となり、今日に至る、古禪尊寺は、寺院、僧侶、信者、檀家、信徒、現今の住職は、明治三十四年、二代目の住職、大学上院水彌大勒寺、

宗門の大学は、明治三十年、二代目の住職、大学上院水彌大勒寺、

本館の今昔





（北甘樂郡馬山村蠶種家 岩井龜太郎氏蠶室と邸宅）

本館は祖先より蠶業に從事し先代角次郎時勢に鑑み今を去る五拾年前創めて蠶種の製造に着手爾來專心蠶種の改善と斯業の發達に努力し後進者を誘掖す不肖亦其意旨を繼承し明治貳拾年春蠶專用室を設け同貳拾八年又同專用室を增築し大に業務を擴張し著々好果を收む而して晩近に至り秋蠶の實利あるを確認し斯業の開發を計り專ら風穴種を飼育し明治四拾年一大秋蠶專用室を新設し春秋飼育の室を分ち彼の恐るべき病毒の撲滅を期す以て本館製造の蠶種は大方の好評を得るの榮を擔へり先年山梨縣主催聯合共進會にて壹等賞を授領す今や本縣主催となり聯合共進會を開設せらるゝに際し繭質統一の宿題も漸く其緒に就くの機運に到れり余不肖なりと雖益々奮勵し大に斯業に貢獻せんとするものなり

◎春蠶

同	陸奥	壹升	貳百四拾粒
同	青熟	同	貳百七拾粒
同	又昔	同	貳百五拾粒
同	伊達錦	同	貳百五拾粒
同	媛蠶	同	貳百六拾粒

此種絲量の豐富なるは拔群なり

此種の飼育最も容易にして絲量又豐富なり

前者と略同し

前者と略同にして纖度均一なり

此種は飼育頗る容易なり

以下各種とも絲質善良にして飼育容易なるは大差なしと雖各々特長あり

◎秋蠶　風穴種更紗壹升　貳百七拾粒

本種は蠶質最も强健にして秋期氣溫の激變多き期節に際し最も安全に飼育し得る良種なり而して絲質の優良にして絲量の豐富なるは敢て春蠶種に讓らず故に一度此の風穴種を飼育せる者は其の良種なる事を賞揚して措かざるなり

◎價格　原種用　框製　廿八蛾附　金七拾五錢
普通製　平附　壹枚　金壹圓五拾錢

以上蠶種郵送料貯藏料等は一切申受けず

群馬縣北甘樂郡馬山村大字馬山村百六十四番地

館主　岩井龜太郎

養氣館

妙義山御休泊所

菱屋傳平

館主　岡部吉太郎

敬白　切取揃へある御大勢樣の御宿泊召さるゝ御探勝の際も御光臨の程奉願上候

如何なる御大勢樣の御宿泊召さるゝ御不便なきやう調度一切の準備を整へ何時

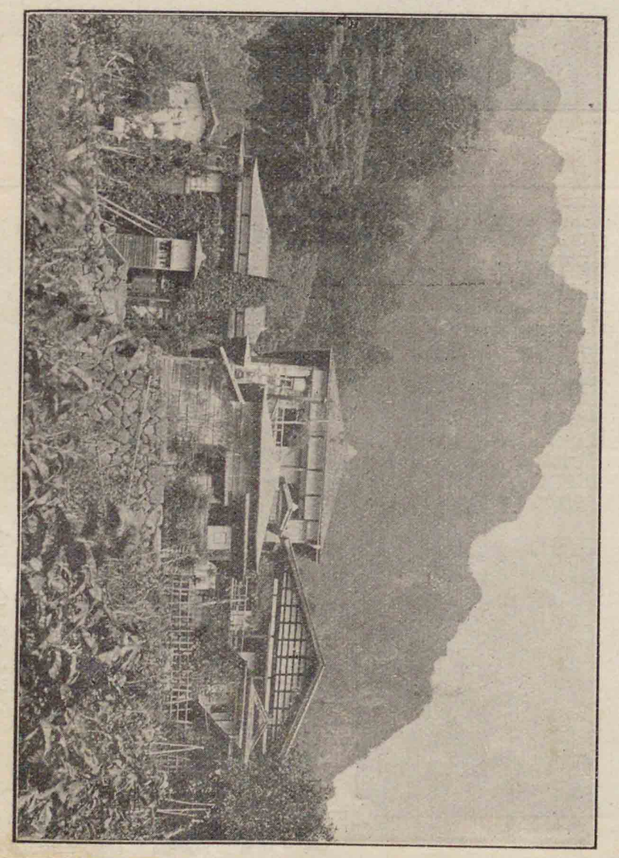
妙義山の秋色は天下に冠たり紅葉の季節には一切の準備を整へ何時

諸彥の淺からざる御引立と御禮申上候

何卒御參詣の節又は御探勝の際も聊か御光臨の程奉願上候

營業を繼續し居り是れ偏へに大

今日に至るまで



御座候殊に弊館には文化元年より

無比の好適地として得る避暑地爲すを展望

數十里外の

通最も良く坐ら

淨にし空氣の流

へ交通至便客室は何れも蕭洒清

本道を正面に迎

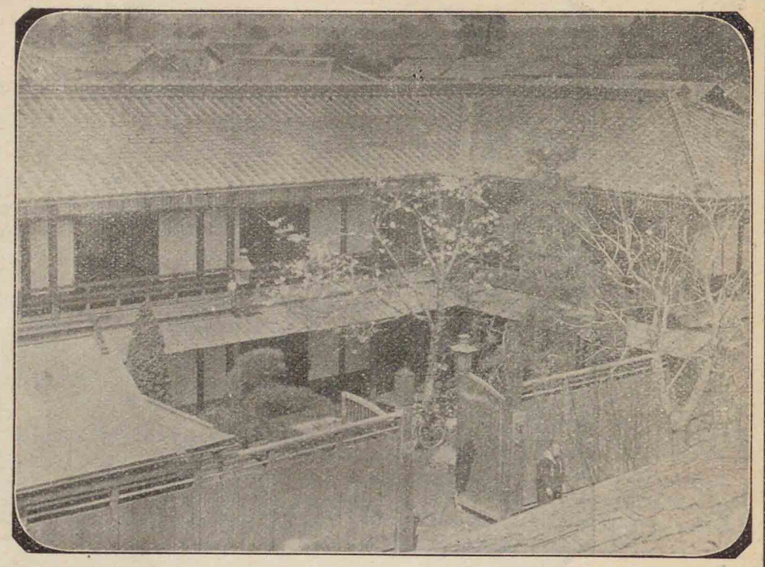
弊館は妙義町の

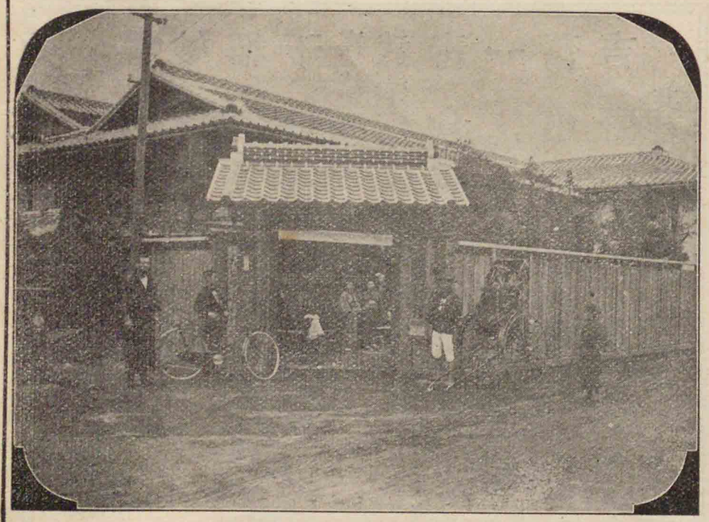
御料理
旅人宿

鏑川館 北甘樂郡富岡仲町

大和屋善松

電話五番





弊店より二十町　一ノ宮町貫前神社
弊店と同町内　原富岡製絲所
弊店の隣家　製絲販賣甘樂社
右の外御希望に依り御案内可申上候

富岡停車場際　電話二五番

御和洋旅館料理　**韮塚樓**　**荒川兼吉**

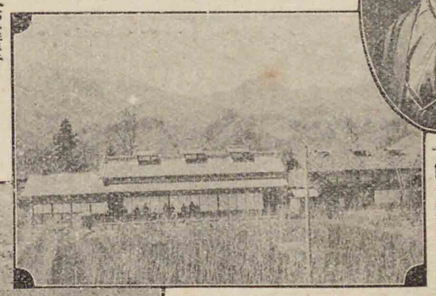
蠶種並魯桑、甘樂桑苗木製造販賣

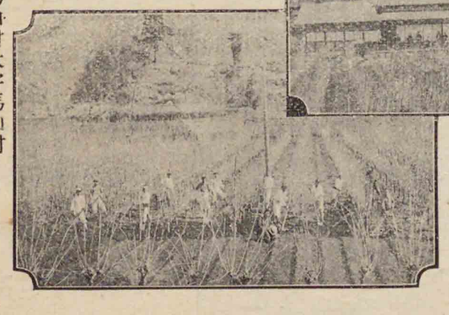
養蠶改良童兒社々長

荻野千代吉

（北甘樂郡富岡町童兒社と同社長荻野千代吉氏）

群馬縣北甘樂郡馬山村蠶種家
恩田彦太郎方養蠶室及模範桑園傳習生耕耘の圖





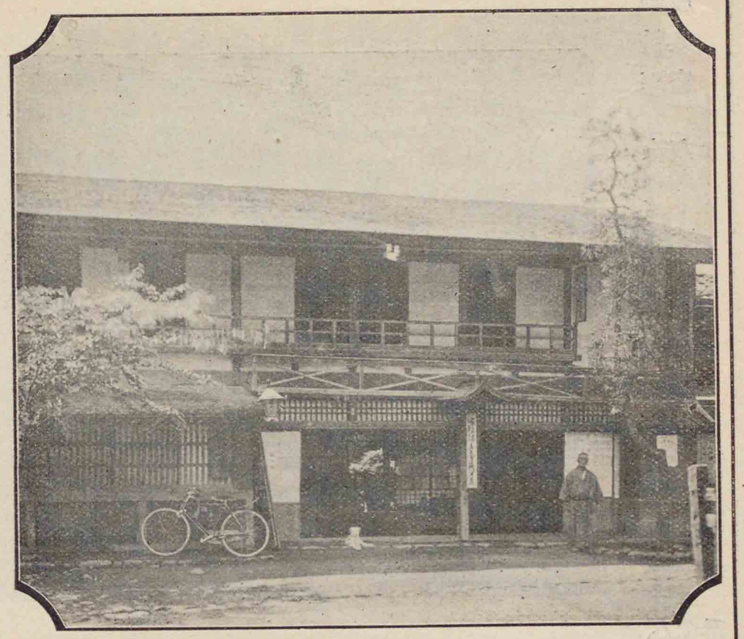
生徒募集

一入場申込期限　四月十五日迄
一入場期間（自一期至三期）但春秋共
一傳習期間　春蠶期（自四月二十日至六月三十日）秋蠶期（自七月二十日九月三十日）

一傳習期間食費は當方負擔し寢具は貸與す
尚特別勉強者には賞品を授與す
金當傳習所は競進社養蠶教授の實地に付懇切に志望者は身元證明書を入社申込まるべし
金相添

春秋蠶種販賣廣告
一化性優等白玉一升二圓粒糸量六匁
一化性白玉一升二圓六十粒糸量十四匁
一化性伊達錦一升二圓六十粒糸量十四匁
一化性又昔一升二圓十粒糸量十四匁
一化性媛蠶一升二圓十粒糸量十三匁
二化性風穴種白龍一升二圓粒糸量十三匁
匁代金平付一枚壹圓半框製八十錢
右種類何れも改良に改良を加へたる理想的蠶種にして飼育最も容易に且つ糸質の優良なる當所製造蠶種の特色なること世既に定評あり
御試用を請ふ

北甘樂郡馬山村大字馬山村
競進社第廿三支部甘樂養蠶傳習所
恩田彦太郎蠶種部



北甘樂郡一ノ宮町貫前神社前

旅館御料理　亀島屋　矢島鶴吉

附近の名所

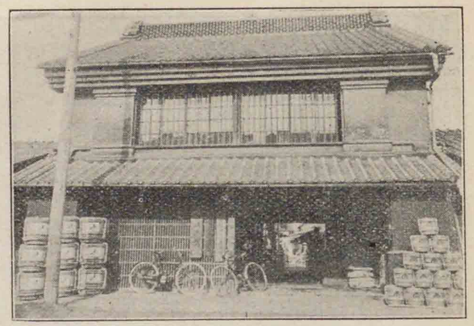
黒瀧山不動尊	二里
妙義山中の嶽	二里
稲含山	三里
干口鐘乳洞	三十丁
武田耕雲齋戰場（高崎藩士）	四丁
青倉石灰山	三十町
一ノ宮貫前神社	二里半
舊小坂鐵山	三十町
吉野平金山	二里半

其他名所澤山有之候

北甘樂郡下仁田町

杉原旅館

電話五番



酒醬油味噌
醸造販賣
官鹽元賣捌人
衡器販賣

上州富岡町

山横山八百作商店

電話十五番
電略ヨヤヌヨ

土木建築請負

山横山材木店

電話四十七番
電略マルミ

米雜穀

上州高崎市八島町

㊙横山支店

電話四十七番
電略ヨコヌヨ

名代御壽司
手輕御料理

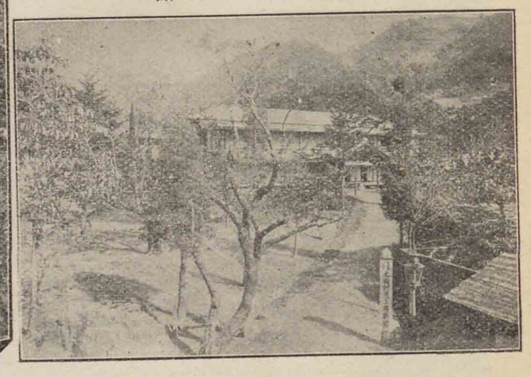
北甘樂郡富岡町

招福亭

池田きん

四万温泉

田村賽陵館本館



田村賽陵館別館

泉質 鹽類泉

主治効能 腸胃の諸病、傴麻質斯、慢性皮膚病脫臼、挫傷に依りて生ずる關節の痲痺、神經痛、貧血症、肝臟病、習慣の便祕、痛痛、子宮及腟の加答兒、月經不調

交通 前橋市より澁川町まで電車の便あり澁川町より中之條町を經て當温泉まで九里其間四万温泉馬車合名會社の經營に係かる高等馬車及普通馬車定時發着の便あり

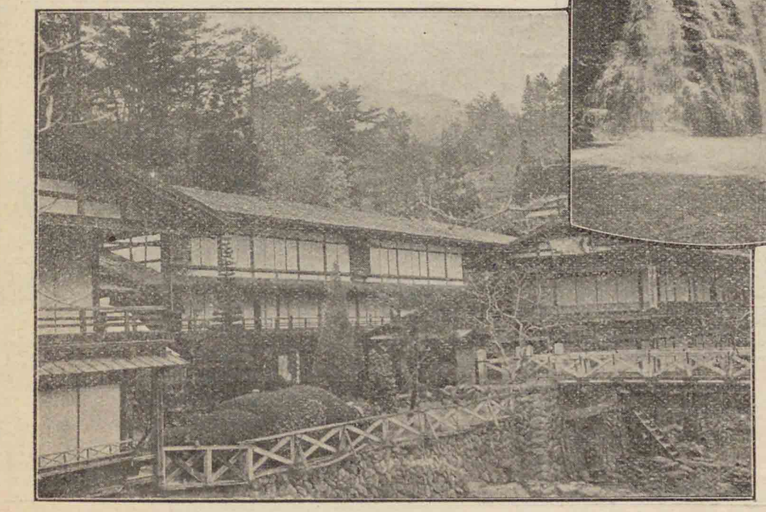
靜遊と療養を兼ねたる好個無二の仙境なり

鹽之湯
岩根之湯

賽陵館

田村茂三郎

祝共進會開催



泉質効能 無色無臭の鹽類泉にして清澄なること水晶の如し
腸胃諸病、傴麻質斯、慢性皮膚病、神經痛、貧血症、肝臟病、痛痛、習慣の便秘、挫傷による關節の痲痺、子宮及腟の加答兒、月經不調

浴期 夏期は勿論春秋冬ともに宜し尚十一月より翌年三月までは室料を割引し且つ浴錢申受けず

創業 元祿初年創業襲世十六代貳百有餘年江湖の深厚なる御愛顧に浴せり

客室 百五十餘室、三層の客房は座して山水の景致に接し自己又た畫圖の人となり羽化登仙の思ひあらしむ

特色 來客に對しては誠實懇到恰も時に家族的の風趣あり是れ本館二百餘年來の營業振りなり

浴場 普通浴場五ヶ所の外蒸汽浴(蒸風呂)痔風呂湯瀧等の設備あり

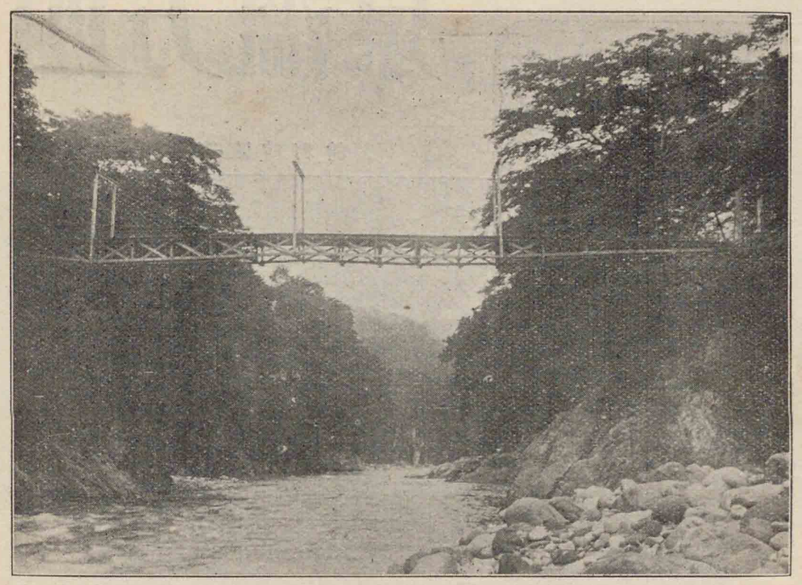
交通 前橋高崎兩市より澁川町まで電車夫れより時間馬車及人車の往復自由五時間にして著す東京上野一番ならば日著容易

名勝紅葉 水晶山、蟻石山及高野の翠巒、摩耶、小倉並に布引の飛瀑關ヶ岡偕樂園中井の里の游園其他近傍絕勝の地頗る多し金風一度過れば滿山の紅葉蜀錦を飾り楓泉峽中の風光は全く自然美の極致なり

上州四万温泉

積善館

關善平



上州 川原湯温泉取締所

關東の耶馬溪

▲川原湯溫泉は近傍到る處景勝に富み怪巖飛瀑造化の妙を盡し世に關東耶馬溪の稱ある處なり

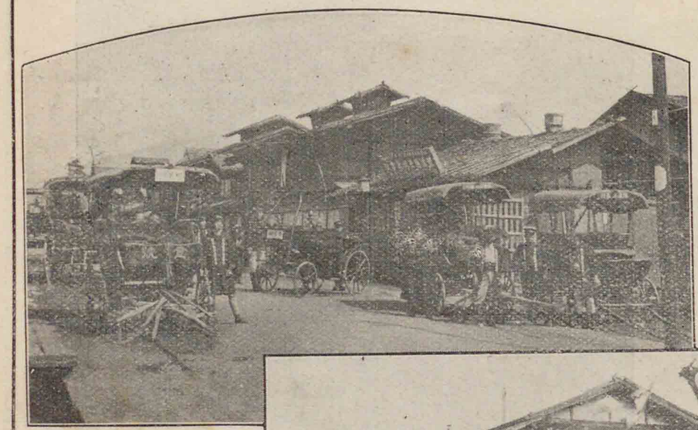
▲川原湯溫泉は交通の便最も良く東京上野一番列車に投ずれば午後には達するを得べし

避暑療養の適地

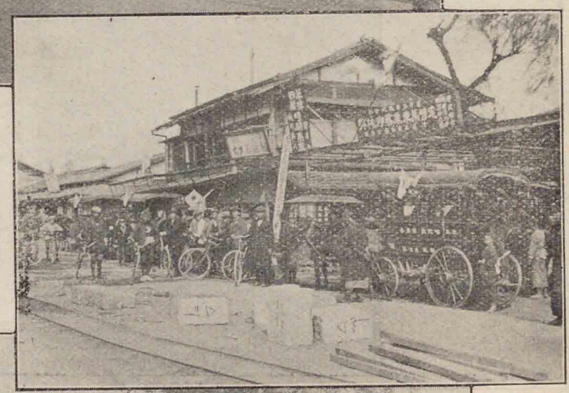
▲川原湯溫泉は上州吾妻郡の中央金雞山の中腹にありて吾妻川の清流に澁み頗る幽靜の地なり

▲川原湯溫泉は海拔三千三百尺の高所にありて空氣清涼なるを以て單に溫泉浴療に止まらず避暑地として比類なき好適の地なり

◎吾妻溫泉定時馬車



草津馬車株式會社中之條本社に於て各溫泉地へ分岐して發車の光景



草津馬車株式會社澁川南新道發着所の光景（高崎電鐵、前橋電鐵及、澁川町停留所に接續）

草津馬車株式會社貨物輸送の光景（中之條小林區署管内座操原苗甫より苗代）

群馬縣吾妻郡中之條町

草津馬車株式會社

上州吾妻郡澤渡溫泉

福田六右衛門

鍋屋 吾嬬館

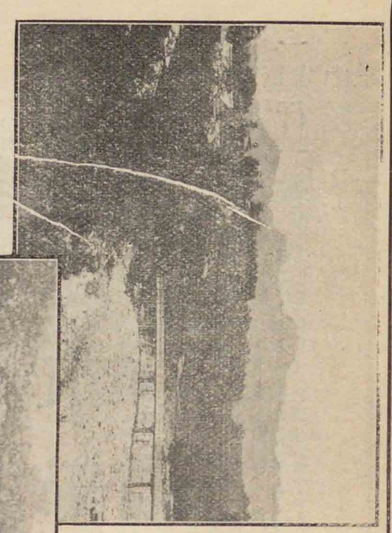
吾妻郡中之條町上ノ町
電話番號第參拾貳番
草津馬車株式會社前

○中之條町は吾妻郡各溫泉地に至るの中樞なり
○當館は客室清潔にして寢具食膳等專ら衞生に注意し懇切丁寧に取扱申候
○當館は官吏商人溫泉行の旅客には特に御便利に取扱申候
○昔し十返舍一九翁の泊りし時の狂歌（道中膝栗毛）に
愛敬は外に類の中之條
鍋屋の宿の寢心のよさ
○大町桂月先生もまた
古も今も變りは中之條
鍋屋はやはり居心のよき
（關東の山水中）

群馬縣吾妻郡中之條町

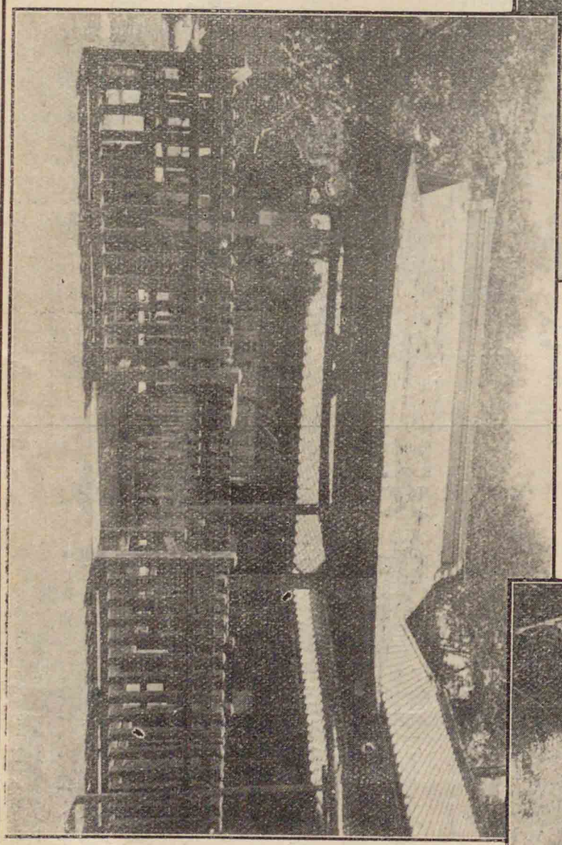
株式會社 吾妻銀行

株式會社 吾妻貯蓄銀行

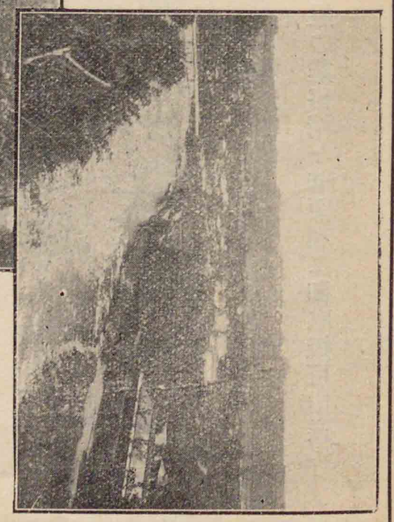


上州碓氷郡磯部

磯部製菓會社



附近の奮跡多し名所磯部は天秋



上州碓氷郡磯部

磯部鑛泉事務所

群馬縣碓氷郡安中町

株式會社 **安中銀行**

電話 一一番
電略（アギン）

群馬縣碓氷郡原市町大字原市村

株式會社 **原市銀行**

電信略號（八）
電話 二番

取締役頭取 仁井照三

一銀行一般の業務精々御便利に取扱可申候

群馬縣碓氷郡安中町大字安中驛

株式會社 **碓氷産業銀行**

電話 三番

本店

營業科目

一諸預り金
一當座預金貸越
一爲替及荷爲替付
一公債々券賣買
一貸付金
一手形割引
一代金取立

其他銀行一般の業務精々御便利に取扱可致候

支店

群馬縣群馬郡倉田村

株式會社 碓氷産業銀行支店

群馬縣山田郡大間々町

株式會社 **大間々銀行**

電信暗號（ラママ）

頭取 中島宇三郎

一銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

磯部鑛泉は文久二年自分地を相し家屋を建て人をして數年浴場開業を爲さしめしが漸次世に知られカル、スハツト鑛泉として來浴者增加せるを以て櫻樹數百本を植ゑて風致を添へたり其後貴顯縉紳の此地に邸宅を構ふるありて磯部の名は頓みに全國主として關東に知れ渡り爾來繁昌を極む

上州碓氷郡磯部村

鳳來館 大手萬平

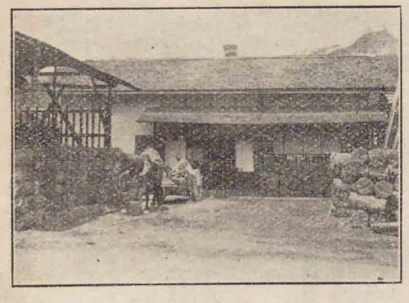
磯部鑛泉場の開祖

仰げば妙義の翠巒を望み俯けば碓氷の清流を聽く四季共に眺めあり横野原のすみれ、瀧山の時鳥、中橋のほたる、碓氷川の河鹿、淺間の夕陽、城山の秋月、松岸寺の晩鐘、妙義の暮雪以上を磯部の八勝と云ふも爽氣天地に滿つる秋の磯部こそ眞に千金の價あるべし

群馬縣碓氷郡安中町

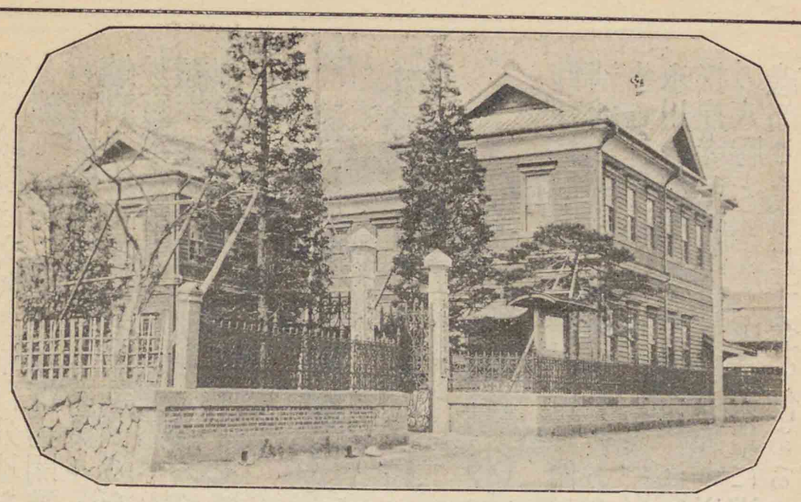
米穀問屋 **柳澤庄平**

電話 七番



黑澤運送店

群馬縣富岡町 電話八番



桐生織物同業組合

電話 桐生一一四番

内地向
輸出向 織物數百種

明治四十二年
産額 貳百四拾壹萬六千九百有餘點
壹千六十九萬四千四百四十六圓

純絹 着尺織物各種

女帶地各種 胴裏地

純絹 女帶地各種

繻子各種 縮横女帶地

生絹着尺用織物各種

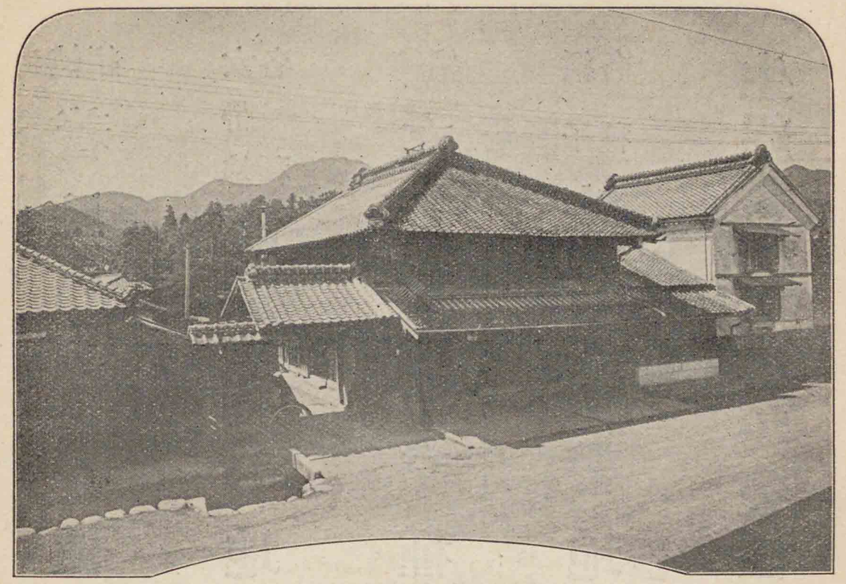
桐生九日會

織會同志會

桐生相進會

桐生協勵會

生絹改良同盟會



織物買次商

上州桐生
書上文左衛門本店
電話一〇 營業用 四

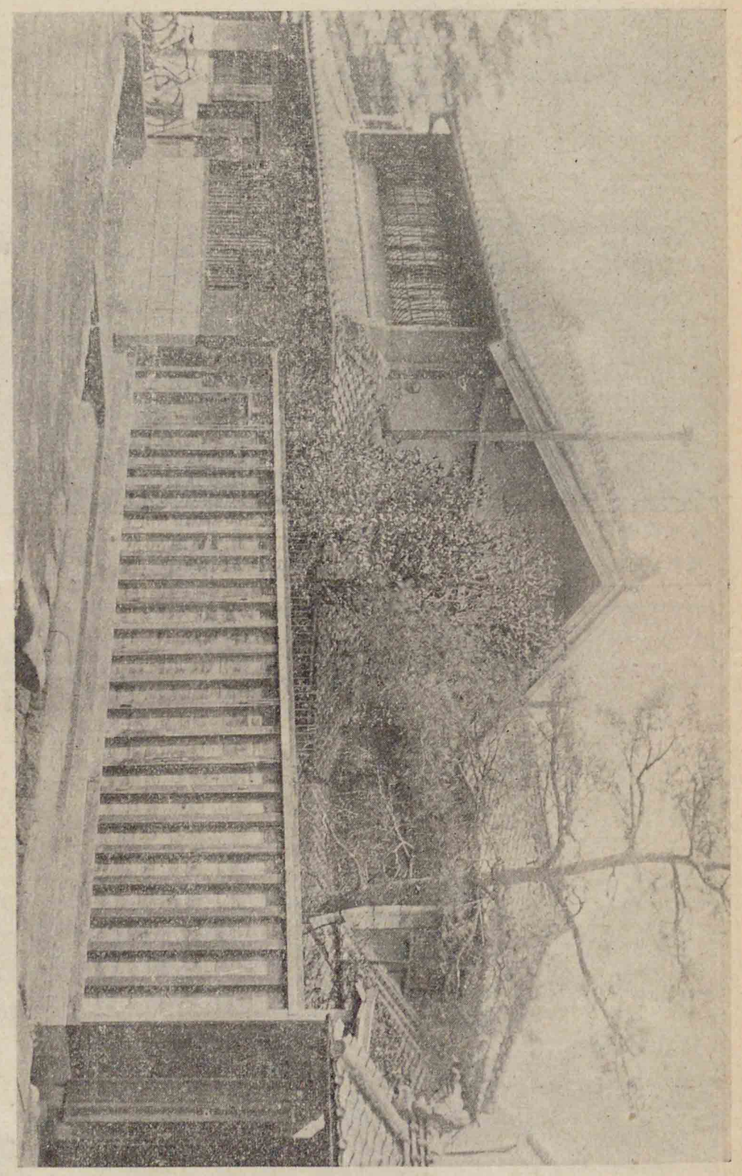
野州足利
書上足利出張所
電話一二五

同佐野
書上佐野出張所

上州伊勢崎
書上伊勢崎出張所
電話五八

横濱市南仲通三丁目
書上輸出店
電話四九三

清國上海
書上洋行



創立明治一十年

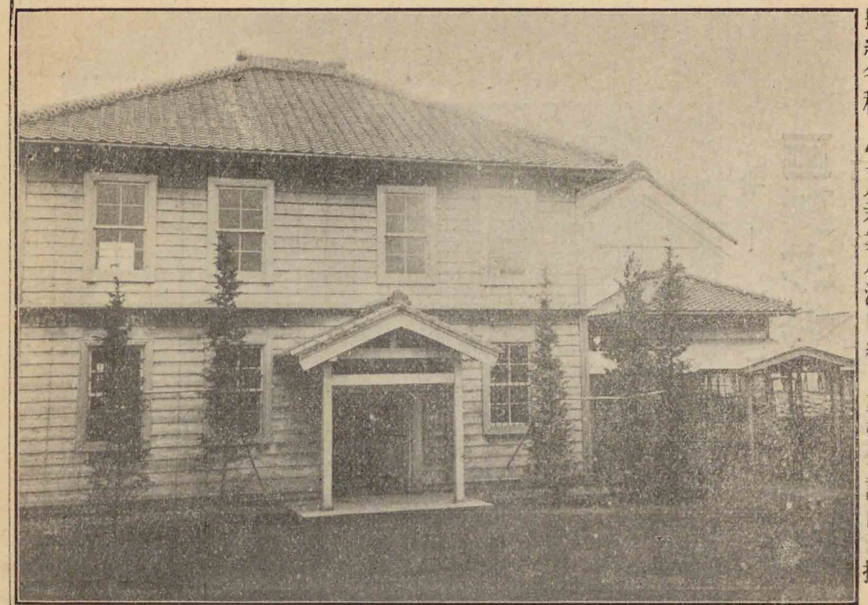
資本金拾貳百萬圓

支店 京東、足利、林館、田上

群馬縣桐生町

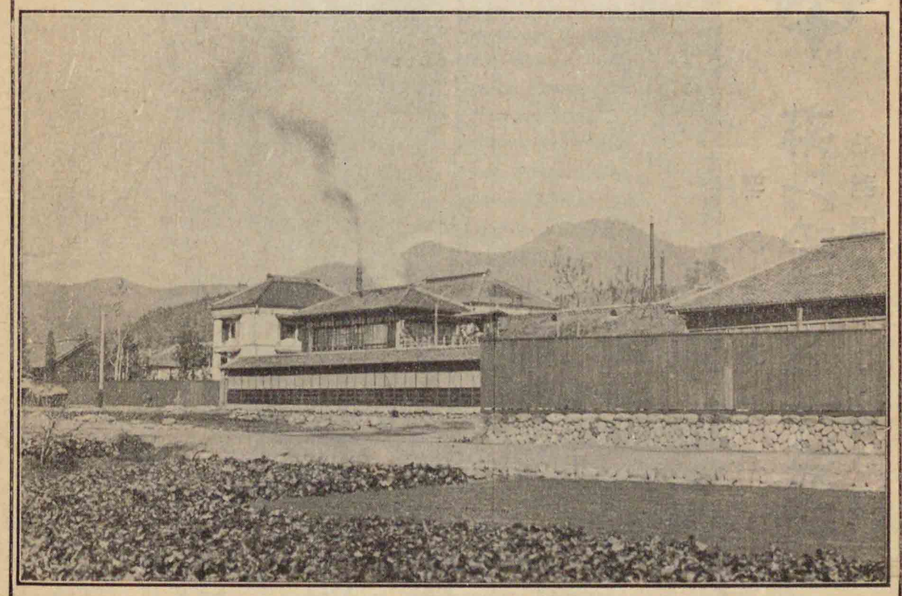
株式會社四十銀行

電話四〇番、一四〇番



撚絲各種、實用新案小波撚絲、專賣持許白電撚絲

群馬縣邑楽郡館林町
桐生撚絲株式會社
模範工場 田山縣馬群 町生桐郡
電話十八 電略號キネ
振替口座 壹五貳八八



群馬縣桐生町
兩毛整織株式合資會社
電話六五番

銀行一般の業務及貯蓄預金を兼營し確實を主とし御便利に取扱候間多少に不拘御取引被下度希上候

一資本金　壹百萬圓也
一諸積立金　拾四萬壹千圓也
一本店所在地　栃木縣足利町
一支店所在地　群馬縣館林町

株式會社 足利銀行桐生支店
電話一七番

當店爲替取組先地名

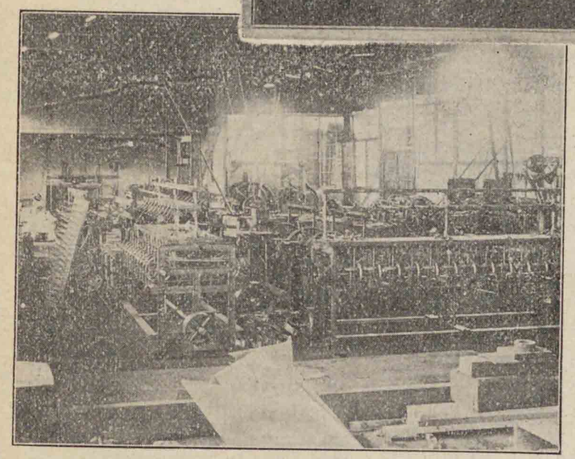
東京　京都　濱松　新潟　高田　福島　長鳥　湊井　岩瀬　古河　足尾　小山　田沼　上見　多治見　安中　館林
横濱　名古屋　福井　長岡　栃尾　二本松　千住　下妻　結城　字都宮　寶積寺　栃木　足利　松本　前橋　伊勢崎
大阪　豐橋　金澤　柏崎　日野　山形　水戸　下館　眞壁　鹿沼　黑羽　佐野　長府　甲府　高野　境崎

群馬縣邑樂郡館林町

株式會社 四十銀行館林支店
電話四十番

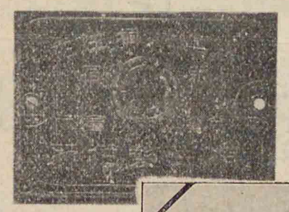
株式會社 足利銀行館林支店
電話五十番

株式會社 館林貯蓄銀行
電話三十番



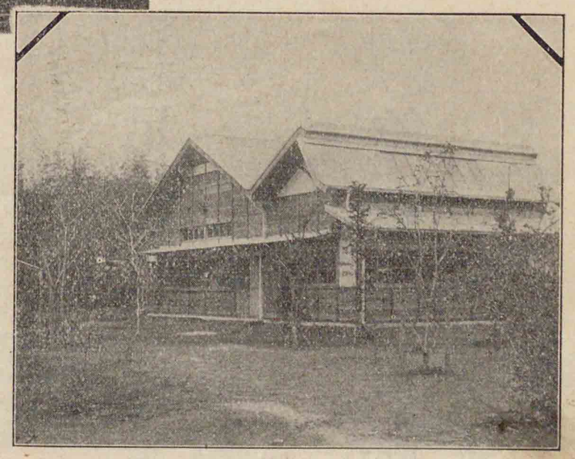
機械製作工場
（電話二十八番）

◎綿木操返機
◎生絲操返機
◎練絲操返機
◎耳絲整經機
◎綿木整經機
◎廣巾整經機
◎着尺整經機
○ボビン臺

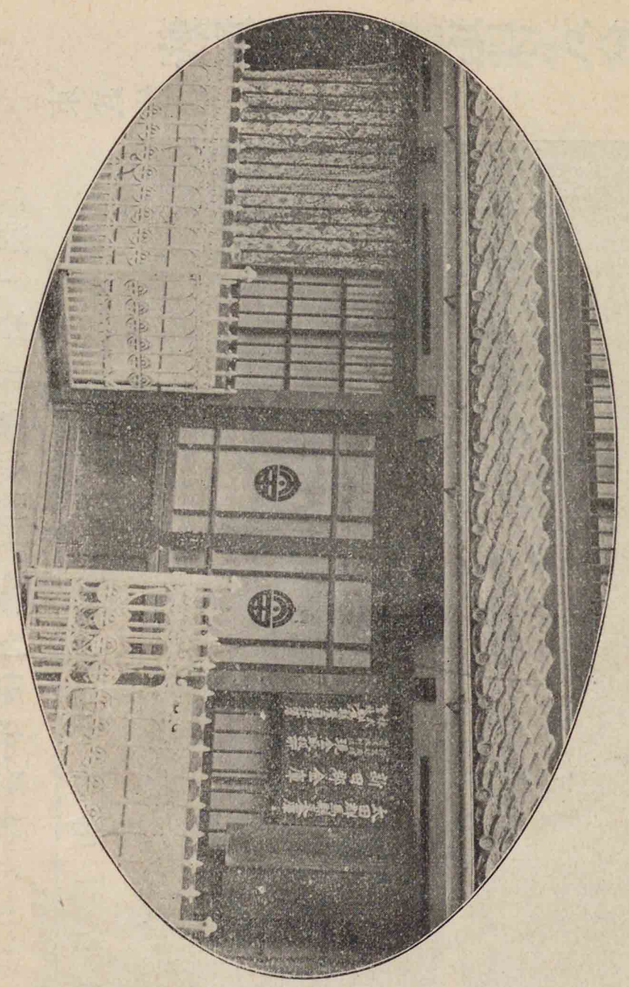


緯絲引揃機
生糸用
練絲用交錯式管卷機
其他

絹布用全編
綿布用絲編
金筬



金筬製作工場
（振替貯金口座一四四九六番）



會株社式
支店 新田銀行
本店 尾太島町

同同監同同同取頭
査役 締役

武大山岡本澁大葉
川島根 島澤塚久住
六傳市友柳金儀右衛利
太次郎郎藏作翁藏門藏

電話 番二十五

材石塚藪

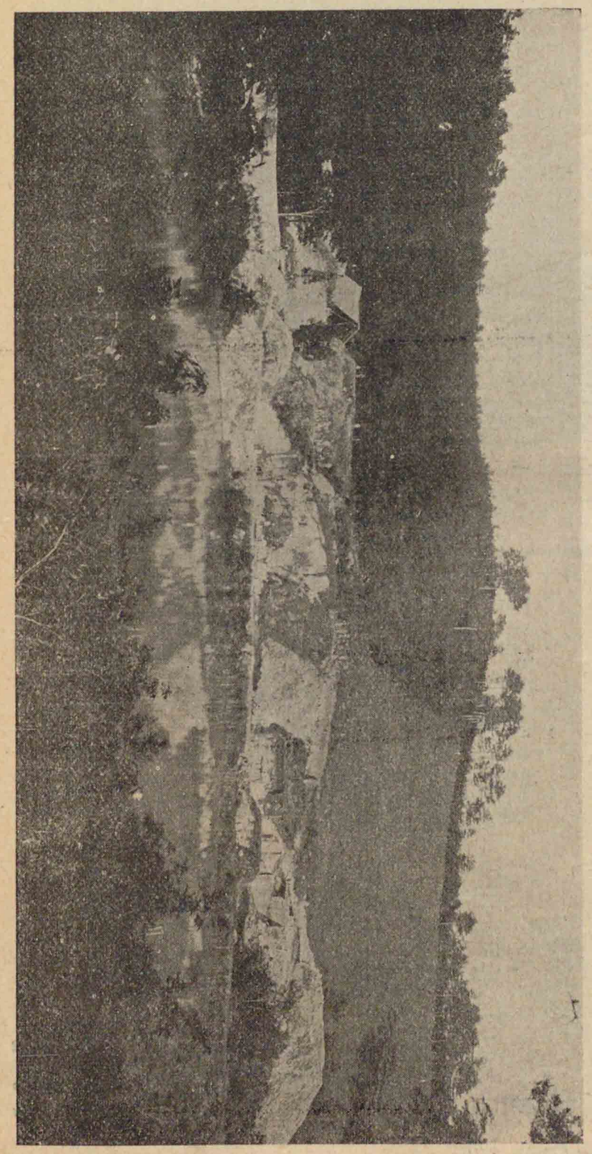
し強も最事るゆ耐に水火硬堅質石てしに價廉

す掘採り通の文注御共小大短長は法寸

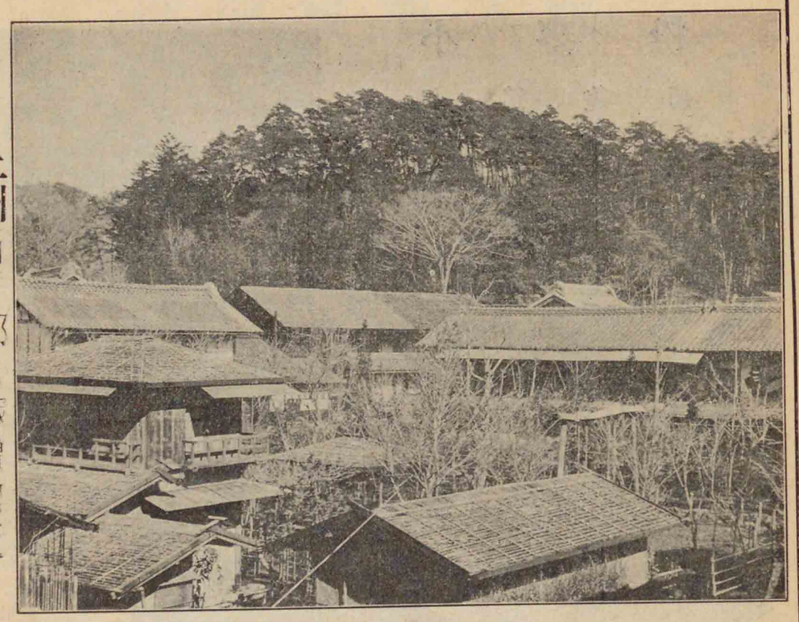
東武鐵道太田停車場前

藪塚石材軌道株式會社

（電話三十三番）



（景眞の場堀採材石社會式株道軌材石塚藪）



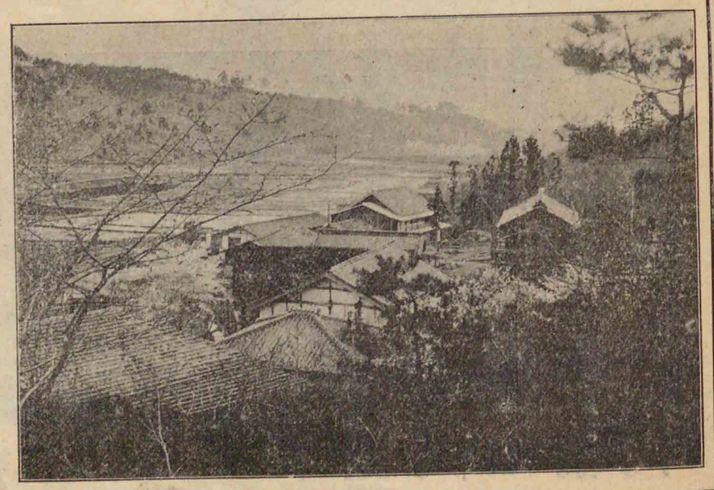
上州新田郡藪塚鑛泉二八

今井喜三郎

◎避暑避寒及轉地療養の好適地にして諸病に卓効ある鑛泉を有し兩毛線大間々驛より僅に二里、東武線太田驛を距る又僅かに二里半、道路平坦、馬車人車の便あり近く藪塚石材軌道株式會社に於て太田大間々間軌道敷設の曉には更に一層の便宜を得べしと存候

◎海拔三百餘尺の高さに位あし山三面を圍み唯南方のみ遠く開け、坐して刀水の白帆、總武の諸山を望み得るを以て、眼界廣濶眺望絶佳なり、故に夏は涼しく冬は暖かく常に空氣の乾燥せるに申すまでも無之候

◎如何なる場合と雖ども座料並に薪代を申受けず勉めて御滯在費の低廉を圖るは是れ弊館の特色に御座候

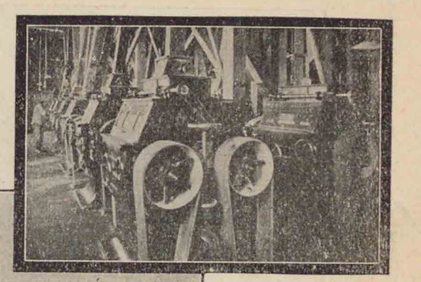


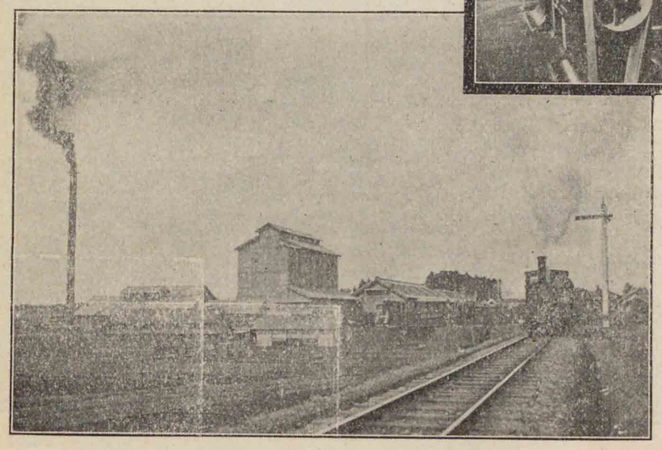
上州新田郡西長岡

鑛泉旅館　座料廢止　長生館

小麥粉

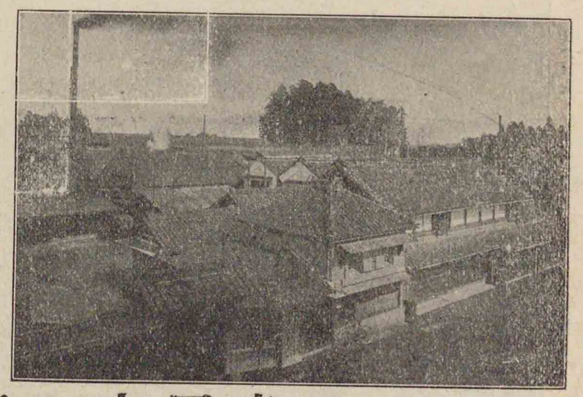
旭印
鶴印
龜印
菊印





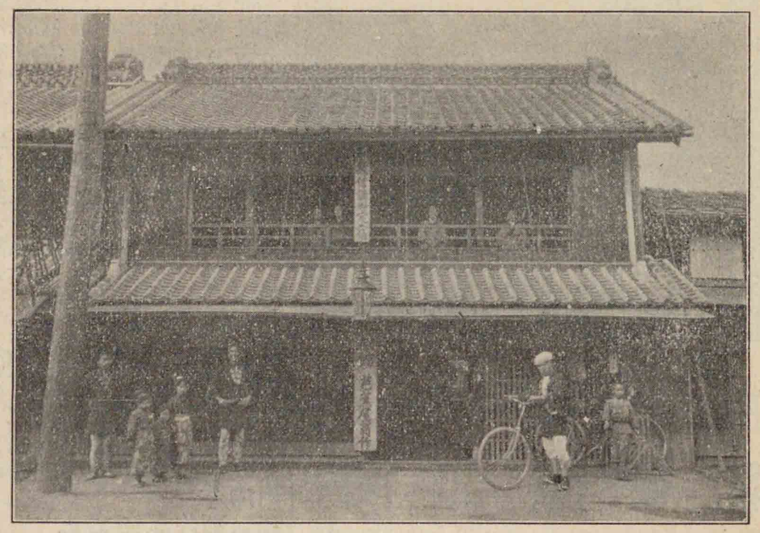
群馬縣館林町
日清製粉株式會社
館林工場

登錄商標



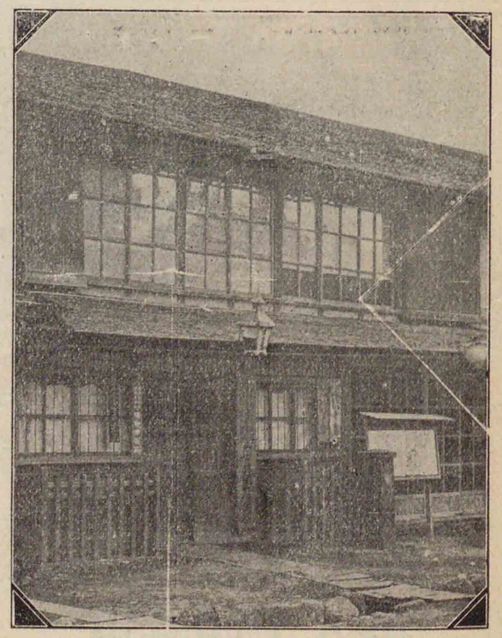
上野館林町　釀造元　米屋文右衛門

祝共進會開催



新田郡太田町
新座敷落成仕候

芭蕉屋翁作　電話二番



營業課目

◎銀行會社商店信用調査
◎人事百般探査報告
◎債權證書約束手形買入
◎債權管理代理取立及集金
◎公債證書債券の保管及賣買
◎債權擔保貸附金

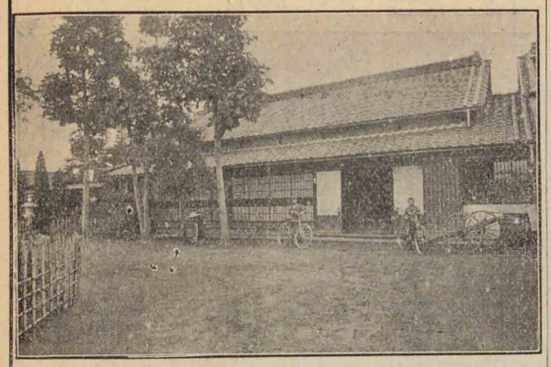
群馬縣利根郡沼田町
合名會社
石井興信社
（電話三八番）
社長　石井辨藏

一當社は年中休日なく簡便に貨物取扱申候
一當社は御需に應じ質入證券預り證券を發行致候
一當社保管貨物には火災保險の契約有之候
一當社は完全なる生繭蒸汽乾燥所の設備有之候

高崎倉庫株式會社

高崎市旭町六十五番地電話一四二番

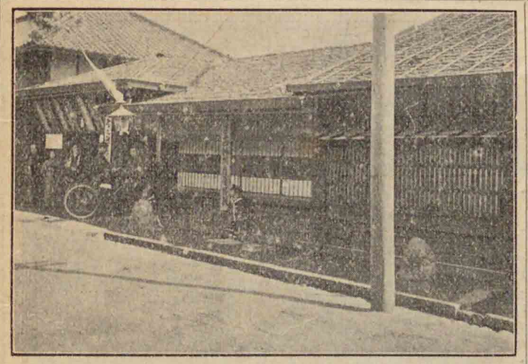
相談役 茂木保平　取締役 小林健吉
相談役 須藤清七　取締役 石井佐二郎
専務取締役 山田昌吉　監査役 清水新一郎
取締役 清水久太郎　監査役 小澤宗平
支配人 相川福二郎



伊勢崎縞製造元

阿部德次郎

群馬縣伊勢崎町　電話四八番



安眠自在旅館

群馬縣北甘樂郡富岡町製絲所門前

養老館　美濃屋

吉久水早主店

電話四十八番

於名古屋共進會賜金牌

蠶種製造者

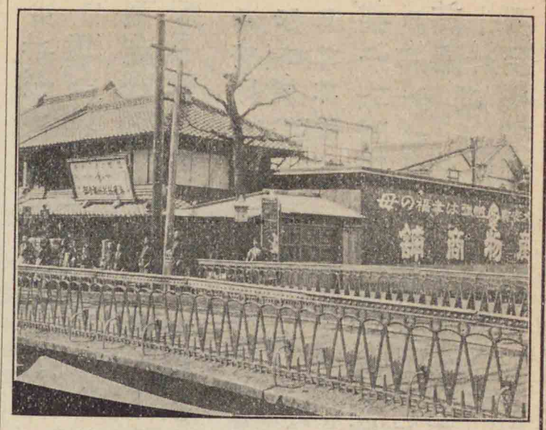
大河原茂平

北甘樂郡馬山村

催開會進共合聯縣四十府一祝

合組業同種蠶川刀縣馬群

同同同



前橋市堅町
海産乾物
眞下鶴吉

弊舍は市の中央諸官衙に便舍内に寫眞用暗室設備あり

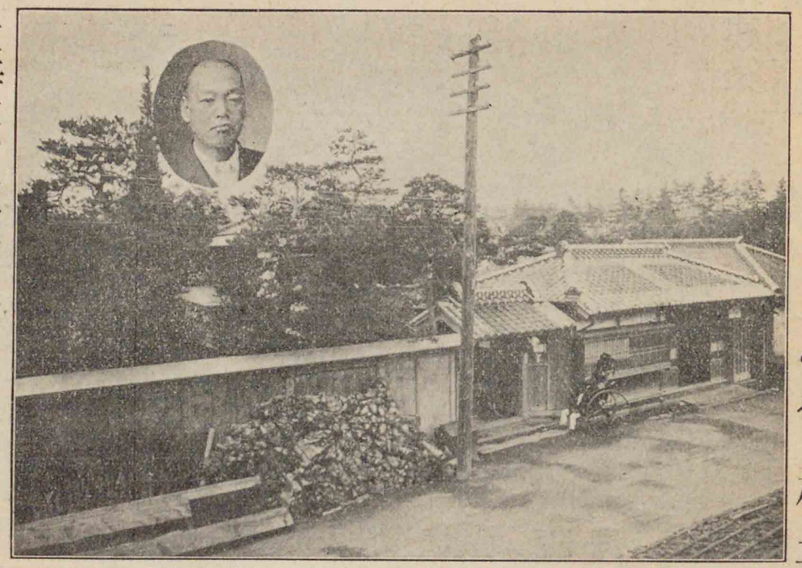
前橋市片原通
旅館 住吉屋
宮内國太郎
電話一〇七番

群馬縣桐生新町
御料理 桐生館
電話四五番

御旅館 金木屋
電話四六番

輸出買次商
合資會社 共益商會
群馬縣桐生新町
電話六七番

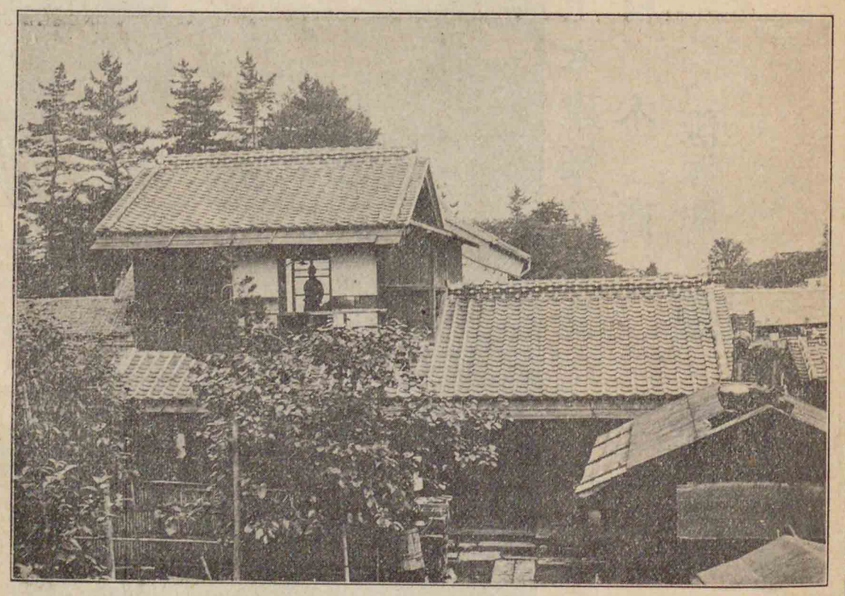
土木建築請負業 小曾根甚八



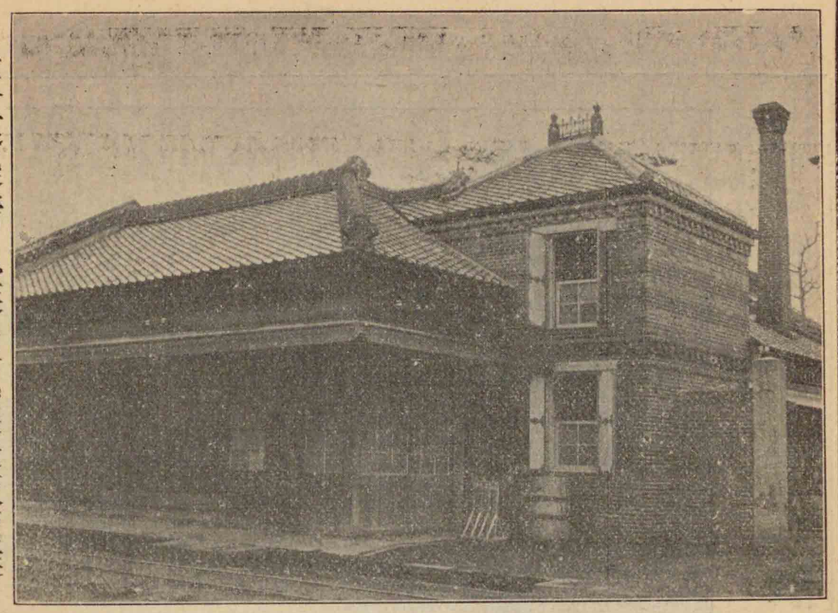
東海生命保險相互會社
前橋代理店 小曾根甚八

本店 前橋市南曲輪町八五 電話四一四
出張所 邑樂郡館林町 東武線館林停車場前

土木建築請負業 長谷川豐吉



前橋市曲輪町 電話五〇九番



土木建築請負業 煉瓦製造販賣業
井上組 井上保三郎
高崎市八島町 電話一四一番

煉化製造材木セメント販賣

土木建築請負業
材木商
飯塚組 飯塚佐吉
高崎市元紺屋町 電話六一番

前橋市田中町
關口組出張所 電話貳百六十七番

埼玉縣本庄町七軒町
關口組木材部 電話七十一番

埼玉縣兒玉郡旭村大字山王堂
土木建築請負業
關口組 關口幸次郎

前橋市本町一一三
機織業
勝山益太郎
自宅電話二五九番
工場電話四一一番

群馬縣佐波郡境町
織物製造業
吉野鷹藏

群馬縣佐波郡境町
伊勢崎銘仙各種製造業
光山源吾

府縣聯合
共進會特約店

⊙寫場及待合室の設備
⊙最新式人像撮影器
⊙室内外廣角度用寫眞器
⊙大集團用寫眞器及撮影壇
⊙人物景色夜間速寫器

完全具備

新文明を父と
美術を母とせる
高等寫眞

前橋市曲輪町通り
參考館北門前
電話二四八番甲
猪谷寫眞店
店主 猪谷秀麿

群馬県立図書館
0238912-0
県立
書館